

4. 詳細図			
図 番	名 称	縮 尺	備 考
S-4-01	階段詳細図（１）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-02	階段詳細図（２）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-03	階段詳細図（３）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-04	階段詳細図（４）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-05	階段詳細図（５）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-06	階段詳細図（６）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-07	階段詳細図（７）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-08	階段詳細図（８）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-08A	階段詳細図（９）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-08B	階段詳細図（１０）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-08C	階段詳細図（１１）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-08D	階段詳細図（１２）	A1:1/ 50 A3:1/100	
S-4-09	配筋詳細図（１）	A1:1/30 A3:1/60	
S-4-10	配筋詳細図（２）	A1:1/30 A3:1/60	
S-4-11	雑詳細図	A1:1/30 A3:1/60	
S-4-12	渡り廊下（１） 伏図・軸組図	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-12A	渡り廊下（１） 伏図・軸組図	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-13	渡り廊下（２） 伏図・軸組図	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-14	渡り廊下（３）・駐輪場 伏図（１）	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-14A	渡り廊下（３）・駐輪場 伏図・軸組図	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-15	渡り廊下（３）・駐輪場 伏図（２）・軸組図	A1:1/150 A3:1/300	
S-4-16	渡り廊下・駐輪場 部材リスト	A1:1/30 A3:1/60	

構造設計条件（北棟）

1. 建築物の概要

工事名称	三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事			
建設場所	広島県三次市三次町1851番1			
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築			
建物規模	地下 ― 階		地上 4 階	
	高 さ 19.8 m		軒 高 *** m	
	建築面積 *** m ²		延床面積 *** m ²	
構造種別	○RC, WRC	1階から4階	・ S	階
	・SRC	階	・ W	階
骨組形式	X方向 ： 純ラーメン構造			
	Y方向 ： 耐力壁付きラーメン構造			
計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3			
	○ ルート3 ・ 令81条の2			
基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）			
	・ 杭基礎 （ ）			
増築予定	○ 無 ・ 有 （ ）			

2. 荷重条件 a. 地震, 積雪, 風等の荷重

地震 荷 重	用途係数	I = 1.25		
	地震地域係数	Z = 0.90		
	地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec		
	設計用一次固有周期	T = 0.31 sec		
	振動特性係数	R t = 1.000		
	標準せん断力係数	C o = 0.2		
積雪 荷 重	短期	1,500 N/m ²	最深積雪量 H s	= 75 cm
	長期	0 N/m ²	単位重量 W s	= 20 N/m ² ・cm
風 荷 重	速 度 圧 q	q = 0.6 E V o. ² V o. = 34.0 m/sec		
	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV		
	風力係数	C r = 0.8 k z + 0.4		

構造設計条件（南棟）

1. 建築物の概要

工事名称	三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事			
建設場所	広島県三次市三次町1851番1			
工事種別	○ 新築 ・ 増築 ・ 改築			
建物規模	地下 ― 階		地上 2 階	
	高 さ *** m		軒 高 *** m	
	建築面積 *** m ²		延床面積 *** m ²	
構造種別	○RC, WRC	1階から2階	・ S	階
	・SRC	階	・ W	階
骨組形式	X方向 ： 純ラーメン構造			
	Y方向 ： 耐力壁付きラーメン構造			
計算ルート	・ ルート1, 1-1, 1-2 ・ ルート2-1, 2, 3			
	○ ルート3 ・ 令81条の2			
基礎構造	○ 直接基礎（ 独立基礎 ）			
	・ 杭基礎 （ ）			
増築予定	○ 無 ・ 有 （ ）			

2. 荷重条件 a. 地震, 積雪, 風等の荷重

地震 荷 重	用途係数	I = 1.25		
	地震地域係数	Z = 0.90		
	地盤種別	第 2 種 地 盤 T = 0.6 sec		
	設計用一次固有周期	T = 0.34 sec		
	振動特性係数	R t = 1.000		
	標準せん断力係数	C o = 0.2		
積雪 荷 重	短期	1,500 N/m ²	最深積雪量 H s	= 75 cm
	長期	0 N/m ²	単位重量 W s	= 20 N/m ² ・cm
風 荷 重	速 度 圧 q	q = 0.6 E V o. ² V o. = 34.0 m/sec		
	地表面粗度区分	・ I ・ II ○ III ・ IV		
	風力係数	C r = 0.8 k z + 0.4		

構造設計条件（各棟共通）

2. 荷重条件

b. 積 載 荷 重

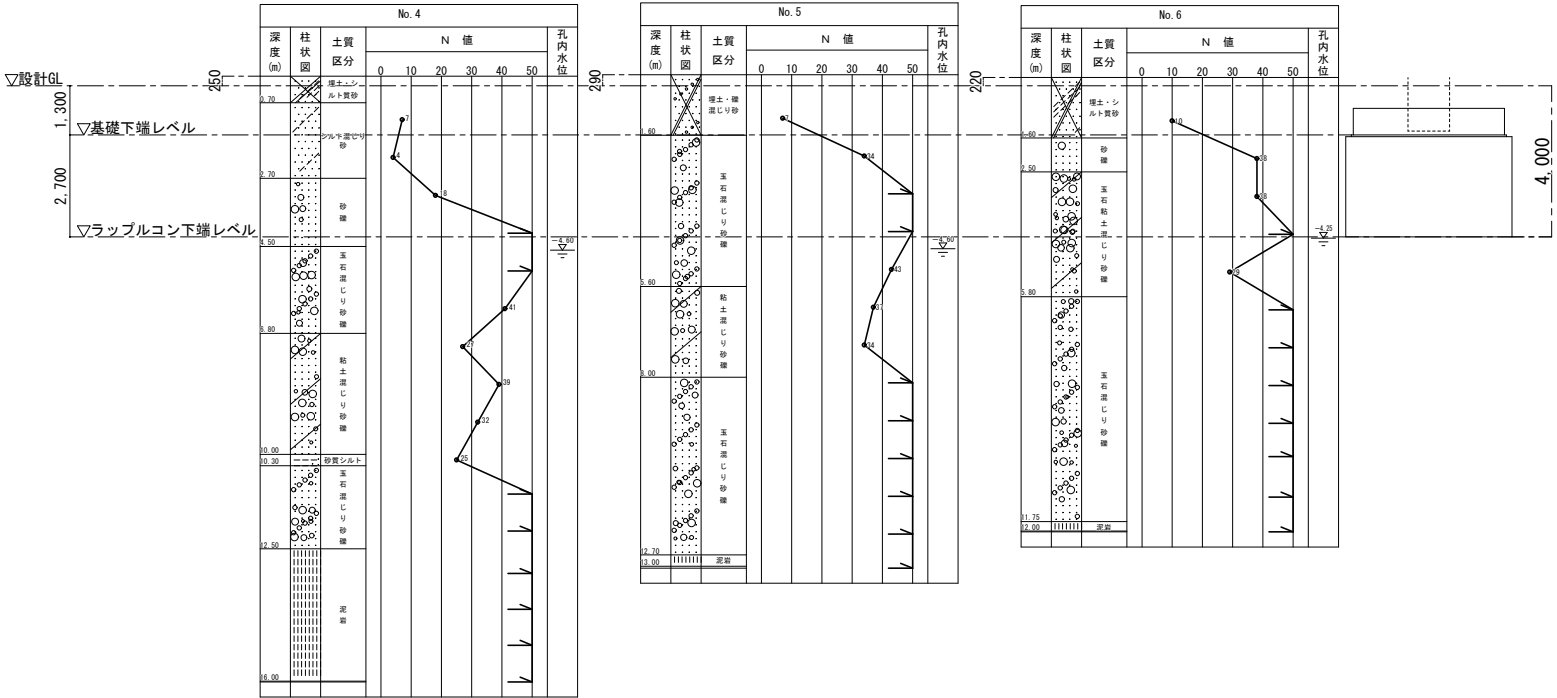
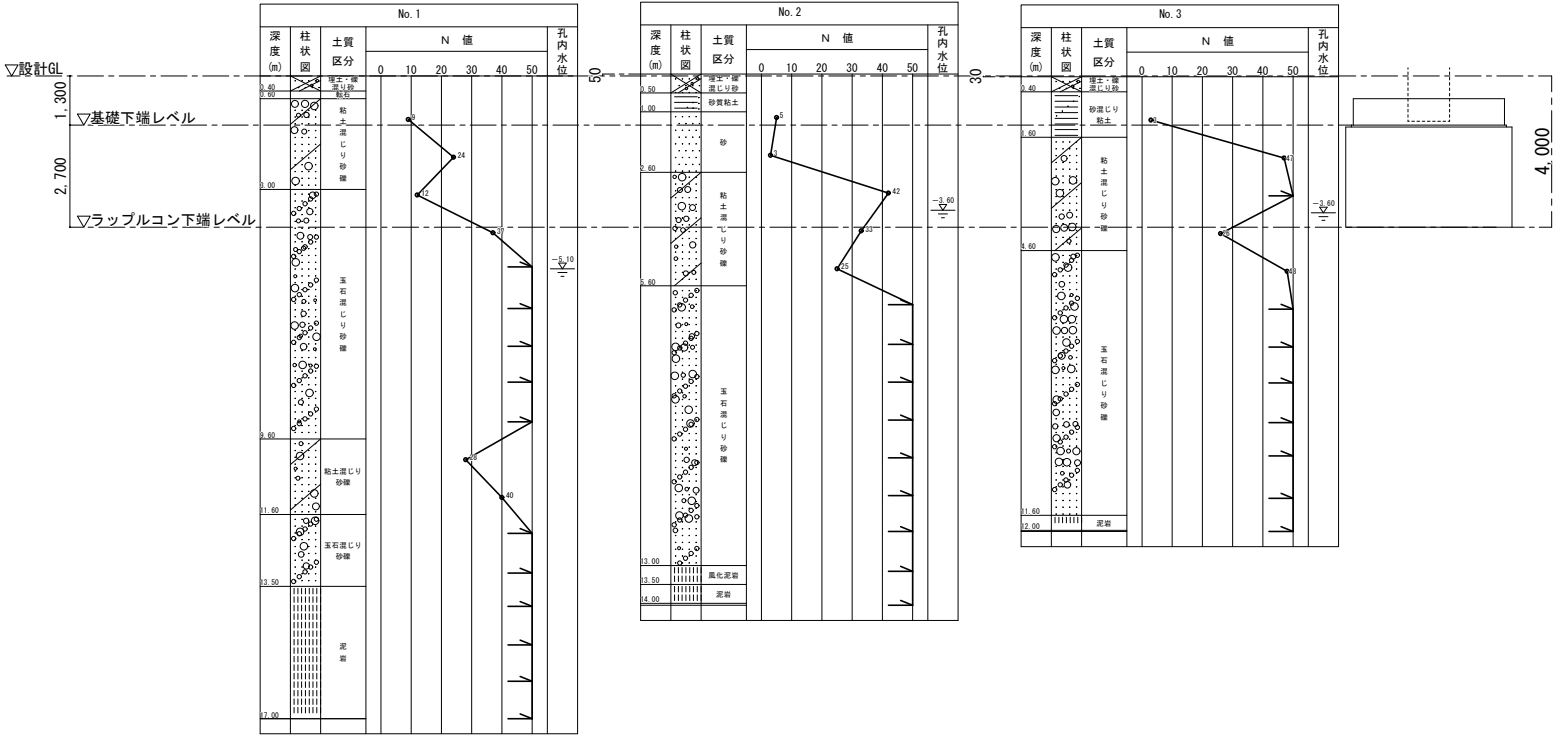
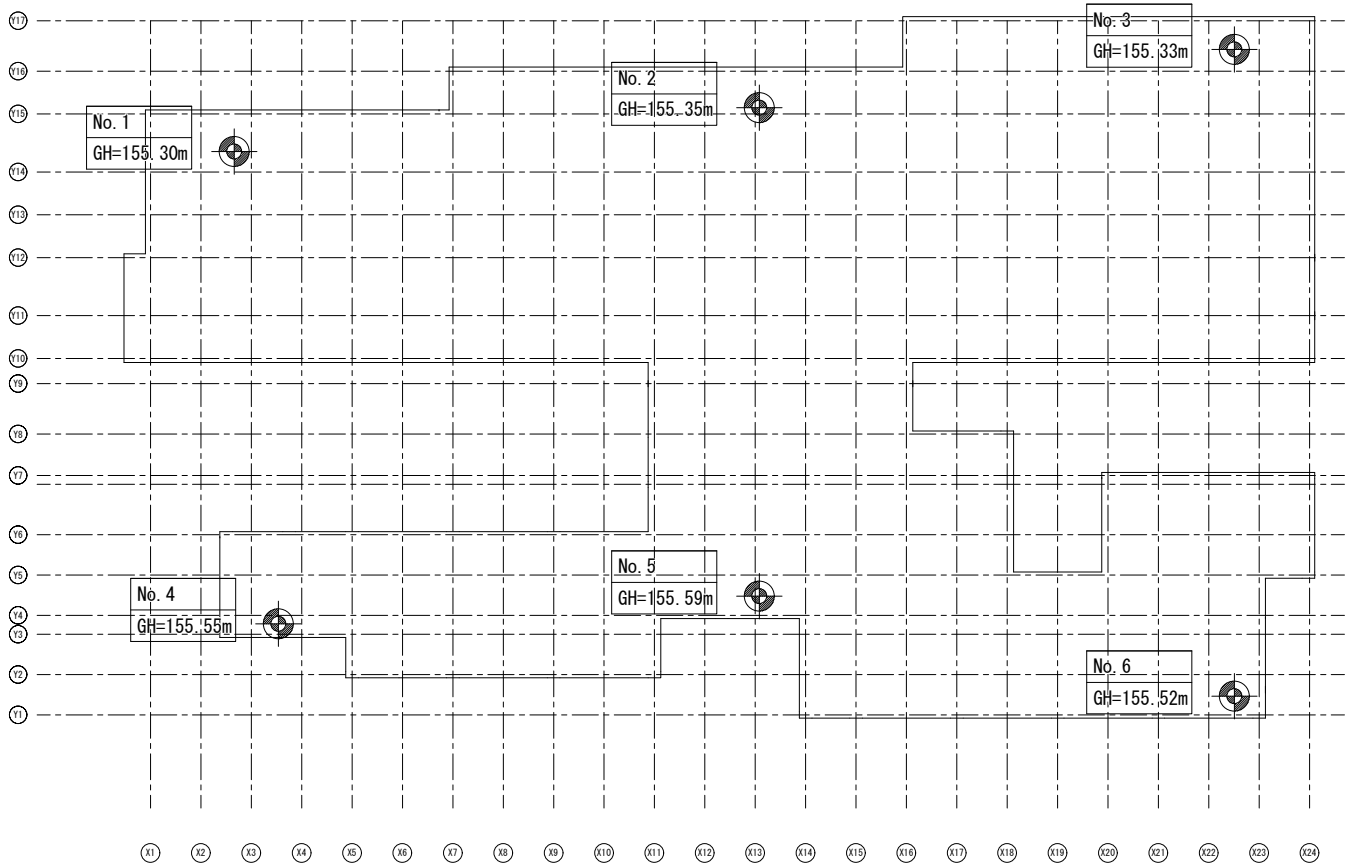
(N/m²)

室 名	床・小梁	架 構	地 震
普通教室、特別教室	2,300	2,100	1,100
準備室・教材庫	3,900	2,600	1,600
事務室・職員室・校長室	2,900	1,800	800
WC・更衣室	1,800	1,300	600
昇降口・廊下・バルコニー	3,500	3,200	2,100
調理室	2,900	2,400	1,300
図書メディア	5,900	5,400	4,900
倉庫・備蓄庫	7,800	6,900	4,900
屋上（非歩行用）	1,000	600	400
屋上（設備置き場）	1,800	1,300	600
屋上（避難場所）	2,900	2,400	1,300
庇（簡易な庇は除く）	1,800	300	200

c. 特 殊 荷 重

(kN)

荷 重 の 種 類	階	重 量	荷 重 の 種 類	階	重 量
キュービクル	R階	134			
水槽	R階	240			
EV	R階	100			
太陽光電池	R階	14			
室外機（北棟）	R階	83			
室外機（南棟）	R階	37			



《特記仕様書の注意事項》 1. 本書は本工事の特記仕様書であり、本工事に適用する特記事項は下記による。 1) 特記事項の適用は、項目の番号に○印のついたものとする。 2) 特記事項で材料種別・工法等を選択指示するものは、○印のついたものを適用する。○印のない場合は＊印のついたものを適用する。 2. 本書及び図面に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書最新版（以下「標準仕様書」と略称）による。 3. 項目欄の章番号及び、（ ）の数字は「標準仕様書」の該当項目番号を示す。 4. 設計図書の優先順位は次のとおりとする。 (1) 質疑回答書（(2)から(5)までに対するもの） (2) 現場説明書 (3) 特記仕様書 (4) 設計図 (5) 標準仕様書 設計図の中の優先順位は、(1) 詳細図 (2) 配筋標準図 とする。 5. JASS5は2022年版、JASS6は2018年版に従う。 《一般事項》 1. 監理者の検査を受ける必要がある場合、現場内検査は検査予定日の一週間前までに、現場外検査は検査予定日の二週間前までに連絡する。 2. 本工事の施工に先立ち、各工事に別施工計画書及び施工図を作成し、監督員の承諾を受ける。 施工計画書 Ⓣ 仮設計画書 Ⓣ 土工事施工計画書 ・ 杭工事施工計画書 Ⓣ 鉄筋工事施工計画書 Ⓣ コンクリート工事施工計画書 Ⓣ 型枠工事施工計画書 Ⓣ 鉄骨工事施工計画書 ・ 緊張工事施工計画書 ・ 木工事施工計画書 ・ 施工図 Ⓣ 躯体図 Ⓣ 型枠割付図 Ⓣ 配筋詳細図 Ⓣ 鉄骨工作図 ・ 鉄鋼(鉄)製作図 ・ P C鋼材配線図 ・ 3. 工事が完了したときは監理者の指示により、竣工図として下記のものを作成し提出する。 Ⓣ 各階伏図 Ⓣ 軸組図 Ⓣ 各断面リスト Ⓣ 施工図	
--	--

3. 土 工 事

項 目	特 記 事 項
Ⓣ 根切り (3. 2. 1) 山留め (3. 3)	2節 根 切 り 及 び 埋 戻 し 根切りにより工事現場内外に有害な影響を与えないよう、かつ土砂が崩壊しないよう関係法令等に従い、下記の工法を参考に請負者の責任において適切なり面または山留めを設けて根切りを行う。また、必要に応じて計測を行い、災害の防止に努める。 山留め壁 Ⓣ 法付けオープンカット工法 Ⓣ 親杭横矢板工法（必要に応じて(簡易山留を含む)） ・ 鋼製矢板壁工法 ・ ソイルセメント柱列山留め壁工法 ・ 連続地中壁工法 支保工 ・ 水平切梁工法 ・ 逆打ち工法 ・ アイランド工法 ・ 地盤アンカー工法 根切り底の仕上り面の精度 Ⓣ 設計レベル±20mm以内 ・ 根切り底の検査 Ⓣ 要 ・ 不要 山留めの残置 Ⓣ 不要となった山留めは廃棄物となるため残置しない。ただし、有用性がある場合や技術的に撤去不可能な場合で建築主との協議の上残置する場合はこの限りでない。この場合、残置した山留めは記録に残し、引渡し時建築主に提出する。

項 目	特 記 事 項
Ⓣ 排水 (3. 2. 2)	排水により工事現場内外、根切り底、のり面などに有害な影響を与えないように、下記の工法を参考にし、請負者の責任において工事を行う。 排水工法 Ⓣ 釜場排水工法 ・ ディープウェル排水工法 ・ ウェルポイント排水工法
Ⓣ 埋戻し及び盛土 (3. 2. 3)	埋戻し及び盛土の種類 ＊ A種 山砂の類 Ⓣ B種 根切り土の中の良質土 ・ C種 他現場の建設発生土の中の良質土 ・ D種 再生コンクリート砂
Ⓣ 建設発生土の処理 (3. 2. 5)	処理方法 Ⓣ 構外搬出適切処理 ・
Ⓣ 障害物 (3. 2. 1)	Ⓣ 工事に支障があるものは完全撤去 工事に支障がなく撤去しない場合においては、認知した部分の処理内容を監理者に報告し対応を協議する。また、残置した地中障害は記録に残し、引渡し時建築主に提出する。
Ⓣ 道路補修	Ⓣ 工事により破損した構内外の道路は完全補修 ・
✕ 土質調査	調査項目 ・ ボーリング m 本 ・ 標準貫入試験（＊ 1.0m毎 ・ ） ・ スウェーデン式サウンディング ヶ所 (土質調査位置は協議による。)

4. 地 業 工 事

項 目	特 記 事 項																				
✕ 試験杭及び支持力の確認 (4. 2. 2)	2節 試験及び報告書 試験杭の報告書は「標準仕様書」4. 2. 5 による。 試験杭の仕様 ・ 特定埋め込み工法 ・ 「標準仕様書」4. 3. 5)による ・ セメントミルク工法 ・ 「標準仕様書」4. 3. 4)による ・ 場所打ちコンクリート杭 ・ 「標準仕様書」4. 5. 4, 4. 5. 5, 4. 5. 6)による ・ 鋼管杭 ・ 「標準仕様書」4. 4. 4, 4. 3. 5)による ・ 認定工法 ・ 工法で定める仕様による 試験杭の位置 * 図示																				
✕ 載荷試験 (4. 2. 3) (4. 2. 4)	・ 平板載荷試験 <table><tr><th>名 称</th><th>試験深さ (m)</th><th>最大荷重 (kN)</th><th>箇所数</th><th>確認支持力 (kN/m²)</th></tr><tr><td></td><td>設計GLー</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>設計GLー</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>設計GLー</td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 荷重制御 * 1サイクル法 ・ 多サイクル法 * 詳細な位置は図示する 試験の方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」4章2節による。	名 称	試験深さ (m)	最大荷重 (kN)	箇所数	確認支持力 (kN/m ²)		設計GLー					設計GLー					設計GLー			
名 称	試験深さ (m)	最大荷重 (kN)	箇所数	確認支持力 (kN/m ²)																	
	設計GLー																				
	設計GLー																				
	設計GLー																				

✕既製コンクリート杭
(4.3)

杭の施工法

・セメントミルク工法(4.3.4)

安定液・使用する・使用しない
根固め液・セメントミルク(水セメント比70%)
杭周固定液・安定液と兼用
打止め処理・圧入
・ドロップハンマーによる軽打
管理試験・「標準仕様書」表4.3.1による。
やっこ・使用する・使用しない

・特定埋込み杭工法(4.3.5)

工法名：
安定液・使用する・使用しない
根固め液・
杭周固定液・
打止め処理・圧入・
管理試験・根固め液及び周辺固定液の強度試験は試験杭は1本ごと、その他の杭は20本に1回とする。
・
やっこ・使用する・使用しない

・認定工法：

(4.3.6)

継手・溶接継手（アーク溶接）
・無溶接継手（）
・
NF対策・なし
・あり
・SLコンパウンド塗布(位置は図示)
・

精度管理

施工精度は以下の値以内の数値とする。
杭芯ずれ＊100 mm以内・
杭の鉛直度＊1/100 以内・
杭頭深度＊±50 mm以内・

4節鋼杭地業

材料(4.4.3)

種類	規格名称等	材質
・鋼管杭	JIS A 5525	・SKK400 ・SKK490
・小径鋼管杭	JIS G 3444	・STK400 ・STK490

✕鋼杭地業
(4.4)

特記事項

・杭載荷試験

名称	杭径(mm)	本数	試験種別	最大荷重(kN)	備考
			・鉛直・水平		

＊詳細な位置は図示する
試験の方法は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築工事監理指針」4章2節による。

3節既製コンクリート杭地業

材料(4.3.3)

種類	規格名称等	区分等
・PHC杭	高強度プレストレストコンクリート杭 JIS A 5373及び 評定・評価基準	・A種・B種 ・C種・D種 ・E種
・SC杭	外殻鋼管付きコンクリート杭	評定・評価基準 －
・PRC杭	鉄筋又は平鋼を入れた杭 評定・評価基準 (COPITA型同等品)	・I種・II種 ・III種・IV種
・ST杭	抗張断面を有する薄肉高強度プレストレストコンクリート杭	評定・評価基準 ・A種・B種 ・C種

杭の施工法

・セメントミルク工法(4.3.4)

安定液・使用する・使用しない
根固め液・セメントミルク(水セメント比70%)
杭周固定液・安定液と兼用
打止め処理・圧入
・ドロップハンマーによる軽打
管理試験・「標準仕様書」表4.3.1による。
やっこ・使用する・使用しない

・特定埋込み杭工法(4.3.5)

工法名：
安定液・使用する・使用しない
根固め液・
杭周固定液・
打止め処理・圧入・
管理試験・根固め液及び周辺固定液の強度試験は試験杭は1本ごと、その他の杭は20本に1回とする。
・
やっこ・使用する・使用しない

・認定工法：

(4.3.6)

継手・溶接継手（アーク溶接）
・無溶接継手（）
・
NF対策・なし
・あり
・SLコンパウンド塗布(位置は図示)
・

精度管理

施工精度は以下の値以内の数値とする。
杭芯ずれ＊100 mm以内・
杭の鉛直度＊1/100 以内・
杭頭深度＊±50 mm以内・

4節鋼杭地業

材料(4.4.3)

種類	規格名称等	材質
・鋼管杭	JIS A 5525	・SKK400 ・SKK490
・小径鋼管杭	JIS G 3444	・STK400 ・STK490

項 目	特 記 事 項																							
(4. 4. 5)	先端部の形状	・ 閉そく形 （ ＊ 平坦形 ・ ペンシル形 ） ・ 開放形 ・ 認定条件で定める仕様による																						
	先端部の補強	・ 図示による ・ 「標準仕様書」図4. 4. 1及び表4. 4. 2による																						
	杭の施工法																							
	・ 特定埋込み杭工法(4. 3. 5)																							
	工法名	：																						
	安定液	・ 使用する ・ 使用しない																						
	根固め液	・																						
	杭周固定液	・																						
	打止め処理	・ 圧入 ・																						
	管理試験	・ 根固め液及び周辺固定液の強度試験は試験杭は1本ごと、その他の杭は20本に1回とする。 ・																						
	やっこ	・ 使用する ・ 使用しない																						
	・ 認定工法		：																					
継手	・ 溶接継手（アーク溶接） ・ 無溶接継手（ ） ・																							
N F対策	・ なし ・ あり ・ SLコンパウンド塗布(位置は図示) ・																							
防食対策	・ なし ・ あり（ ）																							
精度管理																								
施工精度は以下の値以内の数値とする。																								
杭芯ずれ	＊ 100 mm以内 ・																							
杭の鉛直度	＊ 1/100 以内 ・																							
杭頭深度	＊ ±50 mm以内 ・																							
5節 場所打ちコンクリート杭地業																								
✕ 場所打コンクリート杭地業 (4. 5)	掘削工法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ 深礎工法 ・ BH工法 ・ 場所打ち鋼管コンクリート杭工法 ・ 場所打ち(鋼管)コンクリート拡底杭工法 安定液 ・ 無水掘削 ・ 安定液使用 ケーシング使用 ・ 施工に必要な長さとする。 ・ 設計GLー m まで 排水方法 ・ 構外搬出適切処理 ・ 掘削土の処理方法 ・ 構外搬出適切処理 ・ コンクリートの種別																							
<table><tr><th>種 別</th><th>設計基準強度</th><th>水セメント比</th><th>スランプ</th><th>粗骨材</th><th>単位セメント量</th><th>適 用</th></tr><tr><td>・ A種</td><td rowspan="2">N/mm²</td><td>60%以下</td><td rowspan="2">＊ 18cm</td><td rowspan="2">25mm (20)※</td><td>310kg/m³以上</td><td>無水掘りの場合</td></tr><tr><td>・ B種</td><td>55%以下</td><td>340kg/m³以上</td><td>上記以外の場合</td></tr></table>							種 別	設計基準強度	水セメント比	スランプ	粗骨材	単位セメント量	適 用	・ A種	N/mm ²	60%以下	＊ 18cm	25mm (20)※	310kg/m ³ 以上	無水掘りの場合	・ B種	55%以下	340kg/m ³ 以上	上記以外の場合
種 別	設計基準強度	水セメント比	スランプ	粗骨材	単位セメント量	適 用																		
・ A種	N/mm ²	60%以下	＊ 18cm	25mm (20)※	310kg/m ³ 以上	無水掘りの場合																		
・ B種		55%以下			340kg/m ³ 以上	上記以外の場合																		
※（ ）内は、砕石及び高炉スラグ砕石使用の場合とする。 認定工法の場合は工法で定められた条件の値とする。																								

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (いー30) 第9152号 宇野 享（一級建築士 第246066号） 良知 康晴（一級建築士 第361862号）	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 構造特記仕様書（1）	縮尺 S=／-(A1) S=／-(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-03
--	----	--	----------------------------------	------------------------	----------------------------	------------	-----------------

項 目

特 記 事 項

調合管理強度
構造体強度補正值(S)は 3N/mm^2 とする。
ただし、認定工法の場合は工法で定められた条件の値とする。
混和材料 * 「標準仕様書」(6.3.1)(4)によるセメントの種類 * 高炉B種 ・
上記以外（骨材等）はコンクリート工事による。

試験及び検査
試験練り ・ 要 ・ 不要
試験練りの監督員の立会い ・ 立会う ・ 立会わない
コンクリート圧縮強度試験
1日1回以上かつ 150mm^3 ごととする。
（供試体は適当な間隔をおいた運搬車3台より採取し、養生は標準養生とする。）
スランブ試験
杭1本ごとに最初の運搬車についても行き全運搬車のコンクリートについて目視検査を行う。

鉄筋及び鋼管の種類

種 別	材 質	径	適用箇所
・ 異形鉄筋	JIS G 3112	・ SD295A	D16 以下 帯筋
		・ SD345	D19～D25 主筋
		・ SD390	D29 以上 主筋
・ 鋼管	JIS A 5525	・ SKK400	
		・ SKK490	
		・ SKK400-IR	
		・ SKK490-IR	

工法名称および評定番号
（工法変更を行う場合は、同等以上の工法として監督員が認めた場合に限り工法の変更を認める。）
・
・

精度管理
施工精度は以下の値以内の数値とする。
杭芯ずれ * 100 mm以内 ・
杭の鉛直度 * 1/100 以内 ・
杭頭深度 * ± 50 mm以内 ・
孔壁測定 * 全本数(測定は直交2方向とする)

施工会社
場所打ち杭の施工会社は以下のうちいずれかとする。
ジャパンバイル株式会社
大洋基礎株式会社
東洋テクノ株式会社
日特建設株式会社
丸五基礎工業株式会社
監督員と協議の上、同等以上の技術力及び管理能力を有すると認めた場合に限り、他の施工会社の適用を承諾する。

⑥ 基礎の設計支持力

支持地盤：設計GLー m付近の 層

杭の許容支持力(kN/本)

杭径 (mm)	長期許容支持力	短期許容引抜き抵抗力	終局時引抜き耐力	備 考

・ 図示（部材リスト参照）

項 目	特 記 事 項																																																		
	直接基礎の長期許容支持力 <table><tr><th>基礎形式</th><th>基礎深さ (m)</th><th>支持層</th><th>長期許容支持力 (kN/m²)</th></tr><tr><td>独立基礎 (ラップルコンクリート構型)</td><td>設計GL-4.0m</td><td>砂礫</td><td>300</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table> 6節 砂利、砂及び捨コンクリート地業等 ⑦ 砂利及び砂地業 (4.6.3) 材料 ⑤ 再生クラッシャーラン、切込砂利又は切込砕石とし、最大粒径は45mm程度、粒度は、JIS A 5001 (道路用砕石) によるC-40程度のものとする。 厚さ ⑤ 図示 ⑧ 捨コンクリート地業 (4.6.4) 材料 ⑤ 無筋コンクリート(6.14)による。 厚さ ⑤ 図示 仕上り面の精度 ⑤ 設計基礎底より上へ0mm、下へ20mm以内 ⑨ 地盤改良 工法 ・ 浅層混合処理工法 ・ 深層混合処理工法 施工箇所 ⑤ 図示 ⑩ 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5) 材料 ⑤ JIS Z 1702による包装用ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上、重ね合わせ及び基礎梁際のみ込みは250mm程度とする。 適用箇所 ⑤ 意匠図による。	基礎形式	基礎深さ (m)	支持層	長期許容支持力 (kN/m ²)	独立基礎 (ラップルコンクリート構型)	設計GL-4.0m	砂礫	300																																										
基礎形式	基礎深さ (m)	支持層	長期許容支持力 (kN/m ²)																																																
独立基礎 (ラップルコンクリート構型)	設計GL-4.0m	砂礫	300																																																
5. 鉄 筋 工 事																																																			
項 目	特 記 事 項																																																		
	2節 材 料 <table><tr><th>種 別</th><th>材 質</th><th>径</th><th>備 考</th></tr><tr><td rowspan="5">① 鉄筋コンクリート用棒鋼</td><td rowspan="5">JIS G 3112</td><td>⑤ SD295</td><td>D10～D16</td></tr><tr><td>⑤ SD345</td><td>D19～D25</td></tr><tr><td>⑤ SD390</td><td>D29以上</td></tr><tr><td>・ SD490</td><td>D29以上</td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">② 高強度せん断補強筋</td><td rowspan="7">認定品</td><td>・ KW785</td><td>K10～K16</td></tr><tr><td>・ UB785</td><td>UD10～UD16</td></tr><tr><td>⑤ OT685</td><td>OD10～OD16</td></tr><tr><td>・ SBPD1275</td><td>U7.1～U12.6</td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr><tr><td>・</td><td></td></tr></table> <table><tr><th>線径 (mm)</th><th>網目 (mm)</th><th>適 用 箇 所</th></tr><tr><td>⑤ φ6</td><td>100×100</td><td>防水押えコンクリート補強筋</td></tr><tr><td>⑤ φ6</td><td>100×100</td><td>外壁開口ひび割れ防止筋</td></tr><tr><td>・ D10</td><td>100×100</td><td>外壁端部スパンひび割れ防止筋</td></tr><tr><td>・ φ3.2</td><td>100×100</td><td>外壁中央スパンひび割れ防止筋</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></table> 溶接金網はJIS G 3551の規格品とする。 鉄筋金網は材質JIS G 3112又はG 3117 SD295の規格品とする。	種 別	材 質	径	備 考	① 鉄筋コンクリート用棒鋼	JIS G 3112	⑤ SD295	D10～D16	⑤ SD345	D19～D25	⑤ SD390	D29以上	・ SD490	D29以上	・		② 高強度せん断補強筋	認定品	・ KW785	K10～K16	・ UB785	UD10～UD16	⑤ OT685	OD10～OD16	・ SBPD1275	U7.1～U12.6	・		・		・		線径 (mm)	網目 (mm)	適 用 箇 所	⑤ φ6	100×100	防水押えコンクリート補強筋	⑤ φ6	100×100	外壁開口ひび割れ防止筋	・ D10	100×100	外壁端部スパンひび割れ防止筋	・ φ3.2	100×100	外壁中央スパンひび割れ防止筋	・		
種 別	材 質	径	備 考																																																
① 鉄筋コンクリート用棒鋼	JIS G 3112	⑤ SD295	D10～D16																																																
		⑤ SD345	D19～D25																																																
		⑤ SD390	D29以上																																																
		・ SD490	D29以上																																																
		・																																																	
② 高強度せん断補強筋	認定品	・ KW785	K10～K16																																																
		・ UB785	UD10～UD16																																																
		⑤ OT685	OD10～OD16																																																
		・ SBPD1275	U7.1～U12.6																																																
		・																																																	
		・																																																	
		・																																																	
線径 (mm)	網目 (mm)	適 用 箇 所																																																	
⑤ φ6	100×100	防水押えコンクリート補強筋																																																	
⑤ φ6	100×100	外壁開口ひび割れ防止筋																																																	
・ D10	100×100	外壁端部スパンひび割れ防止筋																																																	
・ φ3.2	100×100	外壁中央スパンひび割れ防止筋																																																	
・																																																			
① 異形鉄筋 (5.2.1)																																																			
② 溶接金網及び鉄筋金網 (5.2.2)																																																			

項目

特記事項

⑬鉄筋の継手及び定着
(5. 3. 4)

⑭鉄筋のかぶり厚さ
(5. 3. 5)

⑮帯筋
(別図2. 2)

⑯ガス圧接
(5. 4)

3節加工及び組立

接合方法適用箇所

②鉄筋の定着長さは、配筋標準図による

②鉄筋の設計かぶり厚さは、配筋標準図による。

②かぶり厚さは目地底からの厚さとする。

H形丸形

W—I形溶接閉鎖型

S P形（スパイラル筋）

4節ガス圧接

圧接会社

ガス圧接は（公社）日本鉄筋継手協会に認定された優良圧接会社認定を受けた会社より選定する。

ガス圧接技能資格者

②手動圧接（公社）日本鉄筋継手協会がJIS Z 3881の試験に基づき認めた技能資格種別2種以上の者とする。

②自動圧接（公社）日本鉄筋継手協会に認定された者とする。

②SD390以上の高強度鉄筋に圧接を採用する場合は高分子ガス圧接継手を推奨する。

圧接部試験の合否判定基準は高分子ガス圧接継手の協会で定める基準による。

試験及び検査

検査項目試験方法時期・回数適用箇所

②外観検査目視圧接作業完了時に全数②柱、梁の主筋

②抜き取り検査②引張JIS Z 31201検査ロットに②3本・5本②柱、梁の主筋

②超音波探傷JIS Z 30621検査ロットに30箇所以上②柱、梁の主筋

1検査ロットは1組の作業班が1日に行った圧接箇所の数量及び200箇所以内とする。

コンクリート打設前に必ず監督員に検査結果を報告する。

試験片を採取した部分の修正

②同種の鉄筋を両端圧接する。

②同種の鉄筋を両端重ね継手とする（D25以下の場合、継手長さは50 d 以上）。

不良圧接の補正

②「標準仕様書」5. 4. 11 不合格となった圧接部への措置による。

超音波探傷検査

（一社）日本溶接協会の認定（GIW）を受けた事業所に属する者で、（公社）日本鉄筋継手協会が認定する鉄筋ガス圧接部超音波探傷検査技術者の有資格者とする。

鉄筋引張試験

②公的検査機関

②「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第1項の規定に基づく検査機関（A類検査機関）

②「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第2項の規定に基づく検査機関（B類検査機関）

項目

特記事項

⑦

梁貫通孔の補強
(別図7. 1)

補強方法
◎ 図示
補強箇所
・ 梁貫通位置図による。
◎ 該当機械設備図及び電気設備図による。

6. コンクリート工事

項目

特記事項

⑪

コンクリートの種類
(6. 2. 1)

2節 コンクリートの種類及び品質

コンクリートの種類
◎ I 類 (JIS Q 1001及びJIS Q 1011に基づき、JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート)
・ II 類 (I 類以外のJIS A 5308に適合したコンクリート)
レディーミクストコンクリート工場
◎ 同一打込み工区に2つ以上の工場のコンクリートの打込みは認めない。
◎ コンクリート技師以上の技術者が常駐する工場とする。
・
[JIS A 5308-2009 取り扱い注意事項]
◎ 告示で除外するエコセメントの利用は不可とする。
◎ 再生骨材Hの利用は不可とする。

計画供用期間と耐久設計基準強度 (JASS5 3. 4による)
・ 短期 (耐久設計基準強度 18N/mm²)
◎ 標準 (耐久設計基準強度 24N/mm²)
・ 長期 (耐久設計基準強度 30N/mm²)
・ 超長期 (耐久設計基準強度 36N/mm² ※1)
※1 かぶり厚さを10mm増やした場合は、30N/mm²とすることができる

種別	設計基準強度 (f_c) (N/mm ²)	スランプ (cm)	スラップ フロー (cm)	適用箇所
普通	36	15		基礎 (北棟)
	36	21		1階立上がり～(北棟)
	33	15		基礎 (南棟)
	33	21		1階立上がり～(南棟)

ラップルコンクリートの仕様は無筋コンクリート (6. 14) による。

3節 コンクリートの材料及び調査

調査計画書
◎ コンクリートの調査計画書を提出し、監督員の承諾を受ける。
◎ 調査計画において、各指定事項を満足できない場合は監督員と対応を協議する。

⑫

普通コンクリート
(6. 3)

セメント
◎ (JIS R 5210) ポルトランドセメント
・ (JIS R 5211) 高炉セメント
・ (JIS R 5212) シリカセメント
・ (JIS R 5213) フライアッシュセメント

水セメント比
◎ 65%以下
・ %以下

単位水量
◎ 175kg/m³以下
・ 185kg/m³以下

単位セメント量
◎ 270kg/m³以上
・ kg/m³以上

混和材料
◎ 「標準仕様書」(6. 3. 1) (4) (a) による
・ JIS A 6202 コンクリート用膨張材
・

水
◎ JIS A 5308 の 附属書C (規定) [レディーミクストコンクリートの練混ぜに用いる水] による。
* 計画供用期間の級が長期及び超長期の場合は回収水を使用しない。

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンサンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-30)第9152号 宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 構造特記仕様書(2)	縮尺 S=-/-(A1) S=-/-(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-04
----	--	---	------------------------------	--------------------	------------------------------	------------	-----------------

項目

特記事項

④塩化物量及びアルカリ総量
(6.5.4)

⑤目地
(6.6.4)

⑥構造スリット

⑦止水板

⑧打込・締め固め方法等の施工方法の確認

⑨型枠
(6.8.2)

⑩型枠の存置期間及び取外し
(6.8.4)

⑦ 調合管理強度 (6.3.2)
⑦ $F_m = F_q + S$
Fm: コンクリートの調合管理強度 (N/mm²)
Fq: コンクリートの品質基準強度 (N/mm²)
品質基準強度は、設計基準強度又は耐久設計基準強度の内、大きいほうの値とする。
S: 構造体強度補正值 (N/mm²)

⑦ 構造体強度補正值 (S)
⑦ マスコンクリートは「標準仕様書」表6.13.1による。
その他のコンクリートは表6.3.2による。

5節 普通コンクリートの品質管理

アルカリ骨材反応抑制対策
⑦ アルカリ骨材反応に関して無害と判定された骨材を使用する。
・ 低アルカリ形のポルトランドセメントを使用する。
・ コンクリート中の総アルカリ量を酸化ナトリウム換算で 3.0kg/m³以下とする。(「標準仕様書」6.5.4(2)により判定)
・ 高炉セメント(B,C種)、フライアッシュセメント(B,C種)を使用する。
コンクリートに含まれる塩化物量
⑦ コンクリートに含まれる塩化物量は、塩化物イオン量として0.30kg/m³以下とする。

6節 コンクリートの工事現場内運搬並びに打込み及び締固め

⑦ 目地の仕様及び適用箇所は意匠図による。

構造スリット	仕 様	適用箇所
完全スリット	⑦ 既製品による※ ・ 図示	⑦ 図示
部分スリット	・ 既製品による※ ・ 図示	・ 図示

※カタログを提出し、監督員の承諾を受ける。

⑦ 止水板の仕様、使用箇所は意匠図による。

以下に示す項目に対して、施工計画書に施工要領を明記し、施工記録を残す。
⑦ 打込み、締め固め方法 (JASS5-7節)
⑦ 打ち継処理方法 (JASS5-7節)
⑦ 養生方法 (JASS5-8節)

8節 型 枠

⑦ 型枠の仕様は意匠図による。

⑦ せき板の最小存置期間は下記による。

	施工箇所	基礎、梁側、柱、壁	
	セメントの種類 存置期間中の平均気温	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	2	3
	5℃以上	3	5
	0℃以上	5	8
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで	

項目

㊦

せき板の最小存置期間は下記による。

施工箇所 セメントの種類 存置期間中の平均気温	基礎、梁側、柱、壁		
	混合セメントのB種	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント	
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	5	6
	5℃以上	7	8
	0℃以上	10	12
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が 5N/mm ² 以上となるまで ※ 高強度コンクリートの場合圧縮強度が 10N/mm ² 以上となるまで	

※ 計画供用期間の級が長期及び超長期の場合は10N/mm² 以上となるまでとする。ただし、せき板の取り外し後、湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度が得られるまで湿潤養生をしない場合は、それぞれ10N/mm² 以上、15N/mm² 以上に達するまでせき板を存置するものとする。湿潤養生を打ち切ることができる圧縮強度は計画供用期間の級が短期及び標準の場合は10N/mm² 以上、長期及び超長期の場合は15N/mm² 以上とする。

㊦

スラブ下支柱の最小存置期間は下記による。

施工箇所 セメントの種類 存置期間中の平均気温	スラブ下		
	早強ポルトランドセメント	普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種	
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	8	17
	5℃以上	12	25
	0℃以上	15	28
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85%以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで	

施工箇所 セメントの種類 存置期間中の平均気温	スラブ下	
	中庸熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種	
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	28
	5℃以上	
	0℃以上	
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度の85%以上又は 12N/mm ² 以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで

㊦

以下に示す位置のスラブ下支柱の最小存置期間は、コンクリートの材齢による。工程上、コンクリートの圧縮強度による管理を実施する必要がある場合は、監督員と協議の上承諾を得る。

階	位置	管理材齢
全て	片持ちスラブ	㊦ 28日以上
		* 28日以上
		* 28日以上

項目

特記事項

⑩ 試験
(6.9)

Ⓢ 梁下支柱の最小存置期間は下記による。

施工箇所	梁 下	
セメントの種類	早強ポルトランドセメント、普通ポルトランドセメント、混合セメントのA種、中熱ポルトランドセメント、低熱ポルトランドセメント、混合セメントのB種	
存置期間中の平均気温		
コンクリートの材齢による場合(日)	15℃以上	28
	5℃以上	
	0℃以上	
コンクリートの圧縮強度による場合	-	圧縮強度が設計基準強度以上であり、かつ、施工中の荷重及び外力について、構造計算により安全であることが確認されるまで。

* 以下に示す位置の梁下支柱の最小存置期間は、コンクリートの材齢による。工程上、コンクリートの圧縮強度による管理を実施する必要がある場合は、監督員と協議の上承諾を得る。

階	位置	管理材齢
		* 28日以上
		* 28日以上
		* 28日以上

9節 試験

試験練り

* 要

Ⓢ 不要

監理者の立会い

* 立ち会う

Ⓢ 立ち会わない

使用材料の試験

Ⓢ 使用材料は下記の材料の試験結果を提出し、監理者の承諾を受ける。

Ⓢ セメント

Ⓢ 骨材

Ⓢ 水

Ⓢ 混和材料

Ⓢ アルカリシリカ反応性試験結果

フレッシュコンクリートの試験

試験項目	試験方法	試験時期及び回数	
Ⓢ スランブ	JIS A 1101	* 表 6.9.2 調合管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の供試体の作製方法による。また、打込中に品質変化が認められた場合	
Ⓢ 空気量	次のいずれか JIS A 1128 JIS A 1118 JIS A 1116		
・ 単位容積質量	JIS A 1116	普通コンクリート	必要が生じた場合
		軽量コンクリート	表6.9.2 調合管理強度の判定及び構造体コンクリート強度の判定の頻度による。
Ⓢ 温度	JIS A 1156	コンクリートの打込み時の気温が25℃を超える場合又は寒中コンクリートその他必要が生じた場合	
Ⓢ 塩化物量	※2	コンクリートの種類が異なるごとに1日1回以上、かつ、150m ³ 及びその端数につき1回以上	

※1 試料の採取位置は筒先とする。

※2 (一財)国土開発技術研究センターの技術評定を受けた塩化物量測定器により、試験値は同一試料における3回の測定の平均値とする。最初の測定は打込み当初とする。

供試体の養生方法、材齢

試験の目的	養生方法(注)	材齢
調合管理強度の管理試験用	標準養生	28日
型枠取外し時期の決定用	工事現場における水中養生又は封かん養生	必要に応じて定める

(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。

項 目

特 記 事 項

供試体の養生方法、材齢

試験の目的	養生方法(注)	材 齢
構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における水中養生	28日
	工事現場における封かん養生	28日及び28日を超え91日以内
	標準養生	28日

(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。

寒中コンクリートの場合の供試体の養生方法、材齢

試験の目的	養生方法(注)	材 齢
調合管理強度の管理試験用	標準養生	28日
構造体コンクリートの圧縮強度推定用	工事現場における封かん養生を、構造物の内側において行う	28日及び28日を超え91日以内
初期養生打ち切り時期の決定用		状況に応じて定める
型枠取外し時期の決定用		必要に応じて定める

(注) 養生方法は、6.9.3(1)による。

(6.9.3)

試験回数

◎ 普通コンクリートの場合、打込み日ごと、打込み工区ごと、かつ、150m³以下にほぼ均等に分割した単位ごとに行う。

・ 軽量コンクリートの場合、コンクリートの種類が異なるごとに午前と午後それぞれ1回以上、かつ、コンクリート100m³ごと及びその端数に付き1回以上

1回の試験の供試体の個数

◎ 調合管理強度の管理試験用の供試体は打込み日ごと、打込み工区ごとに1台の運搬車の試料から3個採取するものとする。

◎ 構造体コンクリートの圧縮強度推定用の供試体は、1運搬車からまとめて採取するのではなく、適当な間隔をあけた任意の運搬車から1個ずつ、合計3個採取するものとする。

高強度コンクリートの試験回数

* 調合管理強度の検査では打込み日、かつ300m³毎に1回以上

* 構造体コンクリートの圧縮強度の検査は打込み日、打込み工区、かつ300m³毎に1回以上

高強度コンクリートにおける1回の試験の供試体の個数

* 調合管理強度の管理試験用の供試体は、適当な間隔をあけた任意の3台の運搬車から1台につき3個ずつ採取した合計9個採取するものとする。

* 構造体コンクリートの圧縮強度推定試験用の供試体は、適当な間隔をあけた任意の3台の運搬車から1台につき3個ずつ採取した合計9個の供試体を用いる。

* 構造体コンクリートの圧縮強度の試験を標準養生した試験体で行う場合、調合管理強度の管理試験と構造体コンクリートの圧縮強度推定試験の試験結果を兼用することができる。

備考	設計者、設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-30)第9152号 宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 構造特記仕様書 (3)	縮尺 S=-/- (A1) S=-/- (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-05
----	--	-------------------------------------	----------------------------	--------------------------------	------------	------------------------

項 目	特 記 事 項
	構造体コンクリートの圧縮強度試験機関 ◎ 公的検査機関 ・「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第1項の規定に基づく検査機関（A類検査機関） ・「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第4条第2項の規定に基づく検査機関（B類検査機関）
	<u>10節 軽量コンクリート</u>
⑫ 軽量コンクリート (6.10)	種類 ・ 1種（気乾単位容積質量： ） ・ 2種（気乾単位容積質量： ） セメント ・ 普通ポルトランドセメント 水セメント比 ・ 55%以下 %以下 単位水量 ・ 175kg/m³以下 185kg/m³以下 単位セメント量 ・ 320kg/m³以上 kg/m³以上 ただし、常時土又は水に直接接する部分に用いる場合は、340kg/m³以上とする。 混和材料 * 「標準仕様書」（6.3.1）（4）（a）による ・ JIS A 6202 コンクリート用膨張材
	<u>11節 寒中コンクリート</u>
⑬ 寒中コンクリート (6.11)	コンクリート打込み後の養生期間に、コンクリートが凍結するおそれのある場合に施工する寒中コンクリートに適用する。 適用期間 ◎ JASS5による 調合管理強度を定める材齢 ◎ 28日材齢 調合管理強度の決め方 ◎ 所定の設計基準強度（:F_c）が所定の材齢に得られ、かつ、初期凍害の防止に必要な圧縮強度5N/mm²が初期養生期間内に得られるように、「標準仕様書」6.11.4に基づく養生計画に応じて定める。 水セメント比 ◎ 60%以下 %以下 初期養生期間 ◎ 圧縮強度が5N/mm²に達するまで ・ 打設の日から 日間
	<u>12節 暑中コンクリート</u>
⑭ 暑中コンクリート (6.12)	適用期間 ◎ コンクリート打設時における日平均気温の平年値が25℃を超える期間 荷卸し時のコンクリートの温度 * 35℃以下 ◎ 35℃以上となることが予想される場合は、38℃を上限とし、これに備えて、材料・調合の見直し、施工時間の短縮、養生期間の延長などにより、コンクリートの施工性の確保、構造体コンクリートの品質確保に対する方策を監督員と講じておく。 混和剤 ・ AE減水剤遅延形Ⅰ種 ・ 高性能AE減水剤遅延形Ⅰ種 流動化コンクリートの場合は、ベースコンクリートにAE減水剤遅延形Ⅰ種を用い、流動化剤は標準形とする。

項目

特記事項

⑫

マスコン
クリート
(6.13)

13節

マスコンクリート

セメント

・ 中庸熱ポルトランドセメント

・ 低熱ポルトランドセメント

・ 高炉セメントB種

・ フライアッシュセメントB種

・ 普通ポルトランドセメント

監理者と協議の上、ひび割れ目標値を設定し、解析等により目標値以下となることを確認する。
なお、他のセメントを用いて、目標値を満足できることが確認された場合は、監督員と協議の上セメントの種類を変更することができる。

混和材料

・ AE減水剤 (JIS A 6204)

・ 高性能AE減水剤

・ コンクリート用高炉スラグ微粉末の3000若しくは4000 (JIS A 6206)

・ フライアッシュのⅠ種若しくはⅡ種 (JIS A 6201)

調査管理強度を決める材齢 ・ 28日以上91日以内
荷卸し時のコンクリートの温度
・ 35℃以下 ・ ℃以下
コンクリートの温度測定
・ 測定箇所
・ 測定点 点
・ 測定期間 日
* マスコンクリートの品質管理・検査の要領はJASS5による。

14節

無筋コンクリート

種類	設計基準 強度 (f _c) (N/mm ²)	気乾 比重	スラ ンプ	適用箇所
⑭ 普通	⑮ 18	2.3	⑯ 15 ・ 18	⑰ 捨てコンクリート ⑱ 防水保護コンクリート ⑲ かさ上げコンクリート
・ 軽量				

コンクリート強度は「標準仕様書」6.5.5に準じ、強度試験は6.9.3、6.9.4及び6.9.5に準じて行うこととし、調査管理強度を設計基準強度に読み替える。

16節

高強度コンクリート
(JASS5 17節による)

⑭

高強度コ
ンクリート

強度試験方法、調査及び養生方法、型枠の取外し時期及び方法はJASS5 17節による。
この節に規定する以外はJASS5 17節による。
セメント * 普通ポルトランドセメント
水セメント比 * 50%以下 ・ 40%以下
単位水量 ・ 175kg/m³ 以下
混和材料 * JIS A 6204 (コンクリート用化学混和剤) に適合するもの。
空気量 * 2.0～3.0% ・ 4.0～4.5%

7. 鉄 骨 工 事

項 目	特 記 事 項																																										
① 鉄骨製作工場 (7.1.3) (7.1.4)	1節 一般事項 ㊦ 指定工場：性能評価基準「・J、・R、㊦M、・H、・Sグレード」と同等以上の工場とする。 施工管理技術者 ㊦ 適用する ・ 適用しない 2節 材料 使用材の規格・種類は下記により、適用箇所は図示による。 鋼材の規格・種類 <table><thead><tr><th>種 別</th><th>規格番号</th><th>種類の記号</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">㊦ 圧延鋼材</td><td>JIS G 3101</td><td>㊦ SS400 ・ SS490 ・ SS540</td></tr><tr><td>JIS G 3106</td><td>・ SM400A ・ SM400B ・ SM490A ・ SM490B ・ SM520B ・ SM520C</td></tr><tr><td>JIS G 3136</td><td>・ SN400A ㊦ SN400B ㊦ SN400C ・ SN490B ・ SN490C</td></tr><tr><td>・ 耐候性鋼材</td><td>JIS G 3114</td><td>・ SMA400AW ・ SMA400AP ・ SMA490AW ・ SMA490AP</td></tr><tr><td rowspan="3">㊦ 圧延棒鋼</td><td>JIS G 3138</td><td>・ SNR400A ㊦ SNR400B ・ SNR490B</td></tr><tr><td>JIS B 1220</td><td>・ ABR400 ・ ABR490</td></tr><tr><td>JIS B 1221</td><td>・ ABM400 ・ ABM490</td></tr><tr><td>㊦ 軽量形鋼</td><td>JIS G 3350</td><td>㊦ SSC400</td></tr><tr><td>・ 溶接軽量H形鋼</td><td>JIS G 3353</td><td>・ SWH400 ・ SWH400L</td></tr><tr><td rowspan="2">㊦ 炭素鋼管</td><td>JIS G 3444</td><td>㊦ STK400 ・ STK490</td></tr><tr><td>JIS G 3475</td><td>・ STKN400W ・ STKN400B ・ STKN490B</td></tr><tr><td rowspan="4">・ 角形鋼管</td><td>JIS G 3466</td><td>・ STKR400 ・ STKR490</td></tr><tr><td>認定品</td><td>・ BCR295</td></tr><tr><td rowspan="2">評価基準</td><td>・ BCP235 ・ BCP325</td></tr><tr><td>・ SHC400B ・ SHC400C ・ SHC490B ・ SHC490C</td></tr><tr><td>・</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>	種 別	規格番号	種類の記号	㊦ 圧延鋼材	JIS G 3101	㊦ SS400 ・ SS490 ・ SS540	JIS G 3106	・ SM400A ・ SM400B ・ SM490A ・ SM490B ・ SM520B ・ SM520C	JIS G 3136	・ SN400A ㊦ SN400B ㊦ SN400C ・ SN490B ・ SN490C	・ 耐候性鋼材	JIS G 3114	・ SMA400AW ・ SMA400AP ・ SMA490AW ・ SMA490AP	㊦ 圧延棒鋼	JIS G 3138	・ SNR400A ㊦ SNR400B ・ SNR490B	JIS B 1220	・ ABR400 ・ ABR490	JIS B 1221	・ ABM400 ・ ABM490	㊦ 軽量形鋼	JIS G 3350	㊦ SSC400	・ 溶接軽量H形鋼	JIS G 3353	・ SWH400 ・ SWH400L	㊦ 炭素鋼管	JIS G 3444	㊦ STK400 ・ STK490	JIS G 3475	・ STKN400W ・ STKN400B ・ STKN490B	・ 角形鋼管	JIS G 3466	・ STKR400 ・ STKR490	認定品	・ BCR295	評価基準	・ BCP235 ・ BCP325	・ SHC400B ・ SHC400C ・ SHC490B ・ SHC490C	・		
	種 別	規格番号	種類の記号																																								
	㊦ 圧延鋼材	JIS G 3101	㊦ SS400 ・ SS490 ・ SS540																																								
		JIS G 3106	・ SM400A ・ SM400B ・ SM490A ・ SM490B ・ SM520B ・ SM520C																																								
		JIS G 3136	・ SN400A ㊦ SN400B ㊦ SN400C ・ SN490B ・ SN490C																																								
	・ 耐候性鋼材	JIS G 3114	・ SMA400AW ・ SMA400AP ・ SMA490AW ・ SMA490AP																																								
	㊦ 圧延棒鋼	JIS G 3138	・ SNR400A ㊦ SNR400B ・ SNR490B																																								
		JIS B 1220	・ ABR400 ・ ABR490																																								
		JIS B 1221	・ ABM400 ・ ABM490																																								
	㊦ 軽量形鋼	JIS G 3350	㊦ SSC400																																								
・ 溶接軽量H形鋼	JIS G 3353	・ SWH400 ・ SWH400L																																									
㊦ 炭素鋼管	JIS G 3444	㊦ STK400 ・ STK490																																									
	JIS G 3475	・ STKN400W ・ STKN400B ・ STKN490B																																									
・ 角形鋼管	JIS G 3466	・ STKR400 ・ STKR490																																									
	認定品	・ BCR295																																									
	評価基準	・ BCP235 ・ BCP325																																									
		・ SHC400B ・ SHC400C ・ SHC490B ・ SHC490C																																									
・																																											
	鋼材の規格 ㊦ 鋼材は規格品とし、規格証明書を監督員に提出し承諾を受ける。上記規格品以外の鋼材は使用箇所、品質、性能、製造会社等について監督員の承諾を受けた場合に限り使用できる。 鋼材の材料 ㊦ 鋼材は、高炉鋼材を使用する。電炉鋼材は使用箇所、品質、性能、製造会社等について監督員の承諾を受けた場合に限り使用できる。																																										
③ 高力ボルト (7.2.2) (7.4)	ボルトの種類 ・ JIS形高力ボルト(JIS B 1186) (セットの種類 ・ 2種(F10T) ・) ㊦ トルシア形高力ボルト(認定品) (セットの種類 ㊦ 2種(S10T) ・) ㊦ 溶融亜鉛めっき高力ボルト(認定品) (セットの種類 ㊦ 1種(F8T相当) ・)																																										

項 目	特 記 事 項
③ 普通ボルト (7.2.3) (7.5)	⊗「標準仕様書」7.2.3, 7.5による。 ・
④ アンカーボルト (7.2.4) (7.10.3)	アンカーボルトの材質 (構造用) ⊗ JIS G 3138のSNR400B ・ JIS G 3138のSNR490B ⊗ JIS G 3101のSS400 ・ (建方用) ・ JIS G 3138のSNR400B ・ JIS G 3138のSNR490B ・ JIS G 3101のSS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの種類、ねじの等級の規格及び仕上げる程度 (構造用) ⊗ JIS B 1220のABR ・ JIS B 1221のABM ⊗ 「標準仕様書」表7.2.3 ・ (建方用) ・ 「標準仕様書」表7.2.3 ・
⑤ ターンバックル (7.2.6)	ターンバックル(JIS A 5540)の種類 ターンバックル胴 ⊗ 割枠式 ・ パイプ式 ターンバックルボルト ⊗ 羽子板ボルト ・ 両ネジボルト ・ アイボルト
⑥ デッキプレート (7.2.7)	デッキプレートの材質・形状及び寸法 ・ 図示 ・
⑦ 柱底均しモルタル (7.2.9)	モルタルの種類 ⊗ 無収縮モルタル(「標準仕様書」表7.2.6) ・
4節 高力ボルト接合	
⑧ 摩擦面の性能及び処理 (7.4.2)	⊗「標準仕様書」7.4.2による。 すべり係数試験 ⊗ 行わない ・ 行う(判定基準：$\mu=0.45$以上) 試験の方法，試験片の状態は日本建築学会「高力ボルト接合部設計施工ガイドブック」による。 すべり係数試験 ・ 行わない ⊗ 行う 未開封のまま現場に搬入され、適切に受け入れ・保管された高力ボルトについては省略とする。

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンサンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録(い-30)第9152号 宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 構造特記仕様書(4)	縮尺 S=-/-(A1) S=-/-(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-06
----	--	-------------------------------------	---------------------------	------------------------------	-------------------	------------------------

項 目	特 記 事 項																																							
	6節 溶接接合																																							
⑨ 施工管理技術者 (7.6.2)	溶接管理技術者 Ⓣ 溶接管理技術者は、「標準仕様書」7.6.2による。																																							
⑩ 技能資格者 (7.6.3)	溶接技能者 Ⓣ 溶接工及びスタッド溶接技能者は「標準仕様書」7.6.3による。 溶接技能者の技量付加試験 Ⓣ 行わない ・ 行う 試験の目的 ・ 現場溶接部の技量確認試験 ・ 試験の方法 ・ JIS Z 3801 による。 緩和処置 ・ 1年以内に、同様の溶接方法・作業姿勢で実施した上記試験に合格しているものは、試験を免除することができる。また、AW認定資格を有するものについては特殊な仕口を除き免除する。(有効期限3年)																																							
⑪ 溶接施工 (7.6.7)	エンドタブ(7.6.7) Ⓣ エンドタブは鋼製エンドタブとし、取扱いは「標準仕様書」7.6.7による。 Ⓣ 鋼製エンドタブ以外のエンドタブを使用する場合は監督員の承諾を得る。																																							
⑫ 関連工事による溶接 (7.6.9)	Ⓣ 金属工事及び建具工事など鉄骨部材に溶接を必要とする場合は、母材に悪影響を与えないように予熱等の処置を行い、「標準仕様書」7.6.3による技量を有する溶接技能者が行う。																																							
⑬ 溶接部の試験 (7.6.12)	溶接部の検査及び試験 <table><tr><th>検査項目</th><th>立会い検査</th><th>検査機関による検査</th></tr><tr><td>Ⓣ 現寸検査</td><td>・ 行う Ⓣ 行わない</td><td></td></tr><tr><td>Ⓣ 組立検査</td><td>Ⓣ 行う ・ 行わない</td><td>Ⓣ 行う ・ 行わない</td></tr><tr><td>Ⓣ 溶接後検査</td><td>Ⓣ 行う ・ 行わない</td><td>Ⓣ 行う ・ 行わない</td></tr></table> 検査機関の組立検査は各節1回とする。 検査機関による溶接後検査の種別及び試験数 <table><tr><th>検査種別</th><th>対象検査箇所</th><th>検査機関による試験数</th><th>備 考</th></tr><tr><td>Ⓣ 外観検査</td><td>溶接部全て(すみ肉溶接を含む)</td><td>30%</td><td>社内検査100%</td></tr><tr><td rowspan="2">Ⓣ 超音波探傷試験</td><td>Ⓣ 工場突合せ溶接部</td><td>7.6.12(4)によるAQOL 4.0%第 6 水準試験数 %</td><td>社内検査100%</td></tr><tr><td>・ 現場突合せ溶接部</td><td>7.6.12(4)によるAQOL 4.0%試験数 100%</td><td></td></tr><tr><td>・ 放射線試験</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ 浸透探傷試験</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ スタッド溶接試験</td><td>・ スタッド溶接部</td><td></td><td>7.7.6による</td></tr></table>	検査項目	立会い検査	検査機関による検査	Ⓣ 現寸検査	・ 行う Ⓣ 行わない		Ⓣ 組立検査	Ⓣ 行う ・ 行わない	Ⓣ 行う ・ 行わない	Ⓣ 溶接後検査	Ⓣ 行う ・ 行わない	Ⓣ 行う ・ 行わない	検査種別	対象検査箇所	検査機関による試験数	備 考	Ⓣ 外観検査	溶接部全て(すみ肉溶接を含む)	30%	社内検査100%	Ⓣ 超音波探傷試験	Ⓣ 工場突合せ溶接部	7.6.12(4)によるAQOL 4.0%第 6 水準試験数 %	社内検査100%	・ 現場突合せ溶接部	7.6.12(4)によるAQOL 4.0%試験数 100%		・ 放射線試験				・ 浸透探傷試験				・ スタッド溶接試験	・ スタッド溶接部		7.7.6による
検査項目	立会い検査	検査機関による検査																																						
Ⓣ 現寸検査	・ 行う Ⓣ 行わない																																							
Ⓣ 組立検査	Ⓣ 行う ・ 行わない	Ⓣ 行う ・ 行わない																																						
Ⓣ 溶接後検査	Ⓣ 行う ・ 行わない	Ⓣ 行う ・ 行わない																																						
検査種別	対象検査箇所	検査機関による試験数	備 考																																					
Ⓣ 外観検査	溶接部全て(すみ肉溶接を含む)	30%	社内検査100%																																					
Ⓣ 超音波探傷試験	Ⓣ 工場突合せ溶接部	7.6.12(4)によるAQOL 4.0%第 6 水準試験数 %	社内検査100%																																					
	・ 現場突合せ溶接部	7.6.12(4)によるAQOL 4.0%試験数 100%																																						
・ 放射線試験																																								
・ 浸透探傷試験																																								
・ スタッド溶接試験	・ スタッド溶接部		7.7.6による																																					

項 目	特 記 事 項														
	検査規準 外観・精度検査規準 Ⓣ JASS 6 「鉄骨精度検査規準」による。 ・ 超音波探傷検査による溶接部の合否判定規準 Ⓣ 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」の疲労を考慮しない溶接部 (1) 溶接部に引張応力が作用する場合による。 放射線試験の規準 ・ JIS Z 3104 の3級以上を合格とする。 検査機関 「標準仕様書」7.6.11によると共に、請負者は検査機関に直接発注方式とする。 外観検査は、WES-8103溶接技術者資格認定試験2級以上の者とする。 検査会社は（社）日本溶接協会 溶接検査認定委員会の認定事業者とする。 検査会社 7節 スタッド溶接及びデッキプレート溶接 ⑭ スタッド溶接 スタッド溶接材料 <table><tr><th>種類</th><th>材 質</th><th>径</th><th>備 考</th></tr><tr><td>Ⓣ頭付きスタッド</td><td>JIS B 1198</td><td>Ⓣ図示・φ</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">・異形筋スタッド</td><td rowspan="2">機械的性質は、JIS G 3112のSD345と同等品</td><td>D16以下</td><td>株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上</td></tr><tr><td>D19以上</td><td>株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上</td></tr></table> デッキプレート貫通溶接可能箇所 ＊ 小梁 ・ 小梁及び大梁 ⑮ デッキプレート溶接 (7.7.8) 溶接の仕様は設計図による。 アーク溶接、アークスポット溶接、スタッド溶接は日本建築学会「建築工事標準仕様書 JASS 6 鉄骨工事」、「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」に準じて行う。溶接工は薄板溶接に十分な技量を有する者とし、JIS Z 3801（溶接技術検定における試験方法及びその判定基準）の有資格者とする。 8節 錆止め塗装 ⑯ 錆止め塗装の範囲 (7.8.2) Ⓣ「標準仕様書」7.8.2による。 ・ ⑰ 錆止め塗装の種別 (7.8.4) Ⓣ 鉄骨造部分 ⓉJIS K 5674の製作工場2回塗りとし、塗り種別は表18.3.1より見え掛かり部分をA種、見え隠れ部分はB種とする。 ・ 鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブ内面 ・ JIS K 5674 2回塗りとし、塗り種別は表18.3.1よりA種とする。	種類	材 質	径	備 考	Ⓣ頭付きスタッド	JIS B 1198	Ⓣ図示・φ		・異形筋スタッド	機械的性質は、JIS G 3112のSD345と同等品	D16以下	株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上	D19以上	株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上
種類	材 質	径	備 考												
Ⓣ頭付きスタッド	JIS B 1198	Ⓣ図示・φ													
・異形筋スタッド	機械的性質は、JIS G 3112のSD345と同等品	D16以下	株式会社神戸製鋼所 KSW400 同等以上												
		D19以上	株式会社神戸製鋼所 KSW490 同等以上												

項 目	特 記 事 項																											
⑱ 耐火被覆 (7.9)	9節 耐火被覆 耐火被覆 Ⓣ 要(仕様は意匠図による) ・ 不要 防火被覆 * 要(仕様は意匠図による) ・ 不要 10節 工事現場施工 アンカーボルトの保持及び埋込み工法の種別 <table><tr><th>種 別</th><th>適 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>Ⓣ A種</td><td>柱脚全般</td><td></td></tr><tr><td>* B種</td><td></td><td></td></tr><tr><td>・ C種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 柱底均しモルタルの工法(モルタル厚さは図示による) <table><tr><th>種 別</th><th>適 用 箇 所</th><th>備 考</th></tr><tr><td>Ⓣ A種</td><td>柱脚全般</td><td></td></tr><tr><td>・ B種</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>	種 別	適 用 箇 所	備 考	Ⓣ A種	柱脚全般		* B種			・ C種						種 別	適 用 箇 所	備 考	Ⓣ A種	柱脚全般		・ B種					
種 別	適 用 箇 所	備 考																										
Ⓣ A種	柱脚全般																											
* B種																												
・ C種																												
種 別	適 用 箇 所	備 考																										
Ⓣ A種	柱脚全般																											
・ B種																												
⑲ アンカーボルト等の設置 (7.10.3)																												
⑳ 建方 (7.10.5)	建方工法及び仮設材 Ⓣ 建方は請負者の責任で安全に行う。 ・ 施工時解析を行う。 検査(「標準仕様書」7.10.5による) Ⓣ 建入れ検査(建方精度は、日本建築学会「鉄骨精度検査規準」による) ・ たわみ測定(適用箇所：) Ⓣ 請負者は、建方が完了した時点で、形状及び寸法精度について確認し、施工管理記録を監督員に提出する。 12節 溶融亜鉛めっき工法 適用箇所 ・ 図示 Ⓣ 意匠図による めっき面の素地ごしらえ Ⓣ 「標準仕様書」18.2.4のA種とする。 ・ めっきの種類及び付着量 Ⓣ 溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のA種(HDZ55) Ⓣ 普通ボルト・ナット類及びアンカーボルト類については溶融亜鉛めっき(JIS H 8641)のC種(HDZ35) 高力ボルト Ⓣ 高力ボルトは溶融亜鉛めっき高力ボルト1種A(F8T相当)とする。 Ⓣ 摩擦面の処理は「標準仕様書」7.12.5による。																											
㉑ 亜鉛めっき (7.12.3)																												
㉒ 梁貫通孔補強	補強方法 * 図示(既製品による) 補強箇所 * 該当設備図及び電気図による。 ・ 梁貫通位置図による。																											

8. 令129条の2の3の事項	
項 目	特 記 事 項
	Ⓣ建築物に設ける建築設備にあつては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。 Ⓣ 建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものとする。 Ⓣ 屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔、その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する。 ・ 煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリートブロック造の場合は鋼製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とする。 ・ 煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造もしくはコンクリートブロック造とする。 Ⓣ 建築物に設ける給水、排水その他の配管設備 Ⓣ 風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。 Ⓣ 建築物の部分を貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずる。 Ⓣ 管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合、伸縮継手又は可撓継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずる。 Ⓣ 管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の振動及び衝撃の緩和のための措置を講ずる。 Ⓣ 法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の振動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。 Ⓣ 給湯設備は、風圧、土圧、水圧及び地震その他の振動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とする。 満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示1388号第5に規定する構造方法による。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 構造特記仕様書 (5)	縮尺 S=--/(A1) S=--/(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-07
--	----	--	-------------------------------------	----------------------------	------------------------------	------------	------------------------

- § 1 一般事項
- 修正**1. 本配筋標準図(2021年版)は、(一社)日本建設業連合会と(一社)日本建築構造技術者協会が協働で作成した鉄筋コンクリート造の配筋標準図である。
ただし、一部、追記あるいは修正を行っているため、該当箇所にはそれぞれ**追記**、**修正**と表記する。
2. 本配筋標準図は、
- ・「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成31年版)」(国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修)
 - ・「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説(2018版)」(日本建築学会)
 - ・「建築工事標準仕様書・同解説JASS5鉄筋コンクリート工事(2018年版)」(日本建築学会)
 - ・「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説(2021年版)」(日本建築学会)
- を参考に作成している。
3. 本配筋標準図は表1-1に示すコンクリートおよび鉄筋を使用する鉄筋工事に適用する。
高強度せん断補強筋を使用する場合は、構造図(伏図、軸組図、部材リスト、詳細図等の図面を示す)による。
4. 構造図に記載された事項は、本配筋標準図に優先して適用するものとする。
5. 本配筋標準図において、「監理者に確認」、「監理者に承認」と記載された内容は、監理者が設計者と協議し、設計者が承認した結果を示す。
6. 図表中の寸法の値は最小値を示し、当該寸法以上を確保することを原則とする。
(～程度、～以下、@、Pと表記しているものを除く)
7. 本配筋標準図に☒印を記した項目は、適用しない。
8. 杭に関する事項は、構造図による。
- 追記**9. 鉄筋の記号は表1-2による。

表1-1 適用範囲

1. コンクリート	普通 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 60N/mm^2 以下 軽量 $F_c=18\text{N/mm}^2$ 以上 36N/mm^2 以下 SD390の鉄筋を使用する場合は $F_c=21\text{N/mm}^2$ SD490の鉄筋を使用する場合は $F_c=24\text{N/mm}^2$ SD490の鉄筋を使用する部位に軽量コンクリートを用いない。		
2. 鉄筋	規格番号	規格名称	種類の記号
	JIS G 3112	鉄筋コンクリート用棒鋼	SD295
			SD345, SD390
			SD490
異形鉄筋はD41以下とする。			
3. 溶接金網 および鉄筋格子	溶接金網および鉄筋格子は、JIS G 3551 (溶接金網および鉄筋格子)に適合するものを使用する。		

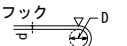
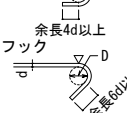
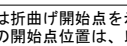
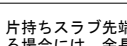
表1-2 鉄筋の記号および最外径

呼び径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
記号	●	×	✕	○	◊	⊠	◎	⊗	⊙	⊕	⊖
最外径	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

§ 2 鉄筋加工共通事項

- 2-1 折曲げ形状、寸法
- 鉄筋の折曲げ加工は常温加工とする。
 - 折曲げ内法直径を表2-1の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の折曲げ試験を実施するかメーカー発行の性能試験証明書を確認した上で、監理者の承認を得ること。
 - SD490の鉄筋を90°を超える曲げ角度で折曲げ加工する場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い支障ないことを確認した上で、監理者の承認を得ること。

表2-1 折曲げ形状、寸法

折曲げ形状	折曲げ形状	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径(D)
180° フック 	180° 135° 90° 	SD295 SD345	D16以下	3d以上
			D19～D41	4d以上
135° フック 	90° 	SD390	D41以下	5d以上
			D25以下	5d以上
90° フック 	90° 	SD490	D25以下	5d以上
			D29～D41	6d以上

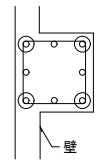
▽は折曲げ開始点を示す。
この開始点位置は、以下の図面において共通とする。

- (注)1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フックまたは135°フックを用いる場合には、余長は4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げ内法直径は構造図による。構造図に記載のない場合は、表2-1の90°フックと同じとする。

2-2 鉄筋のフック

1. 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。(図中◎印)
(1) 柱の四隅または梁の出隅および下端筋の両側にある主筋を重ね継手とする場合(フックの形状は180°フックとする)

(a) 柱



(b) 梁(基礎梁を除く)

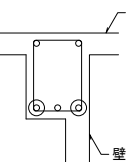


図2-2-1 フックが必要な重ね継手

- (2) 柱の四隅にある主筋で最上階(中間階で上に柱のない場合を含む)の柱頭部(フックの形状は180°フックとする)

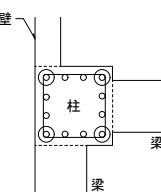


図2-2-2 最上階(上に柱がない場合を含む)の柱頭でフックが必要な主筋

- (3) あばら筋、帯筋(フック形状は2-3による)および幅止め筋(フック形状は図2-2-3による)

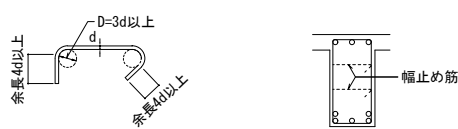
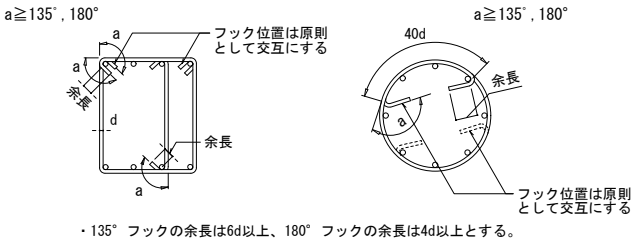


図2-2-3 幅止め筋の形状

- (4) 煙突の鉄筋(フックの形状は180°フックとする)
(5) 杭基礎のベース筋
単杭の場合は、監理者と協議すること。

2-3 あばら筋および帯筋形状・寸法

1. あばら筋および帯筋のスパイラル筋形状、寸法は、図3-3-4による。



- ・135°フックの余長は6d以上、180°フックの余長は4d以上とする。

図2-3-1 あばら筋、帯筋の形状(末端部がフックの場合)

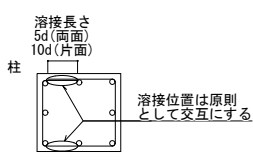
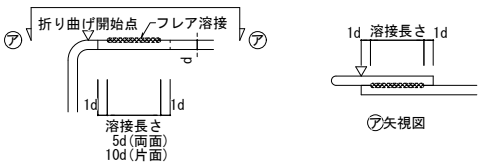


図2-3-2 あばら筋、帯筋の形状(末端部が溶接の場合)



- ・フレア溶接を採用する場合は監理者と協議すること。
- ・ビード形状は表3-1-3による。
- ・フレア溶接は、折曲げ開始点、鉄筋材端から1d以上離すこと。

図2-3-3 あばら筋、帯筋の溶接要領

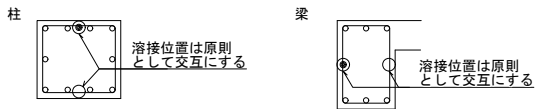
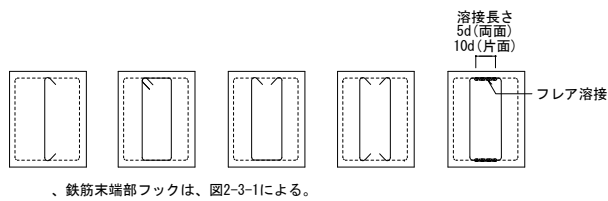


図2-3-4 あばら筋、帯筋の形状(溶接閉鎖形の場合)



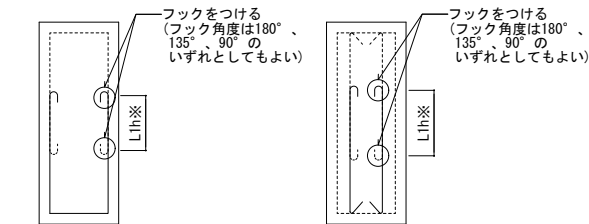
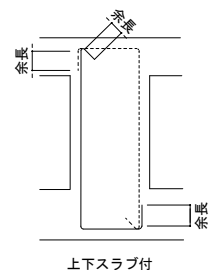
- ・スラブと同時に打ち込むT形、L形梁のキャップタイ末端部は本図によってもよい。
- ・スラブが取り付く側のキャップタイ末端部は、90°フックとしてよい。
- ・スラブ付梁のキャップタイに90°フックを使用する場合、フックの余長は8d以上とする。

図2-3-5 スラブ付梁のあばら筋(末端部がフックの場合)



- ・鉄筋末端部フックは、図2-3-1による。

図2-3-6 副あばら筋、副帯筋の形状



- ※L1h(フック付重ね継手)は、表3-1-2による。

- ・原則、梁の上下にスラブが取り付く場合、かつ、梁せい1.5m以上の場合、使用可能とする。
原則を守れない場合は、監理者と協議すること。

図2-3-7 梁せいの大きな基礎梁など、あばら筋を分割する場合のあばら筋、副あばら筋の形状

2-4 主筋のあき、2段筋の間隔

- 主筋相互のあきaは粗骨材最大寸法の1.25倍以上、隣り合う鉄筋呼び径の平均値の1.5倍以上とする。
- 粗骨材の最大寸法を25mmとして算出した数値を表2-4に示す。
- 粗骨材の最大寸法が25mm以外の場合のあき寸法、2段筋の間隔の最小値は、監理者に確認すること。
- 2段筋の間隔P2は構造図による。構造図に記載がない場合は表2-4による。
- 2段筋の間隔P2の最大値については、監理者に確認すること。

表2-4 主筋のあきaの最小値および2段筋の間隔P2 (単位mm)

呼び名(d)	最外径	主筋のあきaの最小値	2段筋の間隔P2の最小値
D10	11	32	43
D13	15	32	47
D16	19	32	51
D19	22	32	54
D22	26	33	59
D25	29	38	67
D29	33	44	77
D32	37	48	85
D35	40	53	93
D38	43	57	100
D41	46	62	109

- (注)1. 鉄筋の最外径は銘柄ごとに異なるため、使用する鉄筋に合わせて適宜判断すること。

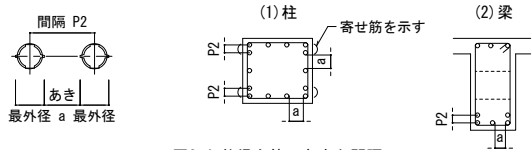


図2-4 柱梁主筋のあきと間隔

2-5 2段筋位置保持金物の形状および配置

- 2段筋がある場合は、原則として2段筋位置保持金物を図2-5-1にならとり付けること。

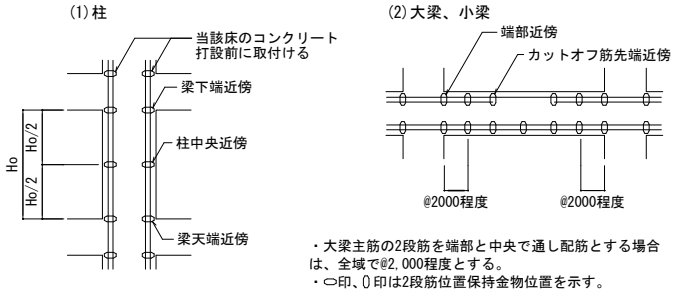


図2-5-1 2段筋位置保持金物の配置例

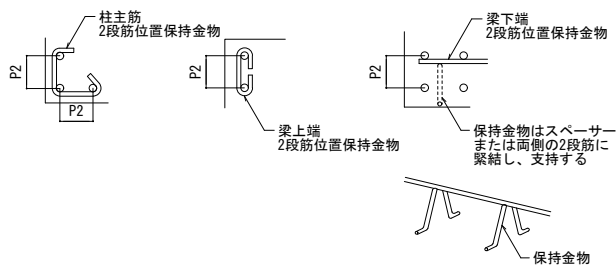


図2-5-2 2段筋位置保持金物の形状例

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図 (1)

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-08

§3 継手および定着

3-1 継手

1. 対象とする継手は重ね継手、ガス圧継手、フレア溶接継手とし、その他(機械式継手、突合せアーク溶接継手など)の仕様は構造図による。
2. 柱梁主筋の異形鉄筋重ね継手長さは構造図による。
3. 耐力壁主筋に直線重ね継手を使用する場合、継手長さは、表3-1-1による。
(表3-1-1の記載例：■採用、□不採用)

表3-1-1 直線重ね継手長さの指示

指示欄	構造計算方法	直線重ね継手長さ
□	構造計算を保有水平耐力計算等で実施したため、建築基準法施行令第73条の適用を除外する。	表3-1-2による。
■	上記以外	表3-1-2かつ40d以上(軽量コンクリートを使用する場合は、50d)とする。

4. D35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手を用いない。
5. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。
6. あき重ね継手は、原則としてスラブ筋、基礎スラブ筋、壁筋に適用する。
その場合、あき重ね継手の継手長さは表3-1-2のL1を確保し、あき寸法は、0.2L1かつ150mm以下とする。(図3-1-3)
7. 梁主筋の重ね継手は水平重ね継手を原則とし、上下重ね継手とする場合は監理者と協議すること。

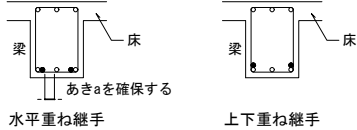


図3-1-1 梁主筋の重ね継手

8. ガス圧接およびフレア溶接の形状は、表3-1-3による。
9. 径の異なる鉄筋のガス圧接は、細い方の鉄筋の径(d)により算出する。径の差は原則として、7mm以下とする。
10. 鉄筋のフレア溶接は、原則として鉄筋の種類はSD345まで、鉄筋の径はD16までとする。
11. フレア溶接は、被覆アーク溶接またはガスシールドアーク溶接により、使用する溶接材料は、表3-1-4による。
12. 隣り合う継手の位置は、図3-1-2による。ただし、スラブ筋(基礎スラブ筋を含む)でD16以下の場合および壁筋の場合は除く。
13. 杭に用いる鉄筋の重ね継手長さは構造図による。

表3-1-2 鉄筋の重ね継手長さ L1, L1h

重ね継手長さ L1：フックなし L1h：フック付	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
直線重ね継手の長さ L1 	SD295	45d	40d	35d	35d	30d	30d
	SD345	50d	45d	40d	35d	35d	30d
	SD390	50d	45d	40d	40d	40d	35d
	SD490	55d		50d	45d	40d	
フック付重ね継手の長さ L1h 180° フックの場合 ※ 	SD295	35d	30d	25d	25d	20d	20d
	SD345	35d	30d	30d	25d	25d	20d
	SD390	35d		35d	30d	30d	25d
	SD490			40d	35d	35d	30d

- (注)1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 継手位置は、各標準図に示す継手の好ましい位置に設けること。

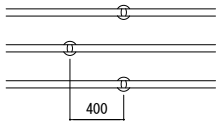
表3-1-3 ガス圧接・フレア溶接の形状

ガス圧接 ()内は、 SD490の場 合に適用 する	ふくらみの直径・長さ		2mm以下 圧接面形状
	片ふくらみ	片ふくらみ	
	1. 1d以上 (1. 2d以上)	1. 4d以上 (1. 5d以上)	
	圧接面のずれ	鉄筋中心の偏心量	
	d/4以下	d/5以下	
フレア 溶接 原則として 鉄筋は、 D16以下と する	片面の場合	両面の場合	溶接のビード幅 鉄筋径d 最小値 10 6 13 7 16 8
	2d程度 10d以上 2d程度	2d程度 5d以上 2d程度	

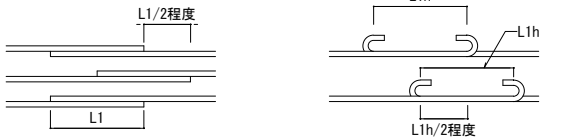
表3-1-4 フレア溶接に用いる鉄筋と溶接材料の組み合わせ

溶接される鉄筋の種類	被覆アーク溶接棒の種類 JIS Z 3211	ソリッドワイヤの種類 JIS Z 3312	
SD295	E4316, E4915, E4916等の低水素系溶接棒	YGW11 YGW13 YGW16 YGW19	YGW12 YGW15 YGW18
SD345	E4915, E4916等の低水素系溶接棒		

圧接の場合



主筋のあきが確保できる場合の重ね継手の場合



主筋のあきの確保が困難な場合の重ね継手の場合

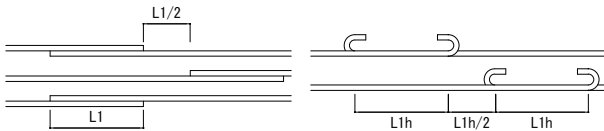
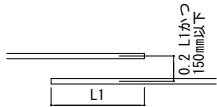


図3-1-2 隣り合う継手位置



あき重ね継手を使用する場合は、監理者に確認の上使用する。

図3-1-3 スラブ筋・基礎スラブ筋・壁筋のあき重ね継手

3-2 定着

1. 異形鉄筋の定着長さは、表3-2-1の鉄筋の定着長さによる。
- ただし、小梁、スラブの下端筋の定着長さは、表3-2-2による。
2. 梁主筋の柱への定着は、原則として折曲げ定着とする。
3. 梁主筋の柱内定着において、定着の投影長さは原則柱せいの3/4倍以上とする。
4. 柱梁仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを、表3-2-3に示す長さLa以上とする。
5. 大梁内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さが、表3-2-1のフック付定着の長さL2hを確保できない小梁及びスラブの場合は、全長を表3-2-1に示す直線定着の長さとし、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影長さを、表3-2-3に示す長さLb(かつ、原則として、定着される梁幅の1/2倍)以上とする。

表3-2-1 鉄筋の定着長さ L2, L2h

定着長さ L2：直線定着 L2h：フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
直線定着長さ L2 	SD295	40d	35d	30d	30d	25d	25d
	SD345	40d	35d	35d	30d	30d	25d
	SD390	40d		40d	35d	35d	30d
	SD490			45d	40d	40d	35d
フック付定着長さ L2h 90° フックの場合※ 折曲げ開始点 L2h 定着起点 	SD295	30d	25d	20d	20d	15d	15d
	SD345	30d	25d	25d	20d	20d	15d
	SD390	30d		30d	25d	25d	20d
	SD490 <90° フックのみ>			35d	30d	30d	25d

(注)1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。

表3-2-2 小梁・スラブの下端筋の定着長さ L3, L3h

下端筋定着長さ L3：直線定着 L3h：フック付定着	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)		18~60	
		小梁		スラブ	
直線定着長さ L3 	SD295	20d <25d>		10dかつ 150mm <25d>	
	SD345				
	SD390				
	SD490				
フック付定着長さ L3h 	SD295	10d		—	
	SD345				
	SD390				
	SD490				

- (注)1. 軽量コンクリートの場合は、上表の数値に5dを加えた値とする。
2. 「—」は適用範囲外を示す。
3. < >は片持ち部材の場合を示す。

表3-2-3 折曲げ定着長さ La, Lb

折曲げ定着長さ	鉄筋の種類	Fc(N/mm ²)					
		18	21	24 ≧ 27	30 ≧ 36	39 ≧ 45	48 ≧ 60
梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ La L2 La(ただし、柱せいの3/4以上)	SD295	20d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	20d	15d	15d	15d
	SD390	20d		20d	15d	15d	15d
	SD490			25d	25d	20d	20d
小梁及びスラブの上端筋の 梁内折曲げ定着の投影長さ Lb L2 Lb(ただし、梁幅の1/2以上)	SD295	15d	15d	15d	15d	15d	15d
	SD345	20d	20d	15d	15d	15d	15d
	SD390	20d		20d	15d	15d	15d
	SD490						

- (注)1. La：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影長さ(基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブの上端筋を含む)
2. Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影長さ(片持ち小梁及び片持ちスラブの上端筋を除く)
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

3-3 その他の継手および定着

1. 溶接金網の重ね継手は、図3-3-1による。構造図に記載のない場合は、応力伝達用とする。
- 溶接金網の合わせ面は、図3-3-2タイプA、タイプBいずれとしてもよい。
2. 溶接金網の定着は、図3-3-3による。
3. 帯筋にスパイラル筋を用いる場合の定着、継手要領は、図3-3-4による。
4. 鉄筋格子については、3-1 継手、3-2 定着による。

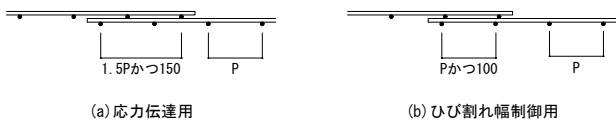


図3-3-1 溶接金網の重ね継手

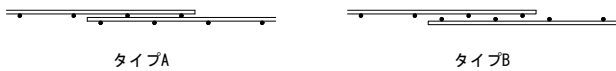


図3-3-2 溶接金網の重ね継手の合わせ面

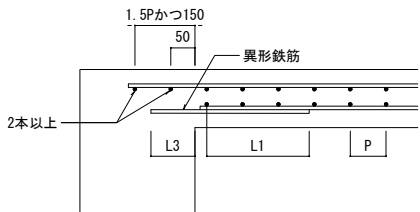
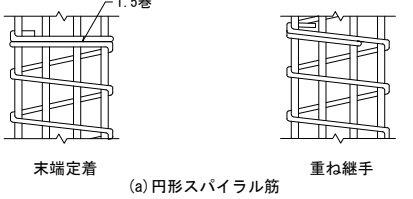
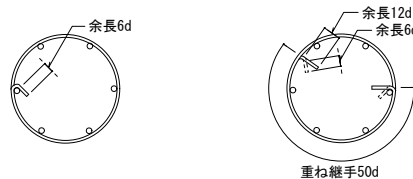


図3-3-3 溶接金網の定着

- 135° 折曲げ
余長6d
- 90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d



- 135° 折曲げ
余長6d
- 90° 折曲げ余長12d
または135° 折曲げ余長6d

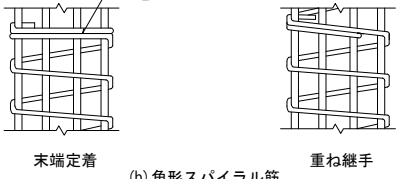
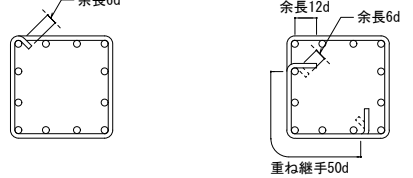


図3-3-4 スパイラル筋の末端定着・重ね継手要領

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図(2)

縮尺

S=1/1(A1)
S=1/1(A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-09

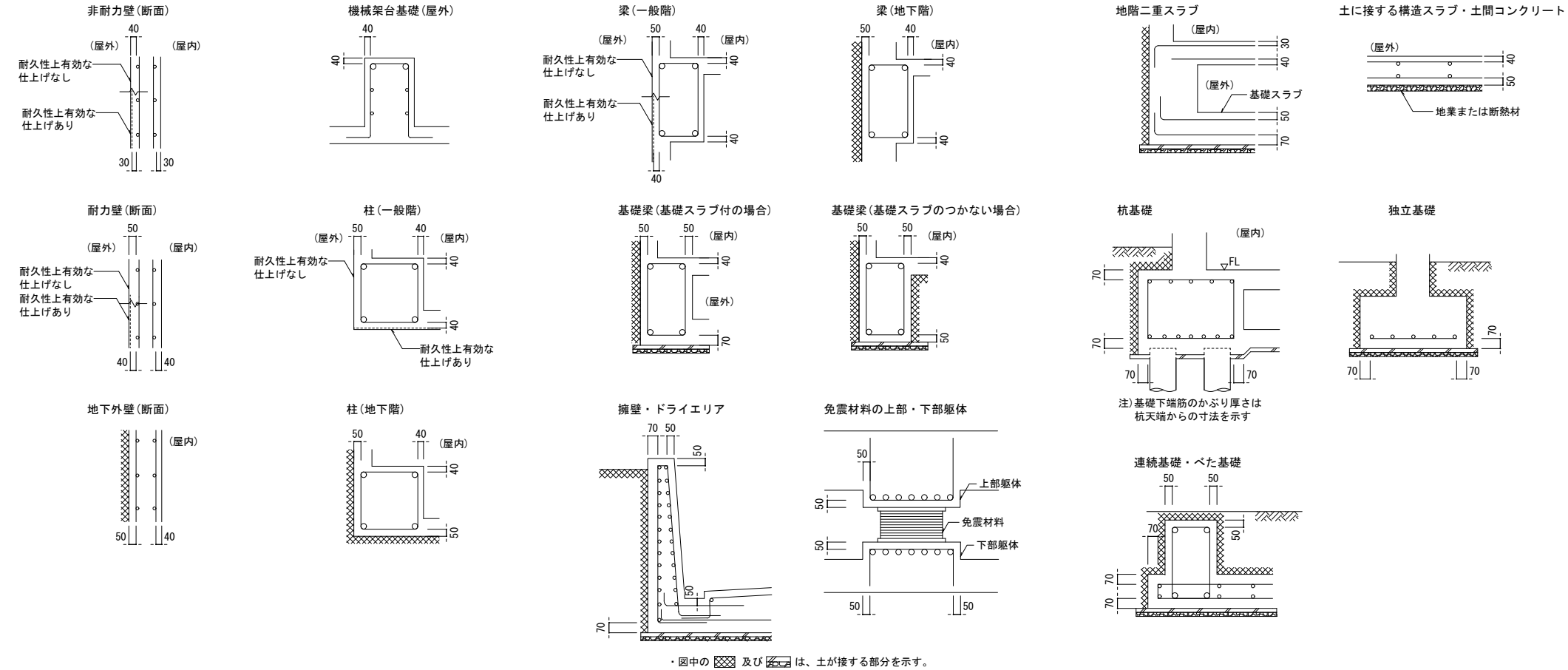
§4 かぶり厚さ

4-1 鉄筋のかぶり厚さ

- 鉄筋のかぶり厚さは表4-1による。
 - 柱、梁かぶり厚さは表4-1を満足し、かつ主筋に対する最小かぶり厚さは、主筋径の1.5倍以上とする。D29以上の鉄筋を使用する場合は、最小かぶり厚さが表4-1より大きくなる部位があるため、注意すること。
 - 配筋は構造寸法(打増しを除いた寸法)から所定の設計かぶり厚さを確保できる位置にて行う。
 - 耐久性上有効な仕上がりがある場合、表4-1の※1の値を10mm減じてよい。
 - 耐久性上有効な仕上がり例
 - ・タイル張り
 - ・モルタル塗り(10mm以上)
 - ・打増し(10mm以上)
 - ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地、化粧目地等がある場合は、目地からのかぶり厚さを確保する。
 - 柱、梁で打継ぎ目地を設ける場合は、構造体寸法に目地深さを打増しとする。この打増しは上記4.により、耐久性上有効な仕上がりと考えることができる。
 - 捨てコンクリートは、かぶり厚さに含まない。
- 【追記】8. 計画供用期間の級が「超長期」の場合は表4-1の※5の値に10mmを加えた値とする。ただし、非耐力壁の内、計画供用期間中に維持保全を行う部材は除く。

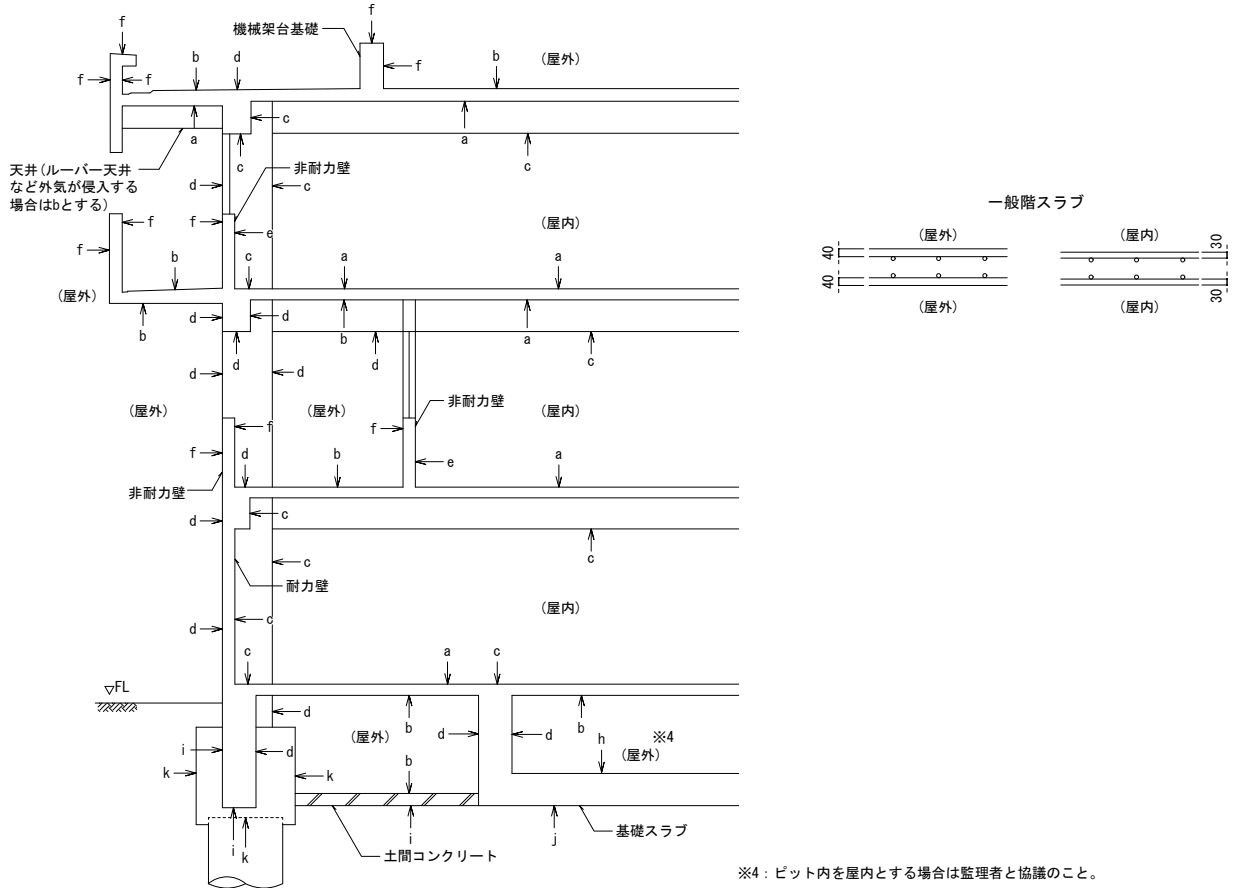
表4-1 鉄筋のかぶり厚さ (単位mm)					
部 位		設計 ※2 かぶり厚さ	最小 ※3 かぶり厚さ	分類記号	
土に接しない部分	スラブ	屋内	30 ※5	20 ※5	a
		屋外	40 ※1※5	30 ※1※5	b
	柱・梁	屋内	40	30	c
		屋外	50 ※1	40 ※1	d
	耐力壁	屋内	30 ※5	20 ※5	e
		屋外	40 ※1※5	30 ※1※5	f
	煙突内面	60	50	g	
土に接する部分	擁壁・基礎スラブ		50	40	h
	柱・梁・壁・スラブ 連続基礎の立上り部分	50		40	i
		70		60	j
	基礎スラブ・擁壁		70	60	k

- ※2 設計かぶり厚さ
施工誤差の割増10mmを標準として見込むことによって、打設後最小かぶり厚さを下回る危険性を少なくするように、設計時点で配慮したかぶり厚さを示す。
- ※3 最小かぶり厚さ
建築基準法施行令に規定されたかぶり厚さを基に、屋外側については耐久性の観点から10mm増したかぶり厚さを示す。



・図中の [ハッチ] 及び [ハッチ] は、土が接する部分を示す。

図4-1 部位別設計かぶり厚さ

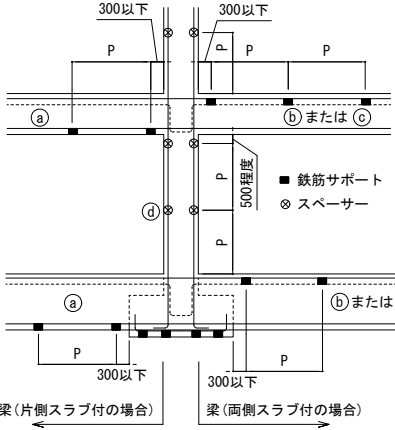


※4：ピット内を屋内とする場合は監理者と協議のこと。

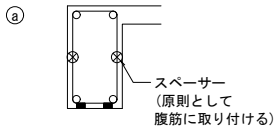
4-2 鉄筋サポート・スぺーサー・結束線

- 鉄筋サポート、スぺーサーのサイズは設計かぶり厚さを満足するものを使用する。
- 鉄筋サポート、スぺーサーの種類は設計基準強度以上のコンクリート製、モルタル製または鋼製を使用する。柱・梁・基礎・基礎梁・壁・地下外壁の側面のスぺーサーはプラスチック製でもよい。
- 鉄筋サポート、スぺーサーの数量、配置は図4-2-1、図4-2-2、図4-2-3、図4-2-4による。
- スぺーサー(ドーナツ形)は縦使いを原則とする。梁の側面の場合、スぺーサーを設置する腹筋と近傍のあばら筋を動かぬよう緊結させる。
- 断熱材打込み時の鉄筋サポートは断熱材用の製品(プレート付き)を使用するか、または鉄筋サポート下に樹脂パットを設置し、断熱材にめりこまないようにする。
- 鋼製鉄筋サポートは在来型枠との接触面に防錆処理を施した製品を使用する。
- 結束線は内側に折り曲げることを原則とする。

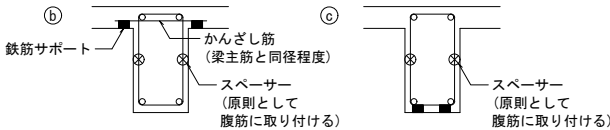
柱・梁
Pは1500程度とする。



(a) 梁(片側スラブ付の場合)



(b) 梁(両側スラブ付の場合) (b)または(c)いずれとしてもよい。



(c) 柱

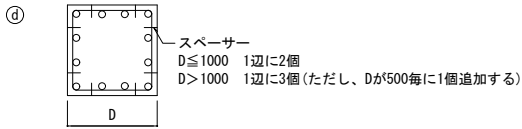


図4-2-1 柱・梁の鉄筋サポート・スぺーサーの取付け要領

壁
Pは縦、横共1500程度とする。
壁前後のスぺーサー位置は、縦方向、横方向のいずれかの間隔を200程度とすればよい。

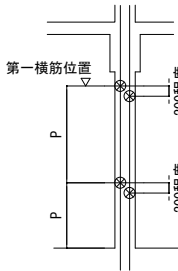


図4-2-2 壁のスぺーサーの取付け要領

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 配筋標準図(3)	縮尺 S=1/1(A1) S=1/1(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-10

基礎

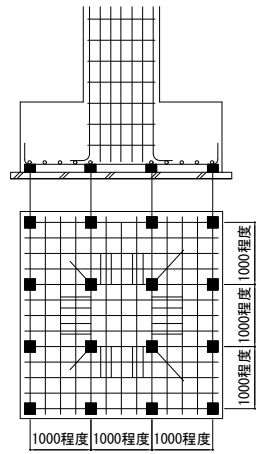


図4-2-3 基礎の鉄筋サポートの取付け要領

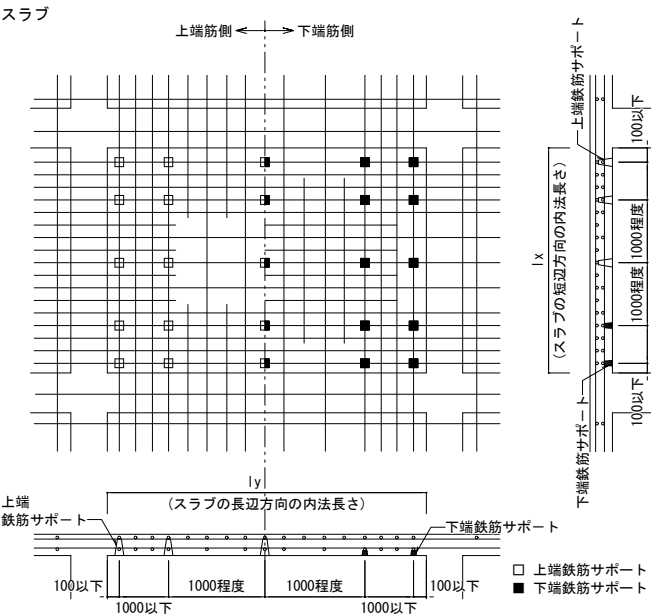


図4-2-4 スラブの鉄筋サポートの取付け要領

§5 基礎
5-1 独立基礎

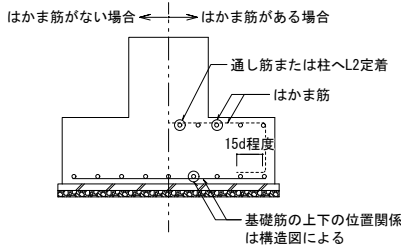


図5-1 独立基礎

5-2 連続基礎

1. 連続基礎の側柱交差部は、外周部の基礎主筋を連続して配置する。
2. 中柱交差部における基礎主筋を連続する方向は構造図による。
3. 隅柱交差部は、両方向の基礎主筋を連続して配置する。

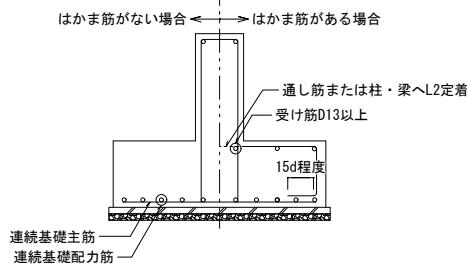


図5-2-1 連続基礎

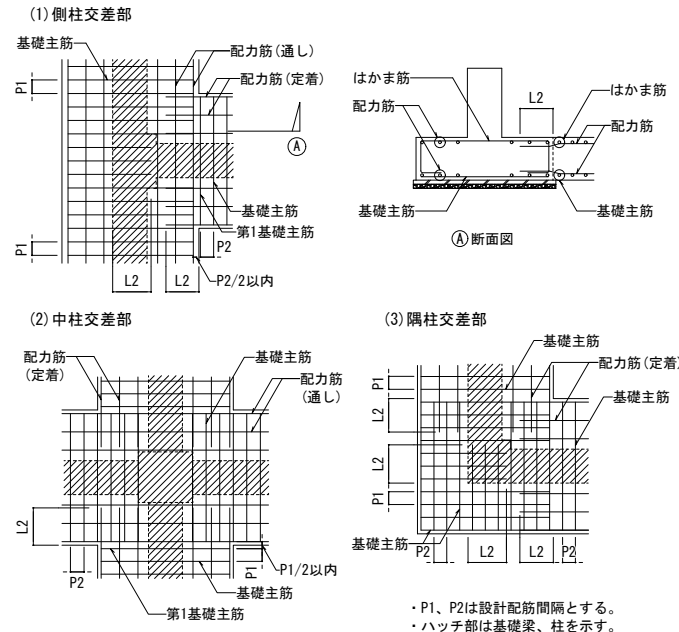
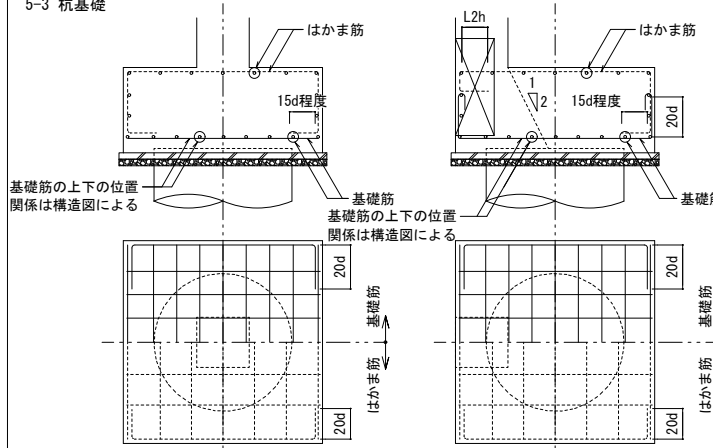


図5-2-2 連続基礎(交差部)

5-3 杭基礎



(1) 偏心のない場合(1/2勾配以内) (2) 偏心のある場合(1/2勾配を超える)

図5-3-1 1本杭の場合

修正

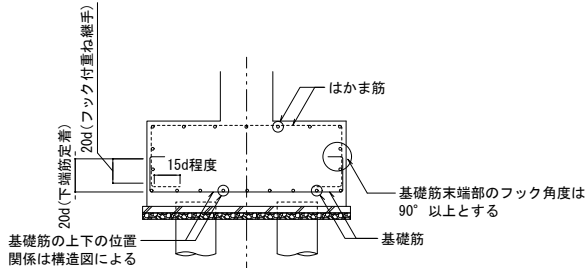
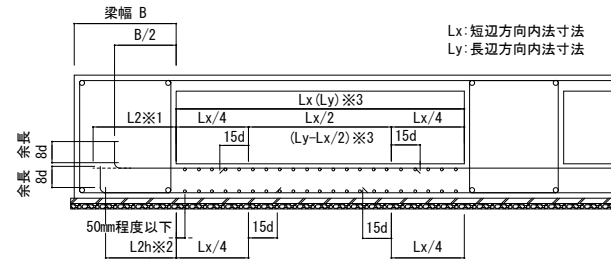


図5-3-2 2本杭以上の場合

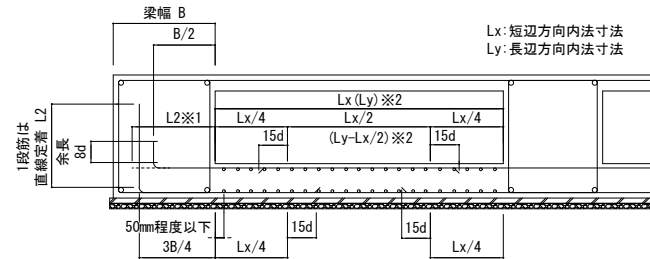
5-4 基礎スラブの定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、浮き上がりが生じる場合はA2とし、配置は構造図による。
2. 基礎スラブの第1鉄筋は基礎梁のコンクリート面より50mm程度の位置とする。



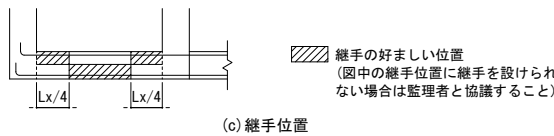
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)



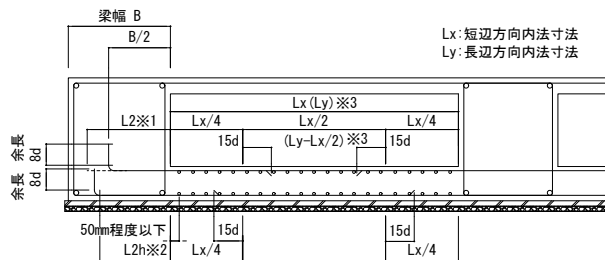
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
※2 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)



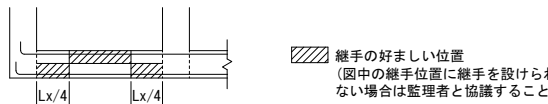
(c) 継手位置

図5-4-1 ベタ基礎の耐圧スラブなどの場合(タイプA1・タイプA2)



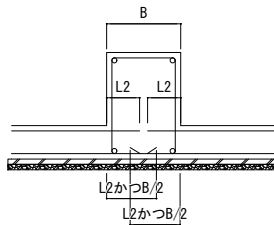
- ※1 基礎スラブ上端筋の定着は、直線定着(L2)、フック付定着(L2h)のいずれとしてもよい。
ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
※2 下端筋の定着は、フック付定着(L2h)とする。ただし、投影定着長さ(水平のみみ長さ)をB/2以上確保する。
※3 ()内の寸法は長辺方向の場合を示す。

(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図5-4-2 その他の基礎スラブの場合(タイプB1)



- ・基礎スラブの配筋が左右で同じ場合、通し配筋としてよい。

図5-4-3 基礎スラブが梁下で連続する場合の定着

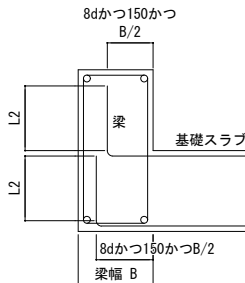


図5-4-4 幅の小さい梁への定着要領
(L2hが確保できない場合)

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享(一級建築士 第246066号) 良知 康晴(一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図(4)

縮尺

S=1/1(A1)
S=1/1(A3)

設計

令和8年

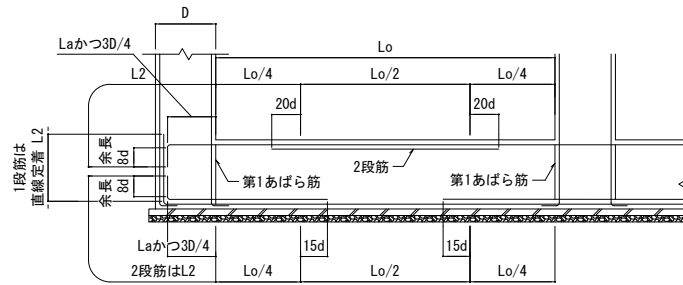
図面番号

S-01-11

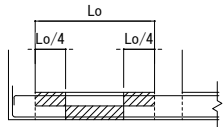
S 6 基礎梁

6-1 基礎大梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎に浮き上がりが生じない場合はA1、B1、C1、浮き上がりが生じる場合はB2、C2とし、配置は構造図による。
2. 柱を介して連続する基礎梁の主筋本数が異なる場合は、通し筋以外の基礎梁主筋を柱内に定着する。または柱コンクリート面より定着長さをとって反対側の梁内に定着する。
3. カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-1-1、図6-1-2、図6-1-3による。

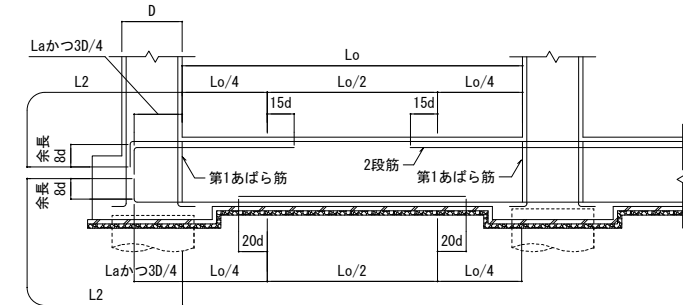


(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプA1)

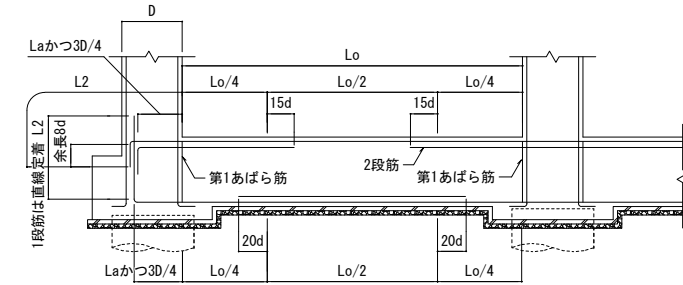


(b) 継手位置

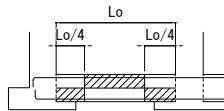
図6-1-1 ベた基礎・連続基礎の場合(タイプA1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプB1)

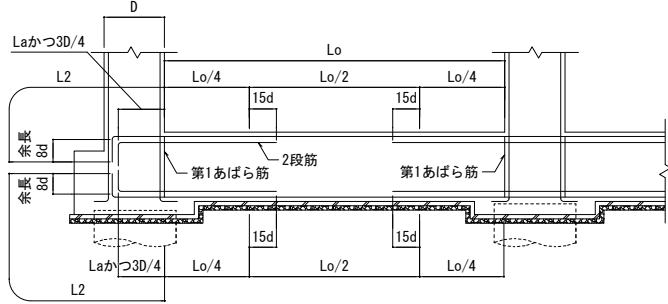


(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプB2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

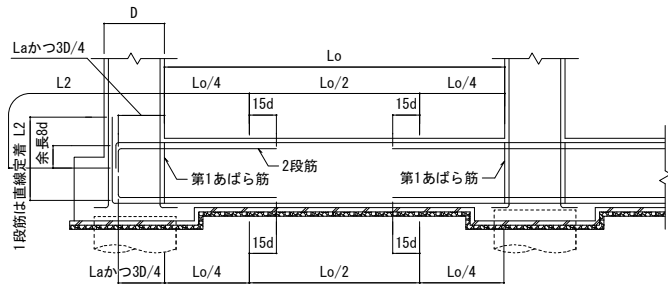


(c) 継手位置

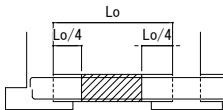
図6-1-2 杭基礎・独立基礎の場合(タイプB1・タイプB2)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC1)



(b) 定着およびカットオフ筋長さ(タイプC2)
(地震時などに基礎に浮き上がりが生じる場合)

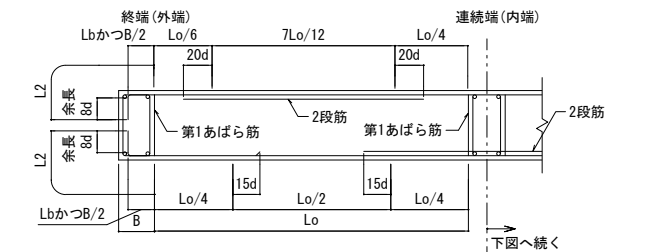


(c) 継手位置

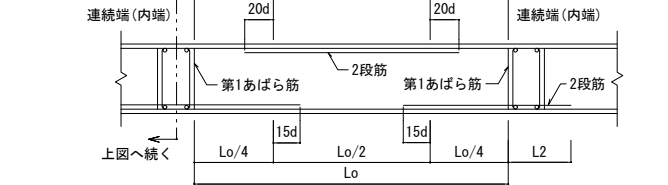
図6-1-3 杭基礎・独立基礎の場合(タイプC1・タイプC2)

6-2 基礎小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

1. 採用するタイプは、基礎小梁が連続する場合はA1、B1、連続しない場合はA2、B2とし、配置は構造図による。

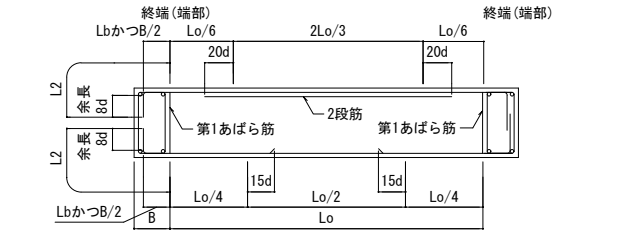


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

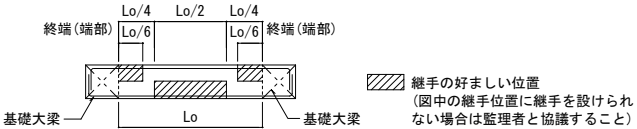


(b) 継手位置

図6-2-1 基礎小梁が連続梁の場合(タイプA1)

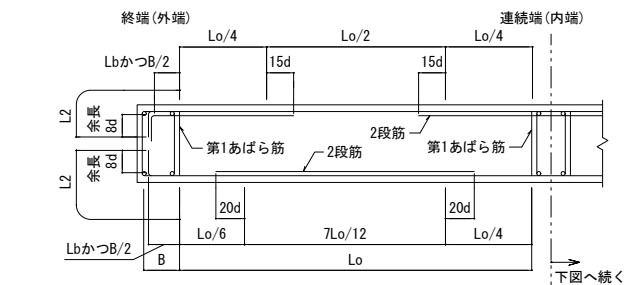


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

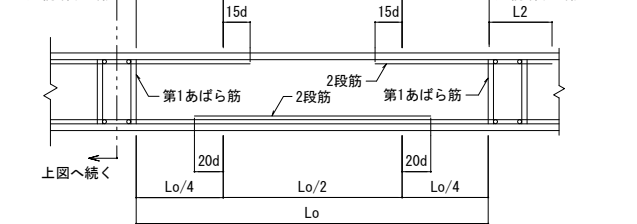


(b) 継手位置

図6-2-2 基礎小梁が単独梁の場合(タイプA2)

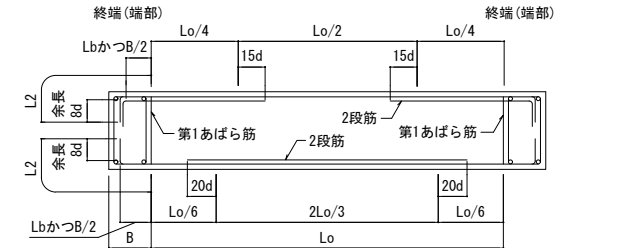


(a) 定着およびカットオフ筋長さ

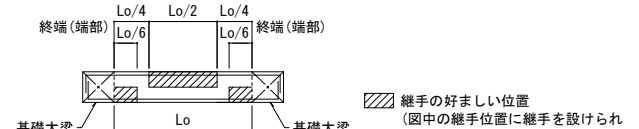


(b) 継手位置

図6-2-3 基礎小梁が連続梁の場合(タイプB1)



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図6-2-4 基礎小梁が単独梁の場合(タイプB2)

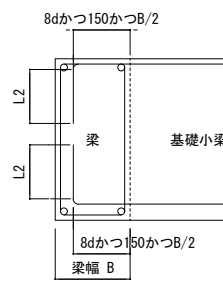


図6-2-5 幅の小さい梁への定着要領
(Lbが確保できない場合)

6-3 基礎梁と基礎の取合い部補強要領

1. 基礎梁と基礎の取合い部補強要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-3による。
2. 取合い部補強の幅は、基礎梁と同じとする。

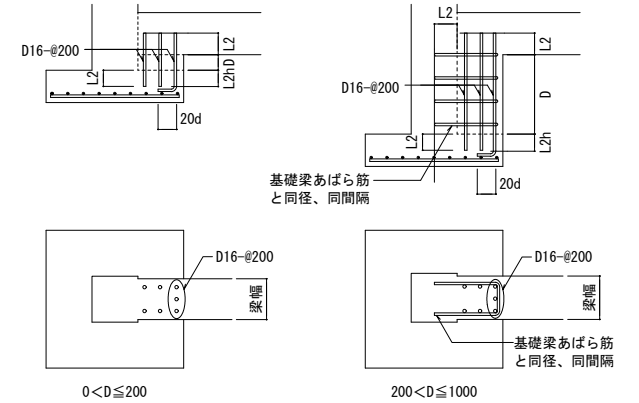


図6-3 取合い部補強要領

6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

- 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図6-4による。

- (1) 基礎大梁幅が柱幅より大きい柱脚の場合 (2) 基礎大梁幅が柱幅より小さい柱脚の場合

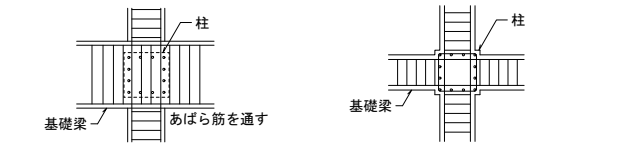


図6-4 基礎大梁と最下階柱の取合い部配筋要領

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図 (5)

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-12

S 7 柱

7-1 柱の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

- 継手はガス圧接、重ね継手とし、それ以外の継手の仕様は構造図による。
- Hoは柱の最大内法高さとする。
- 柱主筋の定着は以下による。
 - 柱頭主筋の定着：柱に取り付け最も高い梁下端からL2以上かつ最も高い梁天端から15d以上とする。
 - 柱脚主筋の定着：柱に取り付け最も低い梁天端からL2以上かつ最も低い梁下端から15d以上とする。
- カットオフ筋長さは以下による。
 - 柱頭カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も低い梁下端からHo/2+15d以上とする。
 - 柱脚カットオフ筋長さ：柱に取り付け最も高い梁天端からHo/2+15d以上とする。

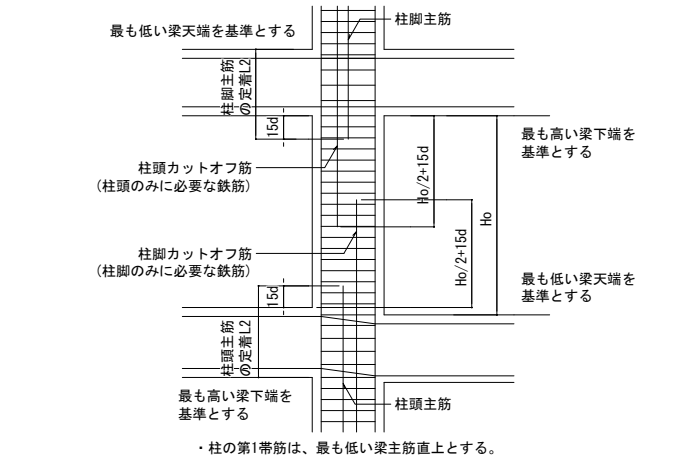


図7-1-1 柱主筋の定着およびカットオフ筋長さ

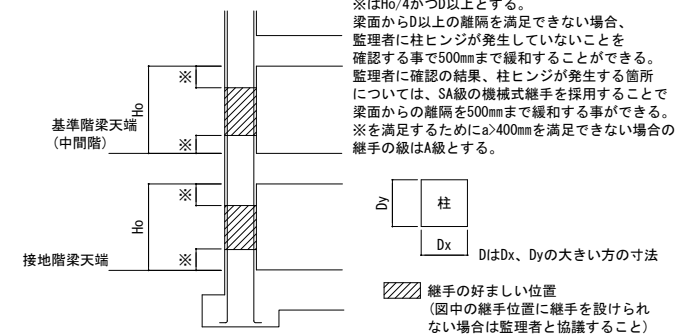


図7-1-2 継手位置

7-2 柱の仕口部（柱・梁接合部）

- 柱の仕口部の範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、柱に取り付け全ての梁せいが重なる範囲を仕口部とする。（図7-2-1）
- 直交梁がない場合、柱の仕口部帯筋範囲は構造図による。構造図に記載のない場合は、仕口部帯筋帯筋は適用しない。（図7-2-2）
- 柱の仕口部帯筋の範囲は、図7-2-3による。
- 柱の仕口部帯筋の配筋要領は構造図による。

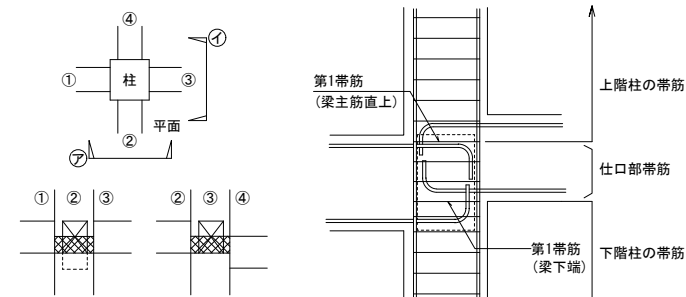


図7-2-1 柱の仕口部の範囲



図7-2-2 柱仕口部範囲の有無

図7-2-3 仕口部帯筋の範囲と第1帯筋位置

7-3 定着

- 修正)1. 柱部の定着は図7-3-1、図7-3-1Aによる。
- 柱脚部の定着は図7-3-2、図7-3-3による。

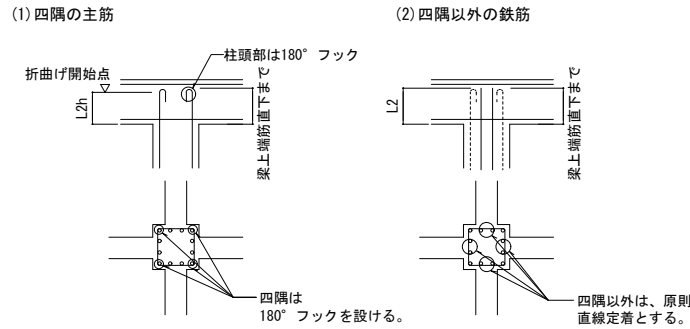


図7-3-1 最上階の柱の場合（中間階で上に柱のない場合）

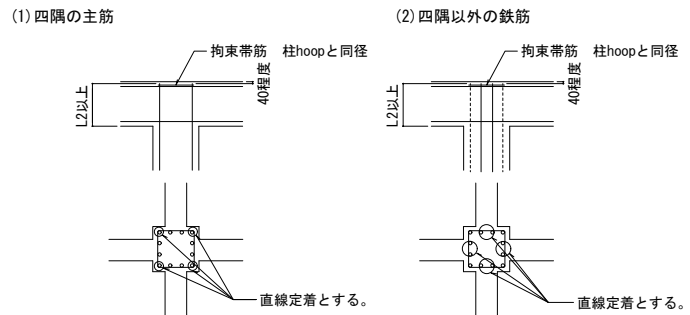


図7-3-1A 最上階の柱の場合（中間階で上に柱のない場合）

適用

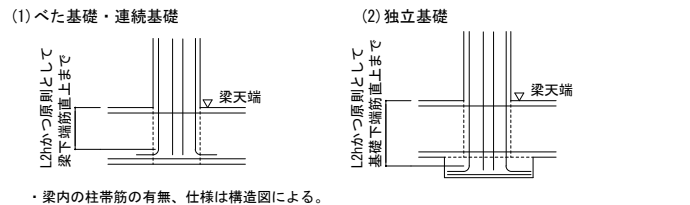


図7-3-2 最下階の柱の場合

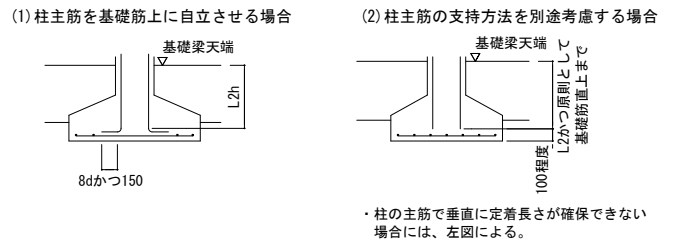


図7-3-3 最下階の柱主筋の定着と支持方法

7-4 柱主筋の折曲げ位置および帯筋

- 柱主筋の折曲げ位置は、梁の主筋間隔内とする。（図7-4-1）
- 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合（図7-4-1）の梁上第1帯筋は、上階柱帯筋と同径の帯筋を2組重ねる。

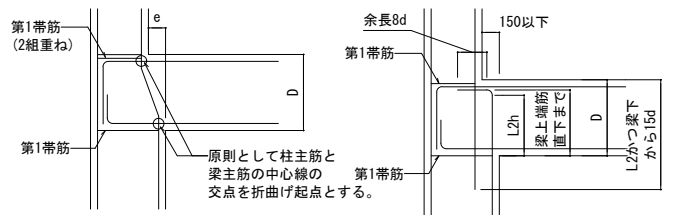


図7-4-1 柱主筋を折り曲げて通し筋とする場合（柱のしほり勾配 e/D≤1/6の場合）

図7-4-2 柱主筋を通し筋としない場合（柱のしほり寸法が150mm以下の場合）

S 8 大梁

8-1 大梁カットオフ筋長さおよび継手位置

- カットオフ筋長さは、構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-1による。
- 大梁継手位置は、図8-1による。

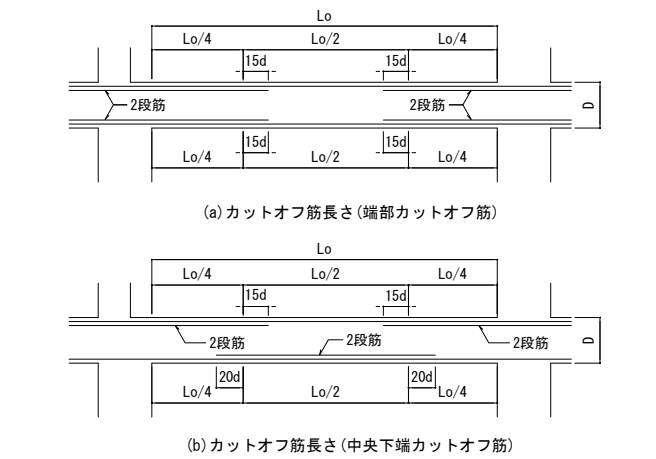


図8-1 大梁のカットオフ筋長さおよび継手位置

8-2 梁主筋の柱への定着

- 梁主筋の柱への定着は原則として折曲げ定着とし、定着要領は構造図による。構造図に記載のない場合は、図8-2-1、図8-2-2による。
- 下端筋の定着は、曲上げを原則とする。曲上げ筋がおさまらず、曲下げとする場合（図中の破線）は、監理者と協議すること。

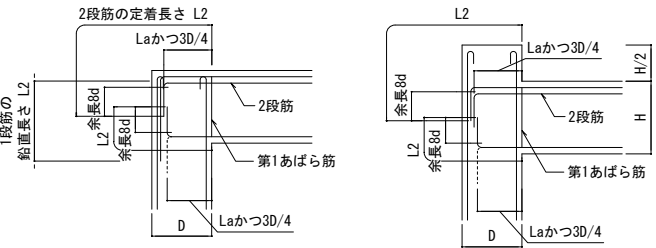


図8-2-1 最上階の場合（上に柱のない場合）

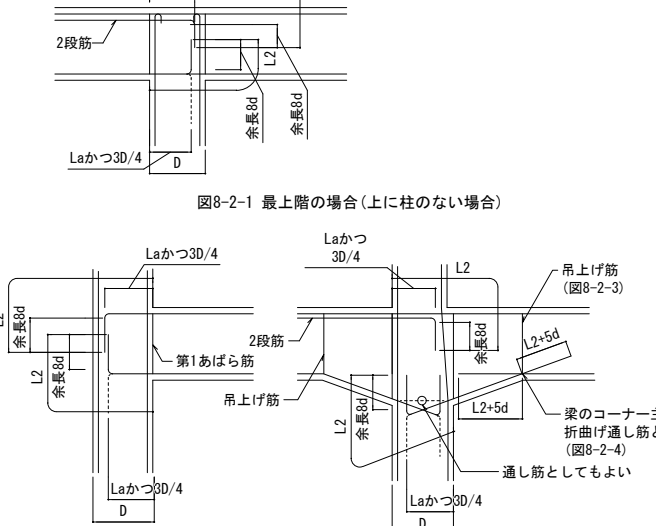


図8-2-2 中間階の場合

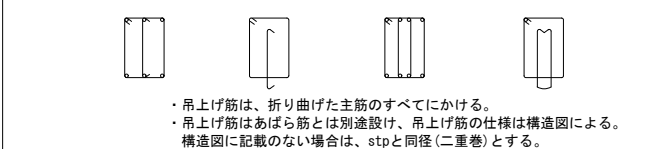


図8-2-3 吊上げ筋の形状

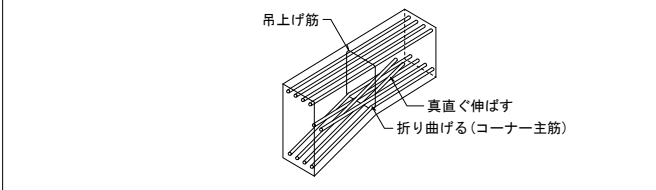


図8-2-4 ハンチ部配筋

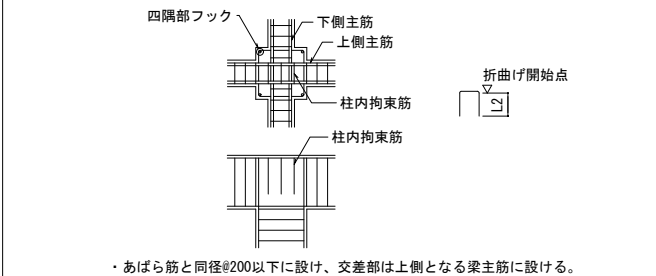
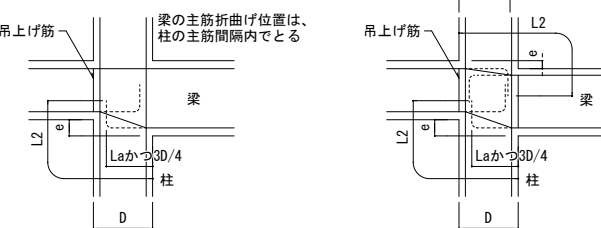


図8-2-5 最上階柱頭補強（上に柱のない場合）

8-3 梁主筋が真直ぐ通らない場合のおさまり
梁主筋は原則として通し筋とするが、鉄筋のあき寸法が確保できる場合は折曲げ定着としてもよい。直線定着とする場合は、監理者と協議すること。

(1) e/D≤1/6の場合



(2) e/D>1/6の場合

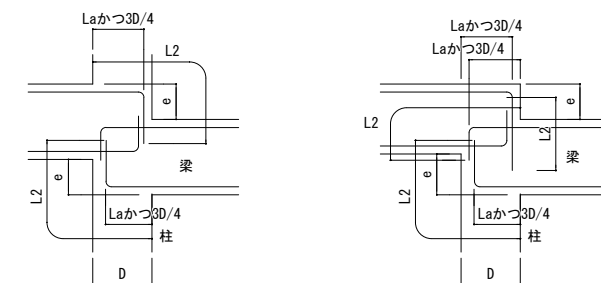


図8-3-1 鉛直方向にずれのある場合

(1) e/D≤1/6の場合

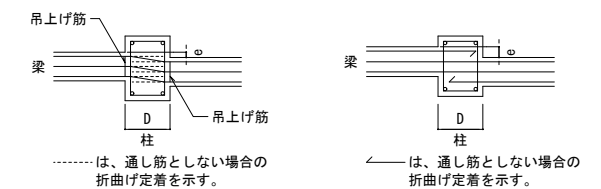


図8-3-2 水平方向にずれのある場合

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図（6）

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

令和8年

S-01-13

8-4 柱梁配筋概要図

1. 本図は § 6～8に示す規定をラ－メン 形に集約したものである。
2. 最上階大梁は中央カットオフ筋、中間階大梁は端部カットオフ筋、基礎梁は端部カットオフ筋(タイプC)の配筋を示す。
3. 柱梁接合部に機械式定着工法を適用する場合、各機械式定着工法に定める規定を満足すること。

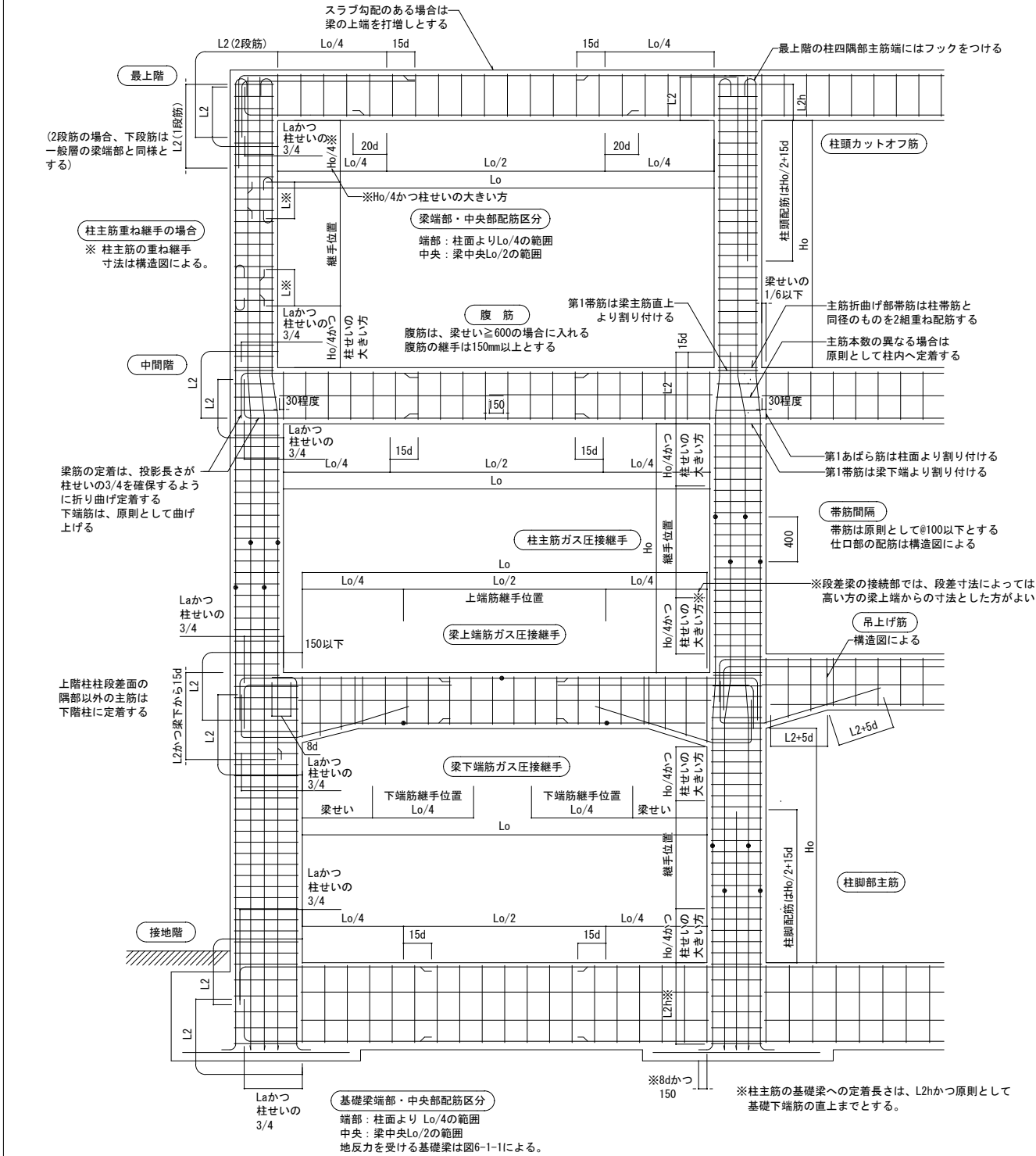


図8-4 柱梁配筋概要図

§ 9 小梁・片持ち梁

9-1 小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

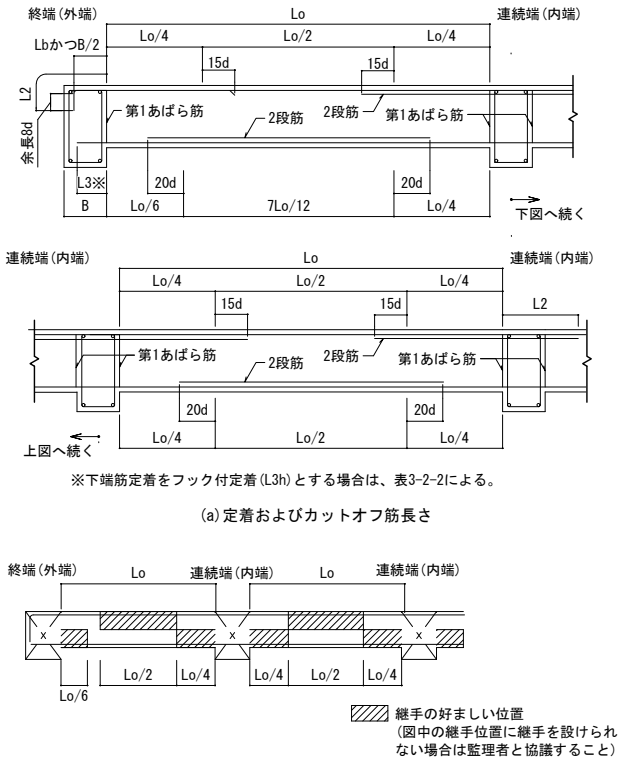


図9-1-1 小梁(連続小梁)

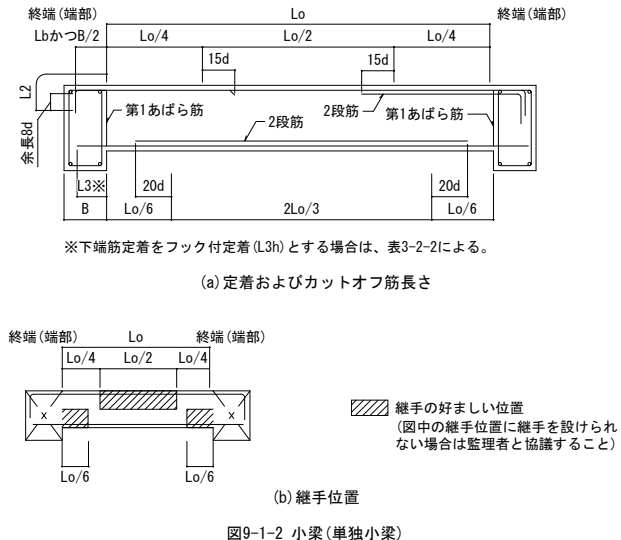


図9-1-2 小梁(単独小梁)

9-2 小梁と大梁の取合い

1. 小梁主筋の定着で垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜め定着あるいは水平定着としてもよい。

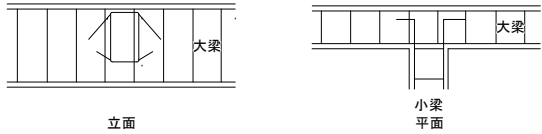


図9-2-1 小梁と大梁の取合い

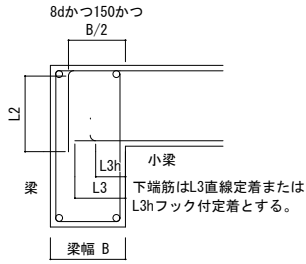
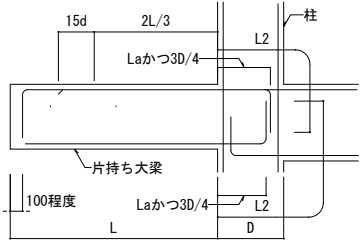


図9-2-2 幅の小さい梁への定着要領 (Lbが確保できない場合)

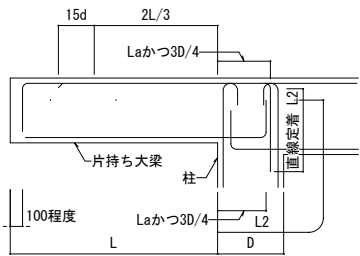
9-3 片持ち大梁・片持ち小梁の定着・カットオフ筋長さおよび継手位置

(1) 片持ち大梁(中間階)



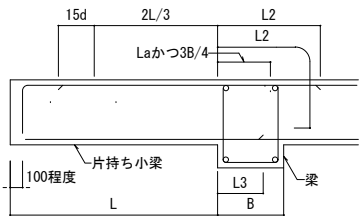
【通記】 梁主筋を直線定着する場合は監理者と協議すること

(2) 片持ち大梁(最上階)



【通記】 梁主筋を直線定着する場合は監理者と協議すること

(3) 片持ち小梁



(a) 定着およびカットオフ筋長さ



(b) 継手位置

図9-3 片持ち梁

【通記】

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図 (7)

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-14

9-4 片持ち梁・先端小梁のおさまり

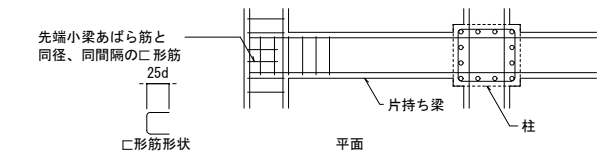


図9-4-1 片持ち梁と先端小梁のおさまり

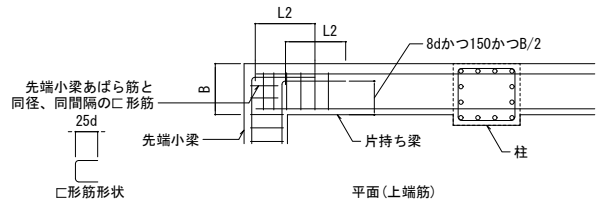


図9-4-2 片持ち梁と先端小梁の出隅のおさまり

§ 10 スラブ

10-1 定着

1. スラブ筋の定着は、図10-1-1による。
2. 幅の小さい梁へ定着は、図10-1-2による。
3. 片持ちスラブは、10-4による。

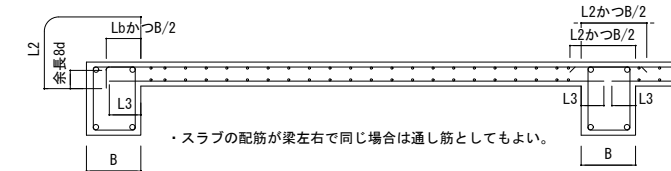


図10-1-1 定着

・スラブの配筋が梁左右で同じ場合は通し筋としてもよい。

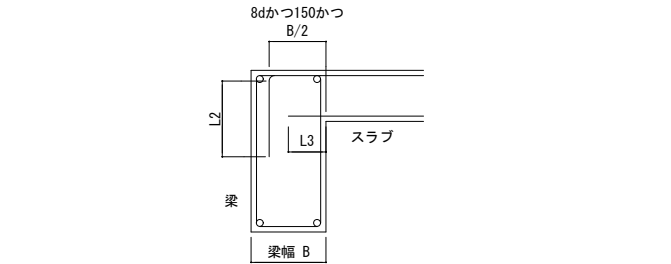
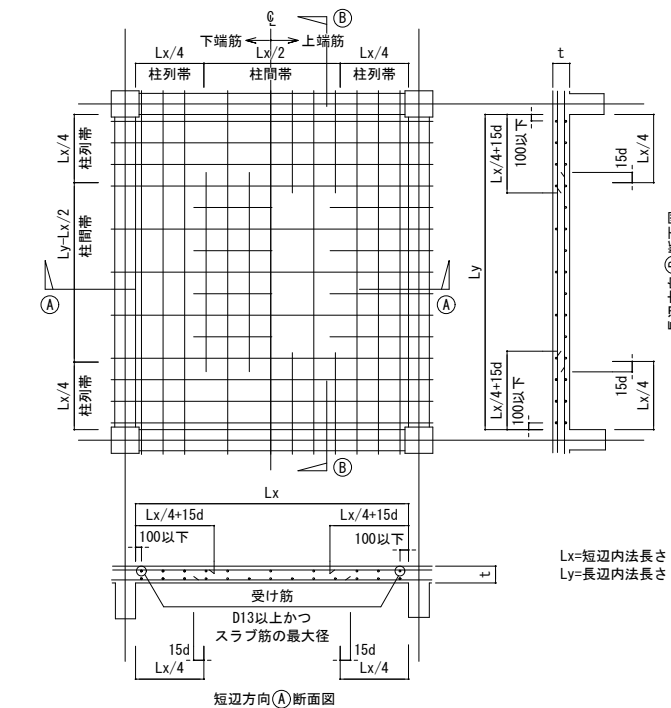


図10-1-2 幅の小さい梁への定着要領
(Lbが確保できない場合)

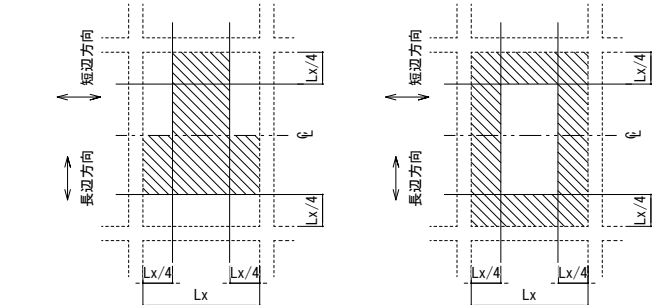
10-2 カットオフ筋長さおよび継手位置



(a) カットオフ筋長さ

(1) 上端筋の継手

(2) 下端筋の継手



継手の好ましい位置
(図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること)

図10-2 カットオフ筋長さおよび継手位置

10-3 高低差のある場合のスラブ筋のおさまり

- (1) $h > 50\text{mm}$ かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合
- (2) スラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合

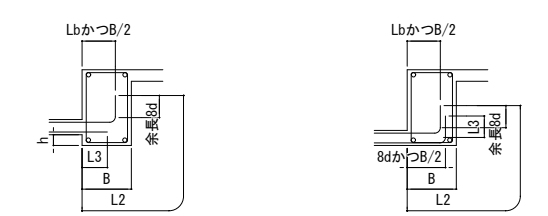
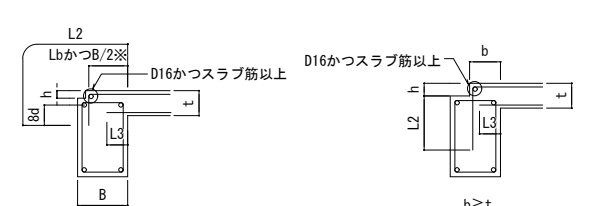


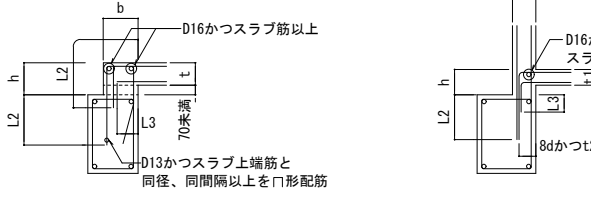
図10-3-1 スラブが梁側面に付く場合

- (1) $0 \leq h \leq 50\text{mm}$ かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合
- (2) $h > 50\text{mm}$ かつスラブ下端筋が梁主筋の下を通る場合



※スラブ上端筋の水平投影長さが Lb かつ $B/2$ 以上確保できない場合は (2) による。

- (3) $h < t + 70\text{mm}$ かつスラブ下端筋が梁主筋の上を通る場合
- (4) $h < 3t$ かつ $t_2 > t_1$

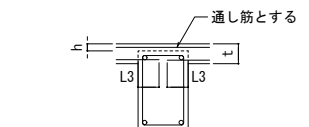


- ・ (1) ~ (3) は壁がない場合を、(4) は壁がある場合を示す。
- ・ 上記以外の場合は構造図による。

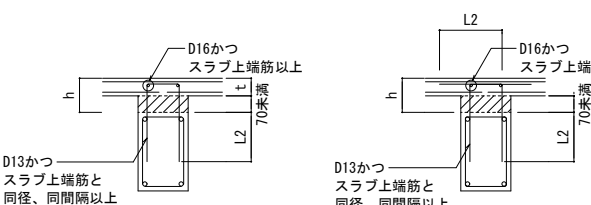
修正

図10-3-2 片側スラブが梁より上がる場合

- (1) $h \geq 0$ かつスラブ筋下端筋が梁主筋の下を通る場合



- (2) $h < t + 70\text{mm}$ かつスラブ筋下端筋が梁主筋の上を通る場合



・ $h \geq t + 70\text{mm}$ の配筋要領は構造図による。

修正

図10-3-3 梁の両側のスラブが上がる場合

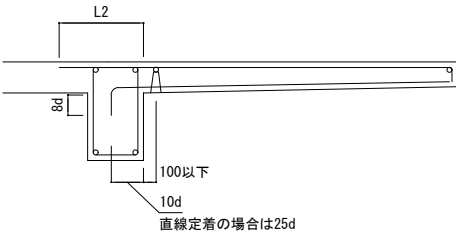
- (1) 段差が小さい場合 ($H \leq t/2$)
- (2) 段差がスラブ厚程度の場合 ($t/2 < H \leq 2t$)



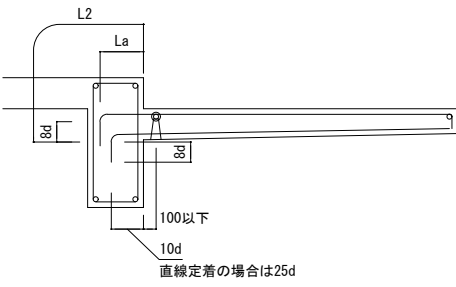
・ 上記以外の場合は構造図による。

図10-3-4 スラブ中間部に高低差のある場合

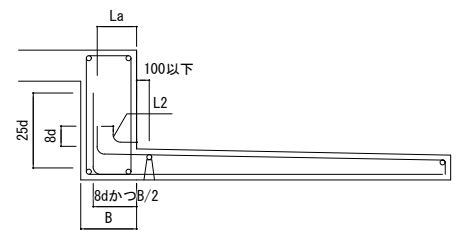
- 10-4 片持ちスラブ
片持ちスラブの梁への定着は、以下の通りの配筋とする。
ただし、以下の配筋とする場合、連続スラブの配筋に留意すること。



(a) 隣接スラブと同一レベルの場合



(b) 梁の中間にスラブが付く場合



(c) 逆スラブの場合

図10-4-1 片持ちスラブの梁への定着

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図 (8)

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-15

10-5 補強筋

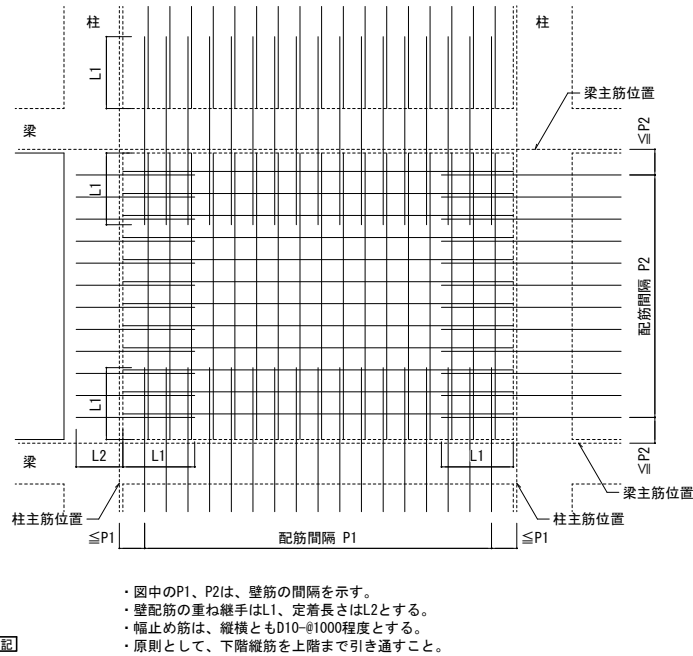
1. 片持ちスラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-1、図10-5-2、図10-5-3による。
2. 屋根スラブの出隅部および入隅部補強筋は構造図による。構造図に記載のない場合は図10-5-4、図10-5-5による。

	基準階スラブ	屋根スラブ
出隅部	(1) 斜め補強筋タイプ 柱の外面で囲まれる範囲 ・S1、S2両片持ちスラブの配筋量の多い方の主筋と同径、同間隔とし、スラブ上端筋と下端筋の間に入れる。 ・片持ちスラブの配力筋、S1、S2の範囲まで延長する。 ・かぶり不足となる場合は(2)直交補強筋タイプとする。	(2) 直交補強筋タイプ(出隅部の配力筋と出隅受け部の主筋の両方を補強する) 出隅部の配力筋の補強配筋 S1≧S2とする 出隅受け部の主筋の補強配筋 1. S1≧S2とする 2. 出隅受け部配筋は柱または梁にL1定着する
片持ちスラブ	図10-5-1 片持ちスラブ出隅部補強要領	
入隅部	(1) 斜め補強筋タイプ 3-D13-@100 (上端筋と下端筋の間に入れる) 図10-5-2 片持ちスラブ入隅部補強要領	(2) 直交補強筋タイプ 上端筋間隔が@100以下となるように3-D13により補強する 図10-5-3 片持ちスラブ入隅部補強要領
出隅部		(1) 斜め補強筋タイプ 5-D13-@100 (上端筋と下端筋の間に入れる) L=1500 図10-5-4 屋根スラブ出隅部補強要領
柱梁内スラブ		(2) 直交補強筋タイプ 上端筋間隔が@100以下となるように5-D13により補強する L=1500 図10-5-5 屋根スラブ入隅部補強要領

S 11壁

11-1 壁と柱・梁とのおさまり

1. 壁筋の継手は、壁内とし、柱、梁内に設けない。
2. 壁筋の柱、梁内の定着方法は、図11-1-2、図11-1-3、図11-1-4による。
3. 壁の第1横筋と縦筋は、柱面、梁面から100mm以下かつ柱主筋、梁主筋から設計間隔以内に配置する。



通記

図11-1-1 定着と継手

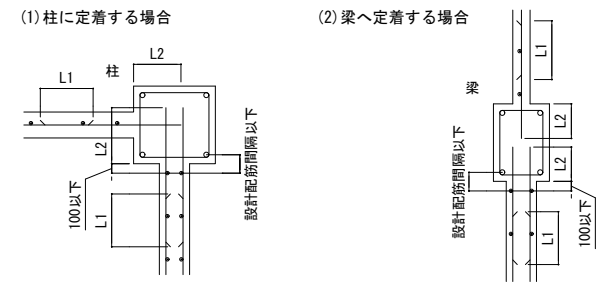


図11-1-2 帯筋、あばら筋内に配置する壁筋の定着方法

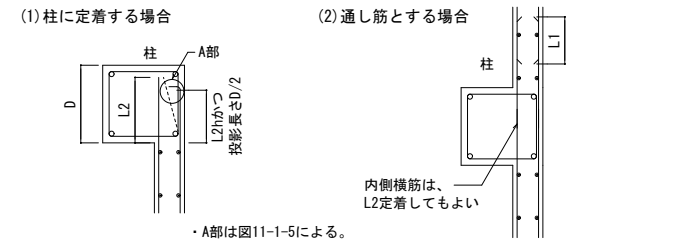


図11-1-3 柱主筋の外側を通る壁縦筋の柱への定着方法

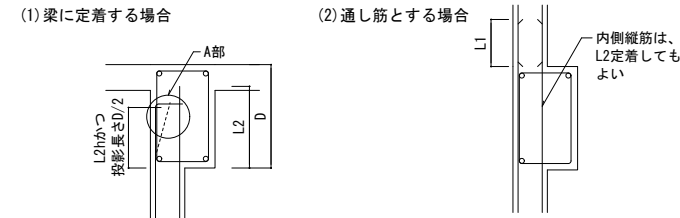


図11-1-4 梁主筋の外側を通る壁縦筋の梁への定着方法

- (1) 先端90° フックとする場合
(2) 先端を斜めに折り曲げる場合

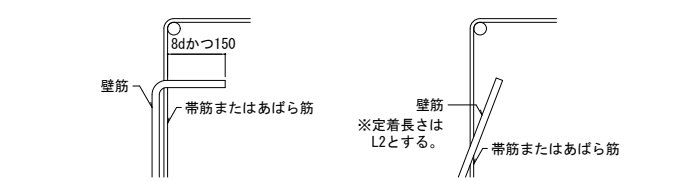


図11-1-5 A部鉄筋折曲げ形状と寸法

11-2 壁と壁・スラブとのおさまり

1. 縦補強筋は、D13以上かつ壁縦筋最大径以上とする。
2. 横補強筋は、D13以上かつ壁横筋最大径以上とする。

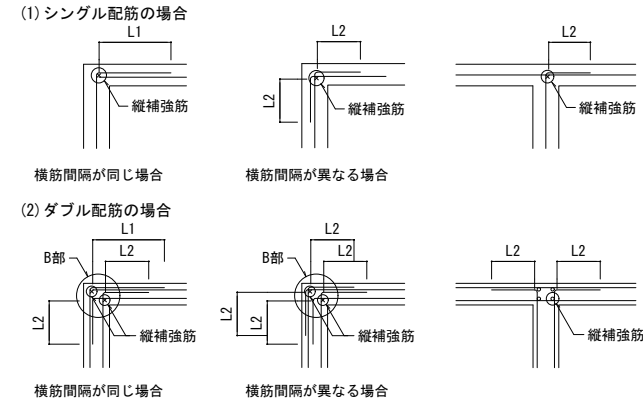


図11-2-1 壁交差部(B部)の縦補強筋配筋要領図

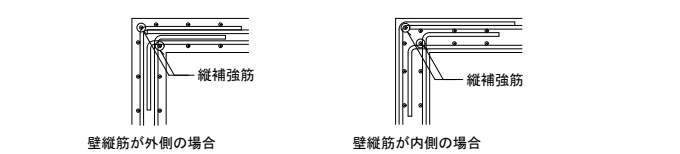


図11-2-2 壁端部と直交壁の接合部おさまり(L形・T形)

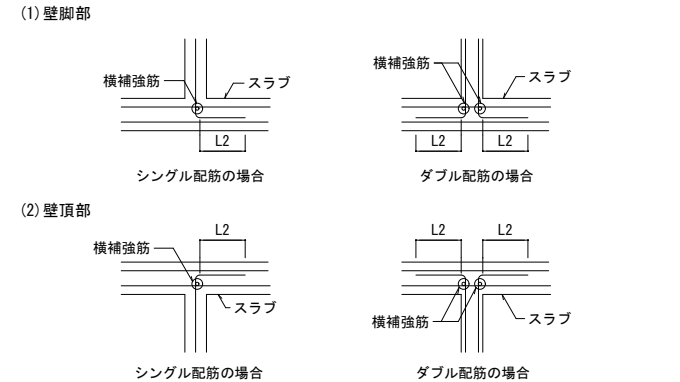


図11-2-2 壁とスラブの接合部おさまり

11-3 壁端部・開口部小口補強

	コ形補強筋が外側の場合	コ形補強筋が内側の場合	壁筋にフックを設けた場合
耐力壁			

- (注) 1. 耐力壁の場合、コ形補強筋は壁筋と同径、同間隔とする。
2. L寸法は構造図による。構造図に記載のない場合は15dとする。
3. 壁筋にフックを設けた壁で、壁厚が250mm以下の場合、開口部小口補強は省略することができる。

図11-3 壁端部・開口部小口補強

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

配筋標準図 (9)

縮尺

S=1/1 (A1)
S=1/1 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-01-16

- 11-4 地下外壁
1. 地下外壁壁筋の定着は、図11-4-1、図11-4-2、図11-4-3、図11-4-4による。
 2. 地下外壁の壁筋の継手は、地下外壁内とし、柱、梁に設けない。(図11-4-5)
 3. e1は壁外面と柱外面のずれ、e2は壁外面と梁外面のずれを示し、e1、e2寸法は構造図による。
 4. e1、e2が70mm以上の打増し部補強は、表13-1、表13-2-1及び表13-2-2による。
 5. 土に接する側の縦筋、横筋は原則として柱、梁主筋の外側を通す。

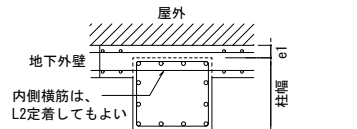


図11-4-1 柱とのおさまり

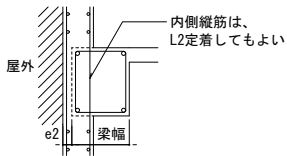


図11-4-2 梁とのおさまり

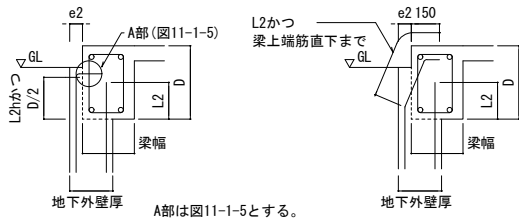
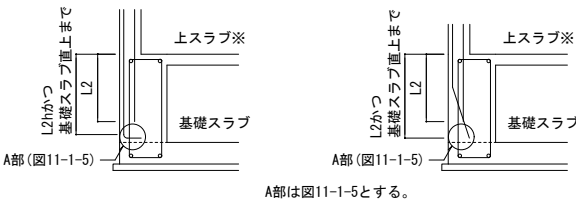
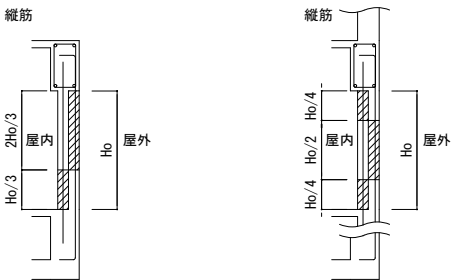
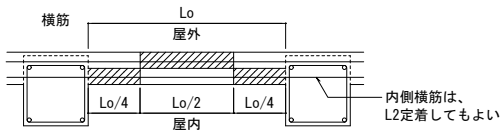


図11-4-3 壁上部のおさまり



※上スラブがない場合、または上スラブが置きスラブの場合の、地下外壁定着要領は構造図による。

図11-4-4 地下外壁と基礎梁の接合部おさまり



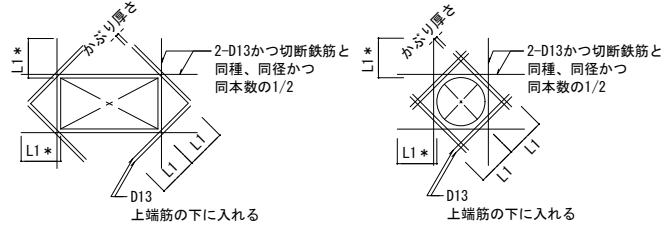
継手の好ましい位置
(図中の継手位置に継手を設けられない場合は監理者と協議すること)

図11-4-5 継手位置

§ 12 開口補強

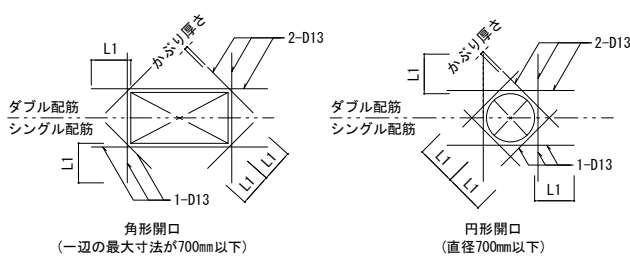
12-1 スラブおよび非耐力壁

1. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対するスラブ補強は、図12-1-1による。
2. 開口が連続するスラブの場合および片持ちスラブに開口を設ける場合の補強は構造図による。
3. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。
4. 一辺の最大寸法が700mm以下の開口に対する非耐力壁の内壁の壁開口補強は、図12-1-2による。
5. 耐力壁、非耐力壁の外壁および開口が連続する壁の場合の開口補強は構造図による。
6. 壁開口、スラブ開口が柱または梁に接する場合、接する柱、梁の部分には補強筋を省略できる。(図12-1-4、図12-1-5)
7. 壁開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を1/6以下の勾配で曲げること、または50mm以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保すること。



- ・ L1* は監理者との協議により梁内に引き通しL2定着とする。
- ・ 開口寸法がスラブの配筋間隔以下の小開口の補強は、図12-1-3による。

図12-1-1 スラブ開口補強



- ・ 開口寸法が壁の配筋間隔以下の小開口の補強は、図12-1-3による。

図12-1-2 非耐力壁の内壁開口補強

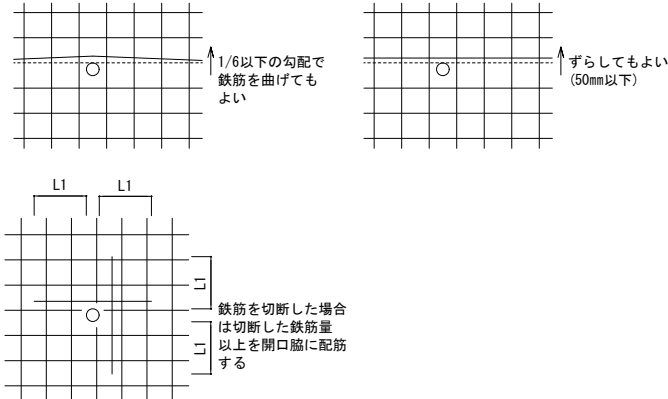


図12-1-3 単独円形小開口の配筋要領
(開口の大きさが、床壁の配筋間隔以下の場合)

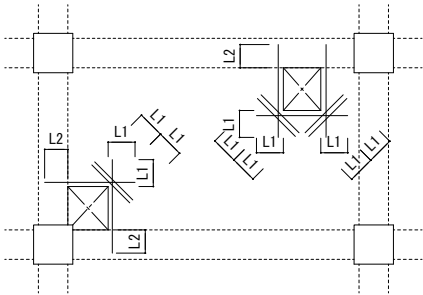


図12-1-4 スラブ開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

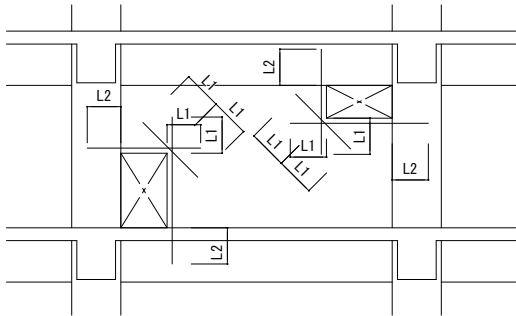


図12-1-5 壁開口部が柱または梁に接する場合の配筋要領

§ 13 柱・梁・壁・スラブ打増し部配筋要領

1. 構造図に記載のない打増しを行う場合は事前に監理者と協議すること。

2. 柱、梁の打増し部に耐力壁が取り付く場合の打増し配筋要領は構造図による。

3. 打増し寸法a、a1、a2が70mm未満の場合は補強筋不要とする。

打増し寸法a、a1、a2が70mm≦a≦200mmの場合の打増し部補強要領は図13-1-1～図13-3-2による。

打増し寸法a、a1、a2が200mmを超える場合の打増し部詳細事項は構造図による。

4.  部は打増しコンクリートを示す。

5. ※部の打増し補強筋の定着長さについては、監理者に確認すること。

13-1 柱

1. 梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、柱躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。

2. 柱の打増し部配筋要領は表13-1、図13-1-1、図13-1-2による。

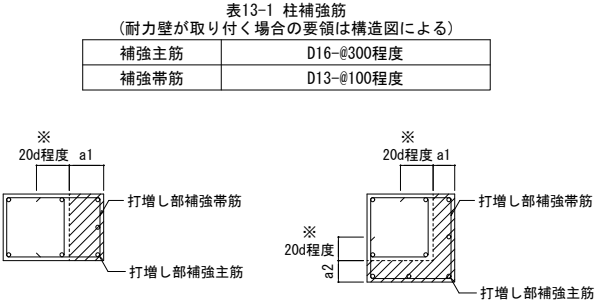


図13-1-1 柱の打増し要領

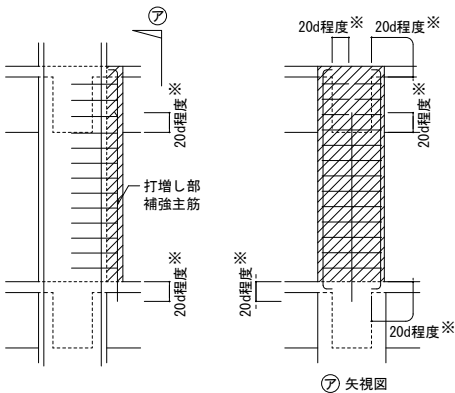


図13-1-2 柱打増し部の補強主筋の定着

13-2 梁

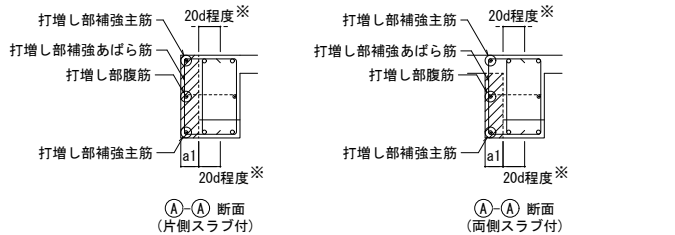
1. 小梁、耐力壁およびスラブの鉄筋の定着長さは、梁躯体内で確保し、打増し部は定着長さに算定しない。

2. 梁の打増し部配筋要領は表13-2-1、表13-2-2、図13-2-1による。

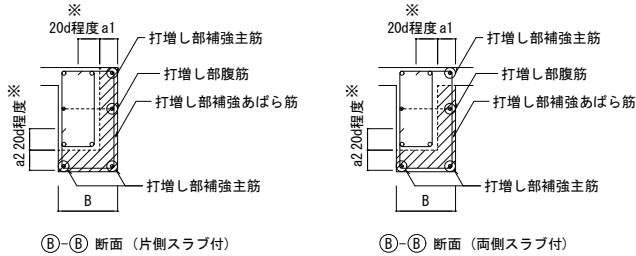
3. 打増し部腹筋は梁と同径、同段数とする。

表13-2-1 梁側面補強筋 (耐力壁が取り付く場合の要領は構造図による)		表13-2-2 梁上下面補強筋 (耐力壁・スラブが取り付く場合の要領は構造図による)		
補強主筋	D16	梁幅	B≦350mm	350mm<B
補強あばら筋	梁あばら筋と同径、 間隔200mm以下	補強主筋	2-D16	D16-@250以下
		補強あばら筋	梁あばら筋と同径、間隔200mm以下	

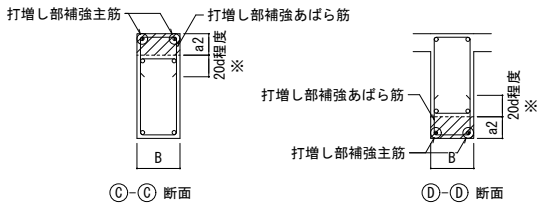
(1) 梁側面を打増しする場合



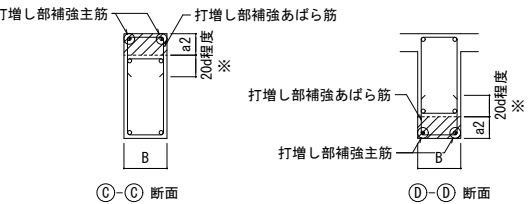
(2) 梁側面および梁下面を打増しする場合



(3) 梁上面を打増しする場合(スラブなし)



(4) 梁下面を打増しする場合



・スラブが取付く場合は図10-3-2、図10-3-3を参照。

図13-2-1 梁の打増し要領

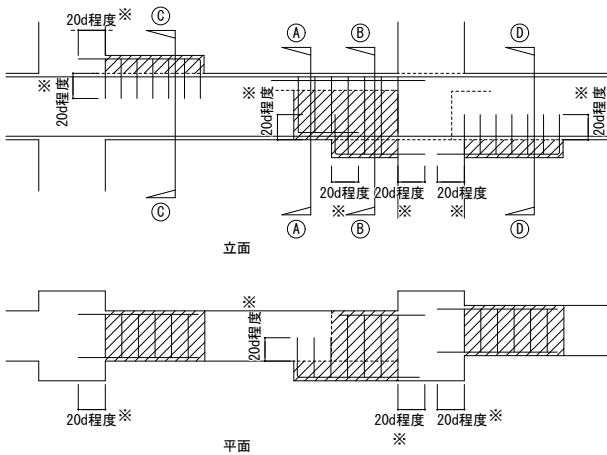


図13-2-2 梁打増し部の補強主筋の定着

13-3 壁・スラブ

1. 壁およびスラブの打増し部配筋要領は図13-3-1、図13-3-2による。

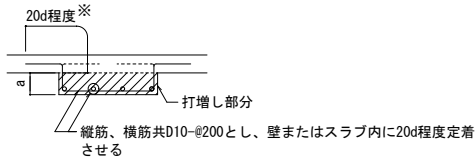


図13-3-1 壁の打増し要領

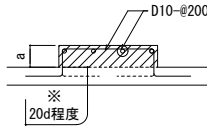
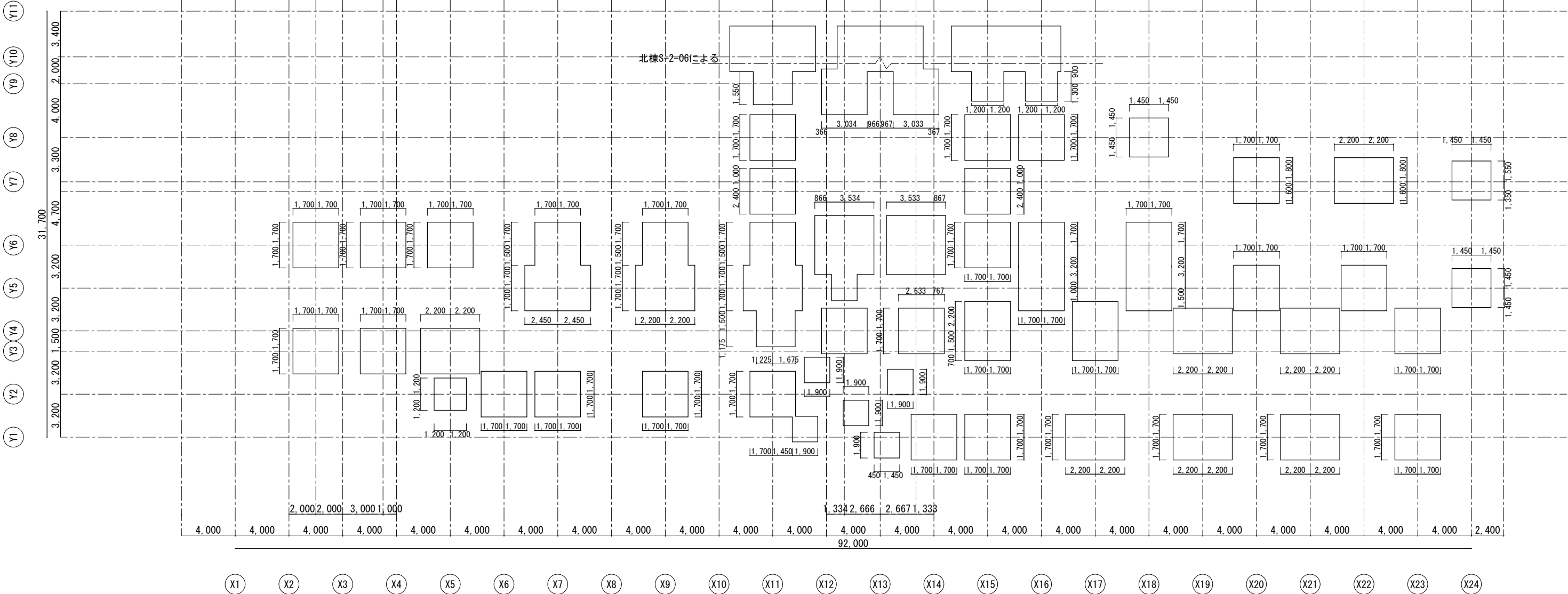


図13-3-2 スラブの打増し要領

《特記事項》 1. 凡例 (1) 特記事項は○印のついたものを適用する。 (2) ○印のない場合は、*印のあるものを適用する。 2. 補強筋の種類 異形鉄筋は特記仕様書 第5章 鉄筋工事 1.異形鉄筋 による。 溶接金網は鉄線の径 9mm、形状寸法 75mm 及び 100mm の正方網目とし、JIS 3551（溶接金網）の規格品とする。 3. 溶接金網の製作所 松井金網工業(株)、日鉄金属工業(株)、または同等の加工能力を有する製作所。 4. 梁貫通孔既製品の製作所及び製品名 (株)栗本鐵工所：スーパーハリーZ コーリョー建販(株)：ダイヤレン ティエム技研(株)：ウェブレン 丸井産業(株)：リンブレン	1. 梁貫通孔に用いる補強筋 (1) 開口周囲の補強筋は以下による。 1) スリーブ等の小開口 ・ 図示 ・ 既製品 2) 人通孔 ・ 図示 ・ 既製品 (2) 開口位置は以下による。 ・ 梁貫通孔位置図による。 ・ 該当機械設備図および電気設備図による。	1. 梁貫通孔に用いる補強筋 (6) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。 (7) 補強筋は、主筋の内側とする。やむを得ない場合は監督員の承認を受けて外側とすることができる。また、鉄筋の定着長さは下図による。 (8) 孔の径が梁せいりの 1/10 以下、かつ、150mm 未満のものは、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。 (9) 溶接金網の余長は 1 格子以上とし、突き出しは 10mm 以上とする。 (10) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋 1-13φ のリング筋を取り付ける。 なお、リング筋は、溶接金網に 4 箇所以上溶接する。 (11) 溶接金網の割付け始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。 ○梁貫通孔補強既製品の場合 (1) 既製品を使用する場合は日本建築センター評定取得品とし適用範囲はすべて評定内容による。 適用範囲を満足できない場合は監理者との協議による。	2. 梁貫通孔補強一般事項 ○H形, MH形, M形の場合 (1) 梁貫通孔補強筋の名称等は以下による。 (2) 孔の径は、梁せいりの 1/3 以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。 (3) 孔の上下方向の位置は梁せいり中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より D/3 (D：梁せいり) の範囲に設けてはならない。 (4) 孔は、柱面から、原則として 1.5D 以上離す。ただし、基礎梁及び壁付帯梁は除く。 (5) 孔が並列する場合の中心間隔、孔の径の平均値の 3 倍以上とする。	3. 壁式構造の基礎梁の小開口および小開口周囲の補強 (1) 小開口を設けることができる範囲は、原則として、基礎梁の上下端および基礎梁端部から基礎梁側に 250mm 程度以上ならびに、耐力壁・基礎梁接合部側に 200mm 以上離れた範囲とする(図2. 1)。 ただし、人通孔は、基礎梁端部から基礎梁側に基礎梁せいり(D) 程度離れた範囲か、壁下に設けることとする(図2. 1)。 (2) 耐力壁および壁率算定上無視できる小開口の位置および大きさは下記による。 1) 円形開口の場合は、壁端から開口端までの長さが 200mm 以上、開口部の直径が 450mm 以下かつ壁端から開口端までの長さ以下とする(図3. 2 a)。 2) 長方形開口の場合は、壁端から開口端までの長さが 200mm 以上、開口部の幅と高さの合計長さが 800mm 以下、開口部の幅に対する高さの割合が0.5 以上 2.0 以下、開口部幅から開口端までの長さ以下とする(図3. 2 b)。 (3) 耐力壁に小開口を複数設ける場合の、小開口相互の中心間距離は以下による。 1) 円形開口の場合の中心間距離は、孔径の平均値の 3 倍以上とする(図3. 3 a)。 2) 長方形形状の場合は、開口の外接円の直径を用いて 1) の規定を満足することとする(図3. 3 b)。 (4) 小開口周囲の補強は下記による。 1) 小開口部分の補強筋の径、及び本数は設計図書による。 2) 小開口部分の補強筋の定着長さは小開口際からL2を確保する。 3) 小開口部分の横補強筋がL2の定着を取れない場合、末端を135度以上折り曲げ、端部曲げ補強筋に定着する。 4) 小開口部分の斜め補強筋は、縦及び横筋に置き換えてもよいが、その判断は監理者との協議による。 5) 小開口横の横補強筋比は無開口部分の1/r (r：小開口に対する低減率)倍以上、または0.012以上とする。 6) 小開口横の横補強筋形状は閉鎖型とし、その形状は図S-1-16「耐力壁の配筋 3. b)」のいずれかによる。 7) 小開口を壁端に設ける場合は、6) の配筋ができるだけの幅を確保する。 8) 小開口の最大径が両方向の配筋間隔以下の場合、鉄筋を 1/6 以下の勾配で曲げること、または 50mm 以下でずらすことにより補強筋を省略することができる。ただし、開口部から設計かぶりを確保する。	4. 壁式構造の耐力壁及び壁梁の小開口および小開口周囲の補強 ○壁梁の場合 (1) 小開口を設けることができる範囲は、壁梁端部より梁せいり D 以上、かつ、壁梁上下端部より 200mm 以上離れた範囲とする(図3. 1)。 ○耐力壁の場合 (1) 小開口を設けることができる範囲は、耐力壁の端部より 200mm 以上離れた範囲とする(図3. 1)。	図2. 1 梁貫通位置 (a) H形 (b) MH形及びM形 図3. 1 基礎梁に設けることのできる小開口の位置 図3. 2 耐力壁・壁率算定上無視できる耐力壁の小開口 (a) 円形開口の場合 (b) 長方形開口の場合 図3. 3 耐力壁に複数の小開口を設ける場合の開口相互の中心間距離 (a) 円形開口の場合 (b) 長方形開口の場合 図4. 1 耐力壁、壁梁ならびに耐力壁・壁梁接合部に設けることのできる小開口の位置 図4. 2 耐力壁・壁率算定上無視できる耐力壁の小開口 (a) 円形開口の場合 (b) 長方形開口の場合 図4. 3 耐力壁に複数の小開口を設ける場合の開口相互の中心間距離 (a) 円形開口の場合 (b) 長方形開口の場合 図4. 4 小開口周囲の補強 A-A' 断面図 B-B' 断面図

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 RC梁貫通孔補強要領	縮尺 S=1/1 (A1) S=1/1 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-01-19
----	---	------------------------------	--------------------	--------------------------------	------------	-----------------

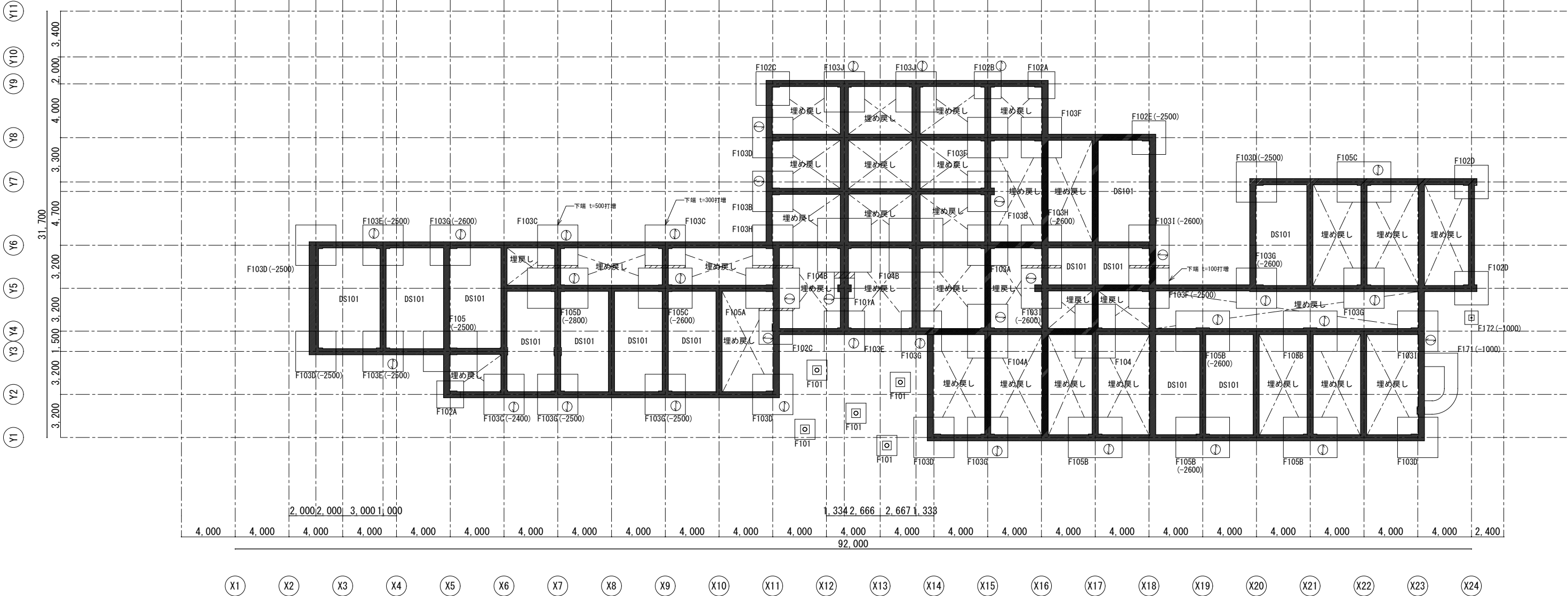
1. 溶接継手基準												(2) すみ肉溶接 (別図3. 6、3. 15)												(3) 部分溶込み溶接 (別図3. 7)																																																											
B 突き合わせ継手 (別図3. 2) (単位mm)						T T形継手 (別図3. 3) (単位mm)						L かど継手 (別図3. 5) (単位mm)						F すみ肉溶接 (単位mm)						P 部分溶込み溶接 (単位mm)																																																											
H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接						A サブマージアーク自動溶接						H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接						A サブマージアーク自動溶接						H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接						H アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接 及びセルフシールドアーク半自動溶接																																																					
1. (片面溶接)		2. (両面溶接)				1. (片面溶接)		2. (両面溶接)				1. (片面溶接)		2. (両面溶接)				1. (片面溶接)		2. (両面溶接)				1. (片面溶接)		2. (両面溶接)				1. (片面溶接)		2. (両面溶接)																																																			
t ≤ 6						t ≤ 6						t ≤ 6						t ≤ 6						t ≤ 16						1. 2. (両面溶接)		1. 2. (両面溶接)		1. 2. (両面溶接)																																																	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22				6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22				6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22				6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22				t ≤ 16		t ≤ 16				t ≤ 16		t ≤ 16																																																			
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40				19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40				19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40				19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40				16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40				16 < t ≤ 40		16 < t ≤ 40																																																			
D1=2(1-2)/3 D2=(1-2)/3		D1=(1-6)/2 D2=(1-6)/2				D1=2(1-2)/3 D2=(1-2)/3		D1=2(1-2)/3 D2=(1-2)/3				D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2		D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2				D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2		D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2				D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2		D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2				D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2		D1=2(1-6)/2 D2=(1-6)/2																																																			
(注) 裏あて金および裏はつり (1) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏あて金は、原則として、フランジの内側に設置し、取り付け方法は、図1-1による。裏あて金の組立溶接は接合部に悪影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行う。 (2) 裏あて金の厚さ及びすみ肉溶接のサイズは表1-1及び表1-2により、材質は、原則として母材と同等以上のものとする。 (3) 完全溶込み溶接を両面溶接とする場合は、裏溶接の前に裏はつりを行う。 裏はつりは、健全な溶着部分が現れるまではつり取るものとする。ただし、自動溶接において、完全な溶込みが得られたことが確認できる場合には、裏はつりを省略することができる。												図1-1 裏あて金の溶接 (別図3. 10)												表1-1 裏あて金の長さ (別表3. 5) (mm)												表1-2 溶接のサイズ (別表3. 6) (mm)																																															
																								<table><tr><th>溶 接 工 法</th><th>t</th></tr><tr><td>手溶接</td><td>6以上</td></tr><tr><td>半自動溶接</td><td>9以上</td></tr><tr><td>自動溶接</td><td>12以上</td></tr></table>												溶 接 工 法	t	手溶接	6以上	半自動溶接	9以上	自動溶接	12以上	<table><tr><th>裏あて金の厚さ</th><th>S</th></tr><tr><td>t ≤ 9</td><td>5</td></tr><tr><td>t > 9</td><td>9</td></tr></table>												裏あて金の厚さ	S	t ≤ 9	5	t > 9	9																						
溶 接 工 法	t																																																																																		
手溶接	6以上																																																																																		
半自動溶接	9以上																																																																																		
自動溶接	12以上																																																																																		
裏あて金の厚さ	S																																																																																		
t ≤ 9	5																																																																																		
t > 9	9																																																																																		
2. 溶接施工												2. 3 スニップカット (別図3. 13、別表3. 7)												2. 6 ハンチ部などの溶接 (別図3. 4)																																																											
2. 1 エンドタブ (別図3. 9、別表3. 4)												溶接の交差部をスニップカットで処理する場合は図2-4により、スニップカットの寸法(S)は、鋼材の板厚に応じて、表2-2による。ただし、既設鋼鋼のスニップカットについてはS=+2により求めるものとする。なお、スニップカット部は溶接により埋めるものとする。												ハンチ部などのT形継手において、溶接される部材が直交しない場合の優先標準は図2-6による。																																																											
表2-1 エンドタブの長さ (mm)												表2-2 スニップカットの寸法 (mm)												表2-3 溶接の補助記号 (別表3. 1)																																																											
<table><tr><th>溶 接 工 法</th><th>L</th></tr><tr><td>手溶接</td><td>35以上</td></tr><tr><td>半自動溶接</td><td>38以上</td></tr><tr><td>自動溶接</td><td>70以上</td></tr></table>												溶 接 工 法	L	手溶接	35以上	半自動溶接	38以上	自動溶接	70以上	<table><tr><th>溶 接 工 法</th><th>t</th><th>12</th><th>16</th></tr><tr><td>S</td><td>10</td><td>12</td><td>14</td><td>16</td></tr></table>												溶 接 工 法	t	12	16	S	10	12	14	16	<table><tr><th>分 部</th><th>記号</th></tr><tr><td>アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接</td><td>H</td></tr><tr><td>セルフシールドアーク半自動溶接</td><td>H</td></tr><tr><td>サブマージアーク自動溶接</td><td>A</td></tr><tr><td>エレクトロスラグ溶接</td><td>E</td></tr><tr><td>突き合わせ継手</td><td>B</td></tr><tr><td>完全溶込み継手</td><td>T</td></tr><tr><td>すみ肉継手</td><td>L</td></tr><tr><td>部分溶込み</td><td>F</td></tr><tr><td>フレア溶接</td><td>FL</td></tr><tr><td>片面溶接</td><td>1</td></tr><tr><td>両面溶接</td><td>2</td></tr></table>												分 部	記号	アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接	H	セルフシールドアーク半自動溶接	H	サブマージアーク自動溶接	A	エレクトロスラグ溶接	E	突き合わせ継手	B	完全溶込み継手	T	すみ肉継手	L	部分溶込み	F	フレア溶接	FL	片面溶接	1	両面溶接	2							
溶 接 工 法	L																																																																																		
手溶接	35以上																																																																																		
半自動溶接	38以上																																																																																		
自動溶接	70以上																																																																																		
溶 接 工 法	t	12	16																																																																																
S	10	12	14	16																																																																															
分 部	記号																																																																																		
アーク手溶接・ガスシールドアーク半自動溶接	H																																																																																		
セルフシールドアーク半自動溶接	H																																																																																		
サブマージアーク自動溶接	A																																																																																		
エレクトロスラグ溶接	E																																																																																		
突き合わせ継手	B																																																																																		
完全溶込み継手	T																																																																																		
すみ肉継手	L																																																																																		
部分溶込み	F																																																																																		
フレア溶接	FL																																																																																		
片面溶接	1																																																																																		
両面溶接	2																																																																																		
図2-1 エンドタブ												図2-4 スニップカット												図2-6 ハンチ部の溶接																																																											
2. 2 スクラップ (別図3. 11、3. 12)												2. 4 溶接部の段差 (別図3. 14)												2. 5 余盛り (別表3. 8)																																																											
スクラップは、原則としてノンスクラップ工法とし、スクラップを設ける場合は下図による。スクラップの円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合部は滑らかに仕上げ。												完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段違いが10mmを超える場合は、図2-5による。												完全溶込み溶接 (突き合わせ継手、かど継手)、すみ肉溶接及びフレア溶接の溶接部は、余盛りを行うものとする。余盛り高さの限度は、表2-3による。完全溶込み溶接 (T形継手) の溶接部は、ビード表面が滑らかになるように仕上げるものとする。																																																											
表2-4 溶接の補助記号 (別表3. 2)												表2-5 溶接の補助記号 (別表3. 2)												表2-6 溶接の補助記号 (別表3. 2)																																																											
<table><tr><th>分 部</th><th>補助記号</th></tr><tr><td>突き合わせ継手</td><td>B</td></tr><tr><td>完全溶込み継手</td><td>T</td></tr><tr><td>すみ肉継手</td><td>L</td></tr><tr><td>部分溶込み</td><td>F</td></tr><tr><td>フレア溶接</td><td>FL</td></tr><tr><td>片面溶接</td><td>1</td></tr><tr><td>両面溶接</td><td>2</td></tr></table>												分 部	補助記号	突き合わせ継手	B	完全溶込み継手	T	すみ肉継手	L	部分溶込み	F	フレア溶接	FL	片面溶接	1	両面溶接	2	<table><tr><th>分 部</th><th>補助記号</th></tr><tr><td>突き合わせ継手</td><td>B</td></tr><tr><td>完全溶込み継手</td><td>T</td></tr><tr><td>すみ肉継手</td><td>L</td></tr><tr><td>部分溶込み</td><td>F</td></tr><tr><td>フレア溶接</td><td>FL</td></tr><tr><td>片面溶接</td><td>1</td></tr><tr><td>両面溶接</td><td>2</td></tr></table>												分 部	補助記号	突き合わせ継手	B	完全溶込み継手	T	すみ肉継手	L	部分溶込み	F	フレア溶接	FL	片面溶接	1	両面溶接	2	<table><tr><th>分 部</th><th>補助記号</th></tr><tr><td>突き合わせ継手</td><td>B</td></tr><tr><td>完全溶込み継手</td><td>T</td></tr><tr><td>すみ肉継手</td><td>L</td></tr><tr><td>部分溶込み</td><td>F</td></tr><tr><td>フレア溶接</td><td>FL</td></tr><tr><td>片面溶接</td><td>1</td></tr><tr><td>両面溶接</td><td>2</td></tr></table>												分 部	補助記号	突き合わせ継手	B	完全溶込み継手	T	すみ肉継手	L	部分溶込み	F	フレア溶接	FL	片面溶接	1	両面溶接	2
分 部	補助記号																																																																																		
突き合わせ継手	B																																																																																		
完全溶込み継手	T																																																																																		
すみ肉継手	L																																																																																		
部分溶込み	F																																																																																		
フレア溶接	FL																																																																																		
片面溶接	1																																																																																		
両面溶接	2																																																																																		
分 部	補助記号																																																																																		
突き合わせ継手	B																																																																																		
完全溶込み継手	T																																																																																		
すみ肉継手	L																																																																																		
部分溶込み	F																																																																																		
フレア溶接	FL																																																																																		
片面溶接	1																																																																																		
両面溶接	2																																																																																		
分 部	補助記号																																																																																		
突き合わせ継手	B																																																																																		
完全溶込み継手	T																																																																																		
すみ肉継手	L																																																																																		
部分溶込み	F																																																																																		
フレア溶接	FL																																																																																		
片面溶接	1																																																																																		
両面溶接	2																																																																																		
図2-2 改良型スクラップ												図2-5 溶接部の段差												図2-3 従来型スクラップ																																																											



ラップルコン伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- ラップルコン下端レベルは下記とする。
GL-4,000 特記は 1FL {±*, ***} で示す。
 - ラップルコンクリートの寸法は基礎縁端から200mmとする。
 - ラップルコンクリートはFc18とする。

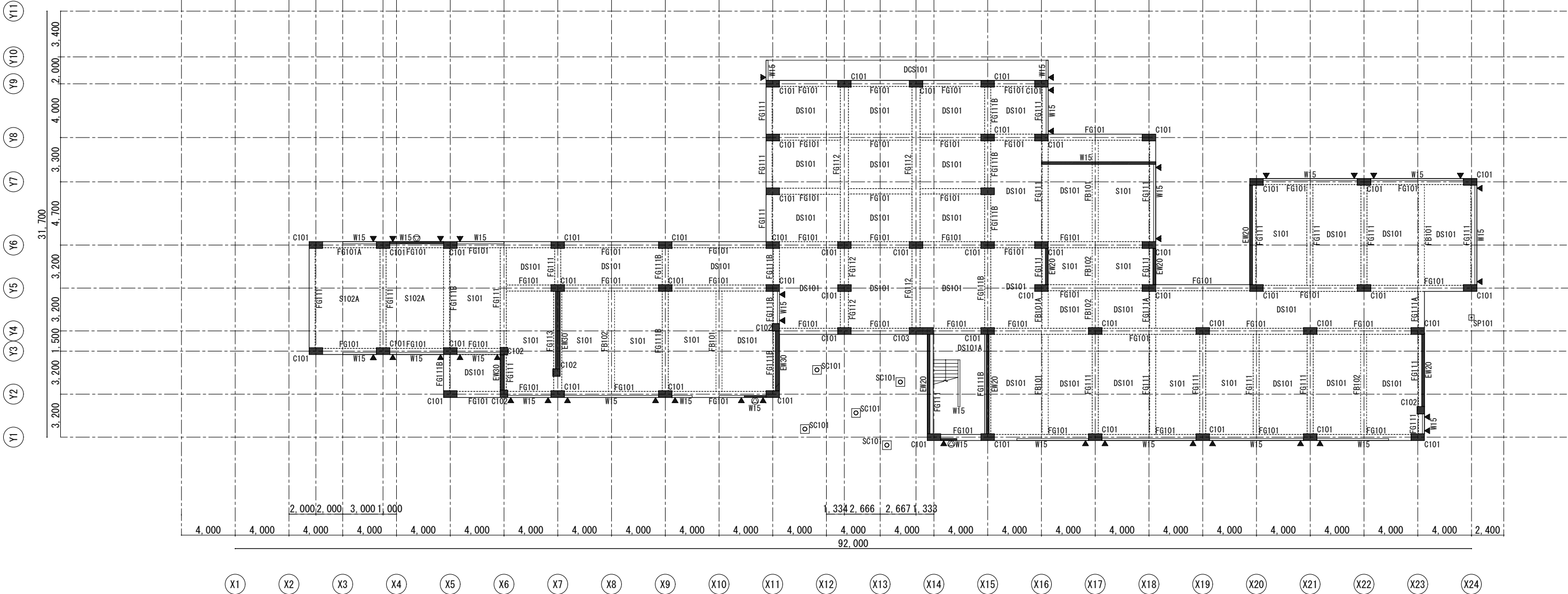
備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 ラップルコン伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-01A
----	--	--	------------------------------	---------------------	------------------------------------	------------	-----------------



基礎伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - ピットスラブ天端レベルは下記とする。
1FL-2,000 特記は 1FL[±*,***] で示す。
 - 基礎底レベルは下記とする。
1FL-2,300 特記は 1FL(±*,***) で示す。
 - 基礎の主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▨ は基礎打ち増しを示す

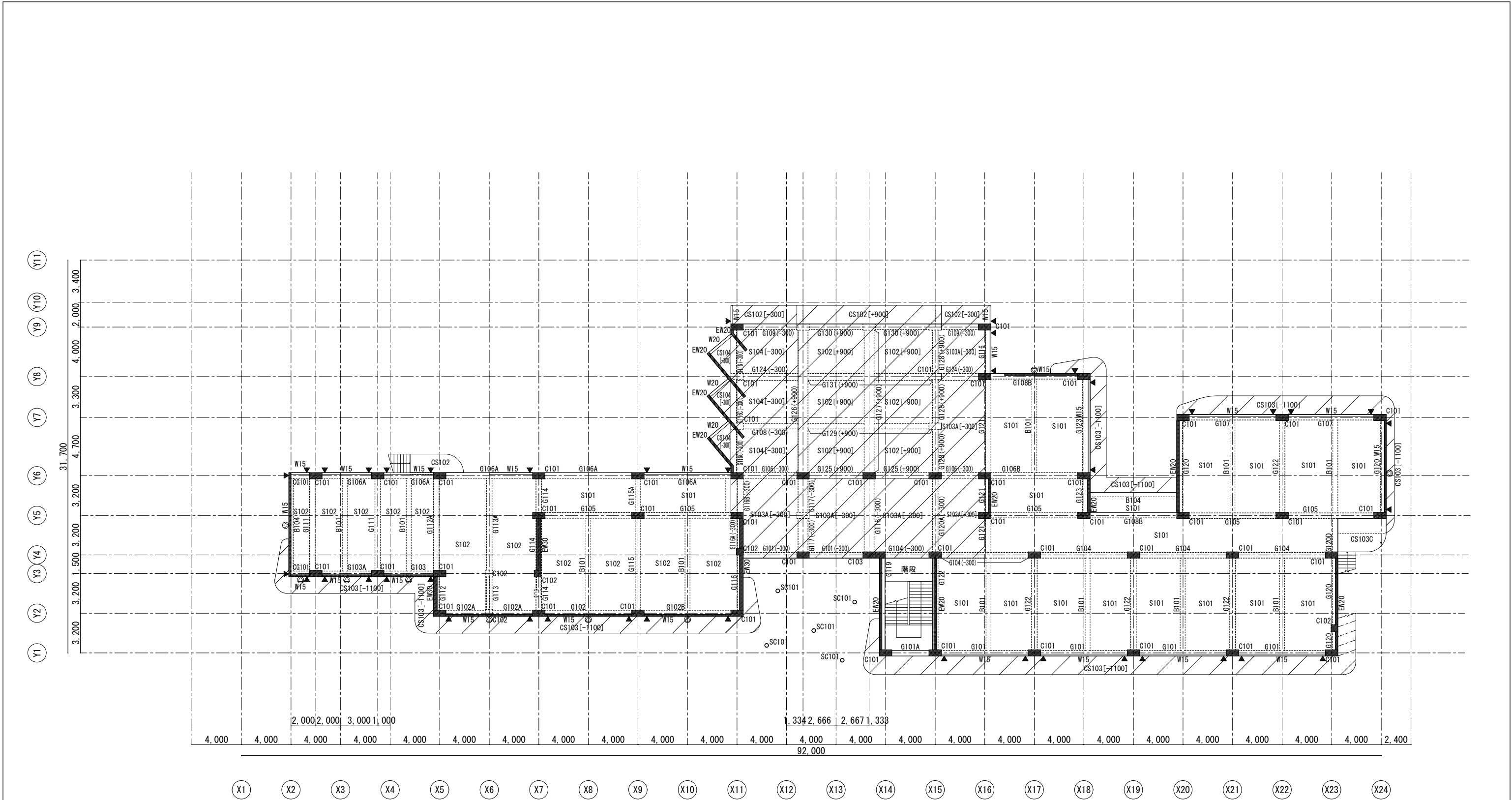
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 基礎伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-01
----	--	------------------------------	-----------------	------------------------------------	------------	----------------



1階伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
1FL-200 特記は 1FL[±*, ***] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
1FL-400 特記は 1FL(±*, ***) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ⊙ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

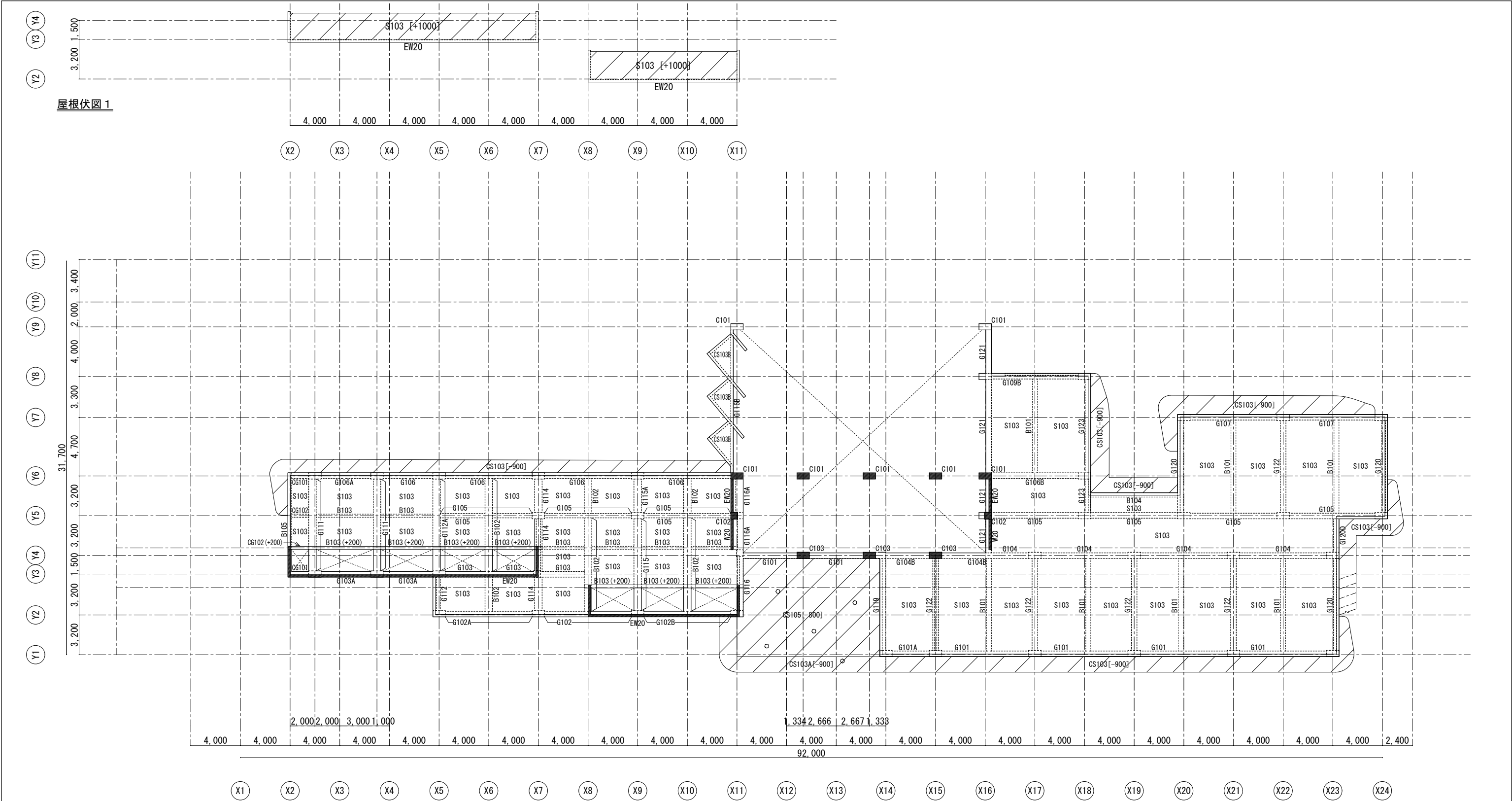
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 1階伏図	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-02
----	--	------------------------------	-----------------	----------------------------------	------------	----------------



2階伏図

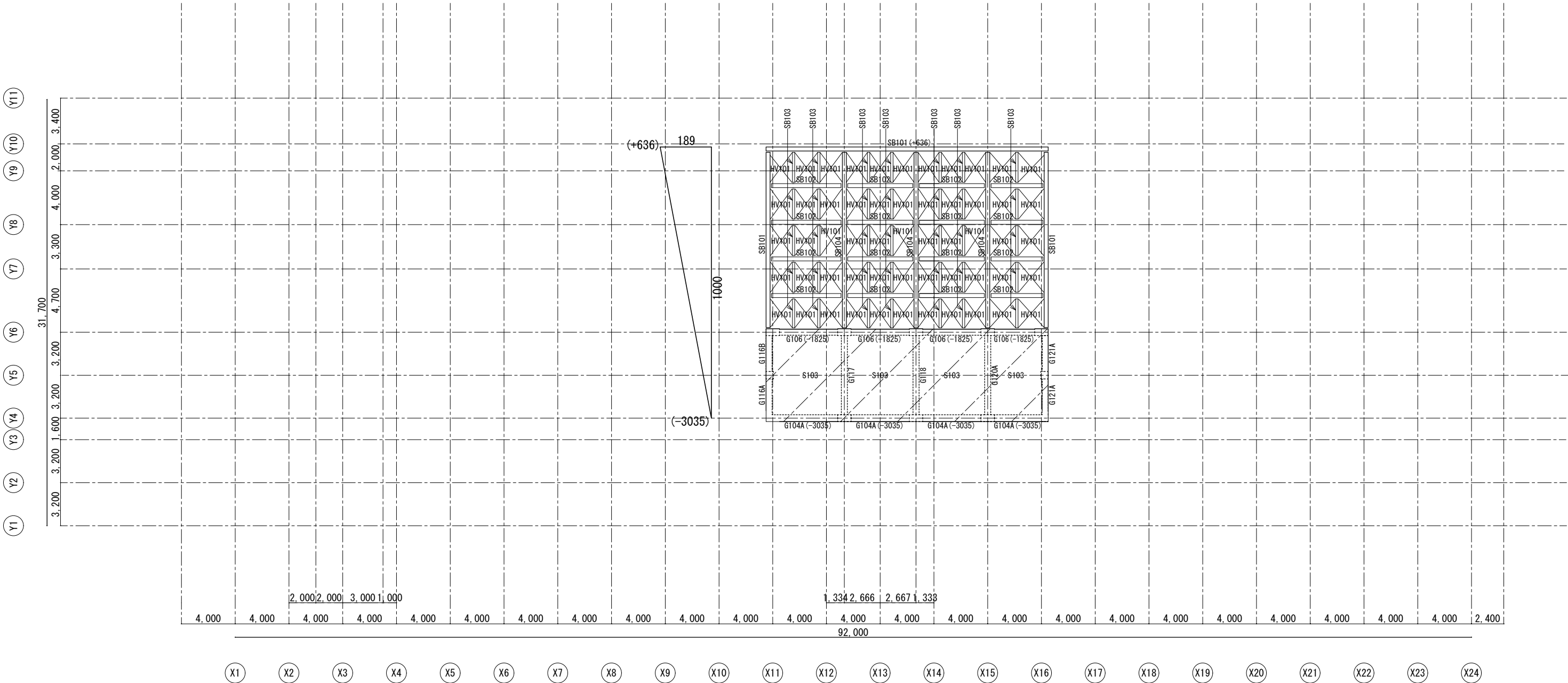
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 2FL=設計GL+5100 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
2FL-200 特記は 2FL[±*, ***] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
2FL-200 特記は 2FL(±*, ***) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ⊙ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 2階伏図	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-03
----	--	------------------------------	-----------------	----------------------------------	------------	----------------



- 屋根伏図 1
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 3FL=設計GL+8900 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
3FL-200 特記は 3FL[±*, ***] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
3FL-200 特記は 3FL(±*, ***) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ⊙ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 屋根伏図 1	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-04
----	--	------------------------------	-------------------	------------------------------------	------------	----------------

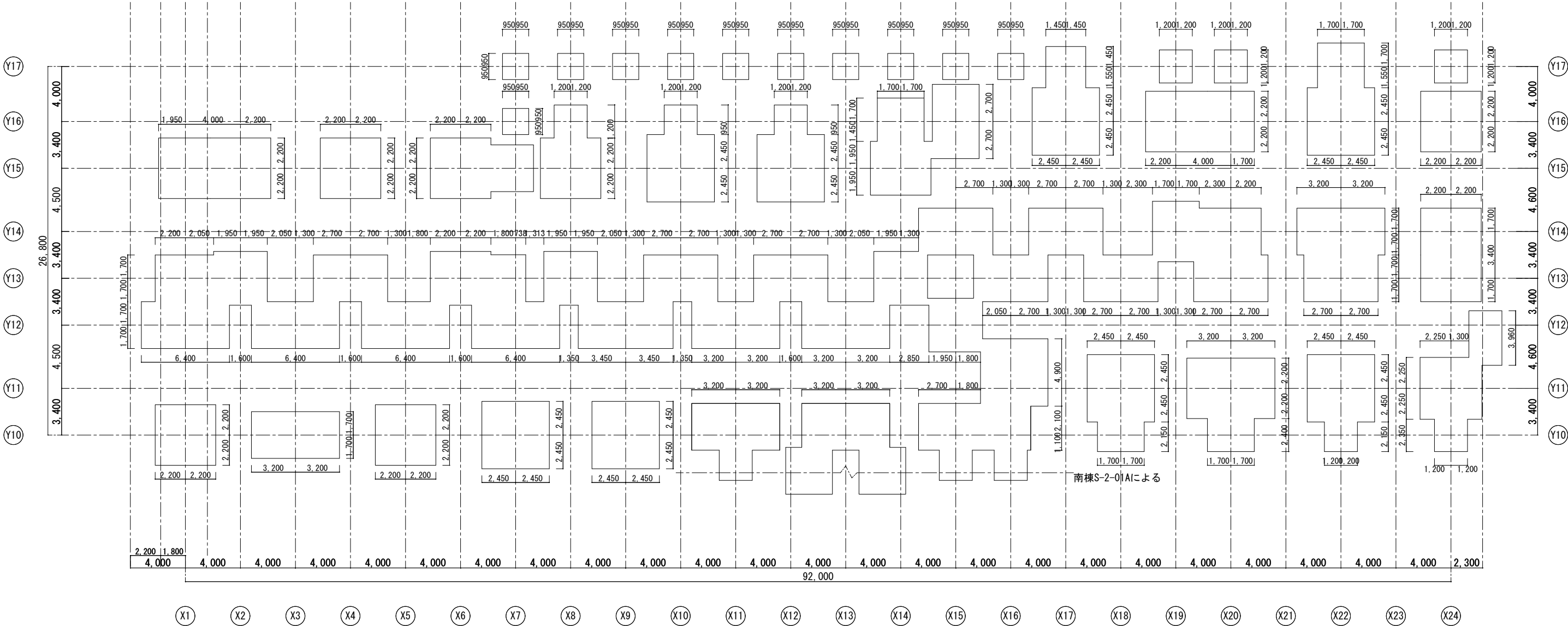


屋根伏図 2

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 4FL=設計GL+12700 とする。
- スラブ天端レベルは下記とする。
4FL-200 特記は 4FL[±*, ***] で示す。
- 梁天端レベルは下記とする。
4FL-200 特記は 4FL(±*, ***) で示す。
- スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
- ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ⊙ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 屋根伏図 2	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-05
----	--	---	------------------------------	-------------------	------------------------------------	------------	----------------



ラップコン伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- ラップコン下端レベルは下記とする。
GL-4,000 特記は 1FL {±*, **} で示す。
 - ラップコンクリートの寸法は基礎縁端から200mmとする。
 - ラップコンクリートはFc18とする。

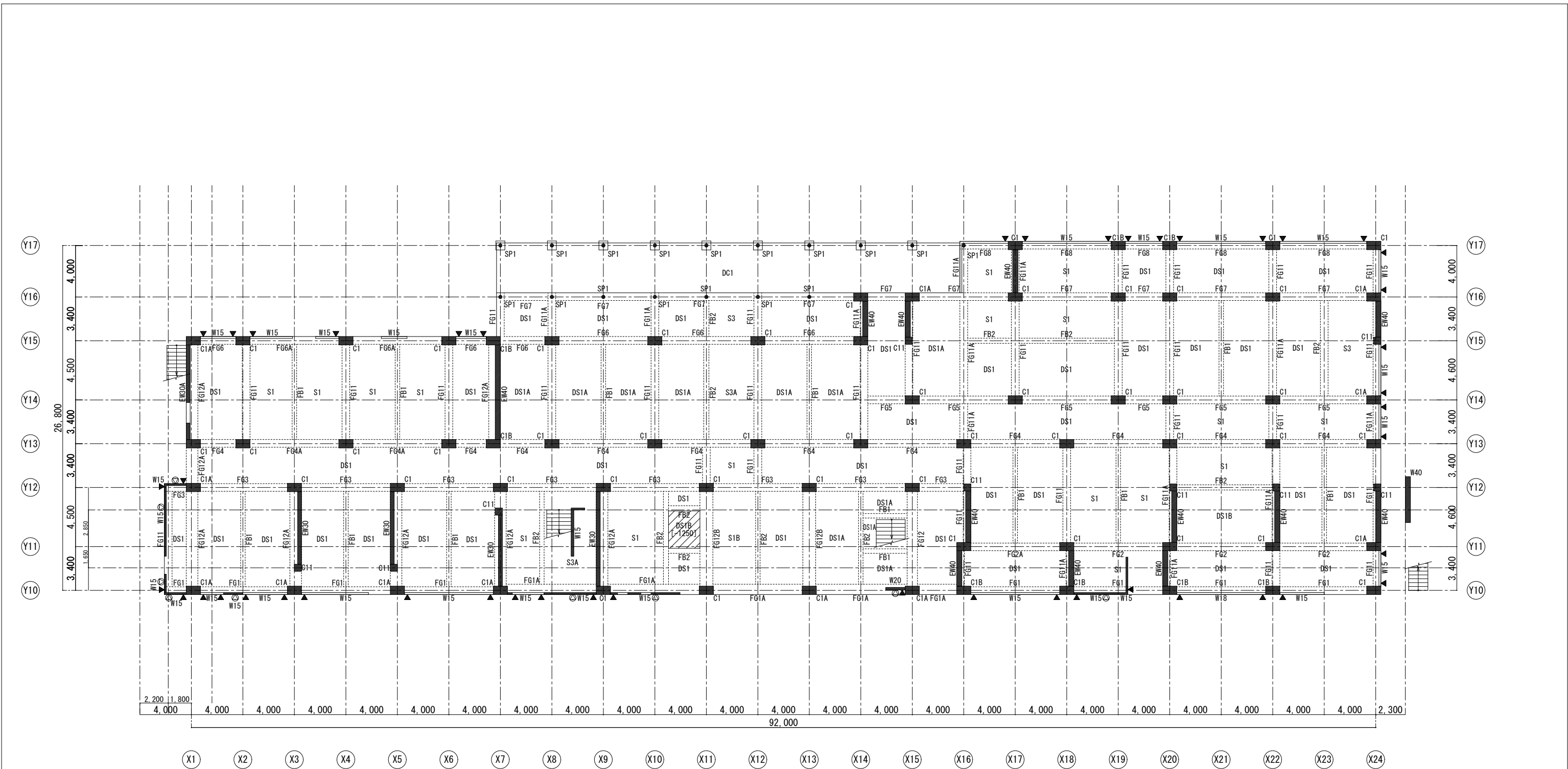
	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 ラップコン伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-06
--	----	--	------------------------------	--------------------	------------------------------------	------------	-----------------



基礎伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - ピットスラブ天端レベルは下記とする。
1FL-2,000 特記は 1FL[±*,***] で示す。
 - 基礎底レベルは下記とする。
1FL-2,300 特記は 1FL(±*,***) で示す。
 - 基礎の主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▨ は基礎打ち増し

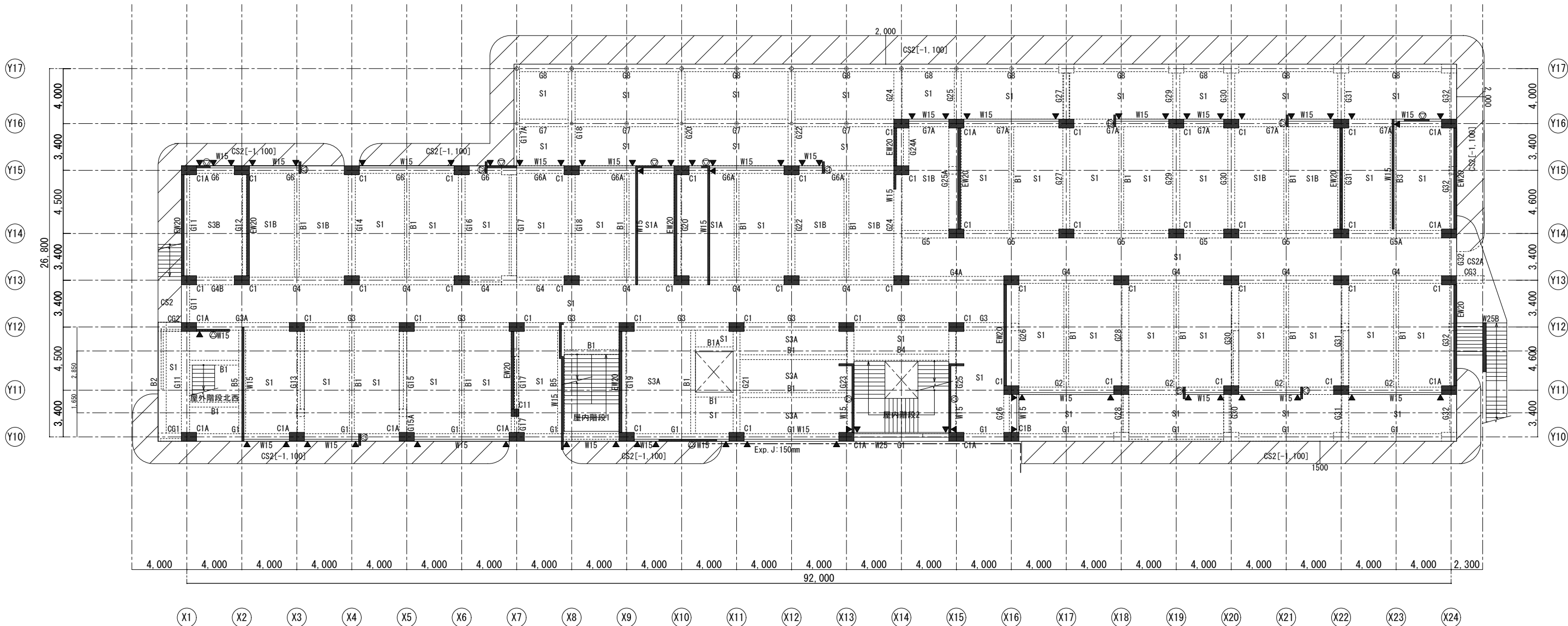
	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 基礎伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-07
--	----	--	------------------------------	-----------------	------------------------------------	------------	-----------------



1 階伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
1FL-200 特記は 1FL[±*, **] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
1FL-400 特記は 1FL(±*, **) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

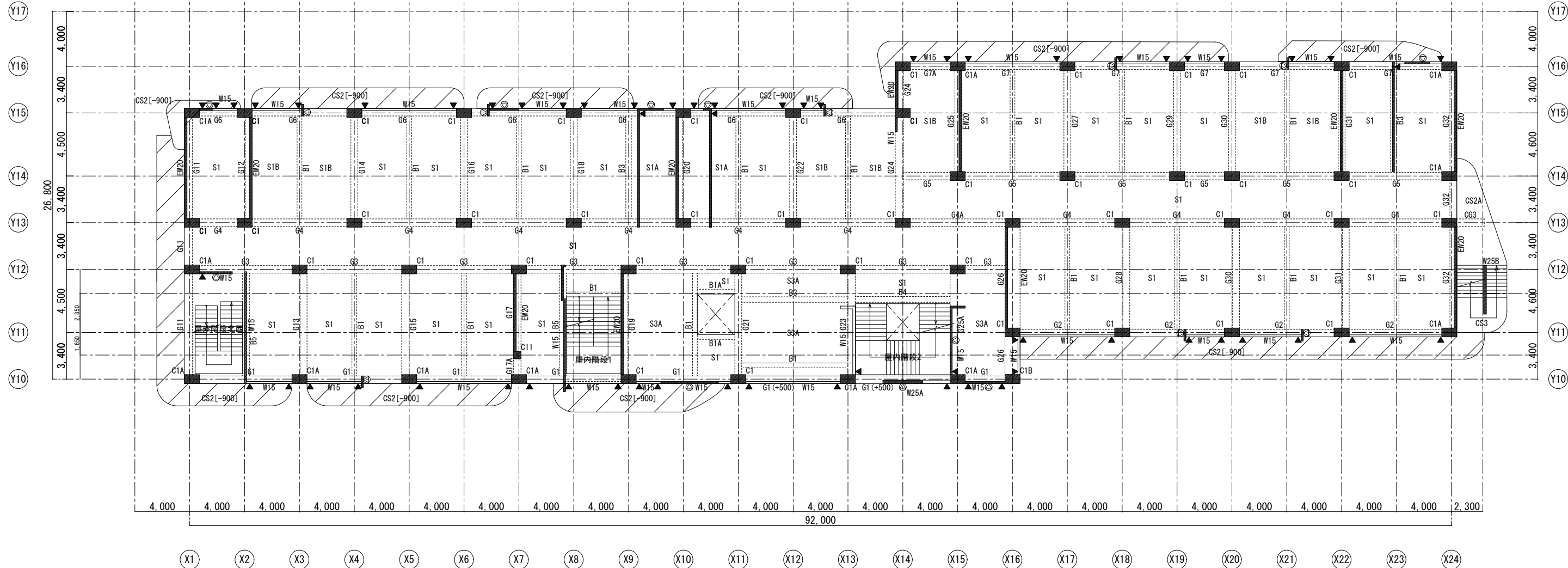
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 1階伏図	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-08
----	--	------------------------------	-----------------	----------------------------------	------------	-----------------



2階伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 2FL=設計GL+5100 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
2FL-200 特記は 2FL[±*, ***] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
2FL-200 特記は 2FL(±*, ***) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ㊦ で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

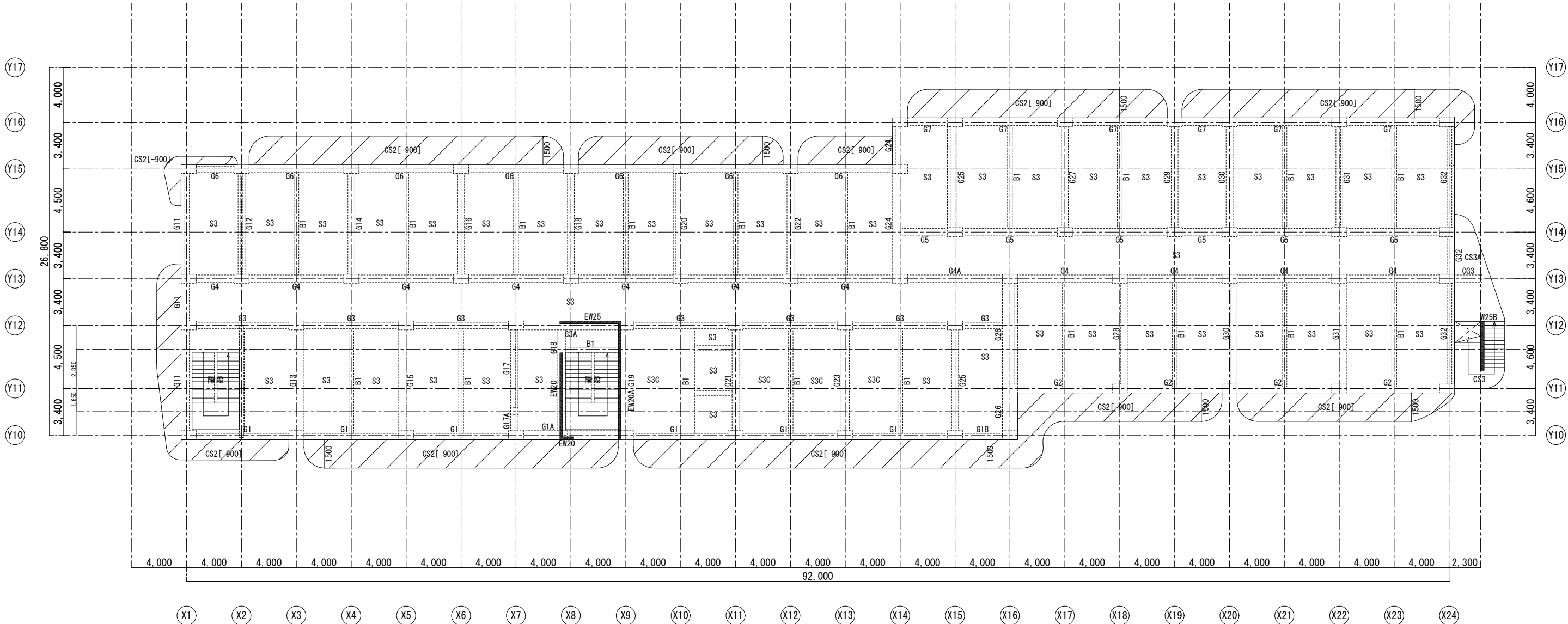
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 2階伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-09
----	--	------------------------------	-----------------	------------------------------------	------------	-----------------



3 階伏図

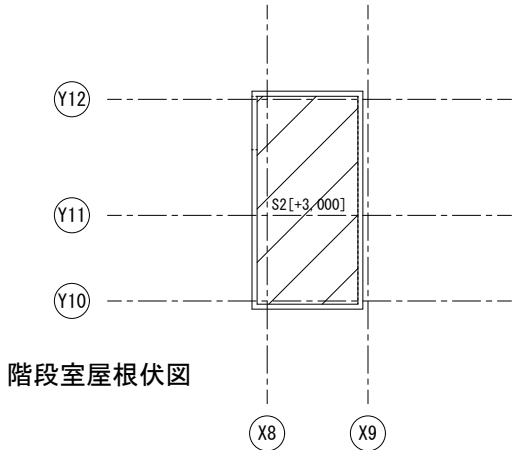
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 3FL=設計GL+8900 とする。
 - スラブ天端レベルは下記とする。
3FL-200 特記は 3FL[±*, **] で示す。
 - 梁天端レベルは下記とする。
3FL-200 特記は 3FL(±*, **) で示す。
 - スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
 - ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 3階伏図	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-10
----	---	------------------------------	-----------------	----------------------------------	------------	-----------------



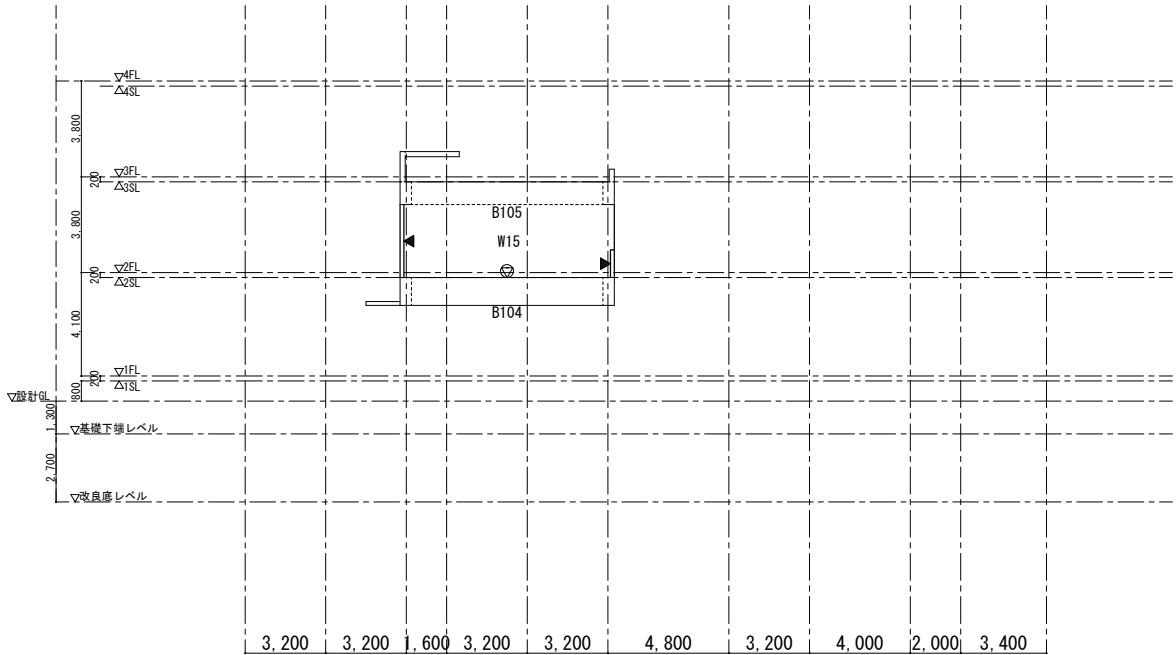
屋根伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
1. RFL=設計GL+16500 とする。
 2. スラブ天端レベルは下記とする。
RFL-200 特記は RFL[±*, ***] で示す。
 3. 梁天端レベルは下記とする。
RFL-200 特記は RFL(±*, ***) で示す。
 4. スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ㊦ で示す。
 5. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 6. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す



階段室屋根伏図

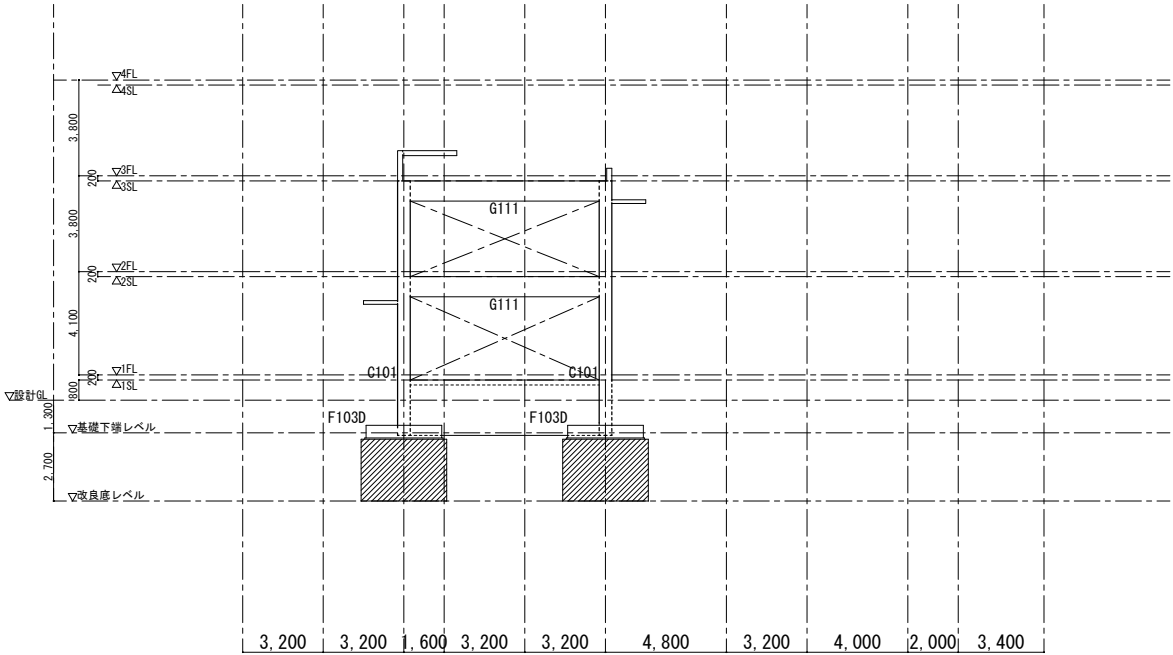
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 屋根伏図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-12
----	---	------------------------------	-----------------	------------------------------------	------------	-----------------



X2通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
 - 6. [格子] は梁打ち増しを示す

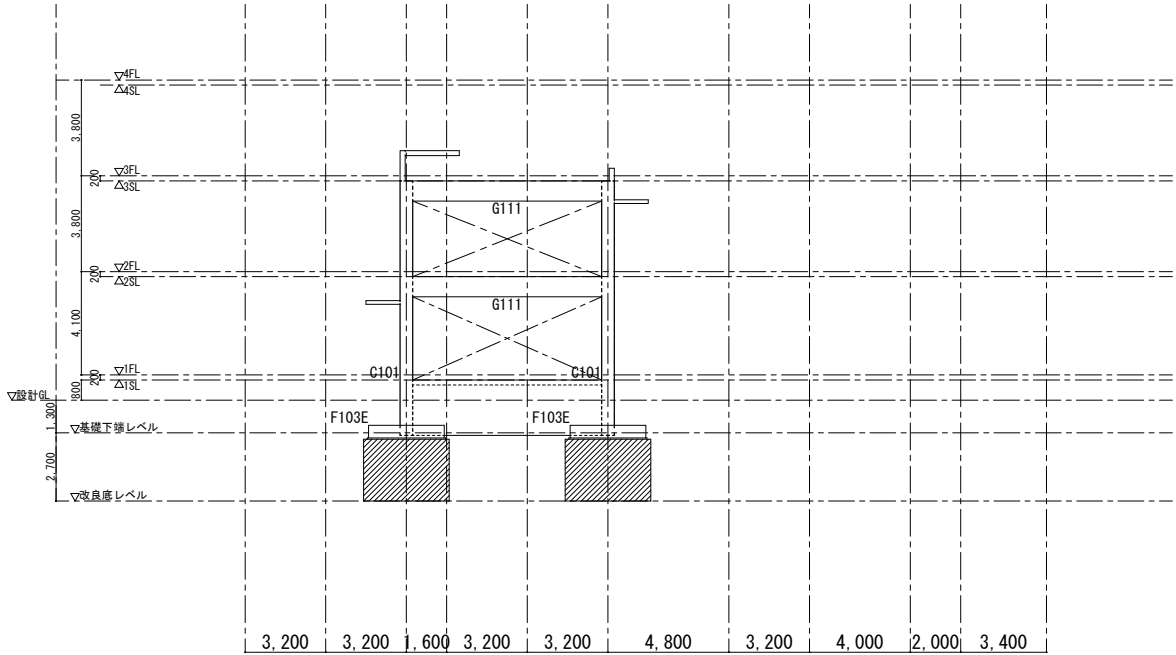
Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



X3-2000通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
 - 6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

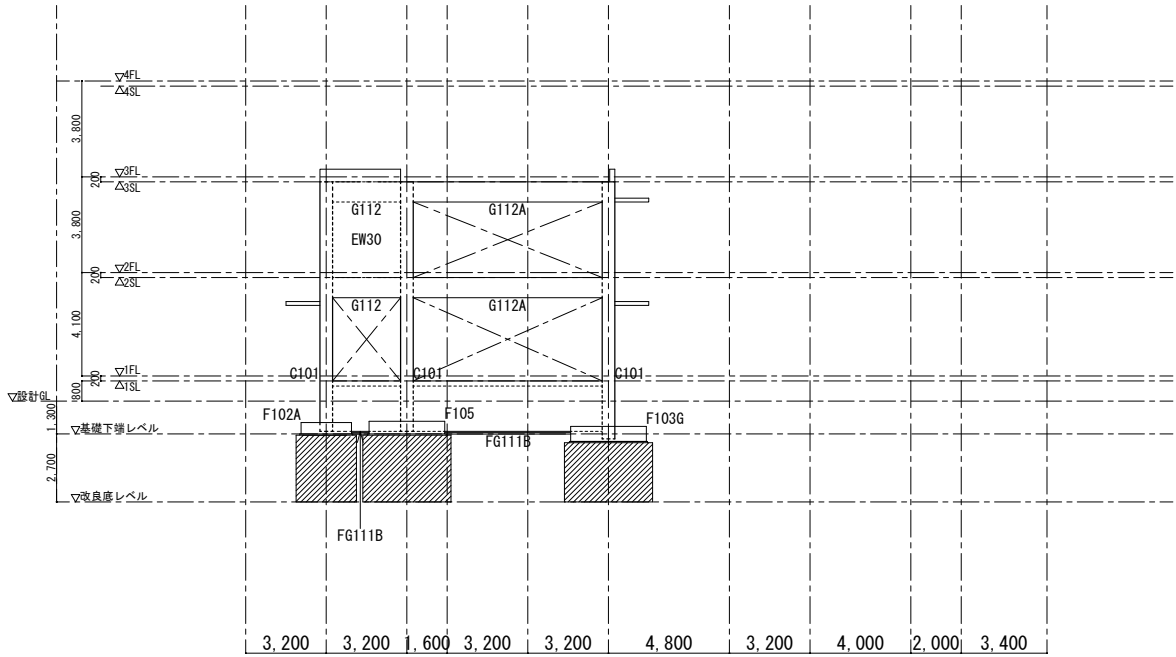


X4-1000通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
 - 6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

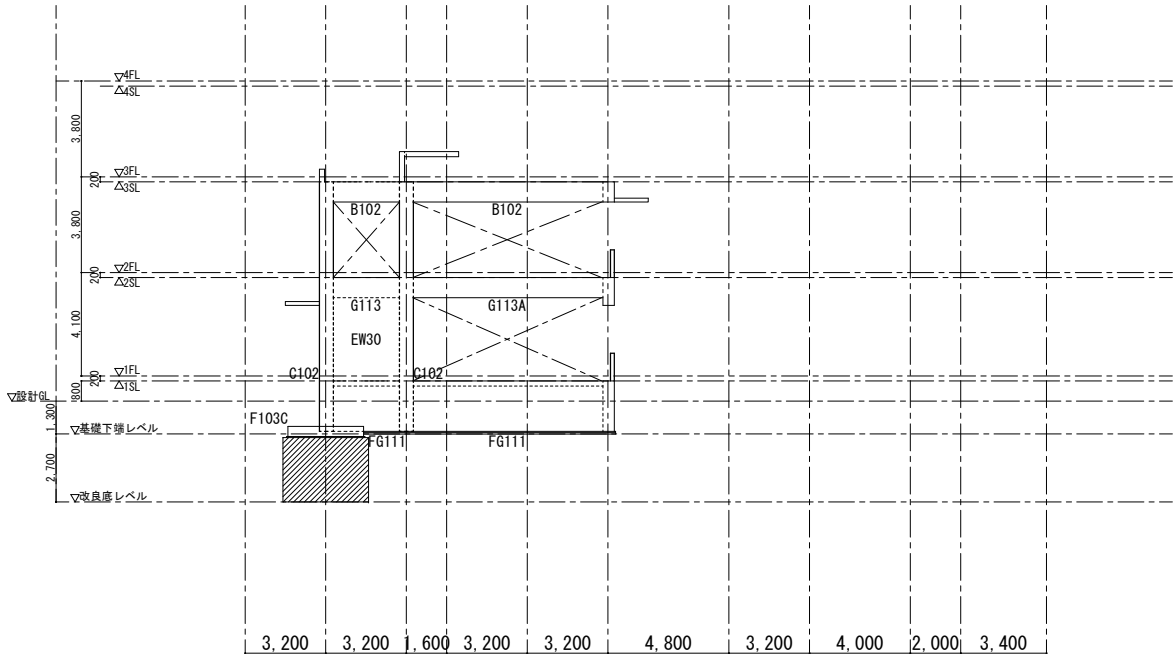
	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 X通り軸組図 (1)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-13
--	----	--	----------------------------------	---------------------------	------------------------------------	------------	----------------



X5通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

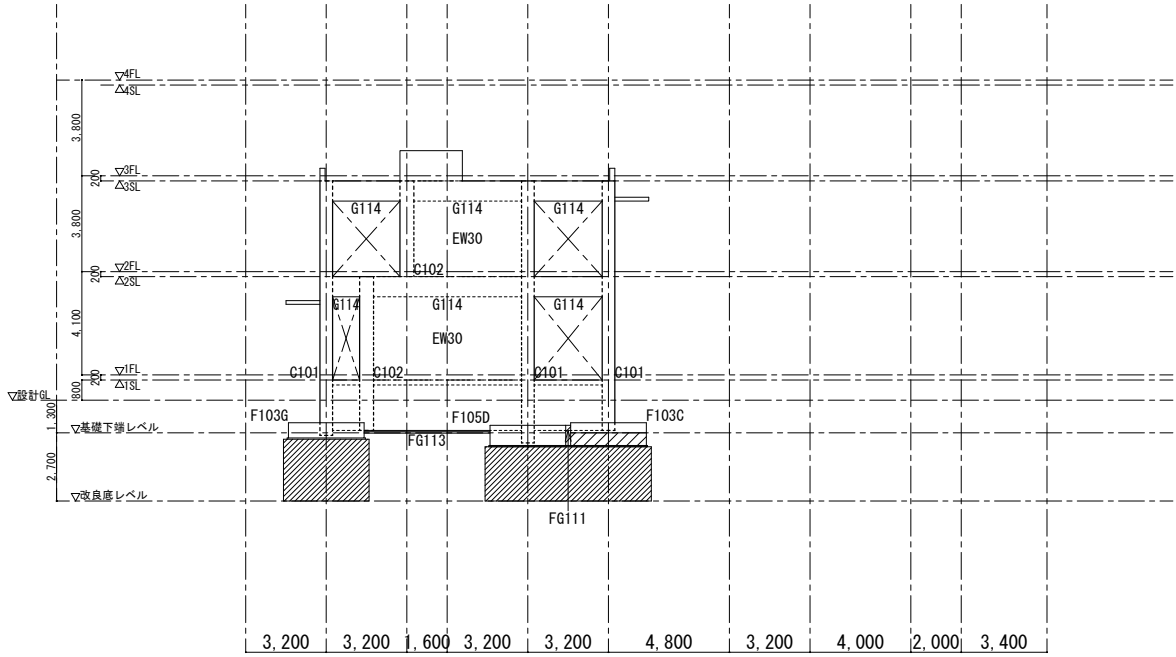
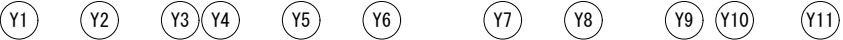
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す



X6通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

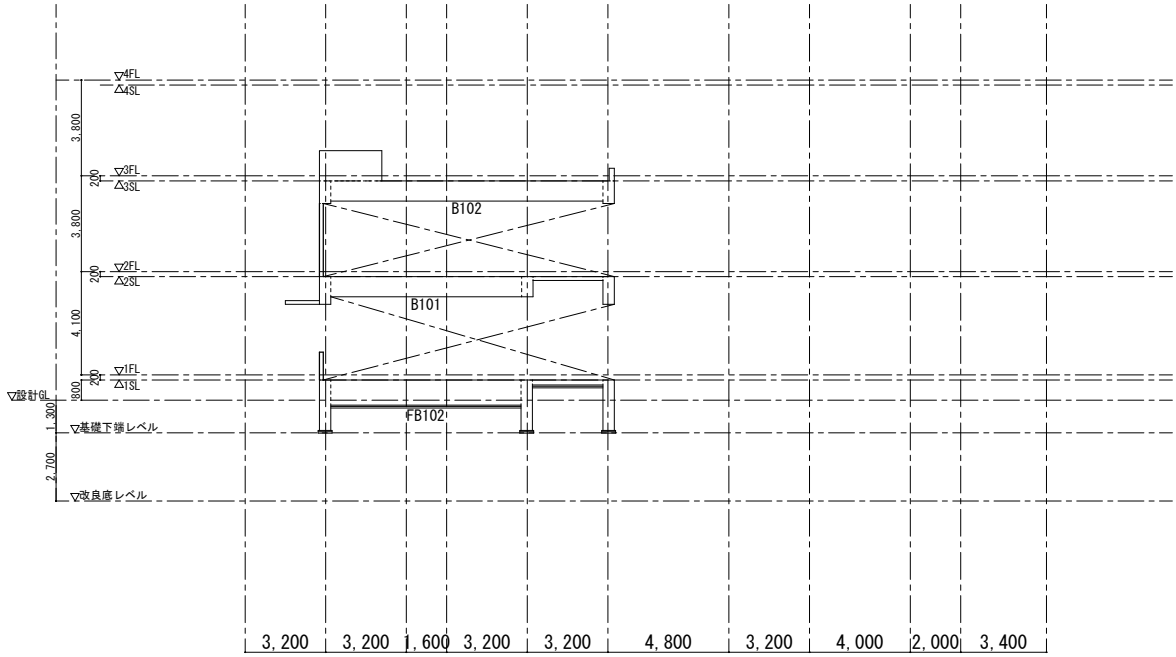
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す



X7通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す



X8通り軸組図

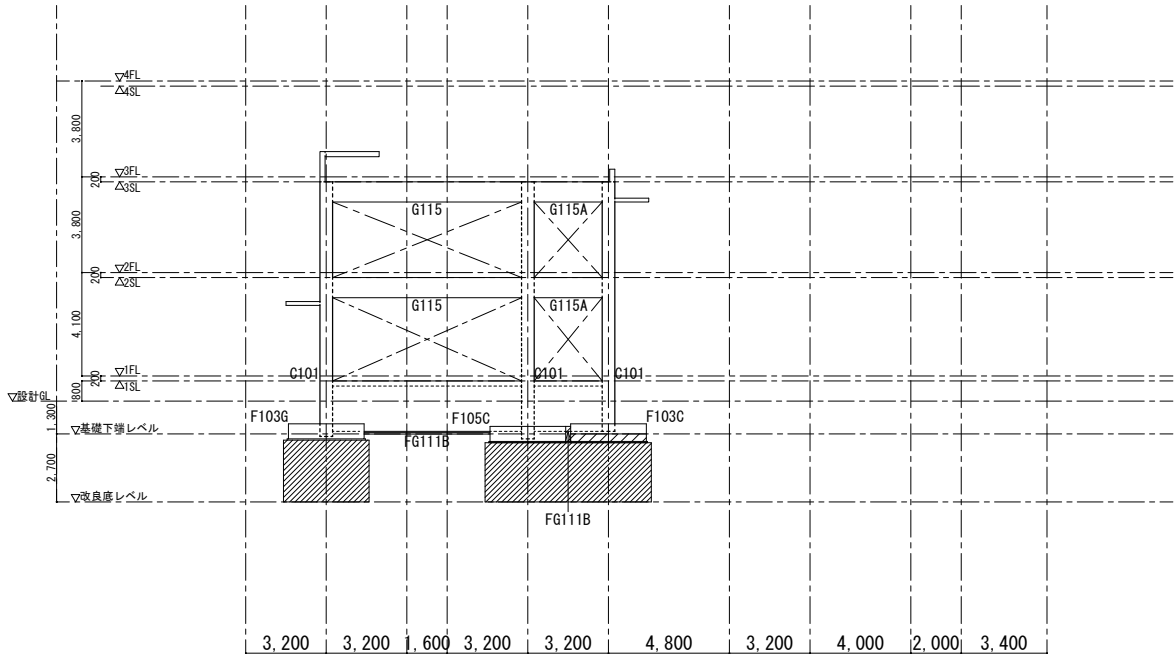
【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す



	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	断面内容 南棟 X通り軸組図 (2)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-14

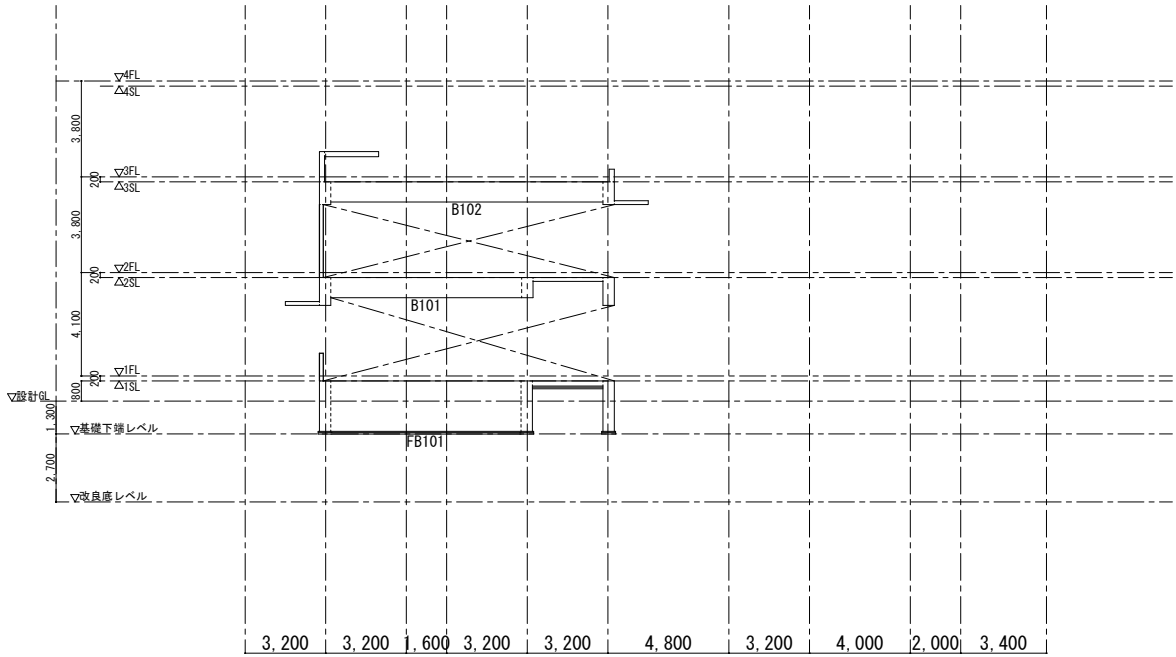
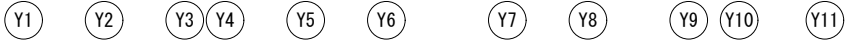
株式会社 構造計画プラス・ワン
東京都千代田区西船場8番地12 西野ビル3階
一級建築士事務所 東京都知事登録 第30886号
一級建築士 第317209号
構造設計一級建築士 第5450号 早稲倉 章悟



X9通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

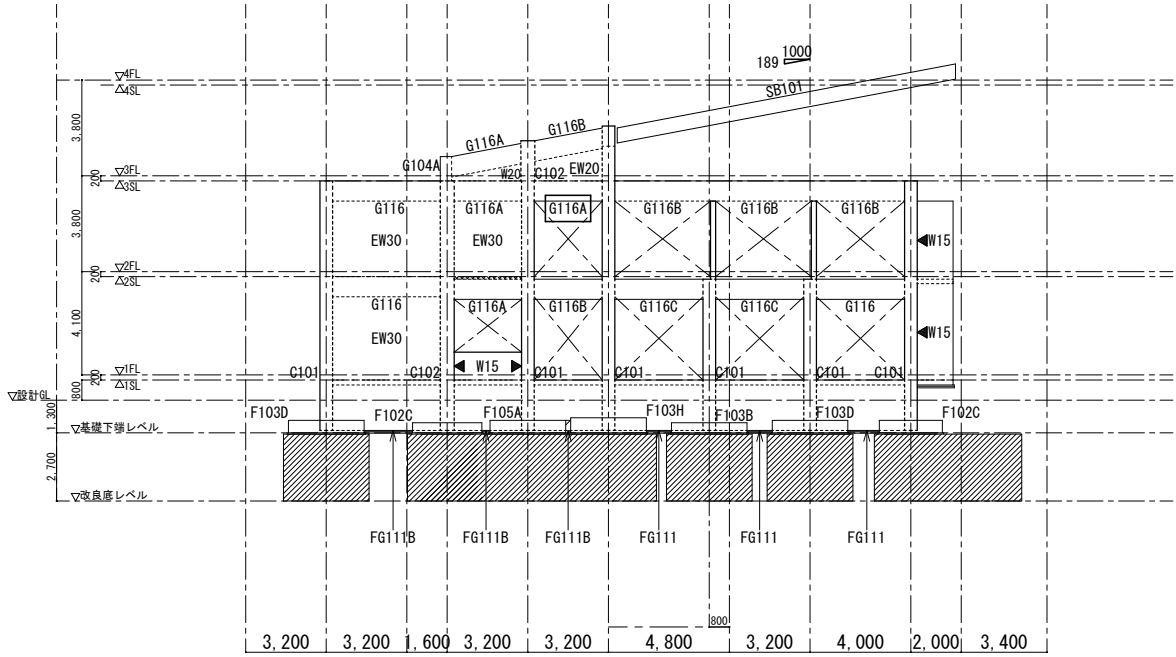
1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す



X10通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

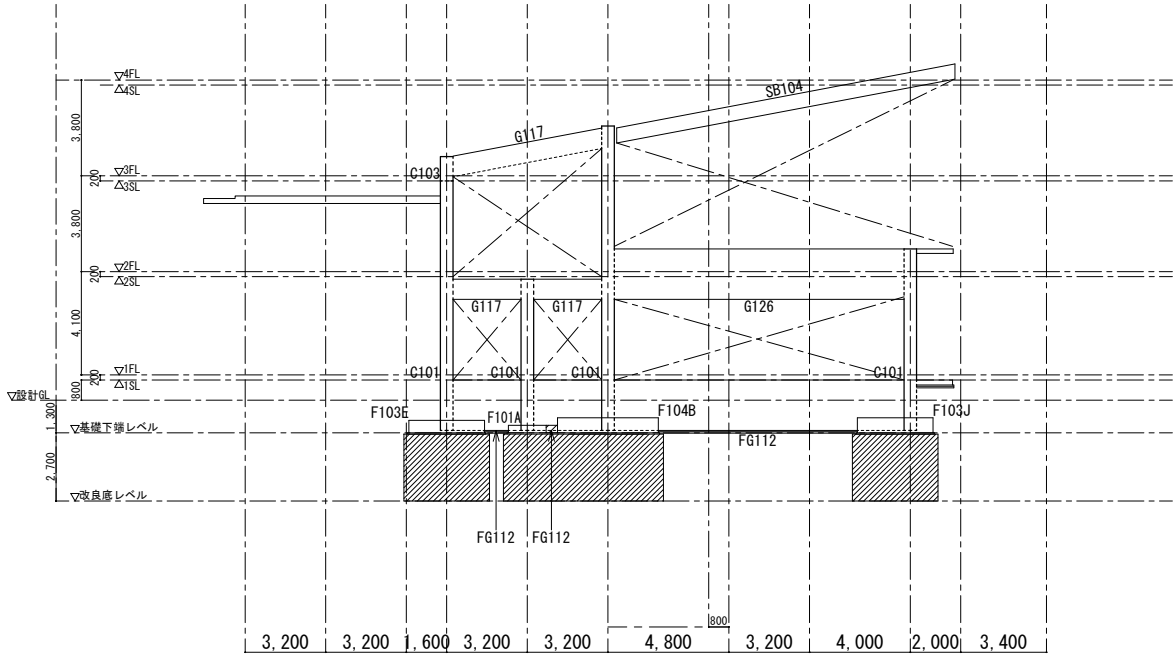
1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す



X11通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す



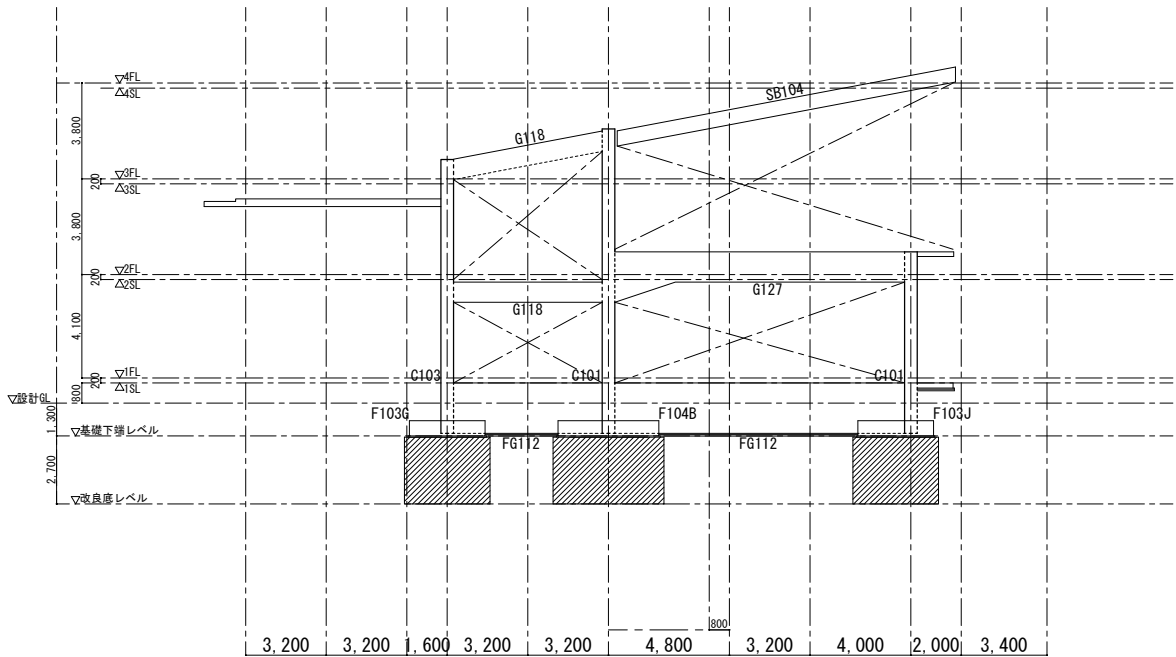
X12+1334通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す



備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 X通り軸組図 (3)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-15
----	--	----------------------------------	---------------------------	------------------------------------	------------	----------------

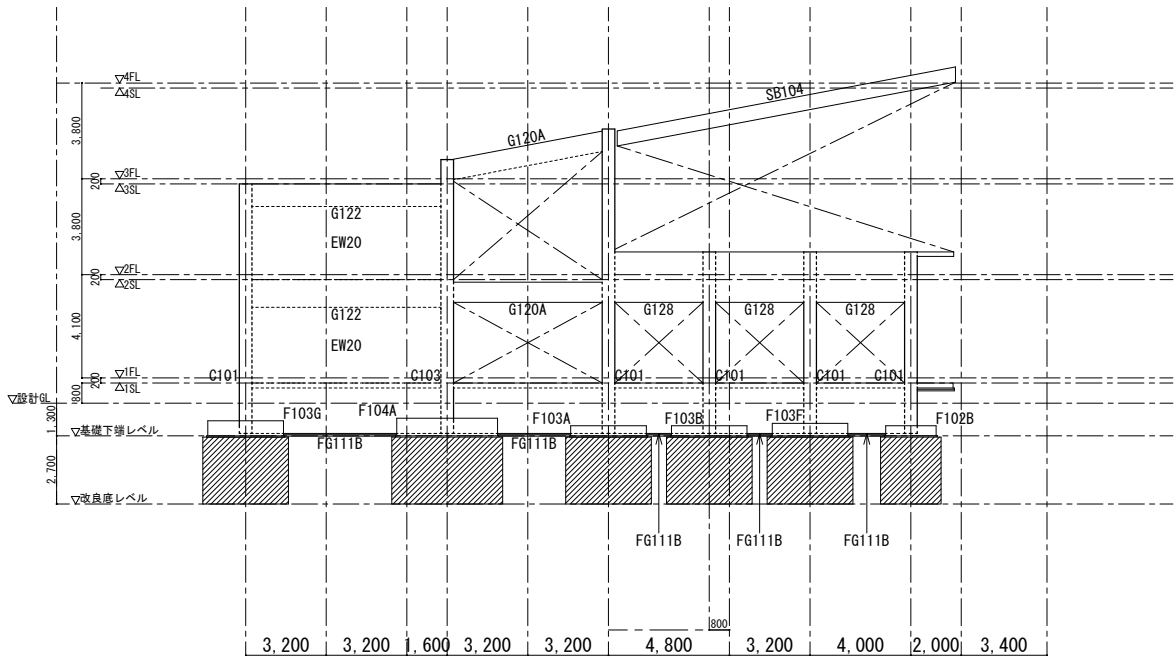


X13+2667通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩は基礎打ち増しを示す
- ▩は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

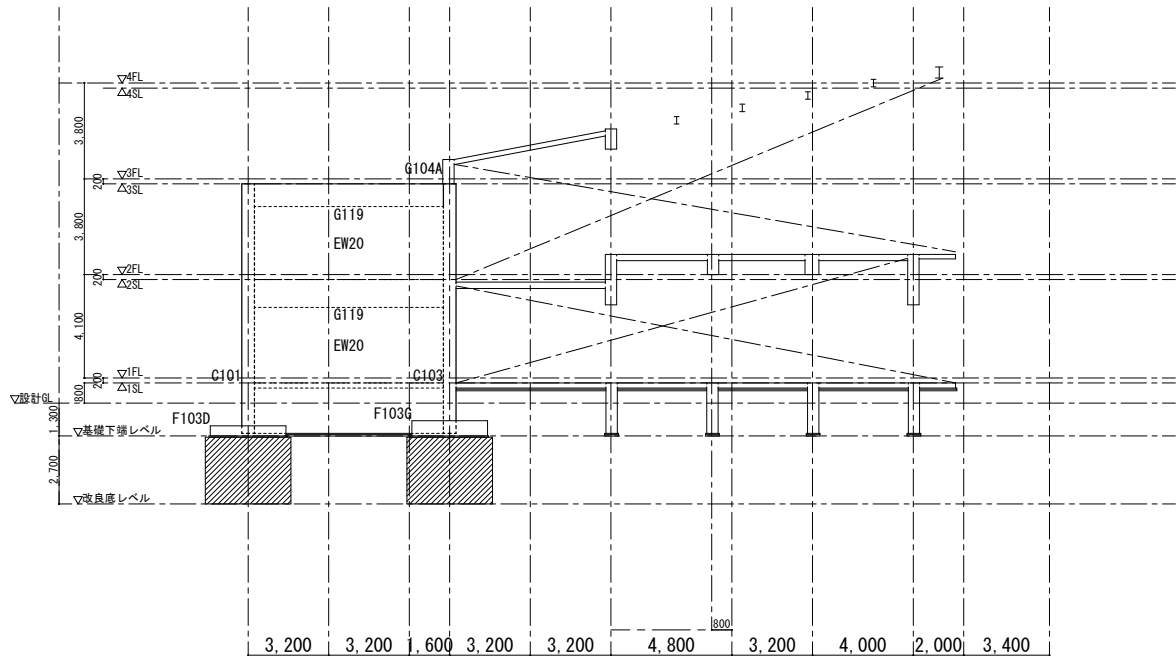


X15通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩は基礎打ち増しを示す
- ▩は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

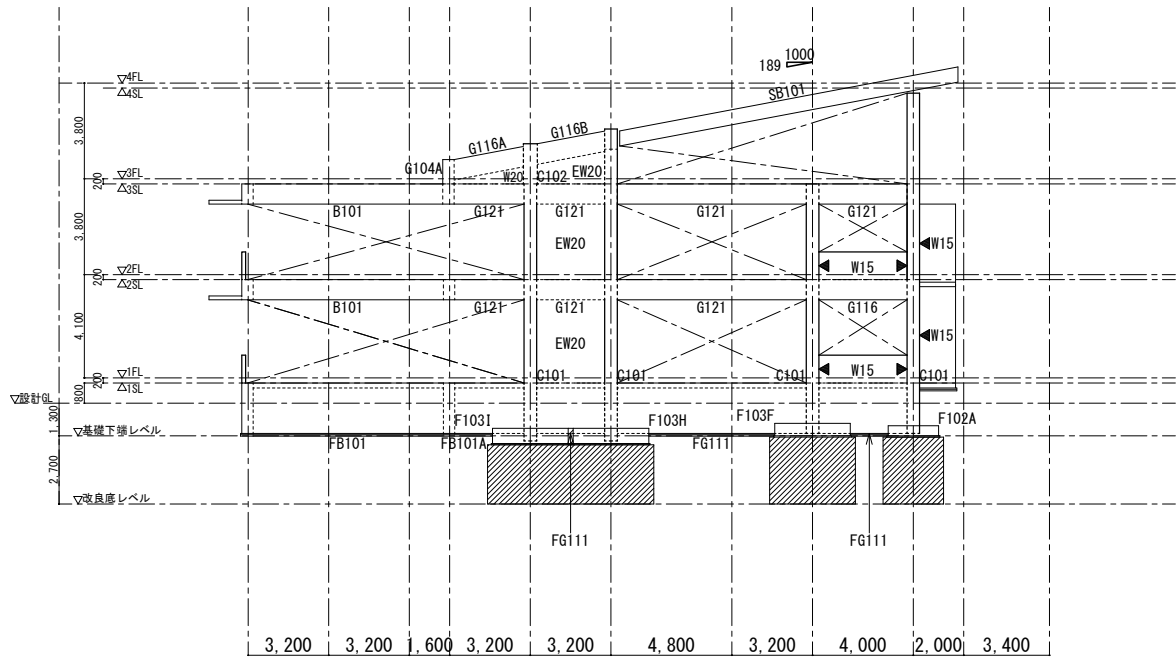


X14通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩は基礎打ち増しを示す
- ▩は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



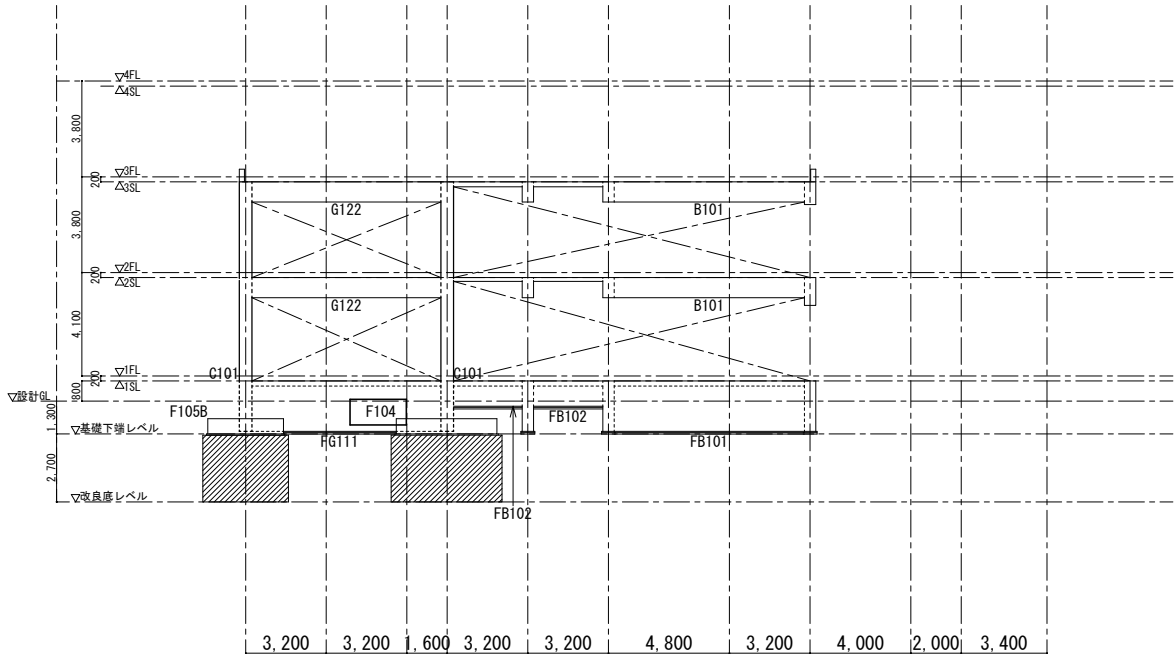
X16通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩は基礎打ち増しを示す
- ▩は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	断面内容 南棟 X通り軸組図 (4)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-16
----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	----------------

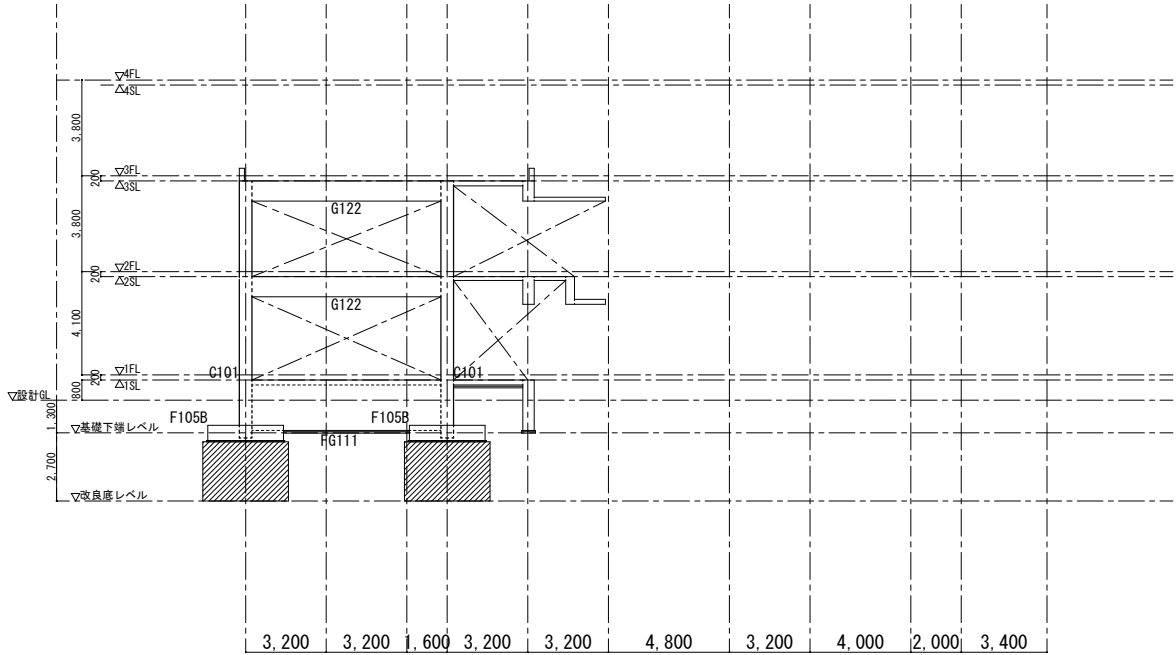


X17通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- はラップルコンクリート（FC18）を示す
- は基礎打ち増しを示す
- は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

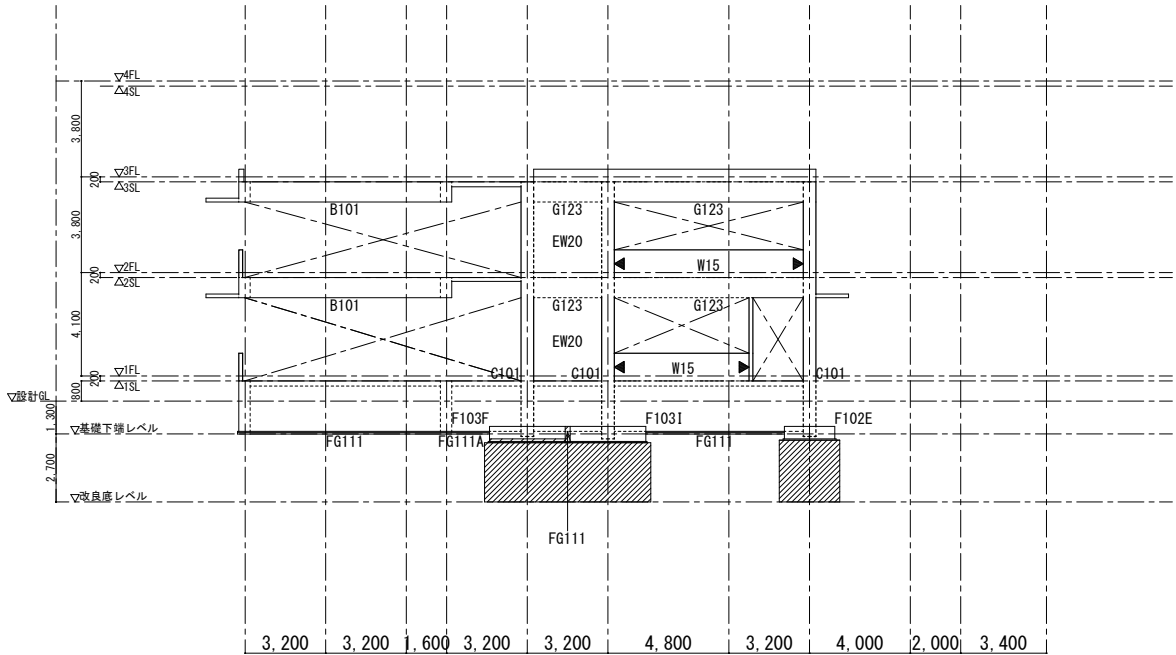


X19通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- はラップルコンクリート（FC18）を示す
- は基礎打ち増しを示す
- は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

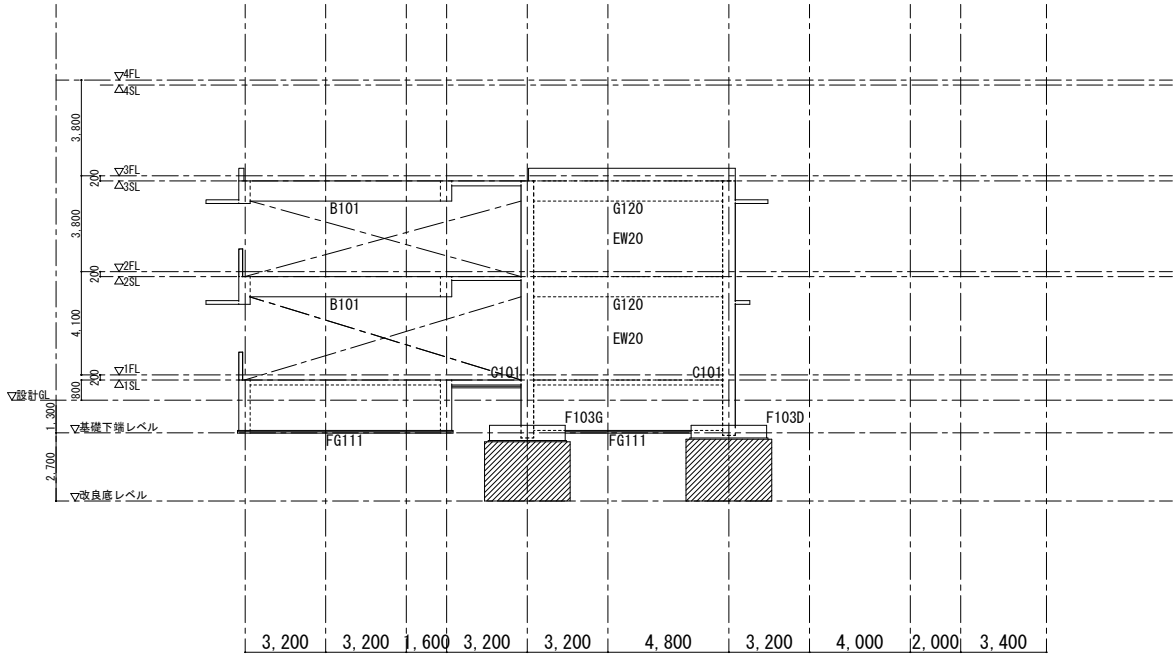


X18通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- はラップルコンクリート（FC18）を示す
- は基礎打ち増しを示す
- は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



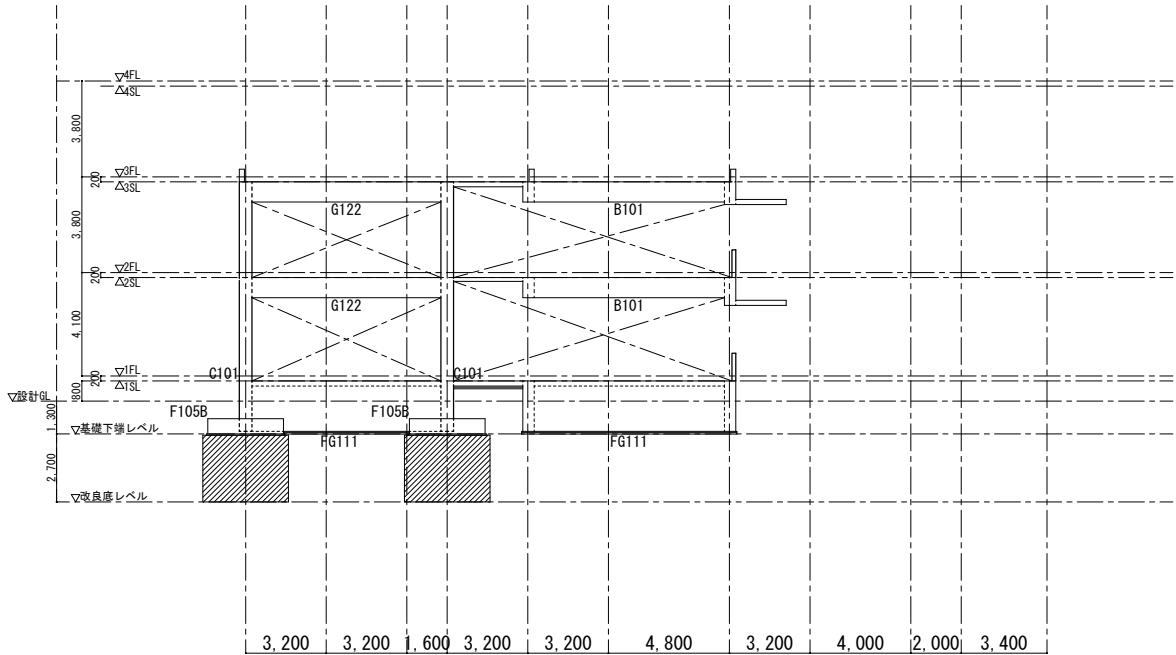
X20通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- はラップルコンクリート（FC18）を示す
- は基礎打ち増しを示す
- は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	断面内容 南棟 X通り軸組図 (5)	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-17
--	----	--	------------------------------	-----------------------	----------------------------------	------------	----------------



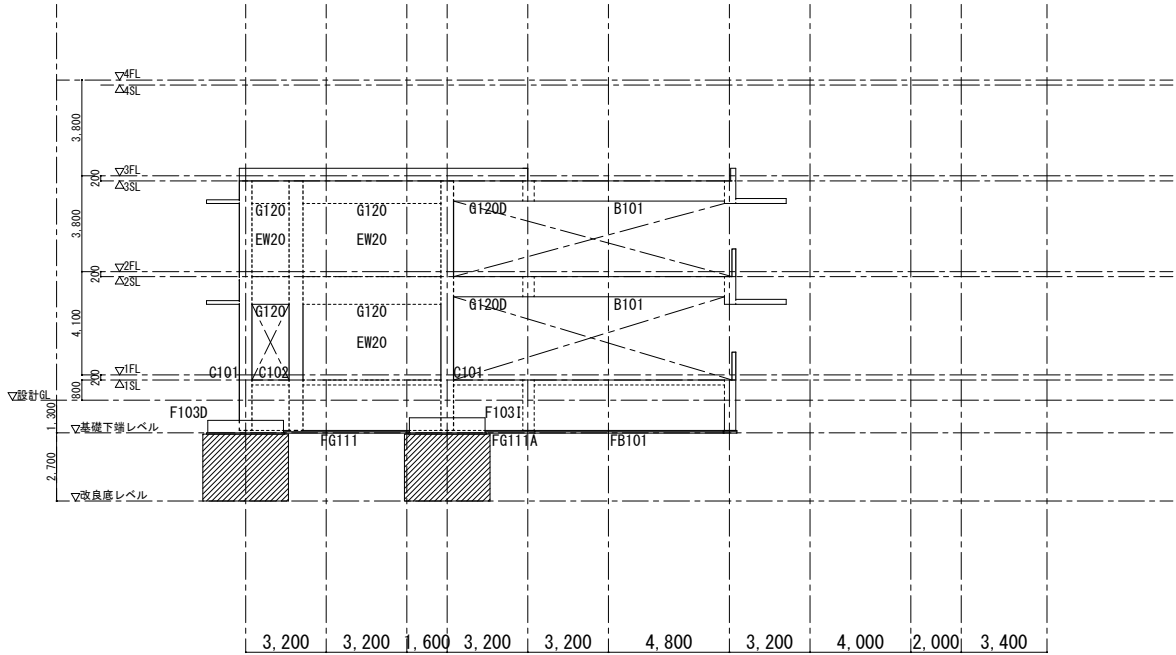
X21通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



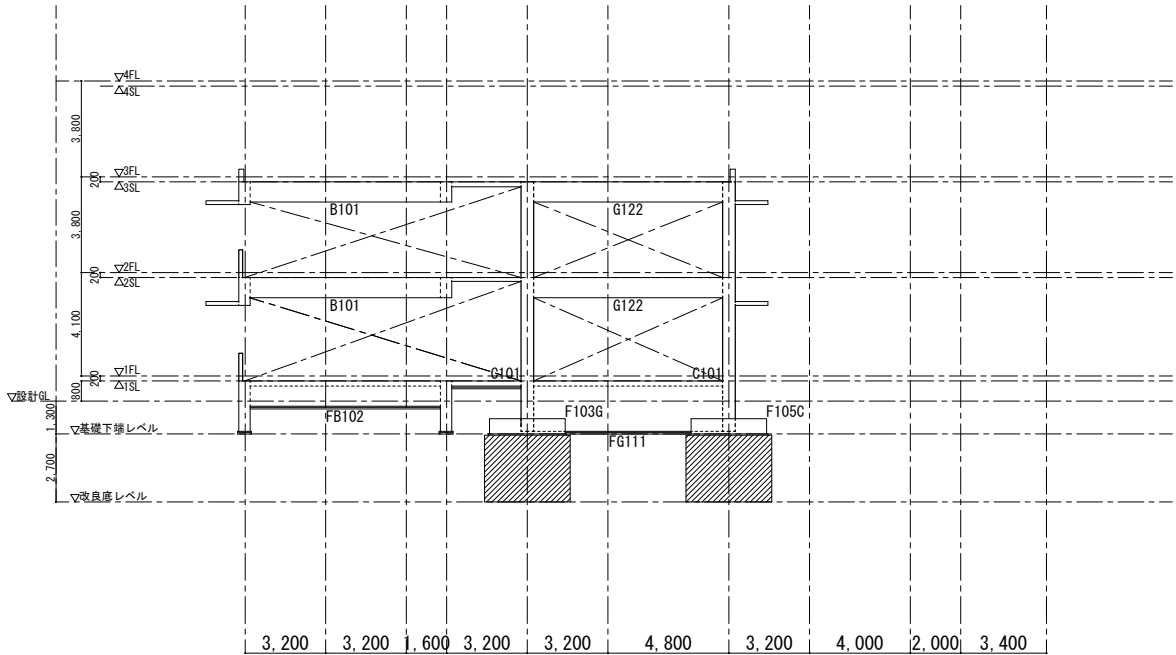
X23通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



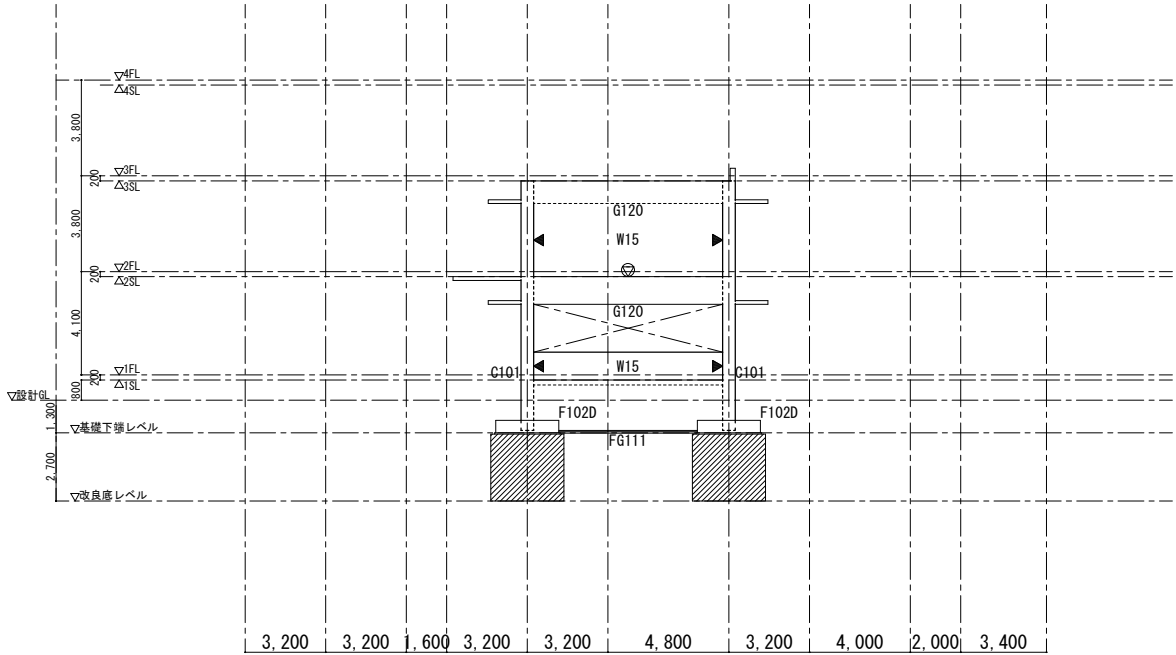
X22通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11



X24通り軸組図

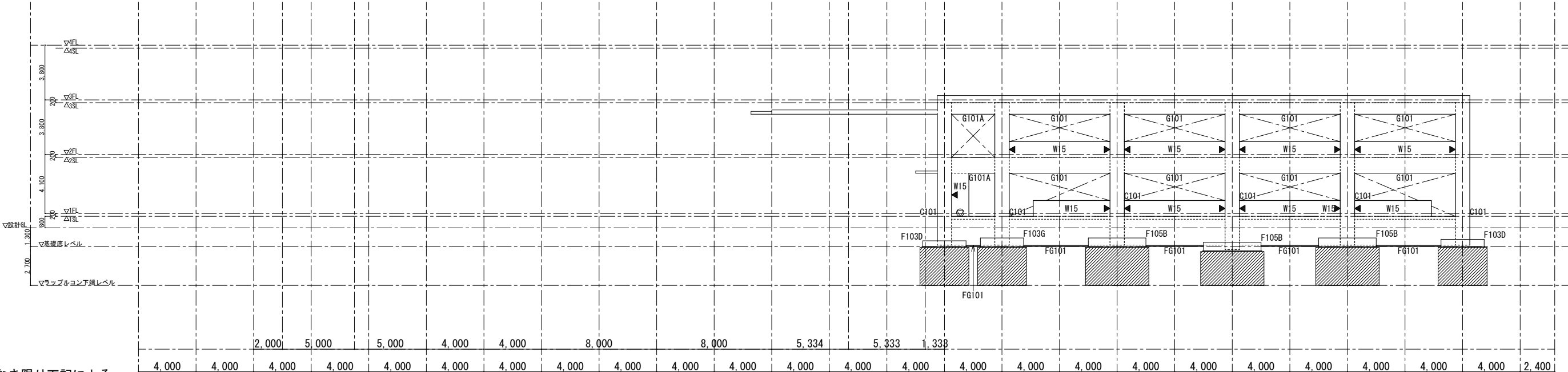
【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
6. [格子] は梁打ち増しを示す

Y1 Y2 Y3 Y4 Y5 Y6 Y7 Y8 Y9 Y10 Y11

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	断面内容 南棟 X通り軸組図 (6)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-18
--	----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	----------------



Y1通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す

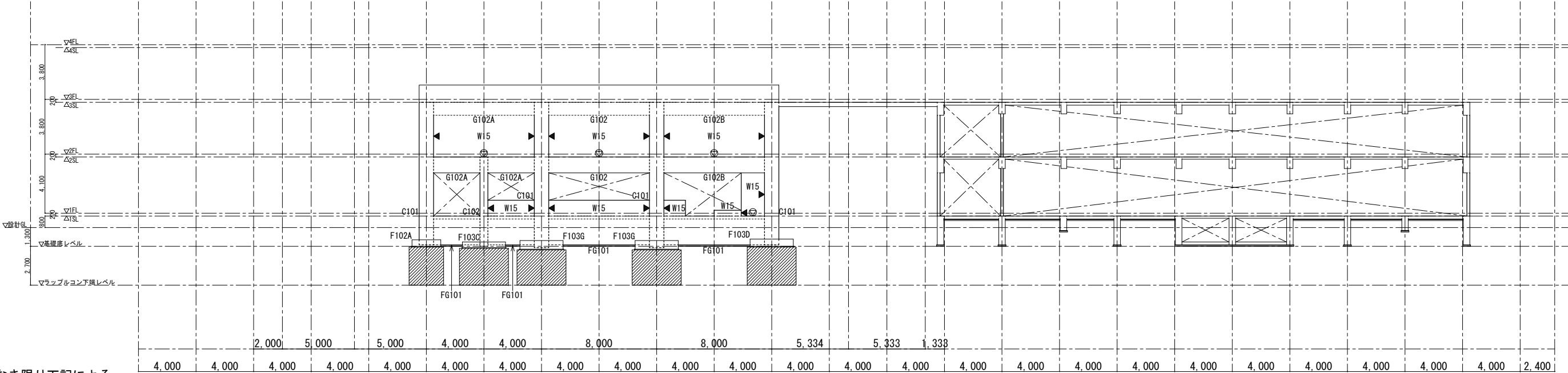
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す

5. [斜線] は基礎打ち増しを示す

6. [格子] は梁打ち増しを示す

X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10 X11 X12 X13 X14 X15 X16 X17 X18 X19 X20 X21 X22 X23 X24



Y2通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60

2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す

3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す

4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す

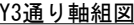
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す

6. [格子] は梁打ち増しを示す

X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10 X11 X12 X13 X14 X15 X16 X17 X18 X19 X20 X21 X22 X23 X24

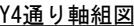
備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 Y通り軸組図 (1)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-19
----	--	---	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	----------------

株式会社 構造計画プラス・ワン
東京都千代田区柳町8番地12 西野ビル3階
一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第30886号
一級建築士 第317208号
構造設計一級建築士 第5450号 早稲倉 章悟



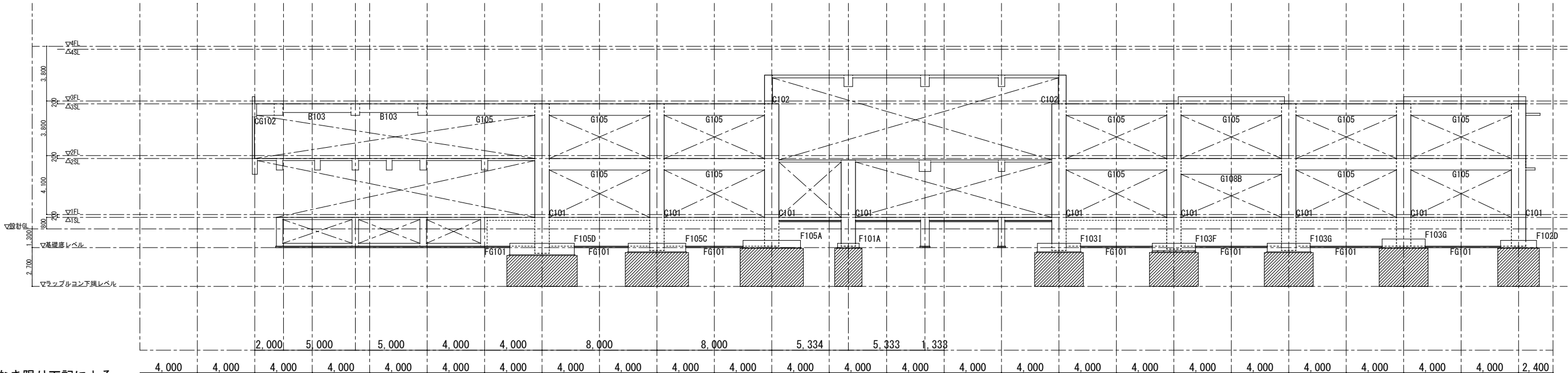
【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. ■ はラップコンクリート (FC18) を示す
5. ▨ は基礎打ち増しを示す
6. ▩ は梁打ち増しを示す



【注記事項】 特記なき限り下記による。

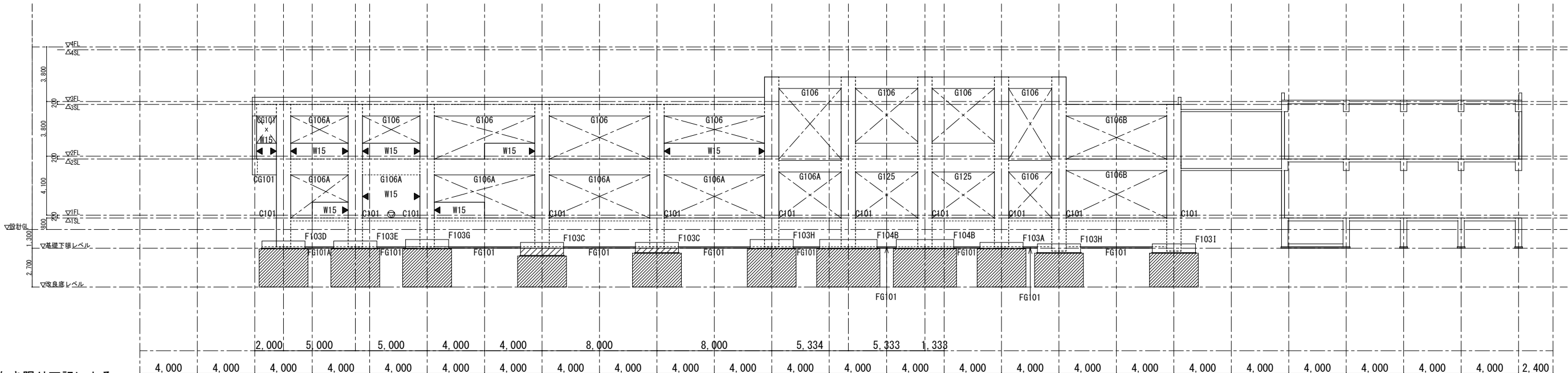
1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4.  はラッフルコンクリート (FC18) を示す
5.  は基礎打ち増しを示す
6.  は梁打ち増しを示す



Y5通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨ はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩ は基礎打ち増しを示す
- ▩ は梁打ち増しを示す

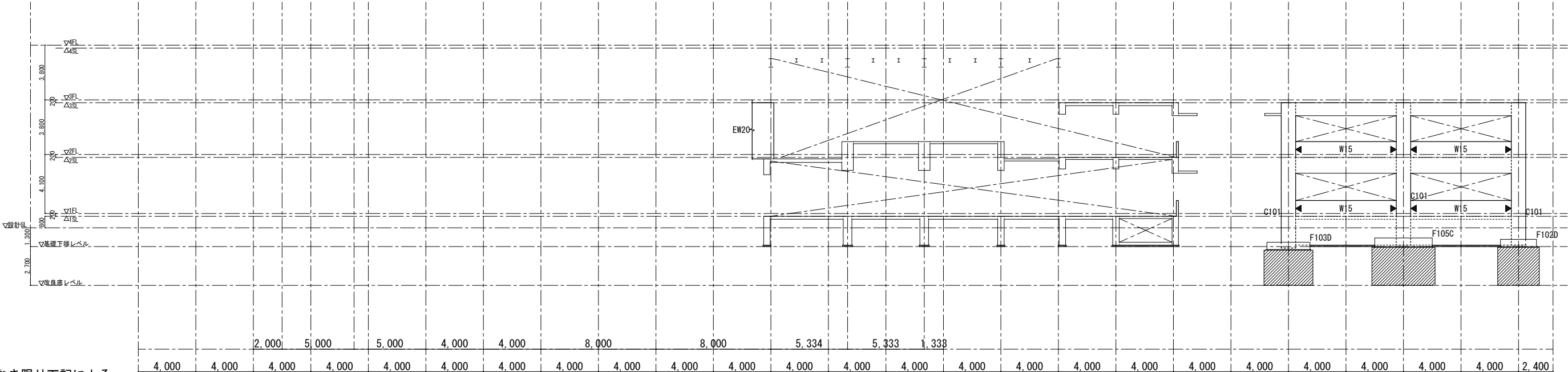


Y6通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨ はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▩ は基礎打ち増しを示す
- ▩ は梁打ち増しを示す

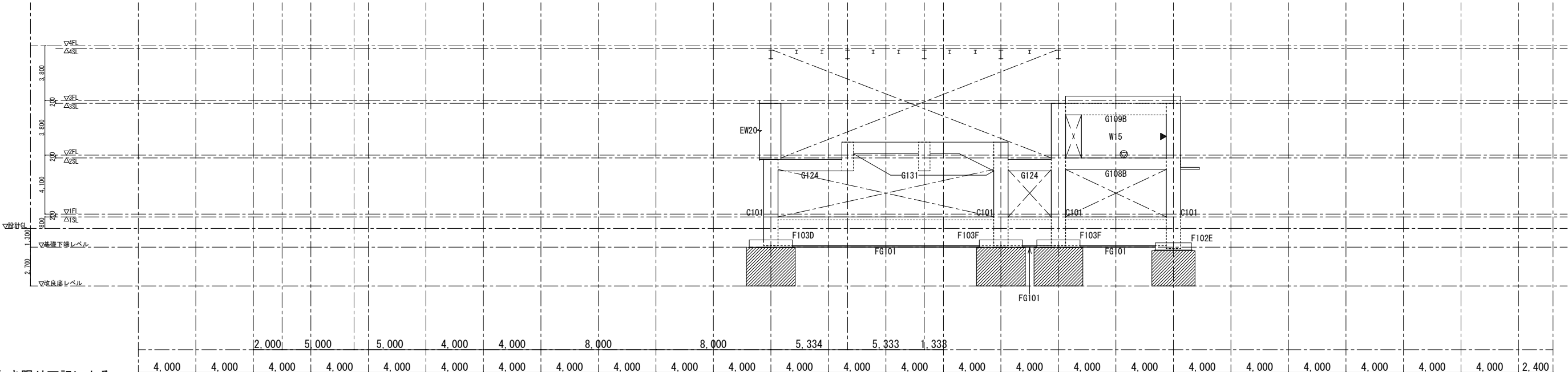
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 Y通り軸組図 (3)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-21
----	---	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	----------------



Y7通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す



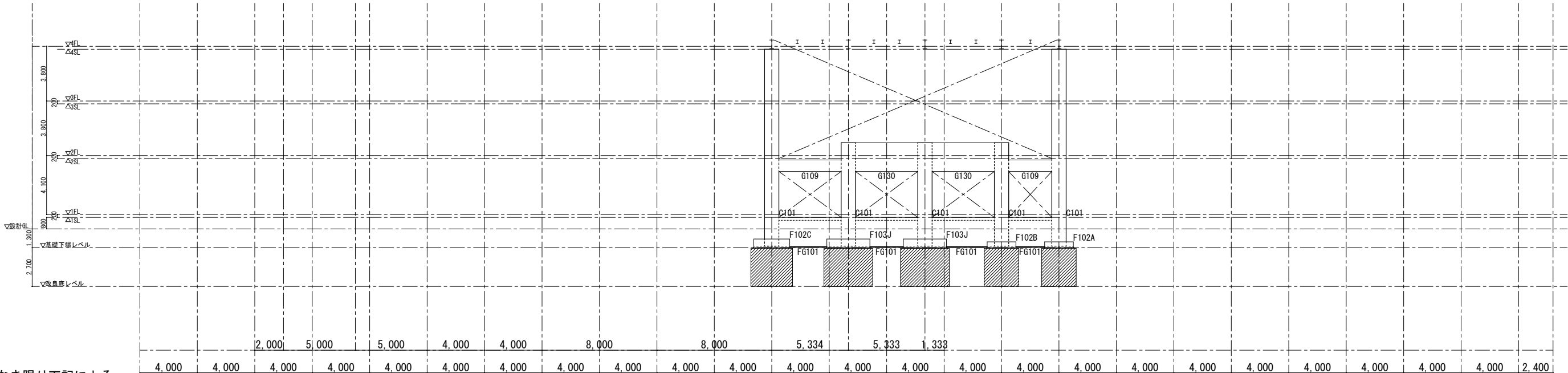
Y8通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
- 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す
- 6. [格子] は梁打ち増しを示す

株式会社 構造計画プラス・ワン
東京都千代田区西船場6番地13 西野ビル3階
一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第30886号
一級建築士 第317209号
構造設計一級建築士 第5450号 早稲倉 章 悟

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 Y通り軸組図 (4)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-2-22
--	----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	----------------

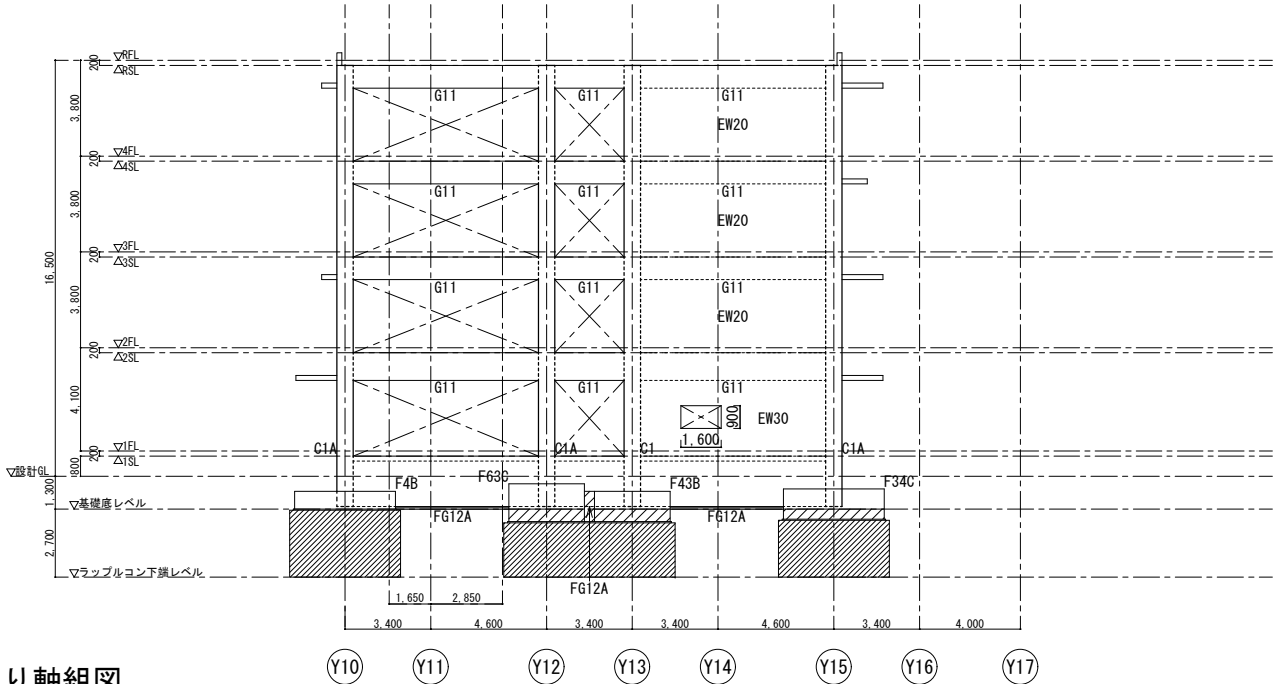


Y9通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

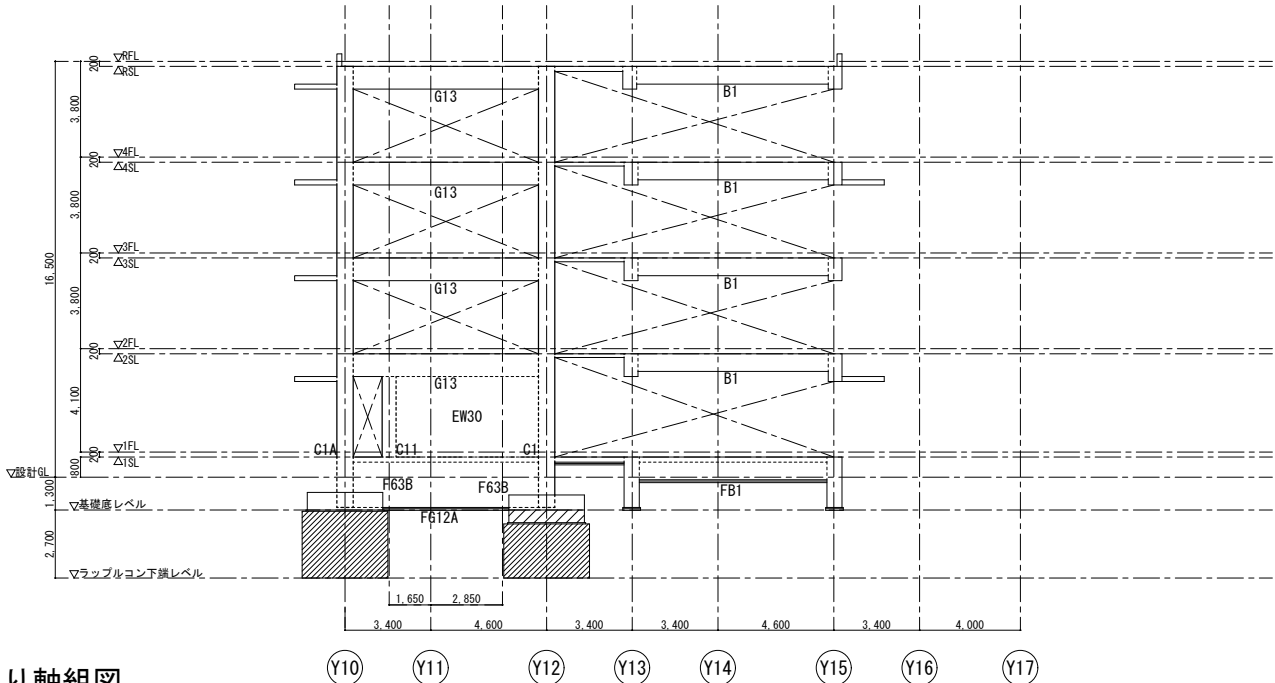
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
- ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
- ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
- ▨ はラップルコンクリート（FC18）を示す
- ▧ は基礎打ち増しを示す
- ▩ は梁打ち増しを示す

X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10 X11 X12 X13 X14 X15 X16 X17 X18 X19 X20 X21 X22 X23 X24



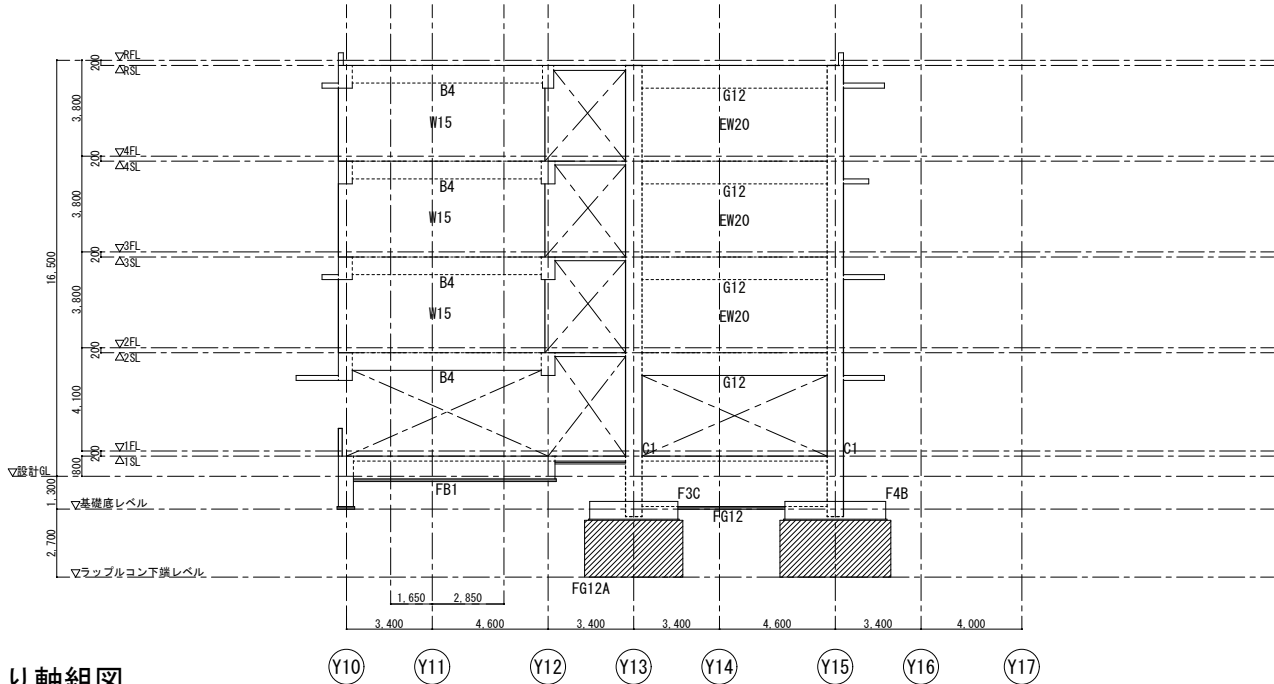
X1通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



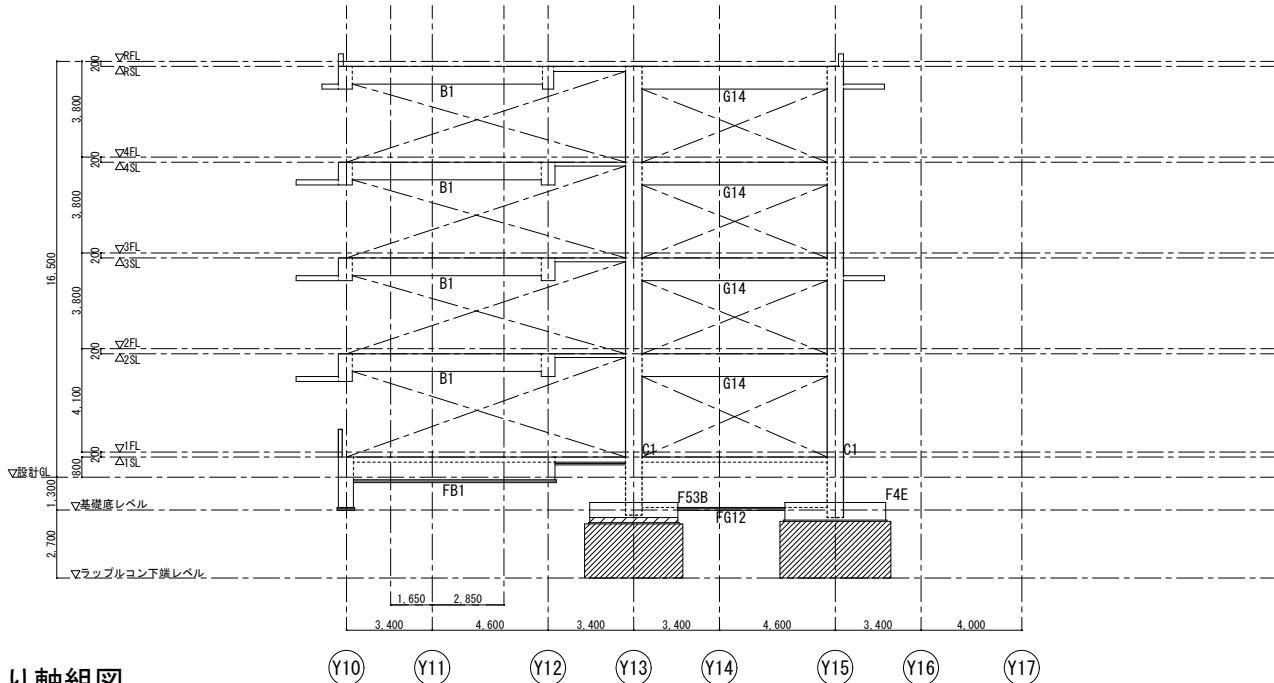
X3通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X2通り軸組図

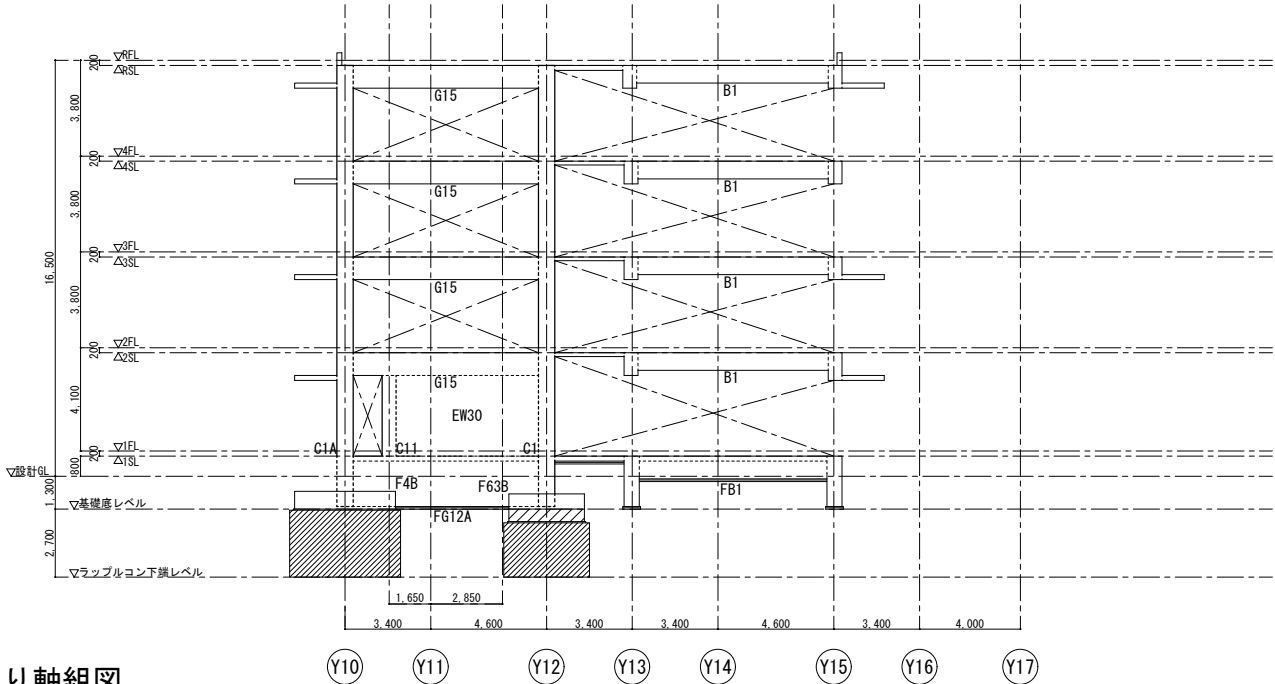
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X4通り軸組図

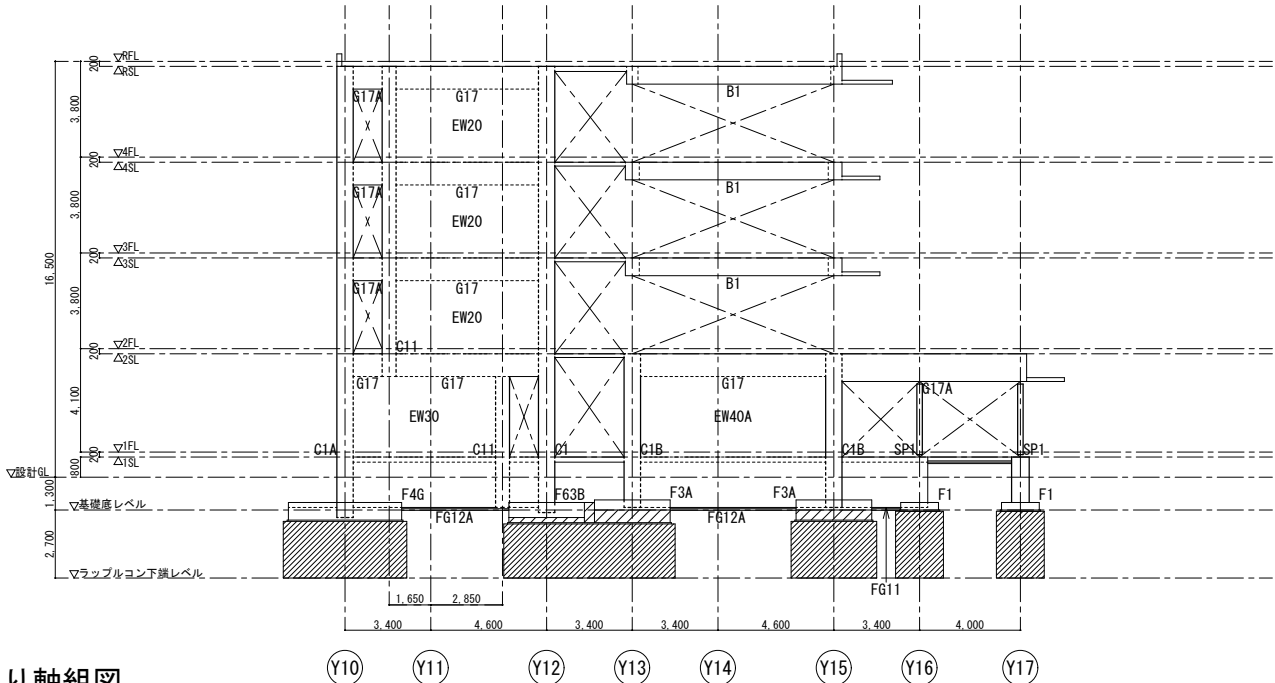
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図 (1)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-24



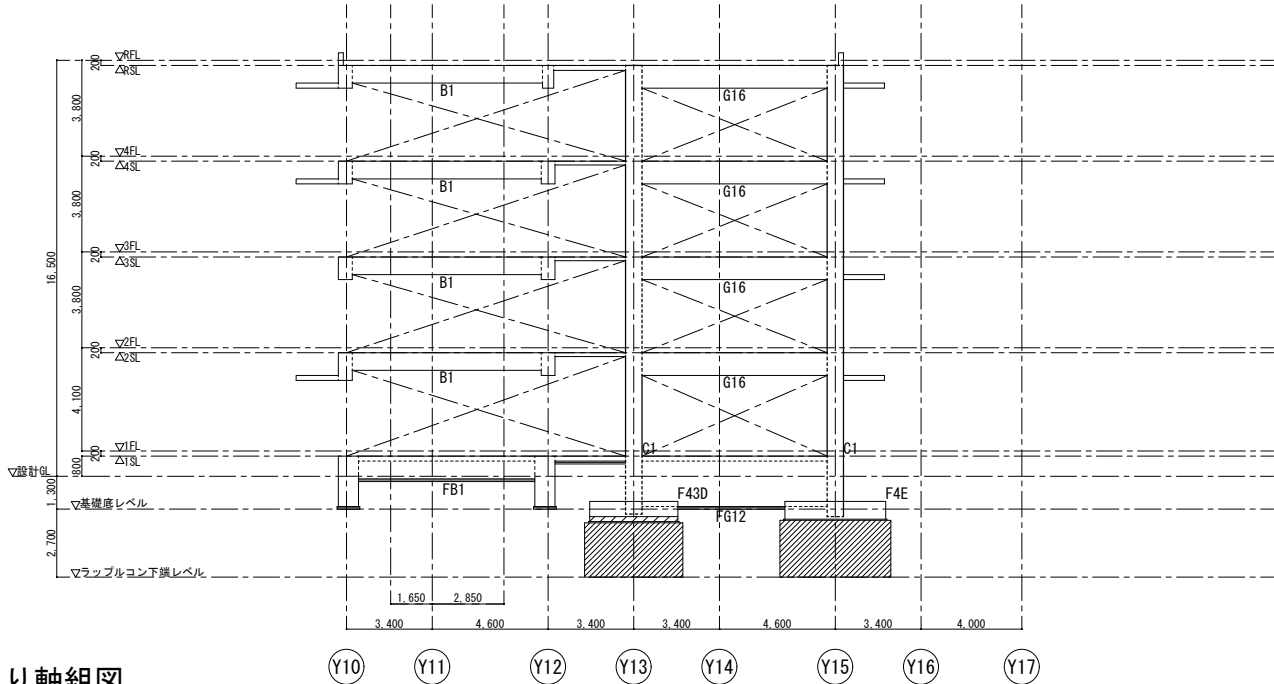
X5通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



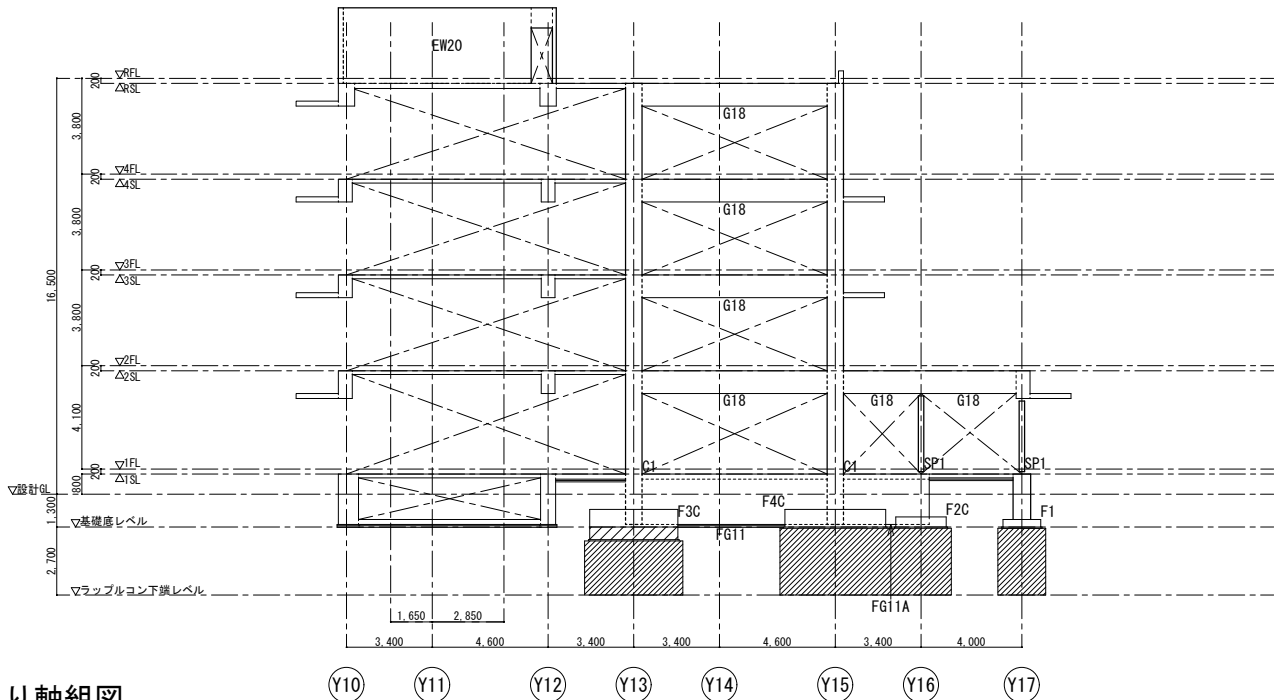
X7通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X6通り軸組図

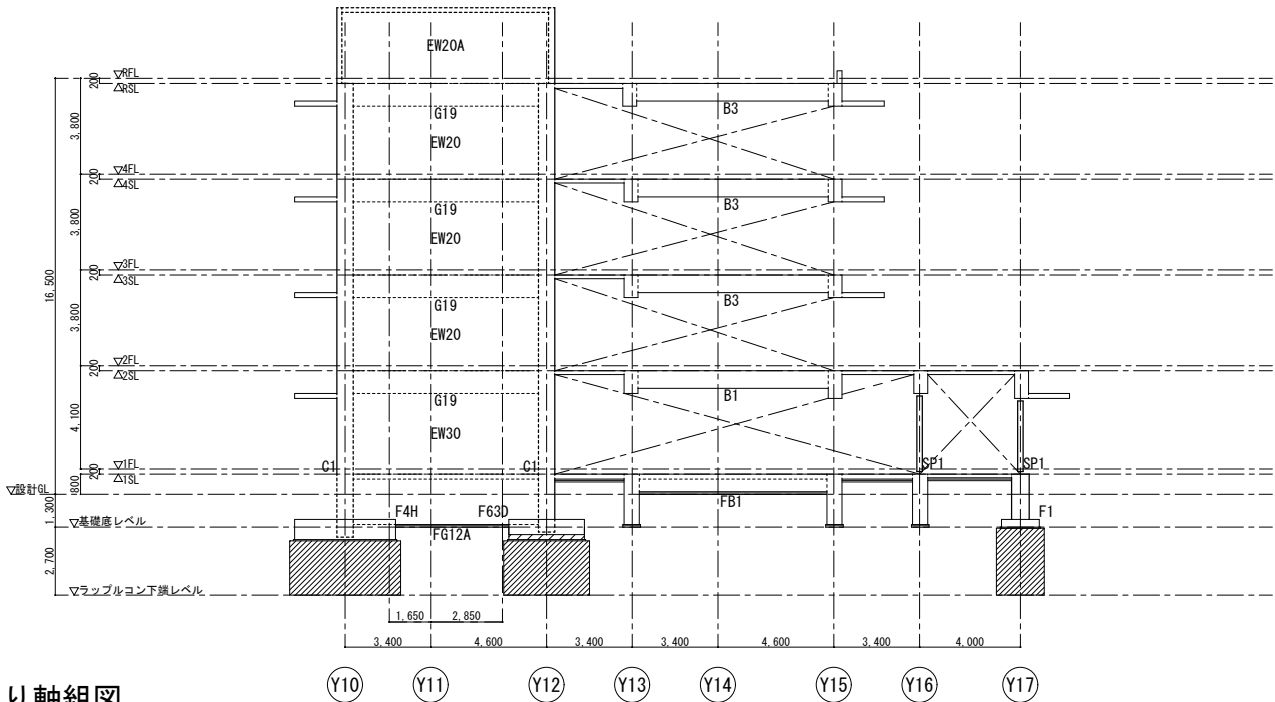
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X8通り軸組図

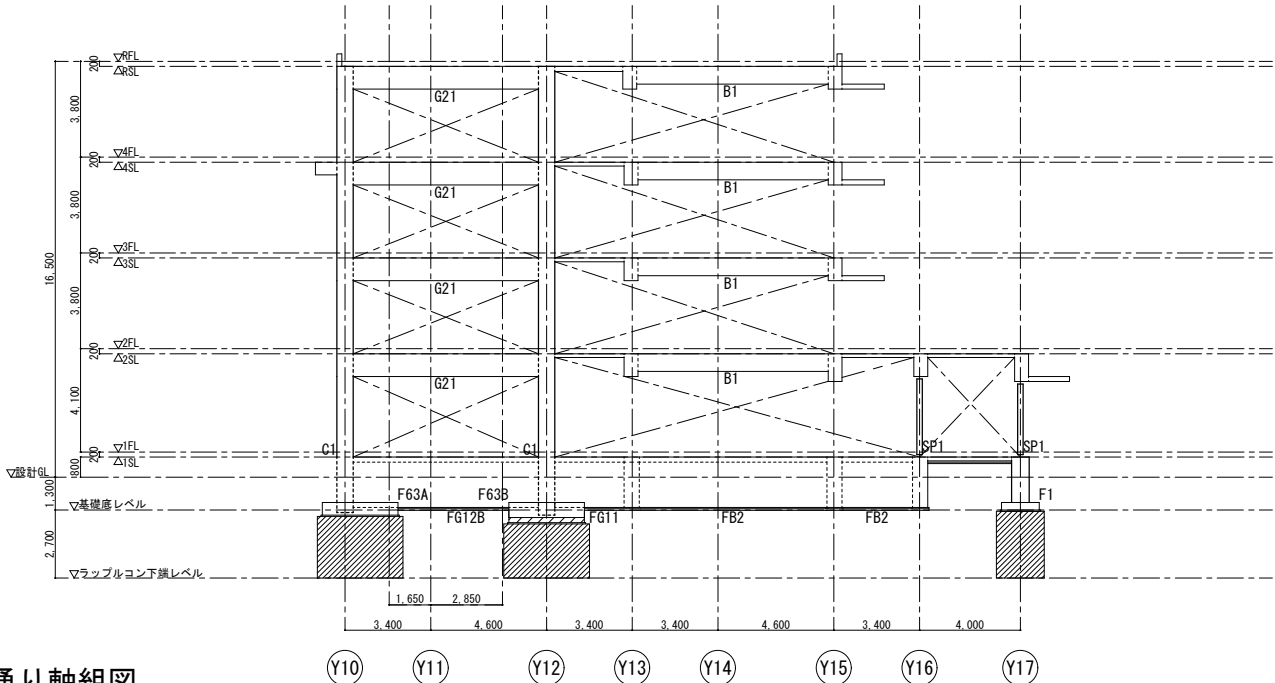
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート (FC18) を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図 (2)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-25
----	--	--	----------------------------------	---------------------------	------------------------------------	------------	-----------------



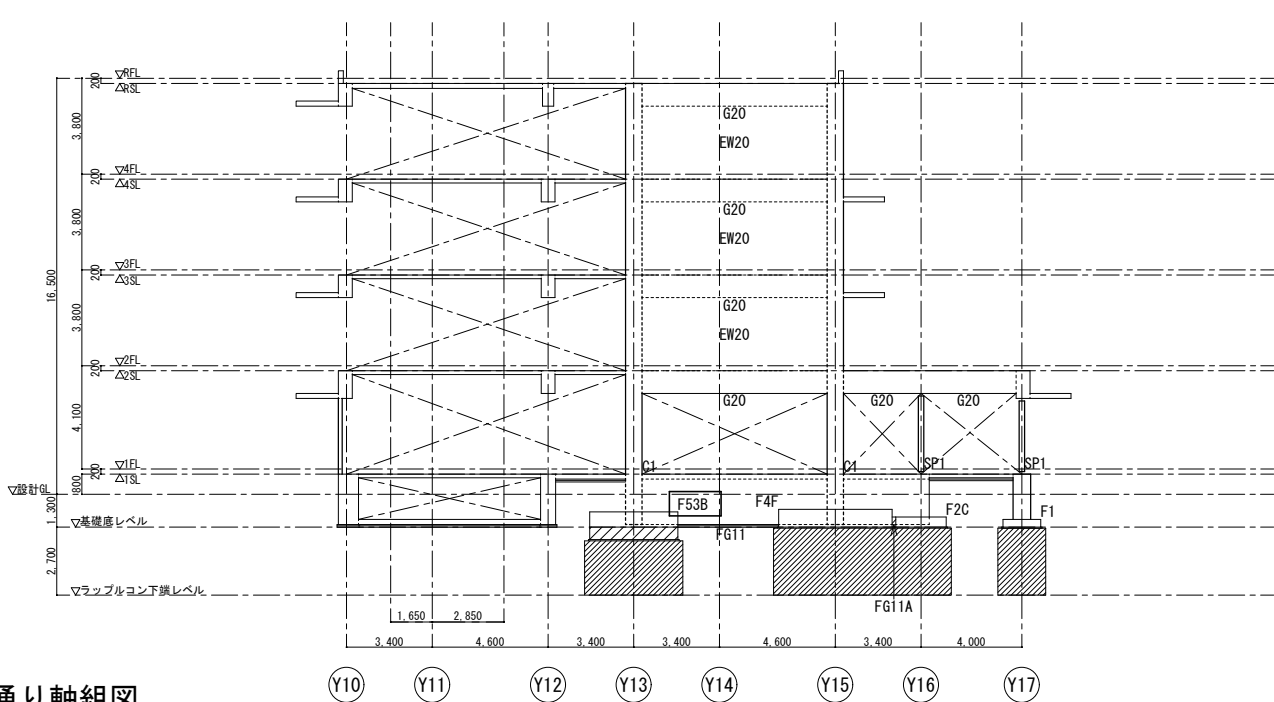
X9通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



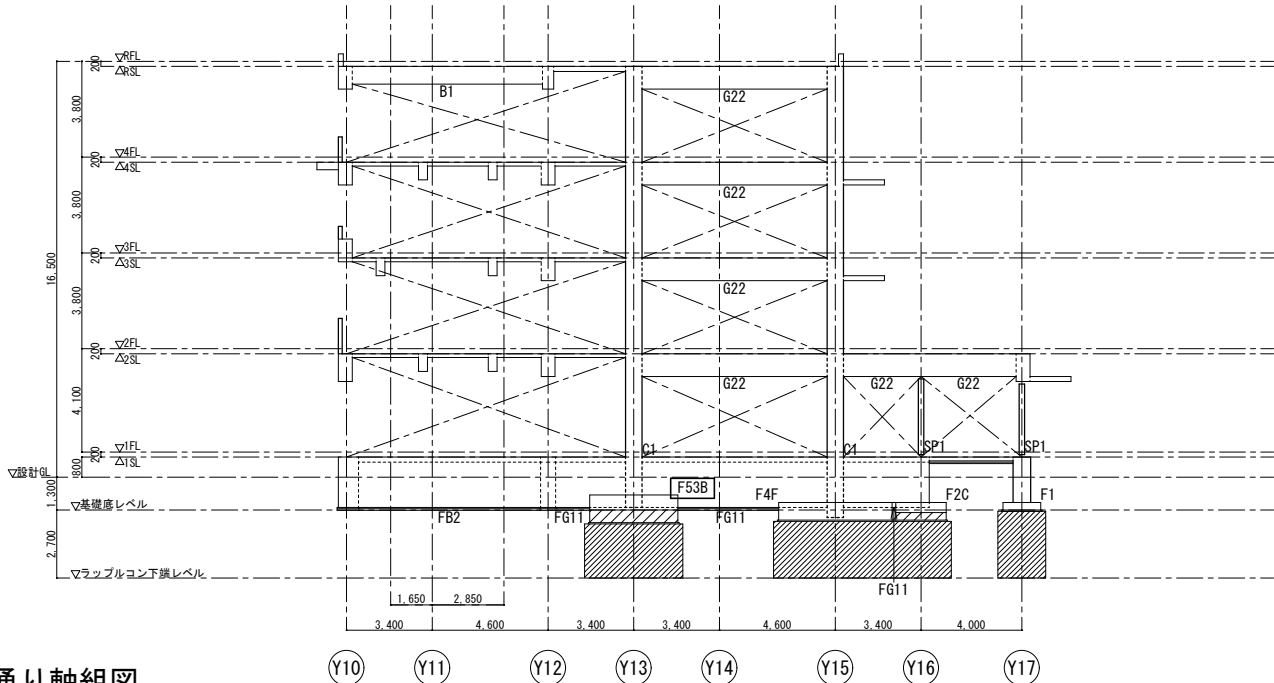
X11通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X10通り軸組図

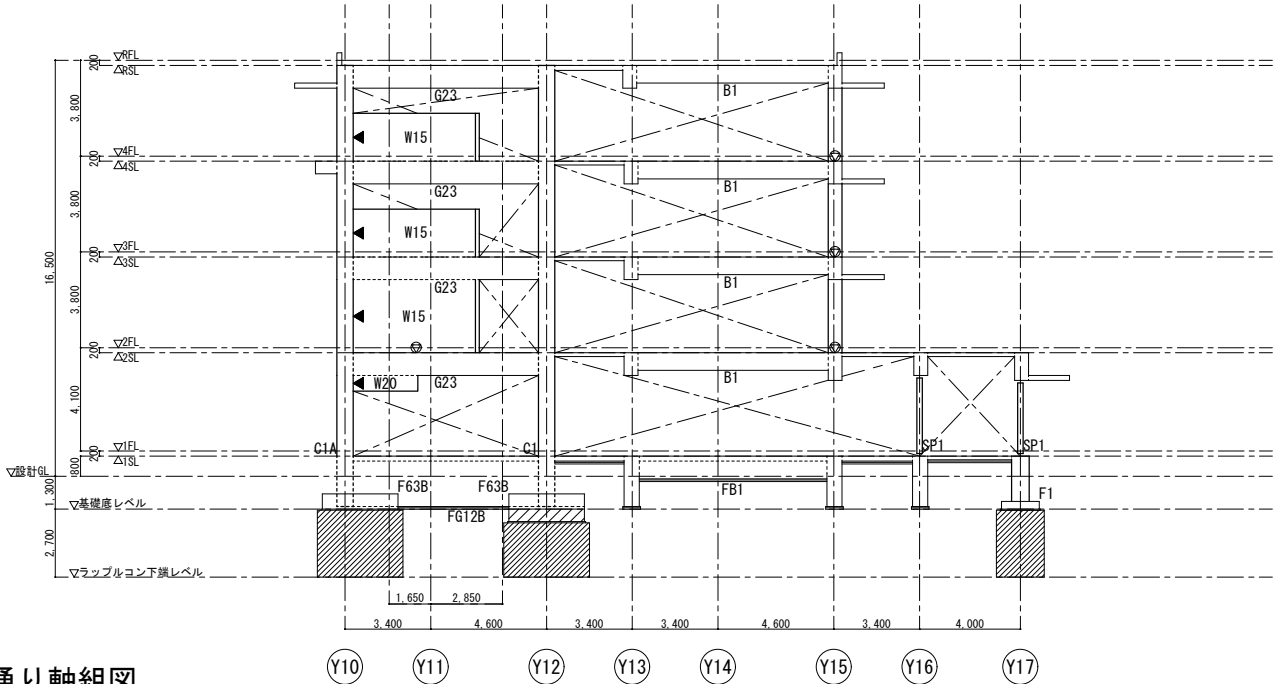
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X12通り軸組図

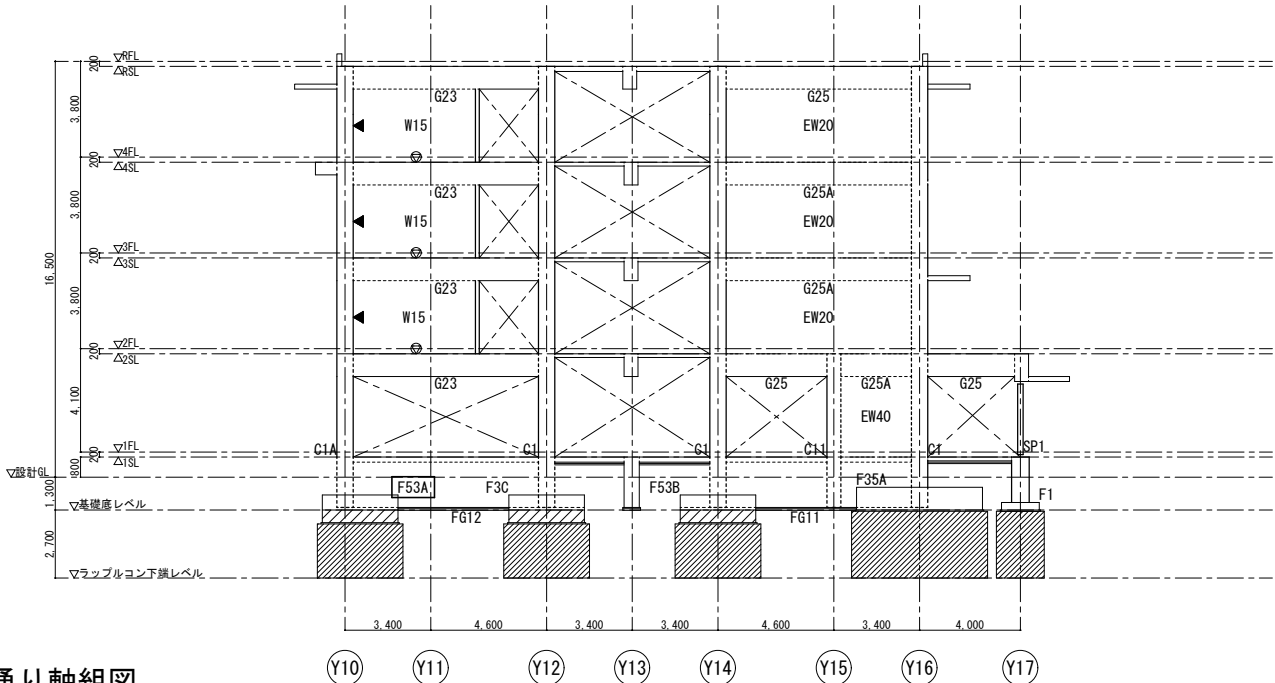
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図 (3)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-26
--	----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------



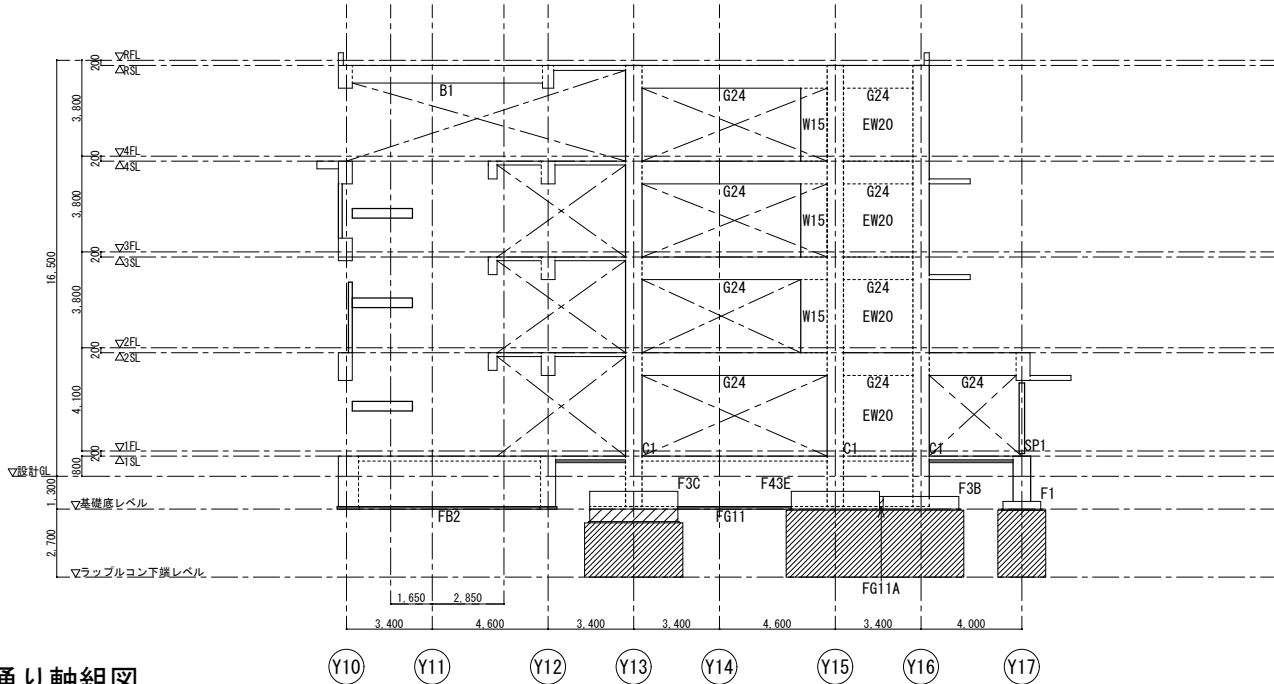
X13通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - は基礎打ち増しを示す



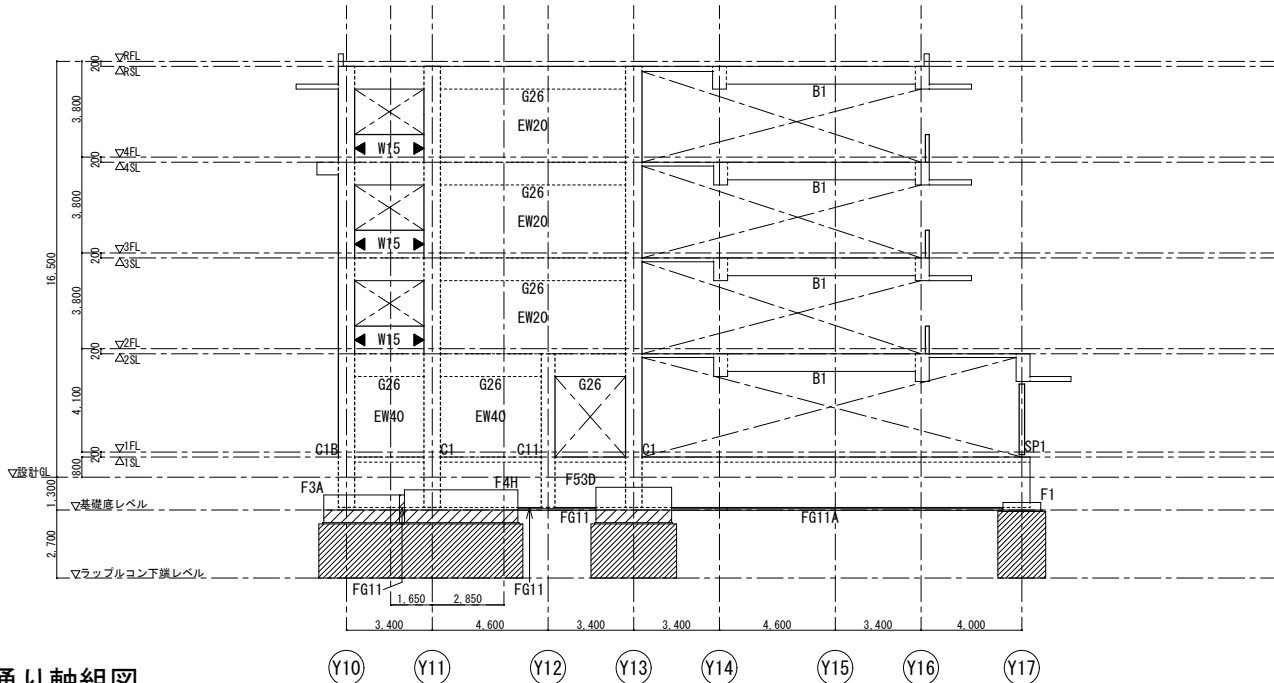
X15通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - は基礎打ち増しを示す



X14通り軸組図

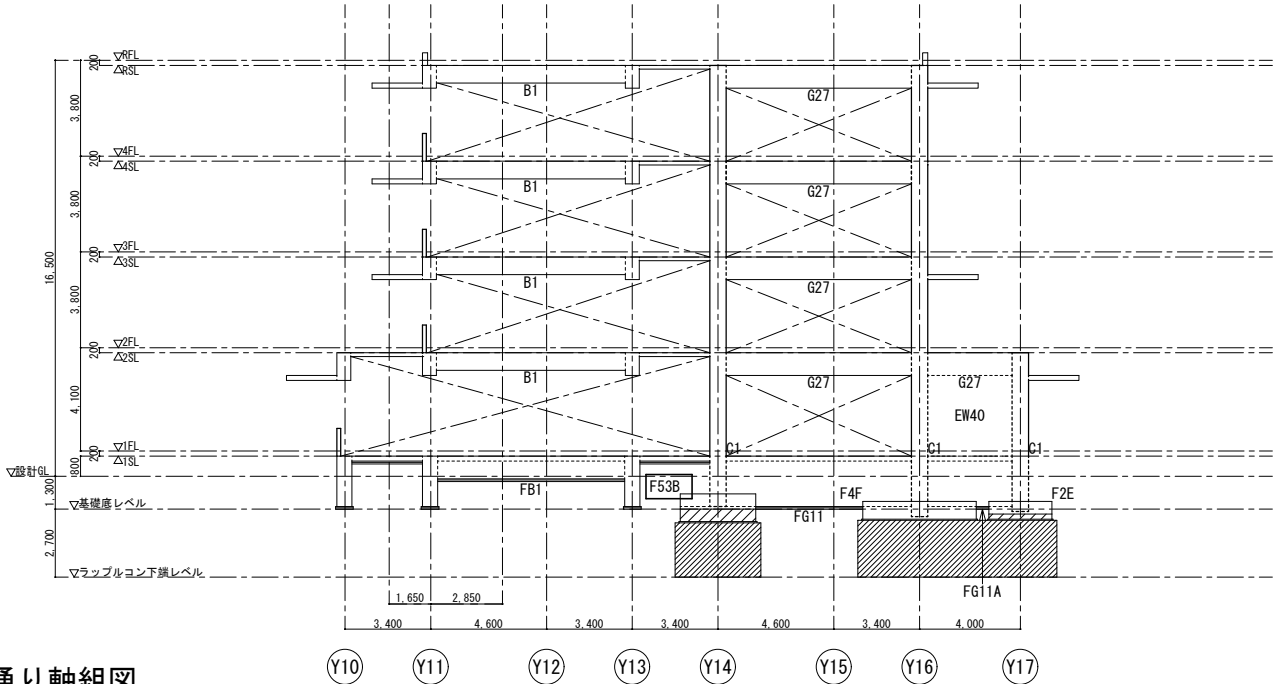
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - は基礎打ち増しを示す



X16通り軸組図

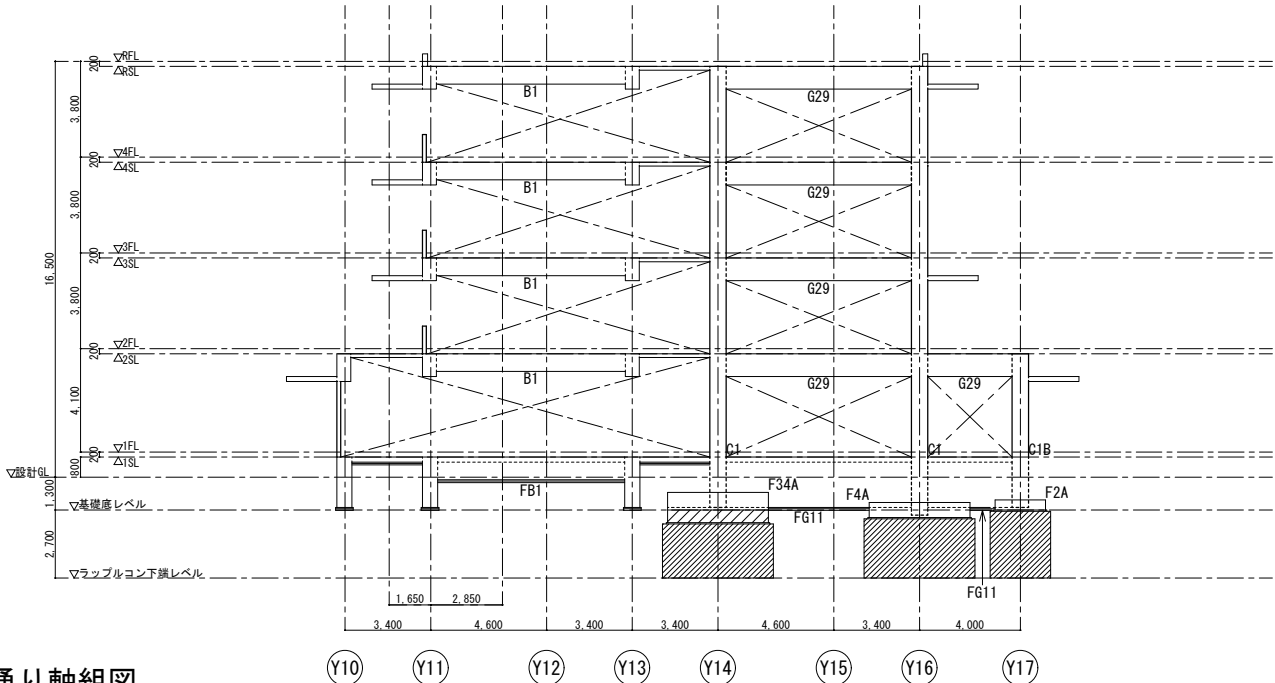
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - は基礎打ち増しを示す

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図(4)	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-27
--	----	--	------------------------------	----------------------	----------------------------------	------------	-----------------



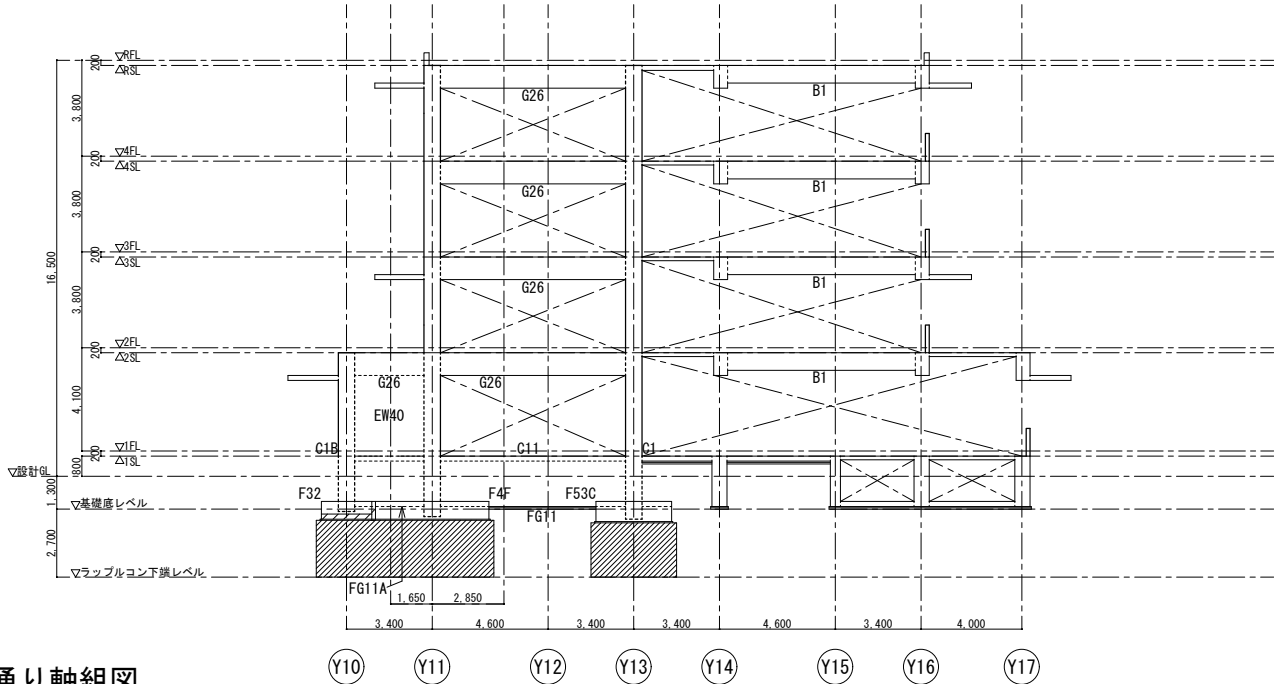
X17通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



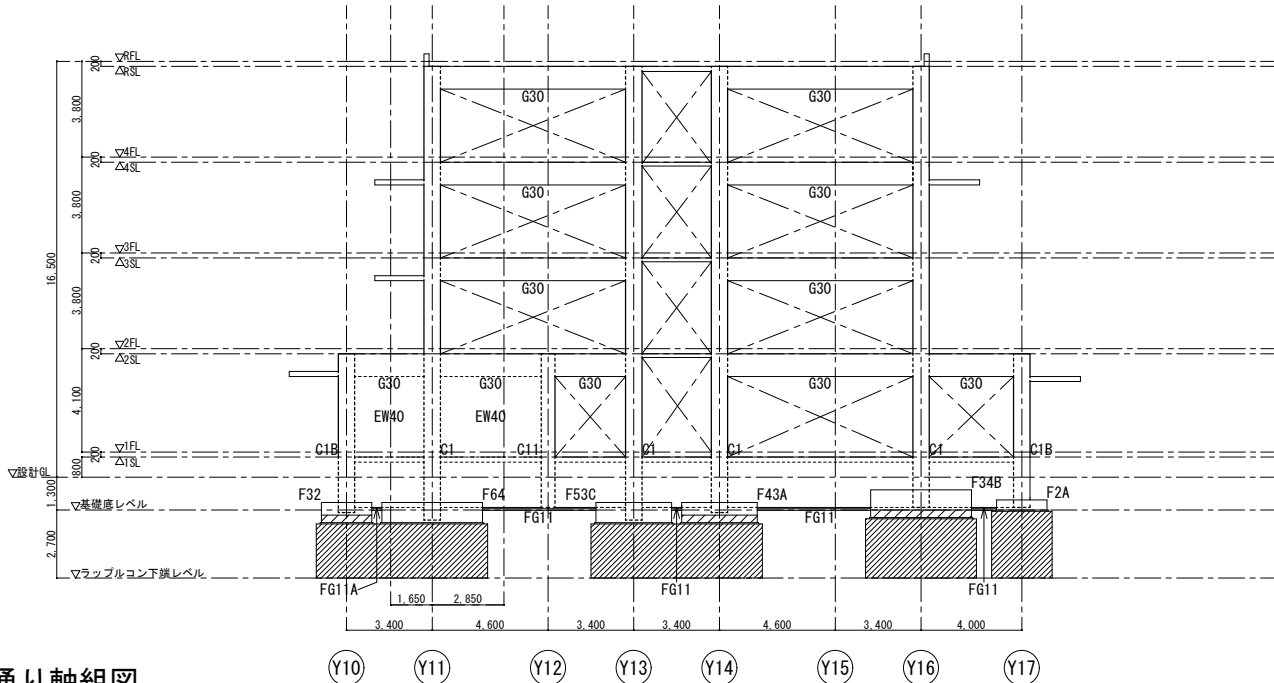
X19通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X18通り軸組図

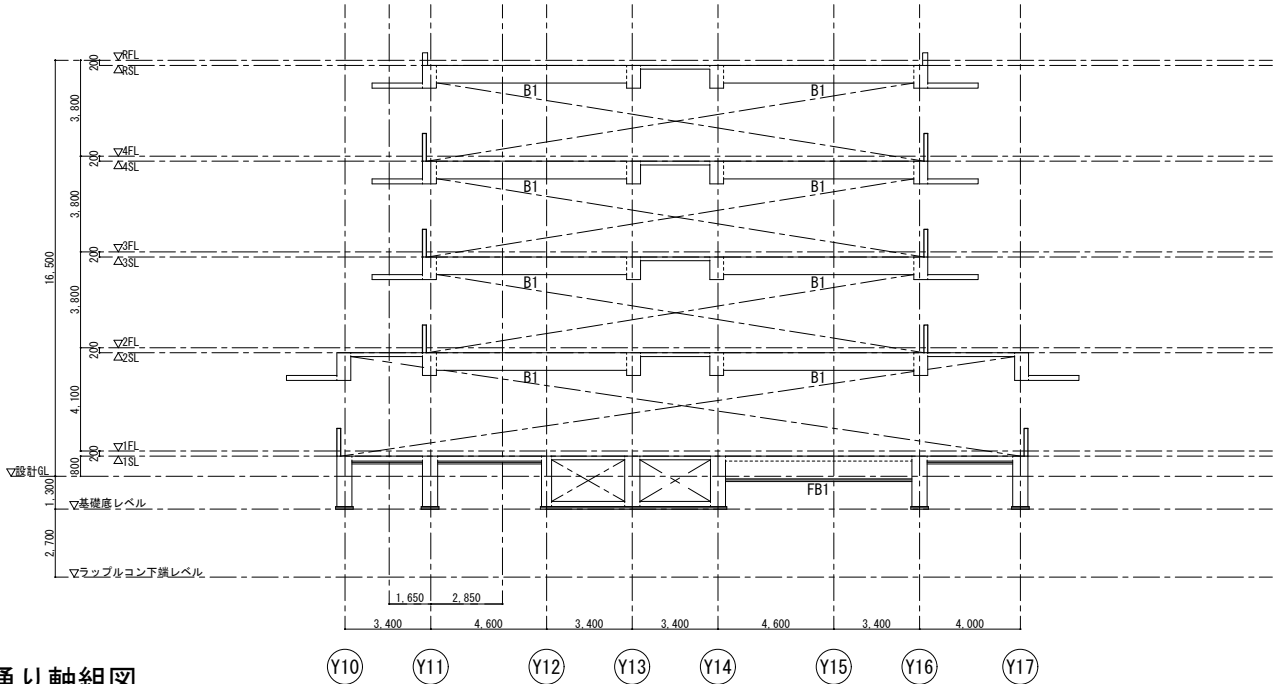
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X20通り軸組図

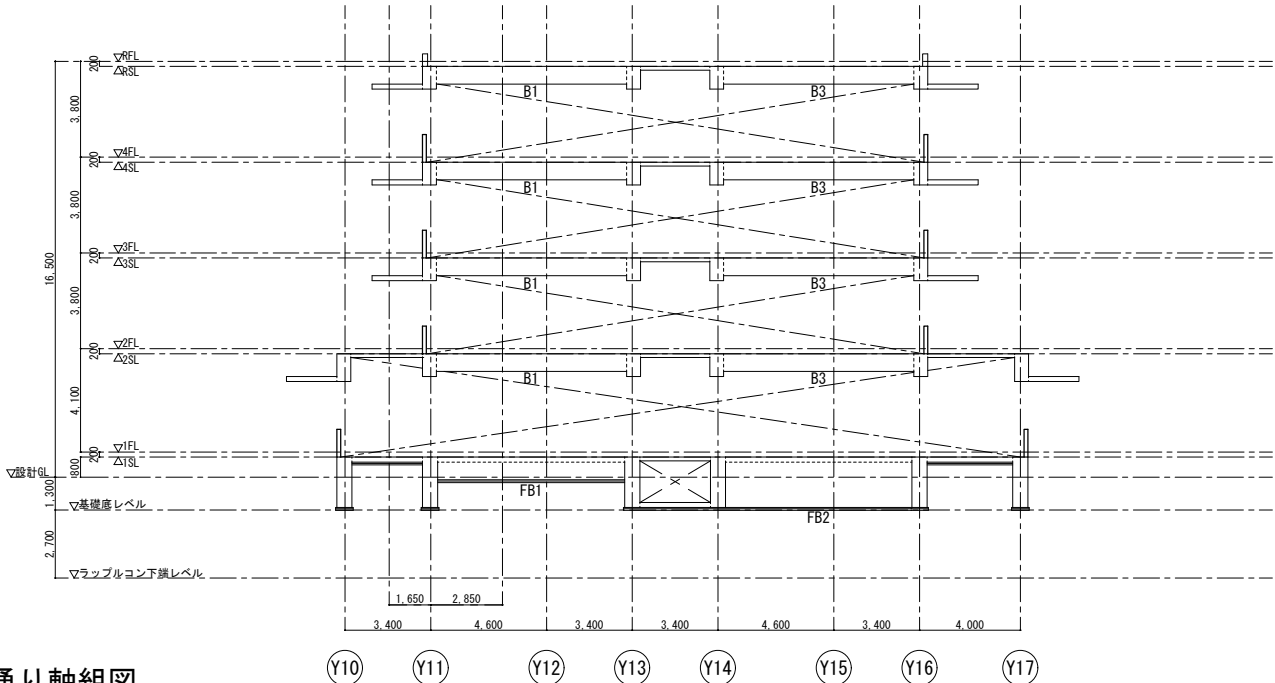
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図 (5)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-28
----	--	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------



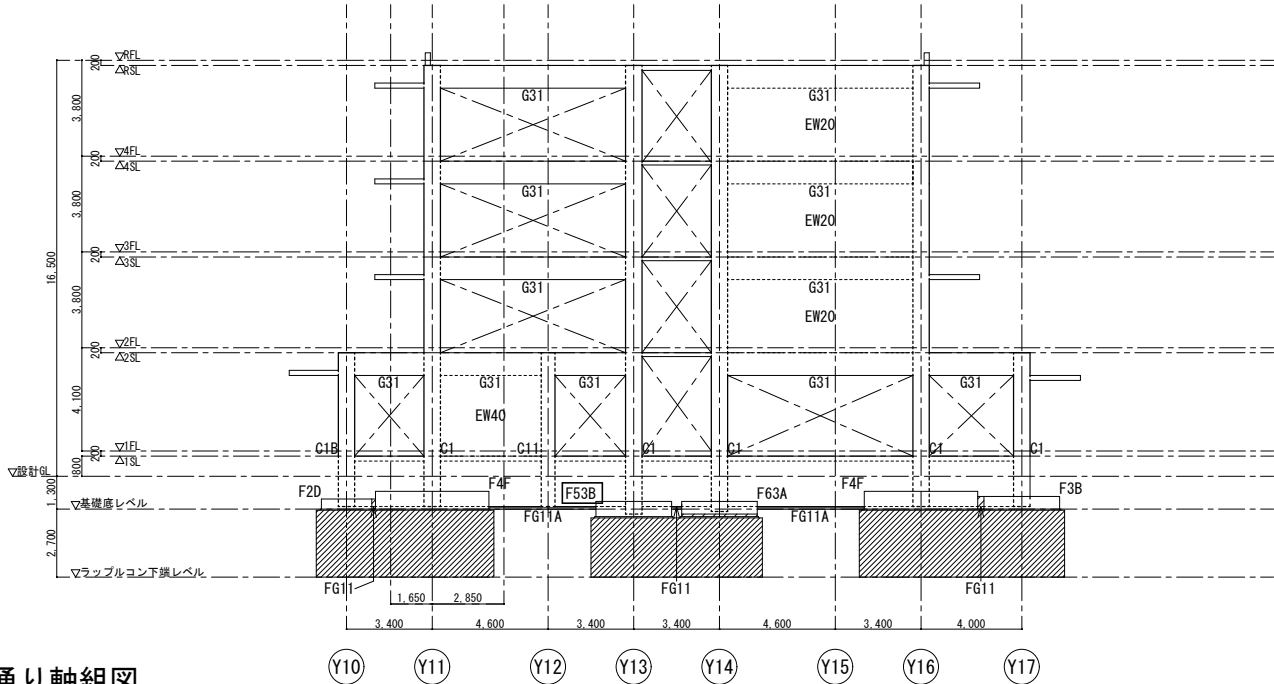
X21通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



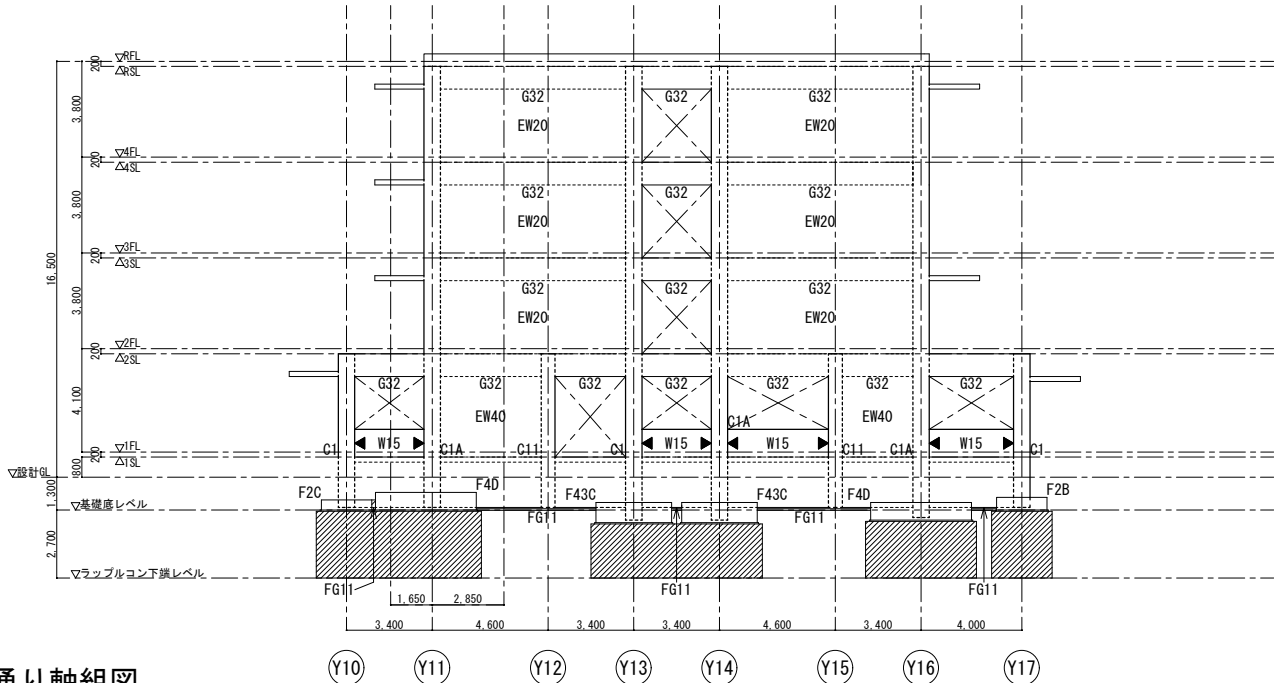
X23通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X22通り軸組図

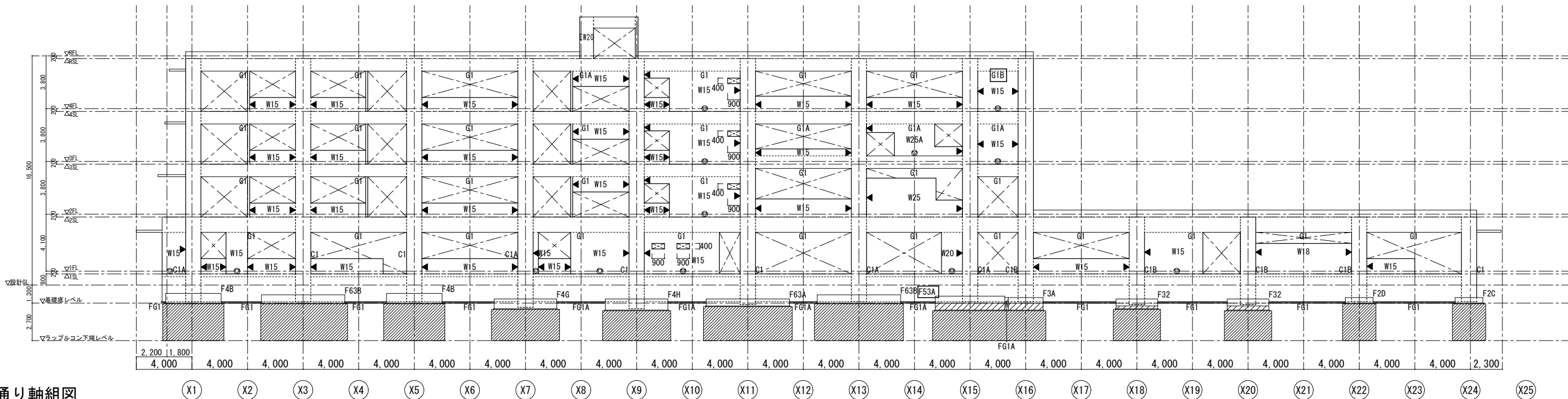
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す



X24通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - ▼は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - ◎は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - ▨はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - ▩は基礎打ち増しを示す

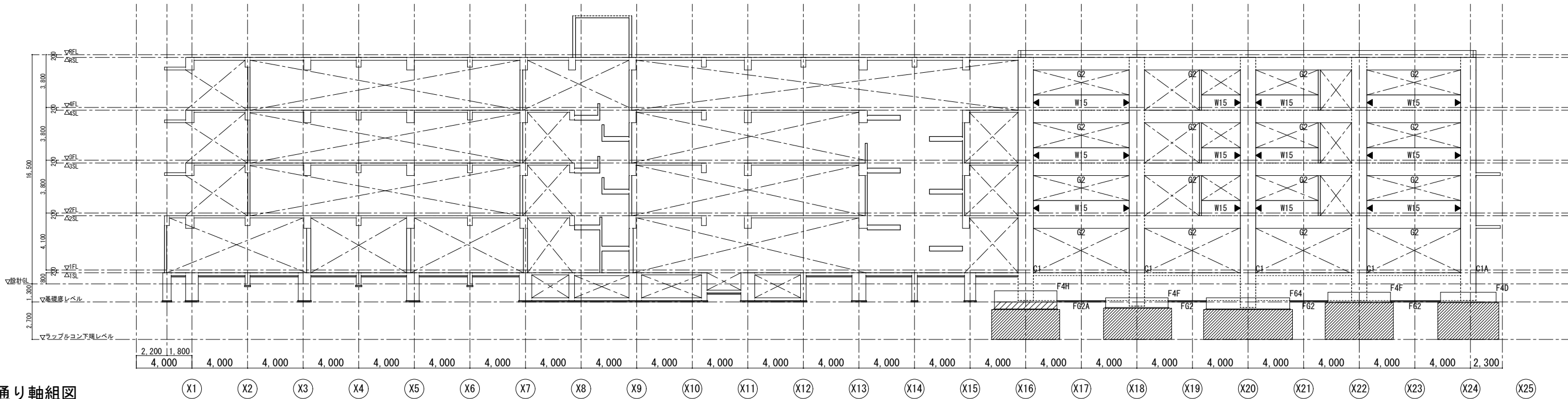
	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 X通り軸組図 (6)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-29
--	----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------



Y10通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4.  はラップルコンクリート (FC18) を示す
5.  は基礎打ち増しを示す

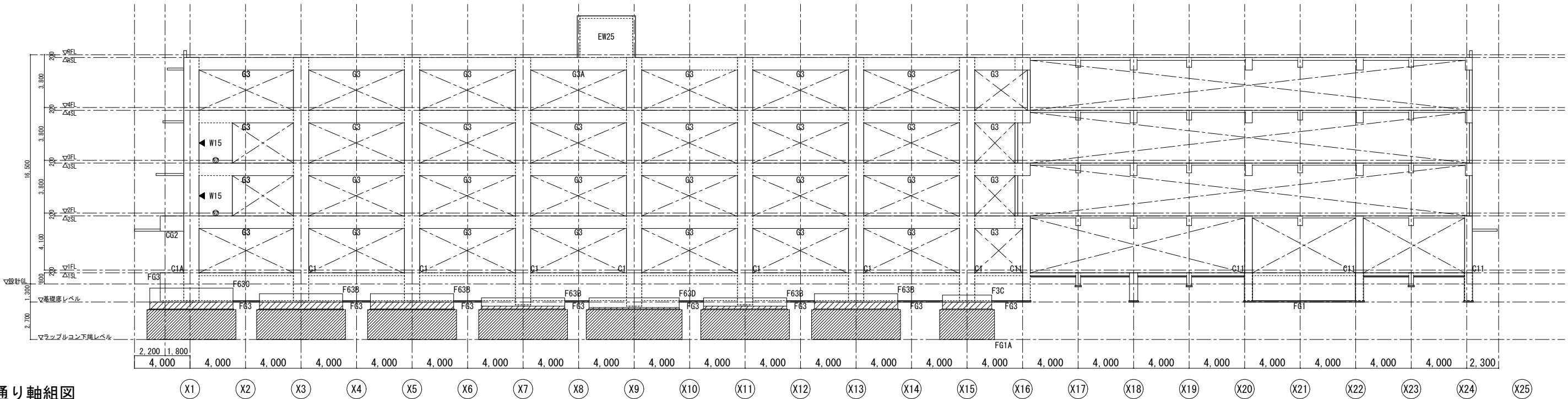


Y11通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

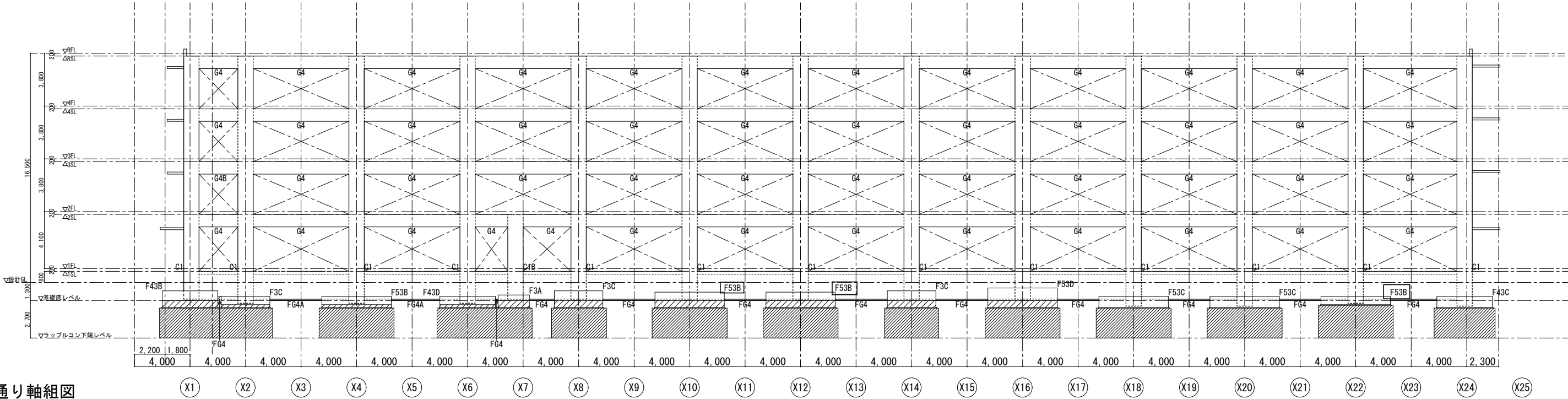
1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4.  はラップルコンクリート (FC18) を示す
5.  は基礎打ち増しを示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 Y通り軸組図 (1)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-30
----	--	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------



Y12通り軸組図

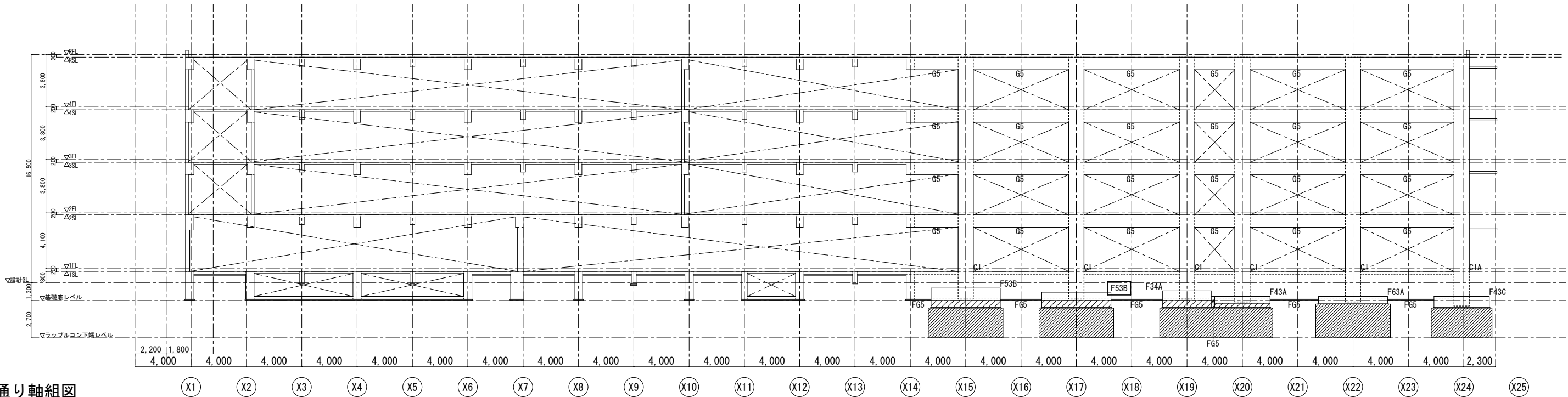
- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す



Y13通り軸組図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
 - 2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
 - 3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
 - 4. [ハッチ] はラップルコンクリート（FC18）を示す
 - 5. [斜線] は基礎打ち増しを示す

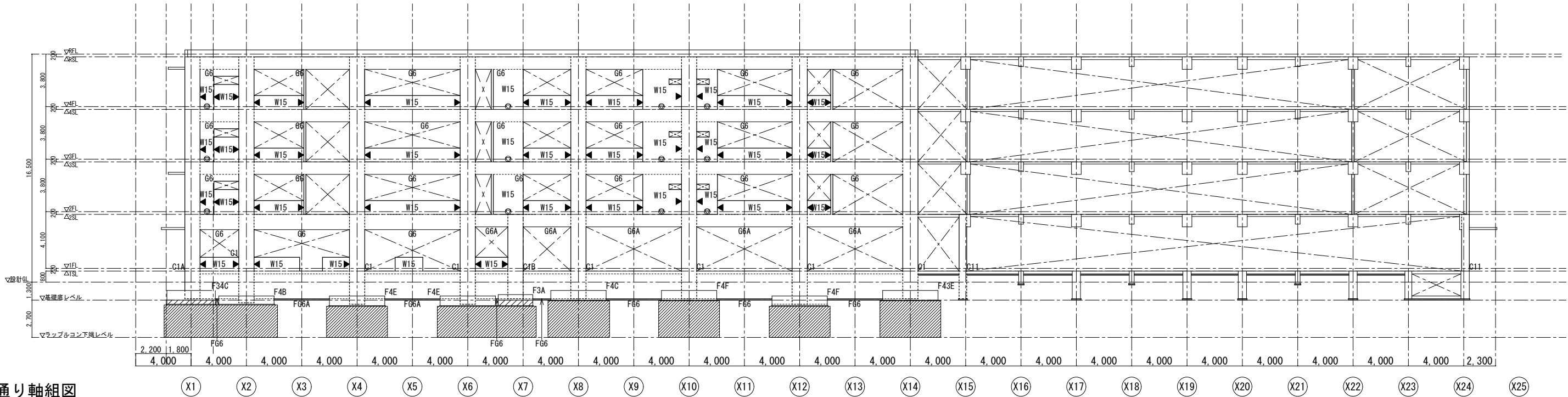
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 Y通り軸組図 (2)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-31



Y14通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. 斜線はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. 斜線は基礎打ち増しを示す

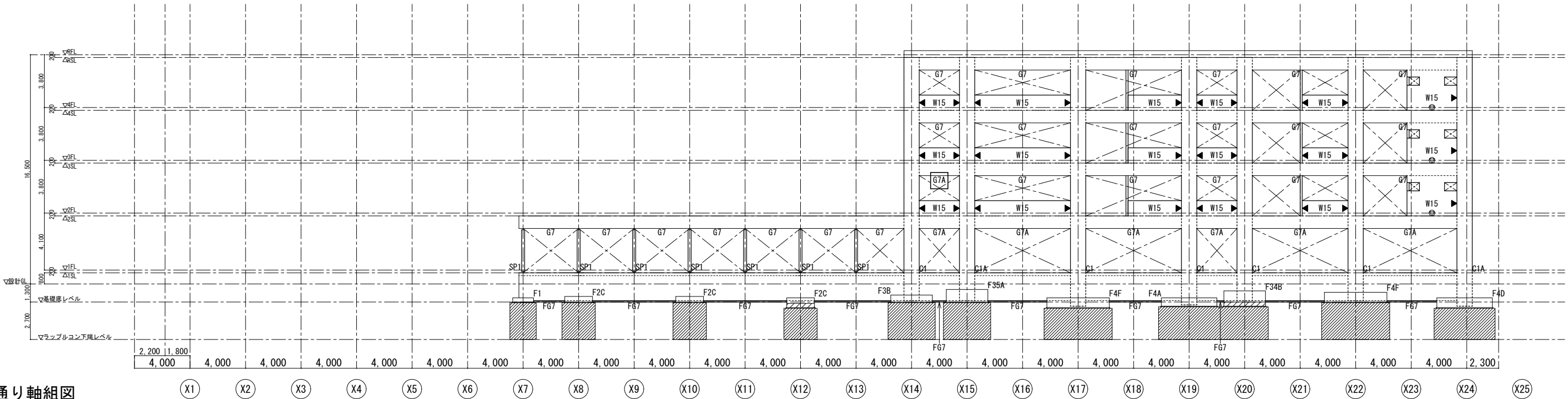


Y15通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. 斜線はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. 斜線は基礎打ち増しを示す

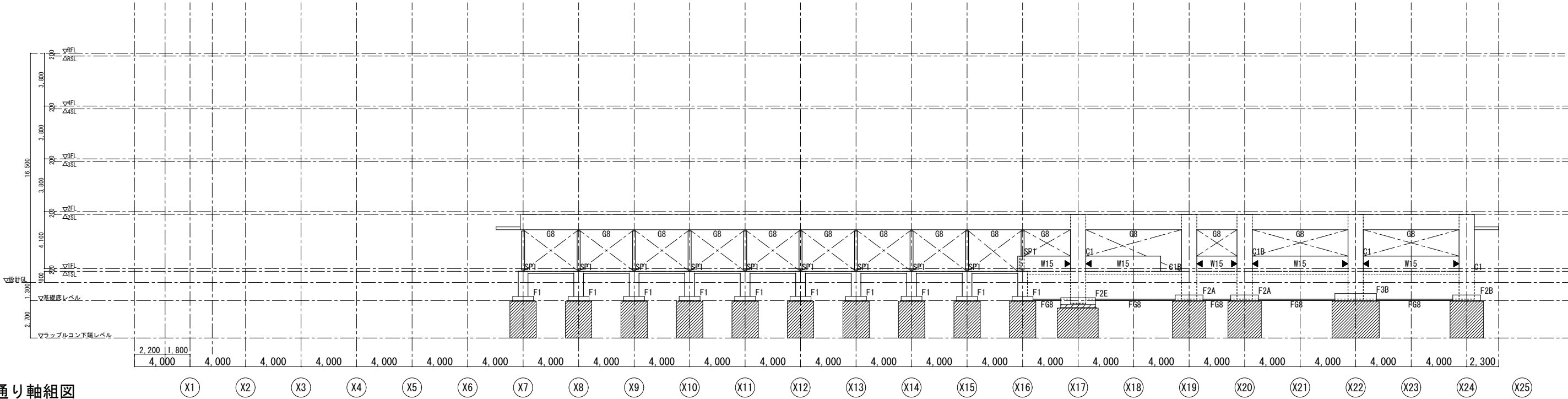
備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 Y通り軸組図 (3)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-32
----	---	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------



Y16通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す



Y17通り軸組図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=60
2. ▼ は壁側面の完全構造スリット位置を示す
3. ◎ は壁下面の完全構造スリット位置を示す
4. [ハッチ] はラップルコンクリート (FC18) を示す
5. [斜線] は基礎打ち増しを示す

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 Y通り軸組図 (4)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-02-33
----	---	------------------------------	-----------------------	------------------------------------	------------	-----------------

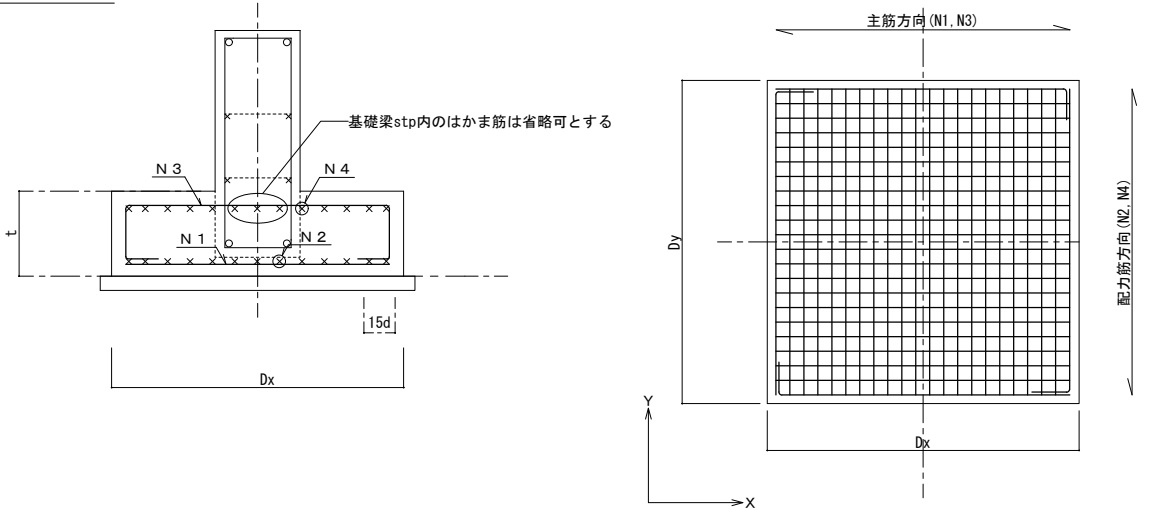
基礎リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

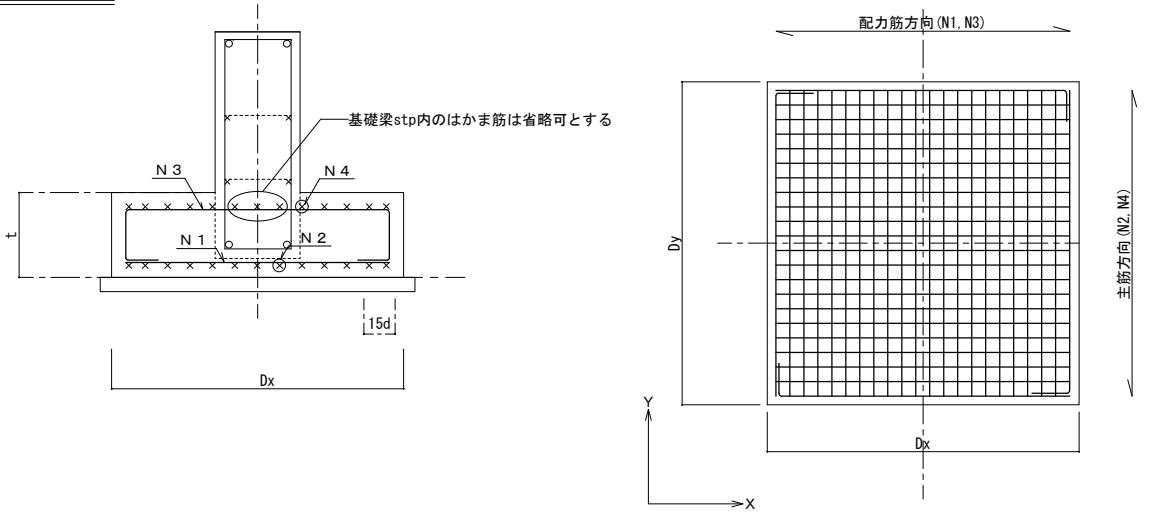
1. 材種 D10～D16 SD295、D19 SD345
3. 凡例の特記がない場合は、凡例①とする。
2. 地業：捨てコンクリート地業 t=50

符 号	t	Dx	Dy	N3	N4	備 考
				N1	N2	
F101	300	1,500	1,500	D13@100	D13@100	
				D16@200	D16@200	
F101A	300	1,500	1,500	D13@100	D13@100	
				D16@200	D16@100	
F102A	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100	
				D16@200	D16@100	
F102B	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D16@100	
F102C	500	2,500	2,500	D13@100	D13@100	
				D19@100	D19@100	
F102D	500	2,500	2,500	D13@100	D13@100	
				D19@100	D19@100	
F103A	400	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100	
F103B	400	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D16@100	
F103C	400	3,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100	
F103D	500	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D19@100	
F103E	500	3,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100	
F103F	500	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100	
F103G	600	3,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100	
F103H	600	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100	
F103I	600	3,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D16@100	
F103J	600	3,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100	
F104	600	3,000	4,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100	
F104A	700	3,000	4,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100	
F104B	600	4,000	4,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D19@100	
F105	500	4,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D19@100	
F105A	500	4,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D19@100	D16@100	
F105B	600	4,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100	
F105C	600	4,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100	
F105D	800	4,500	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100	
F171						階段詳細図 (S-4-02) を参照
F172						階段詳細図 (S-4-02) を参照

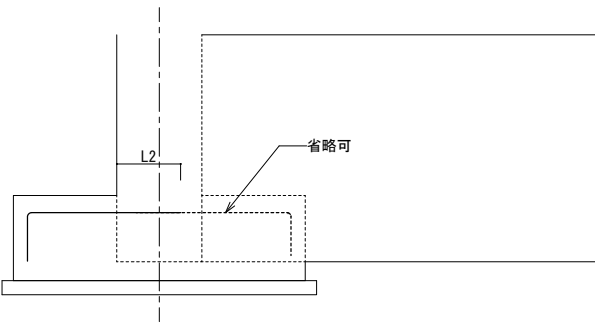
基礎リスト凡例①



基礎リスト凡例②



基礎主筋省略



	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 基礎、耐圧版リスト	縮尺 S=1/20 (A1) S=1/40 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-03-01
--	----	--	------------------------------	----------------------	----------------------------------	------------	-----------------

階	符 号	FG101	FG101A	FG102	FG111	FG111A	FG111B	FG112
1 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面							
	B×D	450×1,800	450×1,800	600×1,800	450×1,800	450×1,800	450×1,800	600×1,800
	上端主筋	8-D25	8-D25	8-D32	8-D25	8-D25	8-D25	12-D25
	下端主筋	8-D25	8-D25	8-D32	8-D25	8-D25	8-D25	10-D25
	stp	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@100	▤ (4)-D13@100	□ (3)-D13@200
	腹筋		6-D19 (3段)					
	備 考							
階	符 号	FCG101	FG113					
1 階	位置	全断面	全断面					
	断 面							
	B×D	450×1,800	600×1,800					
	上端主筋	8-D25	6-D25					
	下端主筋	4-D25	6-D25					
	stp	□ (3)-D13@200	▤ (6)-D13@100					
	腹筋							
	備 考							

基礎小梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種

主筋 D22 SD345

stp D13 SD295

2. 腹筋

2-D10 (1段)

3. 幅止筋 D10@1,000以内

4. 二段受け筋 D10@1,000以内

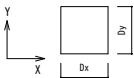
5. 定着および継手の仕様はS-1-14 タイプB1 による。

階	符 号	FB101	FB101A	FB102				
1 階	位 置	全断面	全断面	全断面				
	断 面							
	B×D	450×1800	450×1800	450×800				
	上端主筋	8-D25	8-D25	4-D25				
	下端主筋	8-D25	8-D25	6-D25				
	stp	□ (3)-D13@200	□ (4)-D13@100	□ (3)-D10@200				
	腹筋	6-D13 (3段)	6-D13 (3段)					
	備 考							
階	符 号							
1 階	位 置							
	断 面							
	B×D							
	上端主筋							
	下端主筋							
	stp							
	腹筋							
	備 考							

柱断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種
- 主筋 D22 D25 SD345, D29 SD390
- 帯筋 D10, D13 SD295
2. 帯筋の表記について、()内の数値は
- X, Y方向それぞれの帯筋の数を示す。
3. 柱方向
4. へ印は2段配筋を示す。



階	符 号	C101	C102	C102A	C103	
4 階	断 面	全断面				
		9 				
	Dx×Dy	1,000×500				
	主 筋	24—D25				
	帯 筋	(5, 5) -D13@100				
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋	(2, 4) -D13@150				
	備 考					
3 階	断 面		全断面		全断面	
		同 上	5 		4 	
	Dx×Dy		550×550		1,000×450	
	主 筋		16—D25		10—D25	
	帯 筋		(4, 4) -D13@100		(3, 3) -D13@100	
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋		(2, 2) -D13@150		(2, 4) -D13@150	
	備 考					
2 階	断 面			全断面	全断面	
		同 上	同 上	5 	18 	
	Dx×Dy			550×550	1,800×500	
	主 筋			16—D29	42—D25	
	帯 筋			(5, 4) -D13@100	(5, 5) -D13@100	
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋			(2, 2) -D13@150	(2, 7) -D13@150	
	備 考					
1 階	断 面					
		同 上	同 上	同 上	同 上	
	Dx×Dy					
	主 筋					
	帯 筋					
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋					
	備 考					

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

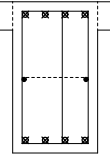
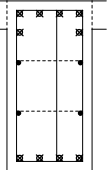
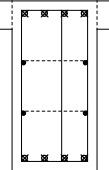
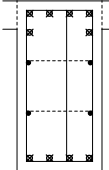
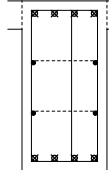
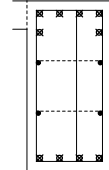
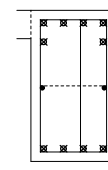
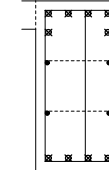
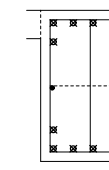
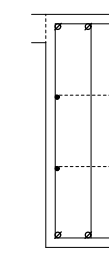
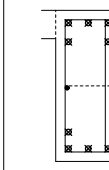
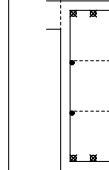
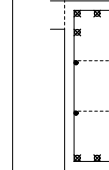
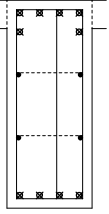
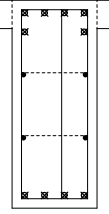
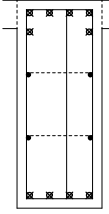
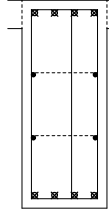
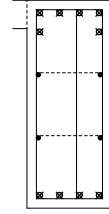
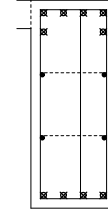
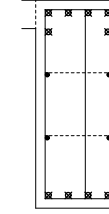
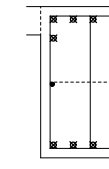
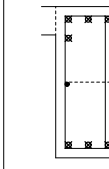
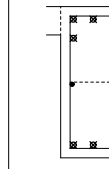
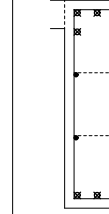
工事名
三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容
南棟 柱断面リスト

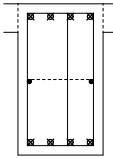
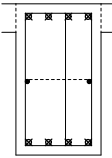
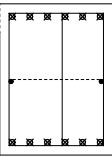
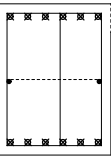
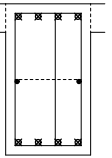
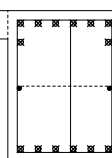
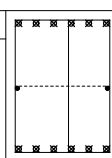
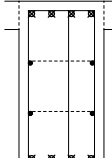
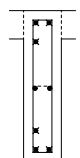
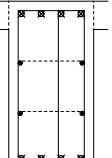
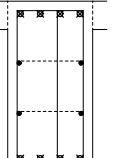
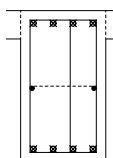
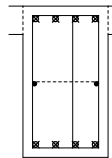
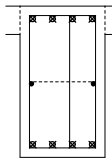
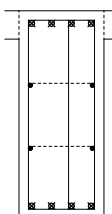
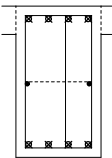
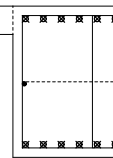
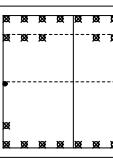
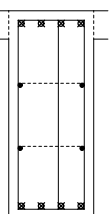
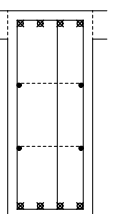
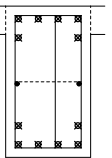
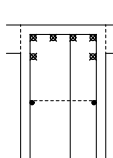
縮尺
S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計
令和8年

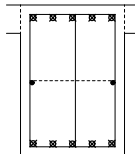
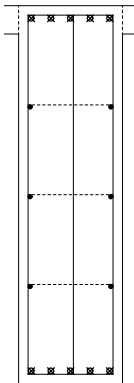
図面番号
S-03-04

階	符 号	G101	G101A	G102	G102A	G102B	G103	G103A	G104	G104A	G104B	G105	G106	G106A
4 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面													
	B×D												450×800	
	上端主筋												4-D25	
	下端主筋												4-D25	
	stp												□ (3)-D13≦200	
	腹筋												2-D10 (1段)	
	備 考													
3 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面													
	B×D	450×900	450×900	450×900	450×900	450×900	450×800	450×900	450×800	450×965	450×800	450×800	450×900	450×900
	上端主筋	6-D25	4-D25	6-D25	4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25	3-D22	4-D25	7-D25	4-D25	6-D25
	下端主筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	5-D25	3-D22	4-D25	6-D25	4-D25	4-D25
	stp	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200
	腹筋						2-D10 (1段)		2-D10 (1段)		2-D10 (1段)	2-D10 (1段)		
	備 考													
2 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面			全断面	全断面	全断面
	断 面													
	B×D	450×1100	450×1100	450×1100	450×1100	450×1100	450×1100	450×1100	450×800			450×800	450×800	450×1100
	上端主筋	6-D25	6-D25	6-D25	4-D25	6-D25	6-D25	6-D25	6-D25			6-D25	6-D25	6-D25
	下端主筋	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25			4-D25	4-D25	4-D25
	stp	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200			□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200	□ (3)-D13≦200
	腹筋								2-D10 (1段)			2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	
	備 考													

階	符 号	G106B	G107	G108	G108A	G108B	G109	G111	G112	G112A		G113	G113A	G114	G114
4 階	位 置														
	断 面														
	B×D														
	上端主筋														
	下端主筋														
	stp														
	腹筋														
	備 考														
3 階	位 置	全断面	全断面	全断面		全断面		全断面	全断面	Y3端・中央	Y6端			全断面	
	断 面														
	B×D	450×800	450×900	450×800		450×900		600×800	600×900	600×800	600×800			600×800	
	上端主筋	6-D25	6-D25	6-D25		6-D25		5-D25	6-D25	10-D25	6-D25			6-D25	
	下端主筋	6-D25	4-D25	6-D25		4-D25		5-D25	6-D25	6-D25	6-D25			6-D25	
	stp	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200			□ (3)-D13@200	
	腹筋	2-D10 (1段)		2-D10 (1段)				2-D10 (1段)		2-D10 (1段)	2-D10 (1段)			2-D10 (1段)	
	備 考														
2 階	位 置	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面			同 上											
	B×D	450×800	450×1100		450×800	450×1100	450×800	450×800	450×1100	450×800		450×800	450×800	450×800	450×800
	上端主筋	6-D25	6-D25		6-D25	6-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25		4-D25	6-D25	4-D25	4-D25
	下端主筋	4-D25	4-D25		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25	4-D25		4-D25	4-D25	4-D25	4-D25
	stp	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@100
	腹筋	2-D10 (1段)			2-D10 (1段)		2-D10 (1段)	2-D10 (1段)		2-D10 (1段)		2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)
	備 考														

階	符 号	G115		G115A	G116	G116A	G116B	G117	G118		G119	G120	G120A	G120B
4 階	位置			全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面				全断面	
	断 面													
	B×D					450×800	450×800	600×800	600×800				450×800	
	上端主筋					4-D25	4-D25	6-D25	6-D25				4-D25	
	下端主筋					4-D25	4-D25	6-D25	6-D25				4-D25	
	stp					□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200				□ (3)-D13@200	
	腹筋					2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)				2-D10 (1段)	
	備 考													
3 階	位置	Y2端	中央・Y5端	全断面	全断面		全断面				全断面	全断面		全断面
	断 面					同 上								
	B×D	600×800	600×800	600×800	450×900		200×800				450×900	450×900		450×800
	上端主筋	6-D25	8-D25	6-D25	4-D25		2-D16				4-D25	4-D25		4-D25
	下端主筋	6-D25	6-D25	6-D25	4-D25		2-D16				4-D25	4-D25		4-D25
	stp	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (2)-D10@100				□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200
	腹筋	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)			2-D10 (1段)							2-D10 (1段)
	備 考													
2 階	位置	全断面		全断面	全断面		全断面	全断面	Y4端	中央・Y6端	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面					同 上								
	B×D	450×800		450×800	450×1100		450×800	800×800	800×800	800×800	450×1100	450×1100	450×800	450×800
	上端主筋	4-D25		4-D25	4-D25		4-D25	8-D25	8-D25	14-D25	4-D25	4-D25	6-D25	450×800
	下端主筋	4-D25		4-D25	4-D25		4-D25	8-D25	8-D25	10-D25	4-D25	4-D25	6-D25	6-D25
	stp	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	4-D25
	腹筋	2-D10 (1段)		2-D10 (1段)			2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)			2-D10 (1段)	□ (3)-D13@200
	備 考													2-D10 (1段)

4 階	符 号	G121	G121A	G122	G123	G124	G125	G126	G127	G128	G129	G130		
	位置		全断面											
	断 面													
	B×D		450×800											
	上端主筋		4—D25											
	下端主筋		4—D25											
	stp		□ (3)-D13@200											
	腹 筋		2—D10 (1段)											
備 考														
3 階	位置	全断面		全断面	全断面									
	断 面													
	B×D	450×800		450×800	450×900									
	上端主筋	4—D25		4—D25	4—D25									
	下端主筋	4—D25		4—D25	4—D25									
	stp	□ (3)-D13@200		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200									
	腹 筋	2—D10 (1段)		2—D10 (1段)										
	備 考													
2 階	位置				全断面	全断面	全断面	Y6端・Y9端	中央	Y6端	中央・Y9端	全断面	全断面	全断面
	断 面	同 上		同 上										
	B×D				450×1100	550×800	450×2,000	800×2,000	800×2,000	800×2,000	800×800	450×2,000	450×800	450×2,000
	上端主筋				4—D25	5—D25	6—D25	8—D25	8—D25	8—D25	8—D25	4—D25	8—D25	8—D25
	下端主筋				4—D25	5—D25	4—D25	8—D25	14—D25	8—D25	8—D25	4—D25	8—D25	8—D25
	stp				□ (3)-D13@200	□ (5)-D13@100	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200
	腹 筋					2—D10 (1段)	6—D10 (3段)	6—D10 (3段)	6—D10 (3段)	6—D10 (3段)	2—D10 (1段)	6—D10 (3段)	2—D10 (1段)	6—D10 (3段)
	備 考									ハンチ長 2400				

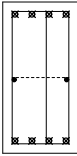
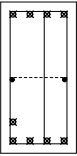
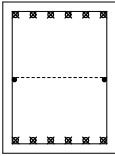
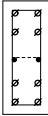
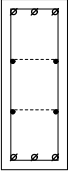
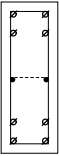
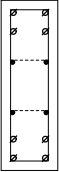
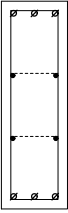
4 階	符 号	G131											
	位置												
	断 面												
	B×D												
	上端主筋												
	下端主筋												
	stp												
	腹 筋												
	備 考												
3 階	位置												
	断 面												
	B×D												
	上端主筋												
	下端主筋												
	stp												
	腹 筋												
	備 考												
	2 階	位置	X12端・中央	X15端									
断 面													
B×D		550×800	550×2,000										
上端主筋		5—D25	5—D25										
下端主筋		5—D25	5—D25										
stp		□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200										
腹 筋		2—D10 (1段)	6—D10 (3段)										
備 考			ハンチ長 2400										

小梁断面リスト【注記事項】特記なき限り下記による

1. 材種 主筋 D22, D25 SD345
stp D13 SD295

2. 腹筋 4-D10 (2段)
幅止筋 D10@1,000以内

4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	B101	B101A	B102	B103	B104	B105		
4 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		
	断 面								
	B×D	400×800	400×800	600×800	250×650	350×900	300×800		
	上端主筋	4-D25	4-D25	6-D25	4-D22	3-D22	4-D22		
	下端主筋	4-D25	5-D25	6-D25	4-D22	3-D22	4-D22		
	stp	□ (3)-D13@200	□ (3)-D13@200	□ (2)-D13@200	□ (2)-D13@200	□ (2)-D13@200	□ (2)-D13@200		
	腹筋	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)		2-D10 (1段)		
	備 考								
3 階	位置						全断面		
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上			
	B×D						300×900		
	上端主筋						4-D22		
	下端主筋						4-D22		
	stp						□ (2)-D13@200		
	腹筋								
	備 考								
2 階	位置								
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上		
	B×D					350×1100			
	上端主筋					3-D22			
	下端主筋					3-D22			
	stp					□ (2)-D13@200			
	腹筋								
	備 考								

片持ち梁断面リスト【注記事項】特記なき限り下記による

1. 材種

主筋 D22, D25 SD345

stp D13 SD295

2. 腹筋

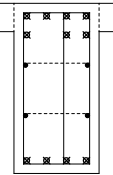
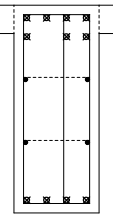
4-D10 (2段)

3. 幅止筋

D10@1,000以内

4. 二段受け筋

D10@1,000以内

階	符 号	CG101	CG102						
4 階	位 置								
	断 面								
	B×D								
	上端主筋								
	下端主筋								
	stp								
	腹筋								
	備 考								
3 階	位 置	全断面	全断面						
	断 面								
	B×D	450×900	250×800						
	上端主筋	7-D25	4-D22						
	下端主筋	4-D25	4-D22						
	stp	□ (3)-D13@150	□ (2)-D10@200						
	腹筋		2-D10 (1段)						
	備 考								
2 階	位 置	全断面							
	断 面								
	B×D	450×1100							
	上端主筋	7-D25							
	下端主筋	4-D25							
	stp	□ (3)-D13@150							
	腹筋								
	備 考								

壁リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

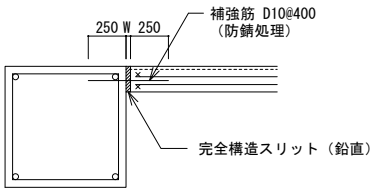
1. 材種 D10, D13 SD295

2. 幅止筋 D10-@1,000以内

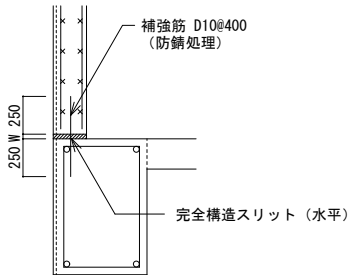
符 号		W15	W20	EW20	EW30	EW30A
平断面						
壁厚(t)		150	200	200	300	300
縦 筋		D13@200 ｸﾞﾌﾞﾙ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D16@200 ｸﾞﾌﾞﾙ
横 筋		D10@200 ｸﾞﾌﾞﾙﾌﾄﾞﾘ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D13@100 ｸﾞﾌﾞﾙ	D16@100 ｸﾞﾌﾞﾙ
開口部 補強筋	縦 筋	2-D13	2-D13	—	—	—
	横 筋	2-D13	2-D13	—	—	—
	斜 筋	—	—	—	—	—
備 考						

完全構造スリット

*鉛直スリット



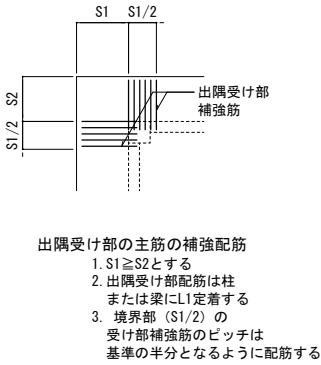
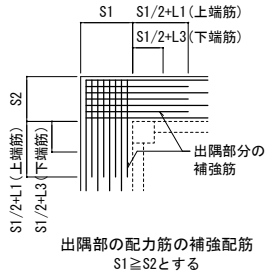
*水平スリット



〔注記事項〕 完全構造スリットは下記仕様を満足するものとする。

- 鉛直スリットの W は 30 mm、
水平スリットの W は 30 mm を標準とする。
腰壁、垂れ壁は壁高さの 1/100 以上、
袖壁は壁長さの 1/100 以上の W を確保すること。
監督員の承諾を得てスリット幅 W を変更してもよい。
- 耐火性能：U R都市機構判定基準適合 1時間耐火性能
止水性能：U R都市機構判定基準適合 脈動圧中央値 980Pa
遮音性能：透過損失45dB (500Hz)

片持ちスラブ出隅部補強要領



スラブリスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 D10～D13 SD295

符 号	板 厚	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
			端 部 中 央	端 部 中 央	
S101	150	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S102	180	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S102A	180	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@200	
S103	200	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S103A	200	上端配筋	D13@100	D13@100	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@100	
S104	250	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D13@200	D13@200	
DS101	200	上端配筋	D13@200	D13@200	捨てコンクリート t=50
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	砂利地業 t=60
DS101A	200	上端配筋	D13@100	D10D13@100	捨てコンクリート t=50
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@100	砂利地業 t=60

片持ちスラブリスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 D10～D13 SD295

符 号	板 厚	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
			端 部 中 央	端 部 中 央	
GS101	150	上端配筋	D13@200	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
GS102	180	上端配筋	D13@200	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
GS103	200	上端配筋	D13@200	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
GS103A	200	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D13@200	D13@200	
GS103B	200	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
GS103C	200	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D13@200	D13@200	
GS104	250	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D13@100	D13@200	
GS105	300	上端配筋	D13@200	D13@200	柱頭周りの補強はD16@100とする
		下端配筋	D13@200	D13@200	
DCS101	200	上端配筋	D13@200	D13@200	捨てコンクリート t=50
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 南棟 壁断面、スラブリスト	縮尺 S=1/20 (A1) S=1/40 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-03-12
----	--	--	----------------------------------	---------------------------	--------------------------------------	----------------	---------------------

鉄骨柱リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 取り付く P L等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	柱 脚	柱 頭	継 手	備 考
SC101	全断面	φ-318.5×10.3(有効細長比：82)	STK400	BAS101	JC101		
SP101	全断面	φ-89.1×3.2	STK400				階段詳細図(S-04-02)を参照

鉄骨梁リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 鋼材材質 SS400

2. 取り付く P L等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SB101	全断面	H-440×300×11×18×13		JG101	JB101,JB101A	
SB102	全断面	H-294×200× 8×12×13			JB102	
SB103	全断面	H-194×150× 6× 9× 8			JB103,JB103A	
SB104	全断面	H-500×250×12×28×13		JG102	JB101,JB101B	

ブレースリスト

【注記事項】特記なき限り右記による

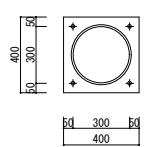
1. 材質：SS400

2. 取り付く P L等は母材と同材以上とする。

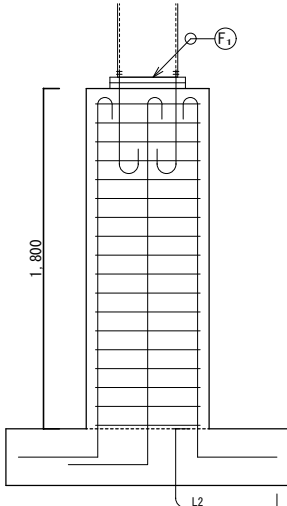
符 号	断 面	材 質	継 手	備 考
HV101	L-100×100×10		JV101	

鉄骨柱継手リスト

BAS101

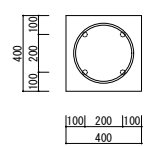


BAS101
B. PL-22×400×400 (SS400)
A. BLT-4×M20 (SNR400B)
定着長20d
ダブルナット フック付き
無収縮モルタル 30mm

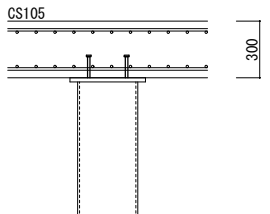


柱型 Dx×Dy=650×650
主筋 8-D25
帯筋 □-D10@100

JC101



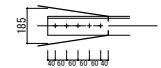
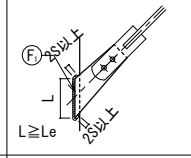
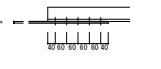
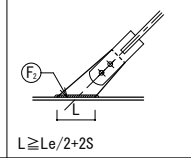
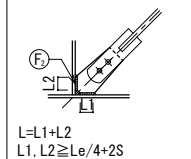
JC101
B. PL-22×400×400 (SS400)
頭付きスタッドボルト4-φ13(L=100)



ブレース継手リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

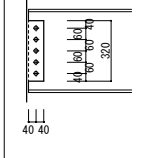
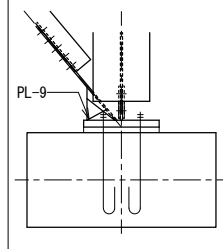
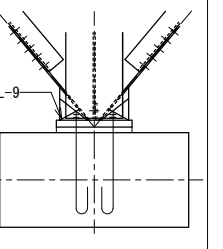
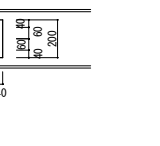
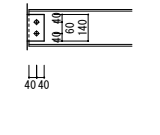
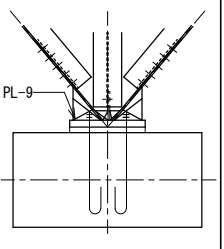
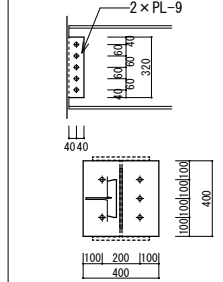
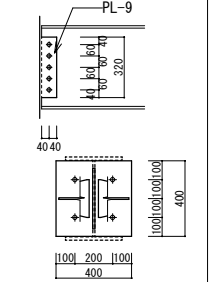
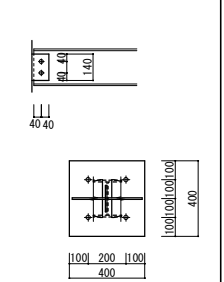
1. 取り付く P L等は母材と同材とする。
2. ボルト H.T.B S10T

符 号	JV101				ガセットプレートの種類	
部 材	L-100×100×10					
形 状					T y p e 1	
					T y p e 2	
ボルト	5-M20				T y p e 3	
G. PL (a t×B)	9×185					
必要 溶接長 (mm)	TYPE1	414				
	TYPE2	223				
	TYPE3	239				
備 考						

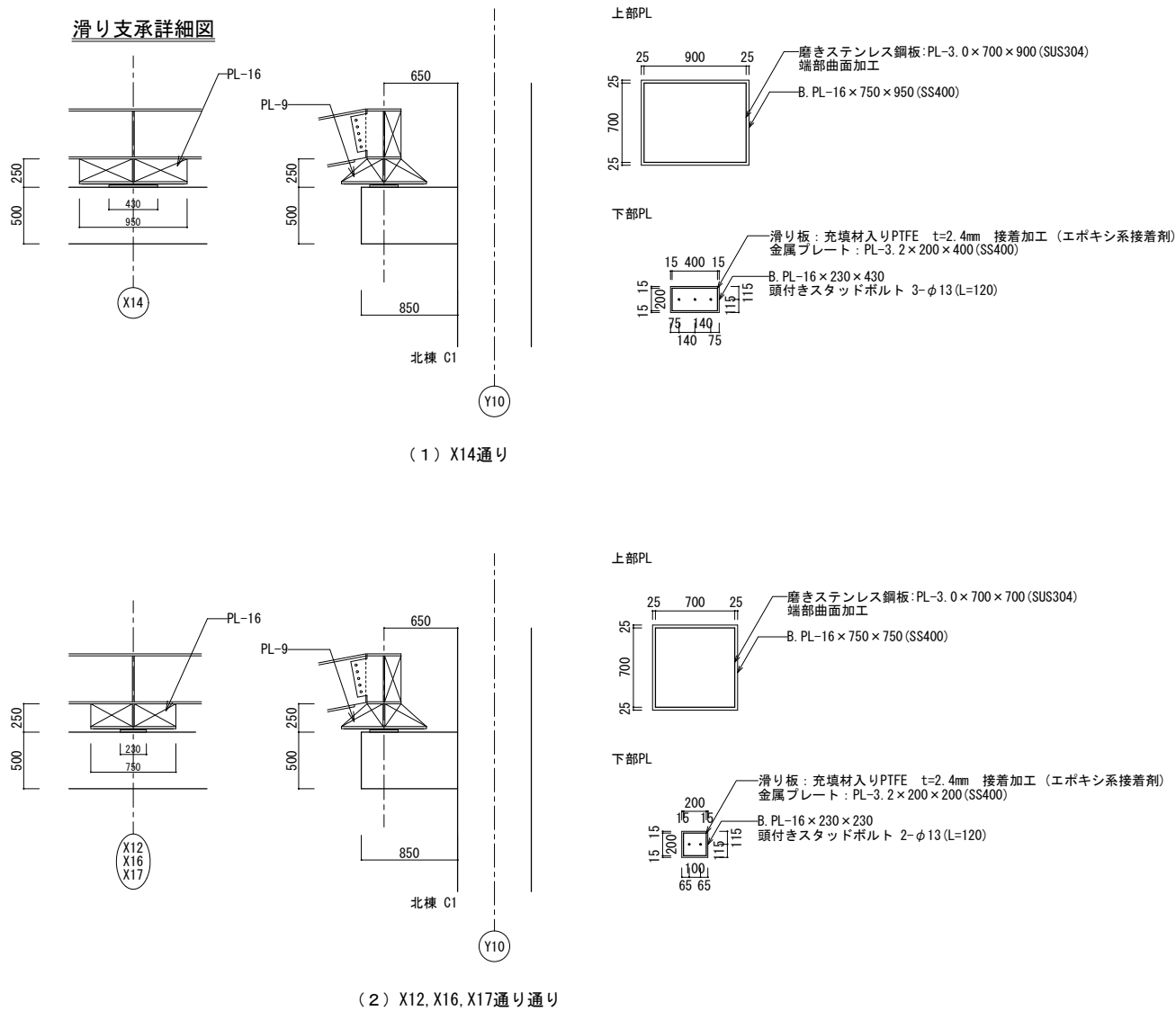
鉄骨梁継手リスト ピン接合継手

【注記事項】 特記なき限り右記による

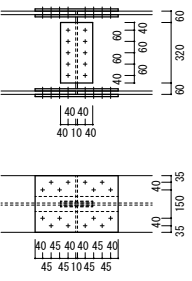
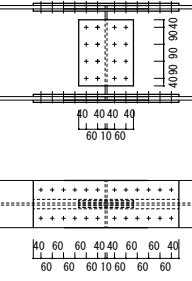
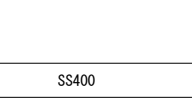
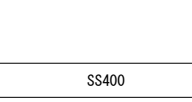
1. 取り付く P L等は母材と同材とする。
2. ボルト H.T.B S10T

符 号	JB101	JB101A	JB101B	JB102	JB103	JB103A
部 材	H-440×300×11×18×13 H-500×250×12×28×13	H-440×300×11×18×13	H-500×250×12×28×13	H-294×200× 8×12×13	H-194×150× 6× 9× 8	H-194×150× 6× 9× 8
母 材 材 質	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400	SS400
GPL 材 質						
断 面						
						
継 手	P L	PL-9	2×PL-9	PL-9	PL-9	PL-9
	ボルト	5-M20	5-M20	3-M20	2-M20	2-M20
B. PL	P L		PL-36×400×400 (SN490B)	PL-25×400×400 (SN490B)		PL-25×400×400 (SN490B)
	A. BLT 定着長		5-M24 (SNR490B) 20d	4-M20 (SNR490B) 20d		4-M20 (SNR400B) 20d
備 考		X12/Y6、X17/Y6接合部	X13~X16/Y6接合部			X12~X17/Y6接合部

滑り支承詳細図



鉄骨梁継手リスト（剛接合）

符 号	JG101	JG102		
部 材	H-440×300×11×18×13	H-500×250×12×28×13		
断 面				
				
材 質	SS400	SS400		
継 手	フ ラ ン ジ	外 P L	2PL-12×300×440	2PL-19×250×770
		内 P L	4PL-12×110×440	4PL-19×100×770
		ボルト	32-M20	48-M20
	ウ ェ ブ	P L	2PL- 9×320×170	2PL-12×350×290
備 考		ボルト	10-M20	16-M20

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

南棟 鉄骨部材リスト (2)

縮尺

S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計

令和8年

図面番号

S-03-14

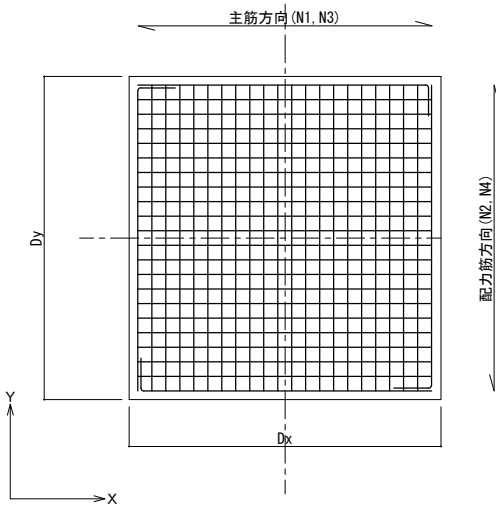
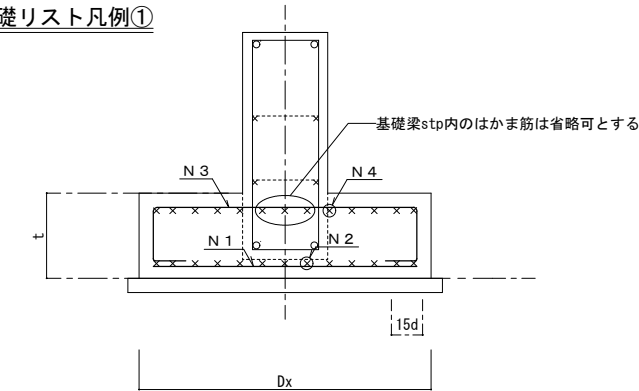
基礎リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

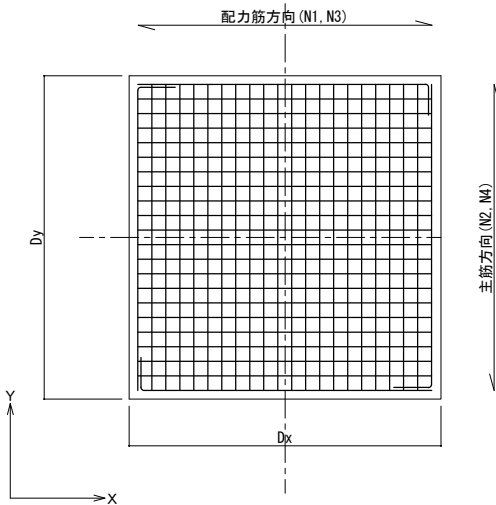
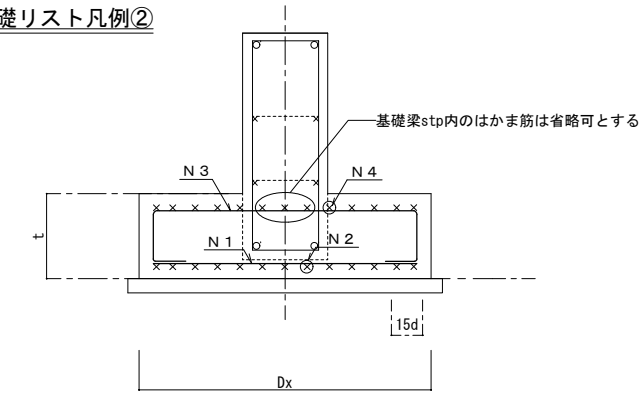
1. 材種 D10～D16 SD295、D19 SD345
3. 凡例の特記がない場合は、凡例①とする
2. 地業：捨てコンクリート地業 t=50

符 号	t	Dx	Dy	N3	N4	備 考	符 号	t	Dx	Dy	N3	N4	備 考
				N1	N2						N1	N2	
F1	300	1,500	1,500	D13@100	D13@100		F35A	900	3,000	5,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@200	D16@200						D16@100	D25@100	
F2A	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F43A	500	4,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100						D19@100	D19@100	
F2B	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100		F43B	700	4,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D22@100	D22@100						D22@100	D16@100	
F2C	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F43C	800	4,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D16@100	D16@100						D22@100	D16@100	
F2D	400	2,000	2,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F43D	600	4,000	3,500	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D16@100	D19@100						D22@100	D19@100	
F2E	500	2,500	2,500	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F43E	700	4,000	3,500	D13@100	D13@100	
				D16@100	D19@100						D22@100	D19@100	
F3A	600	2,500	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F53A	500	5,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100						D19@100	D19@100	
F3B	500	3,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F53B	600	5,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100						D19@100	D19@100	
F3C	700	3,500	3,500	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F53C	800	5,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D22@100						D19@100	D19@100	
F4A	600	4,000	4,000	D13@100	D13@100		F53D	900	5,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100						D16@100	D16@100	
F4B	700	4,000	4,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F63A	500	6,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D22@100						D19@100	D19@100	
F4C	700	4,000	4,000	D13@100	D13@100		F63B	600	6,000	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100						D19@100	D19@100	
F4D	700	4,000	4,000	D13@100	D13@100		F63C	1,000	6,000	3,000	D13@100	D13@100	
				D22@100	D19@100						D25@100	D16@100	
F4E	700	4,000	4,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F63D	700	6,500	3,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D22@100						D19@100	D19@100	
F4F	700	4,500	4,500	D13@100	D13@100		F64	800	6,000	4,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②
				D19@100	D19@100						D19@100	D19@100	
F4G	700	4,500	4,500	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②							
				D19@100	D22@100								
F4H	800	4,500	4,500	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例①（X16通り）							
				D22@100	D22@100	基礎リスト凡例②（X9通り）							
F32	500	3,000	2,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②							
				D16@100	D16@100								
F34A	700	3,000	4,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②							
				D16@100	D22@100								
F34B	800	3,000	4,000	D13@100	D13@100								
				D19@100	D19@100								
F34C	800	3,500	4,000	D13@100	D13@100	基礎リスト凡例②	F71						階段詳細図 (S-4-08) を参照
				D22@100	D22@100		F72						階段詳細図 (S-4-07, S-4-08) を参照

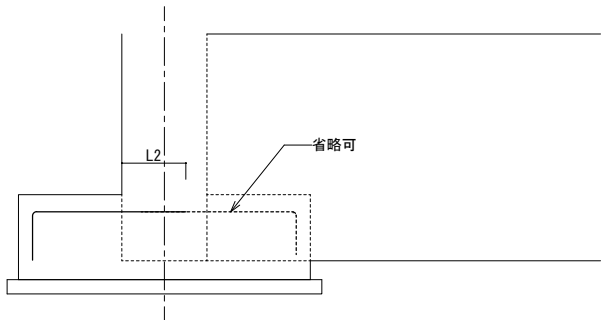
基礎リスト凡例①



基礎リスト凡例②



基礎主筋省略



基礎梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D25 SD345, D29 SD390
stp D13 SD295
2. 腹筋 6-D13 (3段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内
5. 定着および継手の仕様はS-1-14 タイプB1 による。

階	符 号	FG1	FG1A	FG2	FG2A	FG3	FG3A	FG4
1 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
	断 面							
	B×D	600×1,800	800×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800
	上端主筋	5-D25	12-D25	5-D25	8-D25	5-D29	10-D29	5-D29
	下端主筋	5-D25	14-D25	5-D25	5-D25	5-D29	10-D29	5-D29
	stp	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200
	腹 筋							
	備 考							
階	符 号	FG4A	FG5	FG6	FG6A	FG7	FG8	FG11
1 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
	断 面							
	B×D	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800	600×1,800
	上端主筋	10-D29	5-D25	5-D29	8-D29	5-D25	5-D25	10-D29
	下端主筋	10-D29	5-D25	5-D29	10-D29	5-D25	5-D25	10-D29
	stp	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (5)-D13@200
	腹 筋							
	備 考							
階	符 号	FG11A	FG12	FG12A	FG12B			
1 階	位置		全断面	全断面	全断面			
	断 面							
	B×D	600×1,800	800×1,800	900×1,800	1,000×1,800			
	上端主筋	5-D29	16-D29	16-D29	14-D32			
	下端主筋	5-D29	12-D29	12-D29	14-D32			
	stp	□ (5)-D13@200	□ (6)-D13@200	□ (7)-D13@100	□ (6)-D13@200			
	腹 筋							
	備 考							

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

北棟 基礎梁断面リスト

縮尺

S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計

令和8年

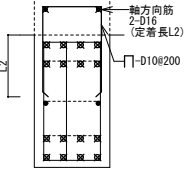
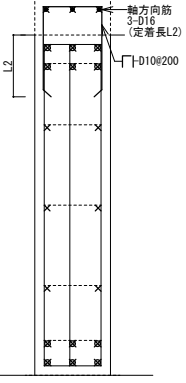
図面番号

S-3-16

基礎小梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 SD345
stp D13 SD295
2. 腹筋 6-D10 (3段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内
5. 定着および継手の仕様はS-1-14 タイプB1 による。

階	符 号	FB1	FB2					
1 階	位置	全断面	全断面					
	断 面							
	B×D	400×700	400×1,800					
	上端主筋	8-D25	6-D25					
	下端主筋	8-D25	6-D25					
	stp	□ (3)-D10@200	□ (3)-D10@200					
	腹筋	2-D10 (1段)						
	備 考							
階	符 号							
1 階	位置							
	断 面							
	B×D							
	上端主筋							
	下端主筋							
	stp							
	腹筋							
	備 考							

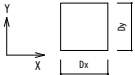
柱断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 D25 SD345
帯筋 D13 SD295, OD13 OT685

2. 帯筋の表記について、()内の数値は
X, Y方向それぞれの帯筋の数を示す。

3. 柱方向
4. へ印は2段配筋を示す。



階	符 号	C1	C1A	C1B	C11	
4 階	断 面	全断面 9 	全断面 9 	全断面 9 	5 5 	
		Dx × Dy	1, 100 × 650	1, 100 × 650	1, 100 × 650	550 × 550
	主 筋	26—D22	26—D22	26—D22	16—D25	
	帯 筋	(4, 5) -D13@100	(4, 5) -D13@100	(4, 5) -D13@100	(4, 4) -D13@100	
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋	(3, 4) -D13@150	(3, 4) -D13@150	(3, 4) -D13@150	(2, 2) -D13@150	
	備 考					
3 階	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	
		Dx × Dy				
	主 筋					
	帯 筋					
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋					
	備 考					
2 階	断 面	全断面 9 	全断面 9 	全断面 9 	5 5 	
		Dx × Dy	1, 100 × 650	1, 100 × 650	1, 100 × 650	550 × 550
	主 筋	26—D25	26—D25	26—D25	16—D25	
	帯 筋	(4, 5) -D13@100	(5, 4) -D13@100	(4, 5) -D13@100	(4, 4) -D13@100	
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋	(3, 4) -D13@150	(3, 4) -D13@150	(3, 4) -D13@150	(2, 2) -D13@150	
	備 考					
1 階	断 面		全断面 9 			
		同 上	同 上	同 上	同 上	
	Dx × Dy		1, 100 × 650			
	主 筋		26—D25			
	帯 筋		(5, 4) -OD13@100			
	芯鉄筋					
	仕口部帯筋		(3, 4) -D13@150			
	備 考					

大梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 D25 SD345, D29 SD390
stp D13 SD295, OD13 OT685
2. 腹筋 4-D10 (2段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	G1	G1A	G1B	G2	G3	G3A	G4	G4A	G4B	G5	G5A	G6		
	位置	全断面	X7端・中央	X9端	全断面	全断面	全断面	X7端・中央	X9端	全断面			全断面		全断面
R 階	断 面														
	B×D	450×900	650×900	650×900	450×900	450×900	450×900	650×900	650×900	550×900			550×900		550×900
	上端主筋	8—D25	7—D29	10—D29	8—D25	7—D25	7—D25	6—D29	10—D29	7—D25			7—D25		7—D25
	下端主筋	6—D25	7—D29	7—D29	6—D25	6—D25	5—D25	7—D29	7—D29	6—D25			5—D25		5—D25
	stp	▮ (4) -D13@200	▮ (4) -D13@100	▮ (4) -D13@100	▮ (4) -D13@100	▮ (4) -D13@200	▮ (4) -D13@200	▮ (4) -D13@100	▮ (4) -D13@100	▮ (5) -D13@200			▮ (4) -D13@100		▮ (4) -D13@200
	腹 筋														
	備 考														
4 階	位置	全断面	全断面			全断面	全断面	全断面			全断面			全断面	
	断 面								同 上		同 上				
	B×D	550×900	550×900			550×900	550×900	550×900		650×900				550×900	
	上端主筋	7—D29	10—D29			8—D25	7—D25	8—D25		8—D25				8—D25	
	下端主筋	5—D29	6—D29			5—D25	5—D25	5—D25		6—D25				5—D25	
	stp	▮ (5) -D13@200	▮ (5) -D13@100			▮ (5) -D13@200	▮ (5) -D13@100	▮ (5) -D13@100		▮ (5) -D13@200				▮ (4) -D13@200	
	腹 筋														
備 考															
3 階	位置	全断面				全断面	全断面			全断面			全断面		全断面
	断 面										同 上				
	B×D	550×900				550×900	550×900			550×900			550×900		550×900
	上端主筋	10—D25				10—D25	9—D25			8—D25			8—D25		10—D25
	下端主筋	7—D25				5—D25	5—D25			6—D25			5—D25		6—D25
	stp	▮ (5) -D13@200				▮ (5) -D13@200	▮ (4) -D13@200			▮ (5) -D13@200			▮ (4) -D13@200		▮ (5) -D13@200
	腹 筋														
備 考															
2 階	位置	全断面				全断面		全断面			全断面		全断面		全断面
	断 面						同 上			同 上	同 上		同 上		
	B×D	550×1100				550×900		550×900			550×900		550×900		550×1,100
	上端主筋	9—D25				10—D25		10—D25			8—D25		9—D25		9—D25
	下端主筋	7—D25				6—D25		5—D25			7—D25		5—D25		6—D25
	stp	▮ (5) -D13@200				▮ (5) -D13@200		▮ (4) -D13@200			▮ (5) -D13@200		▮ (4) -D13@200		▮ (4) -D13@200
	腹 筋														
備 考															

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名
三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容
北棟 大梁断面リスト (1)

縮尺
S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計
令和8年

図面番号
S-3-19

大梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 D25 SD345, D29 SD390
stp D13 SD295
2. 腹筋 4-D10 (2段)
幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	G6A	G7	G7A	G8	G11	G12	G13	G14	G15	G15A	G16	G17	G17A
R 階	位置		全断面			全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面	全断面	全断面
	断 面													
	B×D		550×900			600×900	500×900	500×900	500×900	550×900		500×900	550×900	550×900
	上端主筋		8-D25			6-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25		5-D25	5-D25	5-D25
	下端主筋		7-D25			6-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25		5-D25	5-D25	5-D25
	stp		▮ (5)-D13@200			▮ (4)-D13@200	▮ (3)-D13@200	▮ (3)-D13@200	▮ (3)-D13@200	▮ (4)-D13@200		▮ (4)-D13@100	▮ (4)-D13@200	▮ (4)-D13@100
	腹筋													
4 階	位置													
	断 面		同 上			同 上	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上	同 上	同 上
	B×D													
	上端主筋													
	下端主筋													
	stp													
	腹筋													
3 階	位置		全断面	全断面										
	断 面					同 上	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上	同 上	同 上
	B×D		550×900	550×900										
	上端主筋		10-D25	10-D25										
	下端主筋		7-D25	7-D25										
	stp		▮ (5)-D13@200	▮ (5)-D13@100										
	腹筋													
2 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面			全断面			全断面
	断 面						同 上		同 上	同 上		同 上	同 上	
	B×D	550×900	550×900	550×900	550×1100	600×1,100		500×900			550×900			400×1100
	上端主筋	8-D25	5-D25	10-D25	6-D25	6-D25		5-D25			5-D25			4-D25
	下端主筋	5-D25	5-D25	6-D25	5-D25	6-D25		5-D25			5-D25			4-D25
	stp	▮ (4)-D13@200	▮ (4)-D13@200	▮ (5)-D13@200	▮ (3)-D13@200	▮ (4)-D13@200		▮ (4)-D13@100			▮ (4)-D13@100			▮ (4)-D13@200
	腹筋													
	備考													

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

北棟 大梁断面リスト (2)

縮尺

S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計

令和8年

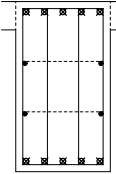
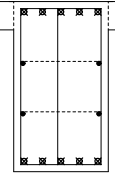
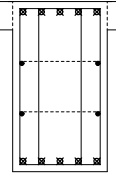
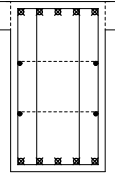
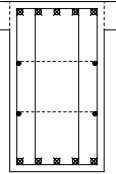
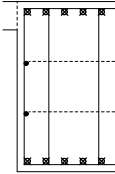
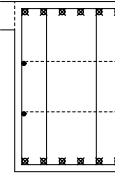
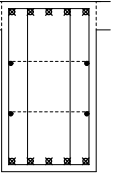
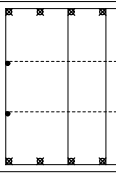
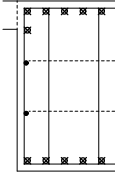
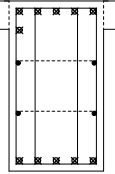
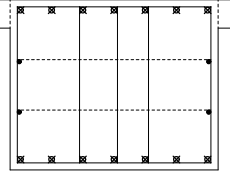
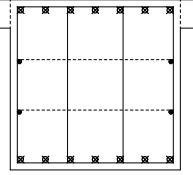
図面番号

S-3-20

大梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 D25 SD345, D29 SD390
stp D13 SD295
2. 腹筋 4-D10 (2段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	G18	G19	G20	G21	G22	G23	G24	G24A	G25	G25A	G26
R 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面		全断面		全断面
	断 面											
	B×D	500×900	500×900	500×900	500×900	500×900	600×900	600×900		500×900		1,100×900
	上端主筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25		5-D25		7-D25
	下端主筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	6-D25	6-D25		5-D25		7-D25
	stp	▣ (4)-D13@200	▣ (3)-D13@200	▣ (4)-D13@200	▣ (4)-D13@200	▣ (4)-D13@200	▣ (4)-D13@200	▣ (4)-D13@200		▣ (4)-D13@200		▣ (5)-D13@200
	腹筋											
	備 考											
4 階	位置						全断面				全断面	
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上		同 上		同 上
	B×D						600×900				500×900	
	上端主筋						7-D25				6-D25	
	下端主筋						6-D25				5-D25	
	stp						▣ (4)-D13@200				▣ (4)-D13@200	
	腹筋											
	備 考											
3 階	位置											
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上	同 上	同 上
	B×D											
	上端主筋											
	下端主筋											
	stp											
	腹筋											
	備 考											
2 階	位置								全断面		全断面	
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上		同 上		同 上
	B×D								1,100×900		900×900	
	上端主筋								7-D25		7-D25	
	下端主筋								7-D25		7-D25	
	stp								▣ (5)-D13@200		▣ (4)-D13@200	
	腹筋											
	備 考											

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

北棟 大梁断面リスト (3)

縮尺

S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計

令和8年

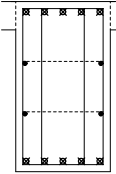
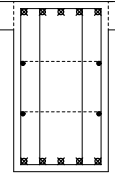
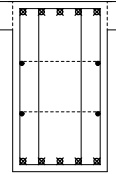
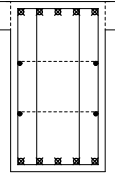
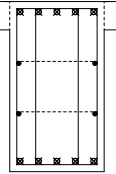
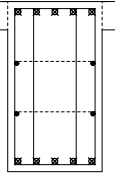
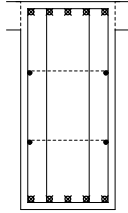
図面番号

S-3-21

大梁断面リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D22 D25 SD345, D29 SD390
stp D13 SD295
2. 腹筋 4-D10 (2段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内
4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	G27	G28	G29	G30	G31	G32						
R 階	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面						
	断 面												
	B×D	500×900	500×900	500×900	500×900	500×900	500×900						
	上端主筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25						
	下端主筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25						
	stp	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200	□ (4)-D13@200						
	腹筋												
	備 考												
4 階	位置												
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上						
	B×D												
	上端主筋												
	下端主筋												
	stp												
	腹筋												
	備 考												
3 階	位置												
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上						
	B×D												
	上端主筋												
	下端主筋												
	stp												
	腹筋												
	備 考												
2 階	位置						全断面						
	断 面	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上							
	B×D						500×1,100						
	上端主筋						5-D25						
	下端主筋						5-D25						
	stp						□ (4)-D13@200						
	腹筋												
	備 考												

小梁断面リスト

- 【注記事項】特記なき限り下記による
1. 材種 主筋 D22, D25 SD345
stp D13 SD295

2. 腹筋 4-D10 (2段)
3. 幅止筋 D10@1,000以内

4. 二段受け筋 D10@1,000以内

階	符 号	B1	B1A	B2	B3	B4			
R 階	位 置	全断面	全断面		全断面				
	断 面								
	B×D	350×700	350×700		400×700	500×800			
	上端主筋	6-D25	2-D22		8-D25	5-D25			
	下端主筋	6-D25	2-D22		8-D25	9-D25			
	stp	□ (2)-D10@200	□ (2)-D10@200		□ (3)-D10@200	□ (3)-D10@200			
	腹筋	2-D10 (1段)	2-D10 (1段)		2-D10 (1段)	2-D10 (1段)			
	備 考								
4 階	位 置								
	断 面	同 上	同 上		同 上	同 上			
	B×D								
	上端主筋								
	下端主筋								
	stp								
	腹筋								
	備 考								
3 階	位 置								
	断 面	同 上	同 上		同 上	同 上			
	B×D								
	上端主筋								
	下端主筋								
	stp								
	腹筋								
	備 考								
2 階	位 置			全断面					
	断 面	同 上	同 上		同 上	同 上			
	B×D			350×1100					
	上端主筋			6-D22					
	下端主筋			6-D22					
	stp			□ (2)-D10@200					
	腹筋								
	備 考								

片持ち梁断面リスト【注記事項】特記なき限り下記による

1. 材種

主筋 D22, D25 SD345

stp D13 SD295

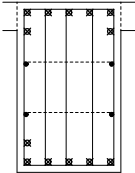
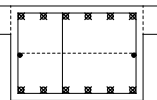
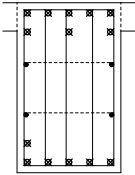
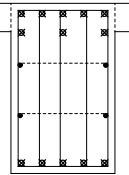
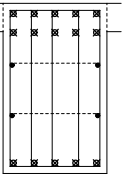
2. 腹筋

4-D10 (2段)

幅止筋 D10@1,000以内

4. 二段受け筋

D10@1,000以内

階	符 号	C61	C62	C63	C611				
R 階	位 置			全断面					
	断 面								
	B×D			550×900					
	上端主筋			7-D25					
	下端主筋			6-D25					
	stp			▮ (5)-D13@200					
	腹筋								
4 階	位 置				全断面				
	断 面			同 上					
	B×D				700×900				
	上端主筋				6-D25				
	下端主筋				6-D25				
	stp				▮ (3)-D13@200				
	腹筋				2-D10 (1段)				
3 階	位 置			全断面					
	断 面								
	B×D			550×900					
	上端主筋			8-D25					
	下端主筋			6-D25					
	stp			▮ (5)-D13@200					
	腹筋								
2 階	位 置	全断面	全断面						
	断 面			同 上					
	B×D	550×900	550×900						
	上端主筋	8-D25	10-D25						
	下端主筋	5-D25	5-D25						
	stp	▮ (5)-D13@200	▮ (5)-D13@200						
	腹筋								
	備 考								

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名
三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容
北棟 片持ち梁断面リスト

縮尺
S=1/20 (A1)
S=1/40 (A3)

設計
令和8年

図面番号
S-3-24

壁リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

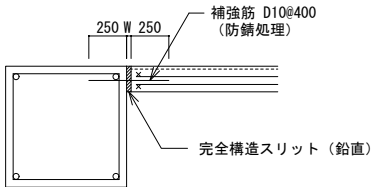
1. 材種 D10,D13 SD295

2. 幅止筋 D10-@1,000以内

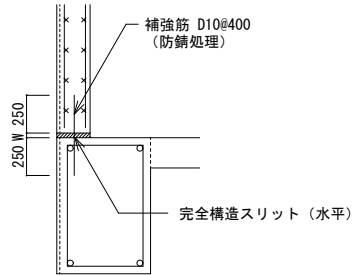
符 号		W15	W18	W20	W25	W25A	W25B	W40
平断面								
	壁厚(t)	150	180	200	250	250	250	400
	縦 筋	D13@200 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D16@100 ダブル	D13@100 ダブル	D13@200 ダブル	D16@200 ダブル
	横 筋	D10@200 ダブルφトリ	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@200 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル
	開口部補強筋							
	縦 筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13		
	横 筋	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13		
	斜 筋	—	—	—	—	—		
備 考						階段詳細図(S-4-08)を参照		階段詳細図(S-4-08)を参照
符 号		EW20	EW20A	EW25	EW30	EW30A	EW40	EW40A
平断面								
	壁厚(t)	200	200	250	300	300	400	400
	縦 筋	D13@200 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D19@200 ダブル	D19@200 ダブル
	横 筋	D13@200 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D13@100 ダブル	D19@200 ダブル	D19@100 ダブル
	開口部補強筋							
	縦 筋	—	—	—	—	4-D16	—	—
	横 筋	—	—	—	—	6-D19	—	—
	斜 筋	—	—	—	—	4-D19	—	—
備 考								

完全構造スリット

＊鉛直スリット



＊水平スリット



【注記事項】 完全構造スリットは下記仕様を満足するものとする。

1. 鉛直スリットの W は 30 mm、
水平スリットの W は 30 mm を標準とする。
腰壁、垂れ壁は壁高さの 1/100 以上、
袖壁は壁長さの 1/100 以上の W を確保すること。
監督員の承諾を得てスリット幅 W を変更してもよい。
2. 耐火性能：U R 都市機構判定基準適合 1 時間耐火性能
止水性能：U R 都市機構判定基準適合 脈動圧中央値 980Pa
遮音性能：透過損失45dB (500Hz)

スラブリスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 D10～D13 SD295

符 号	板 厚	位 置	主筋方向	配筋筋方向	備 考
			端 部 中 央	端 部 中 央	
S1	150	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S1A	150	上端配筋	D13@100	D13@100	
		下端配筋	D13@100	D10D13@100	
S1B	150	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@200	
S2	180	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S3	200	上端配筋	D13@200	D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
S3A	200	上端配筋	D13@100	D10D13@100	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@100	
S3B	200	上端配筋	D13@200	D13@100	配筋筋方向は上端、下端をL2定着とする
		下端配筋	D13@200	D13@100	
S3C	200	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@200	
DS1	200	上端配筋	D13@200	D13@200	捨てコンクリート t=50 砂利地業 t=60
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
DS1A	200	上端配筋	D13@100	D13@200	捨てコンクリート t=50 砂利地業 t=60
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@200	
DS1B	200	上端配筋	D13@100	D13@100	捨てコンクリート t=50 砂利地業 t=60
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@100	
DC	150	上端配筋	D10@200 シングル	D10@200 シングル	捨てコンクリート t=50 砂利地業 t=60 土間コンクリート
		下端配筋			

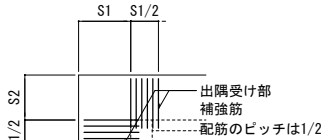
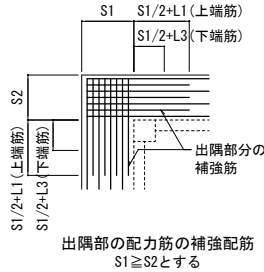
片持ちスラブリスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 材種 D10～D13 SD295

符 号	板 厚	位 置	主筋方向	配筋筋方向	備 考
			端 部 中 央	端 部 中 央	
CS1	150	上端配筋	D13@200	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
CS2	200	上端配筋	D13@200	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@200	D10D13@200	
CS2A	200	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D13@200	D13@200	
CS3	250	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D1013@100	D10D13@100	
CS3A	250	上端配筋	D13@100	D13@200	
		下端配筋	D13@200	D13@200	
CS4	500	上端配筋	D13@100	D10D13@200	
		下端配筋	D10D13@100	D10D13@200	

片持ちスラブ出隅部補強要領



- 出隅受け部の主筋の補強配筋
1. S1 ≥ S2とする
2. 出隅受け部配筋は柱
または梁にL1定着する
3. 境界部 (S1/2) の
受け部補強筋のピッチは
基準の1/2となるように配筋する

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 壁断面、スラブリスト	縮尺 S=1/20 (A1) S=1/40 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-3-25
--	----	--	------------------------------	-----------------------	----------------------------------	------------	----------------

鉄骨柱リスト

【注記事項】特記なき限り右記による

1. 取り付くP L等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	柱 脚	柱 頭	継 手	備 考
SP1	全断面	φ-216.3×8	STK400				

鉄骨柱継手リスト

50

300

50

50

200

200

50

BAS101

B. PL-22×400×400 (SS400)

A. BLT-4×M20 (SNR400B)

定着長20d

ダブルナット フック付き

無収縮モルタル 30mm

BAS102

B. PL-22×400×400 (SS400)

A. BLT-6×M24 (SNR400B)

定着長20d

ダブルナット フック付き

無収縮モルタル 30mm

1,800

700

柱型 Dx×Dy=700×700

主筋 8-D25

帯筋 □-D10@100

JC101

68

B. PL-22×400×400 (SS400)

頭付きスタッドボルト4-φ13 (L=100)

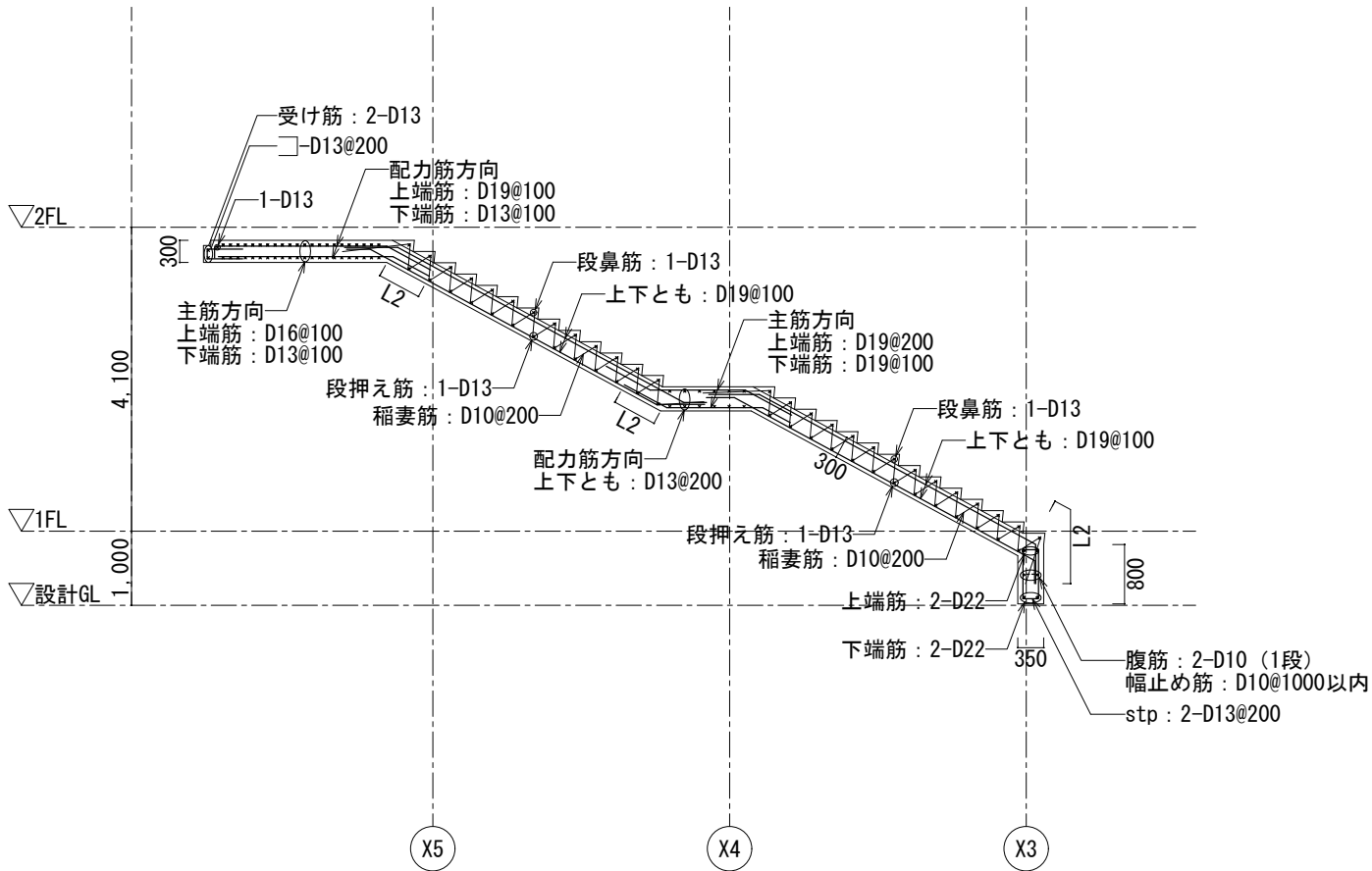
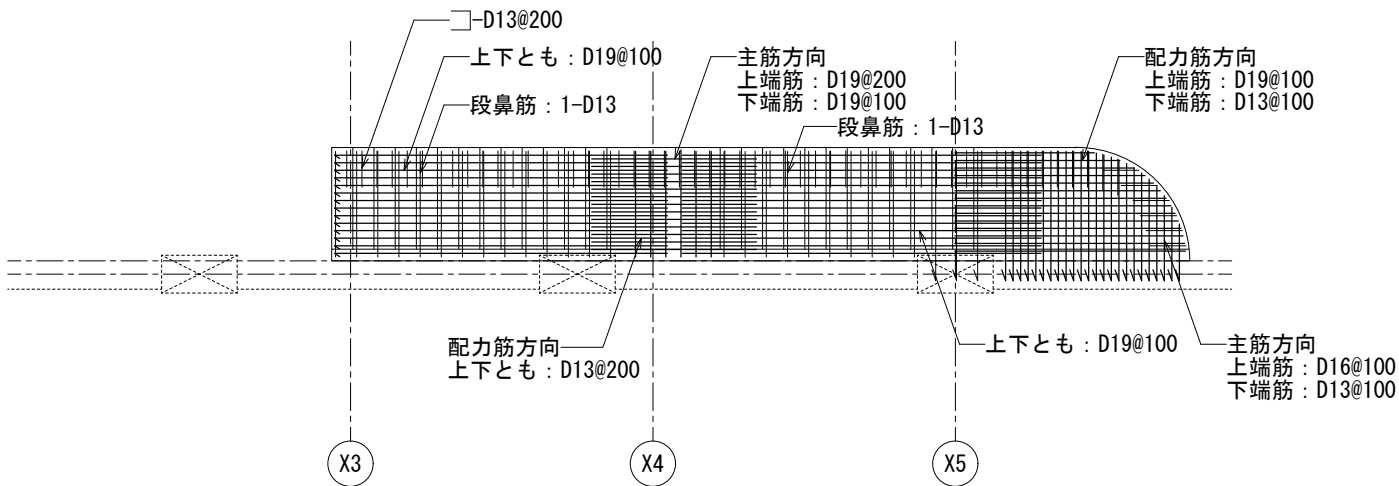
68

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第91152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 北棟 鉄骨部材リスト	縮尺 S=1/20 (A1) S=1/40 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-3-26
--	----	---	--------------------------------	----------------------	----------------------------------	------------	----------------



株式会社 構造計画プラス・ワン
東京都千代田区西船場8番地13 西野ビル3階
一級建築士事務所登録 東京都知事登録 第30686号
一級建築士 第317209号
構造設計一級建築士 第5450号 早稲倉 章 悟

階段詳細図（屋外階段 南西）

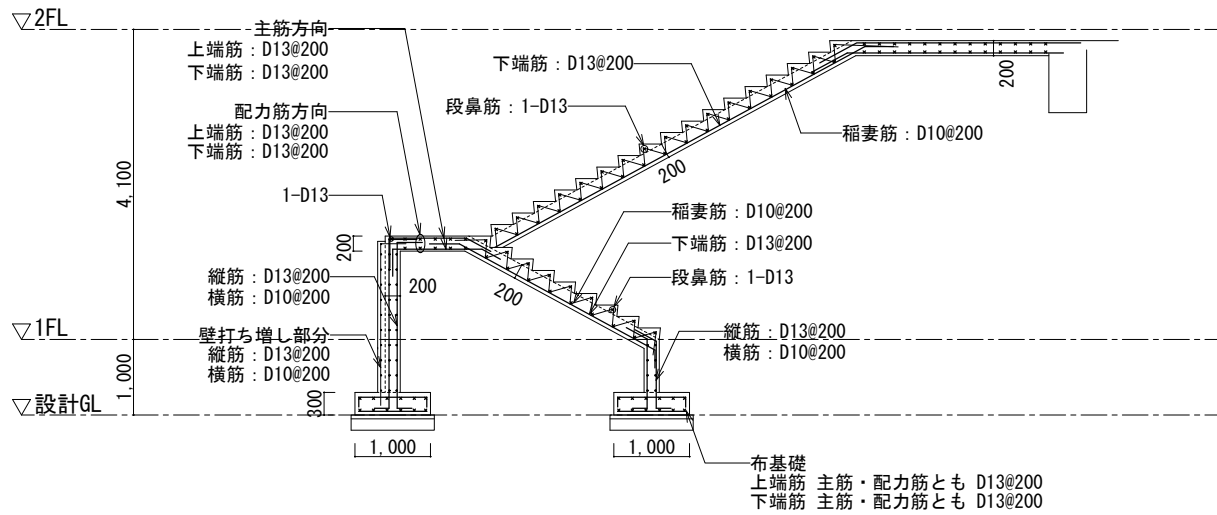
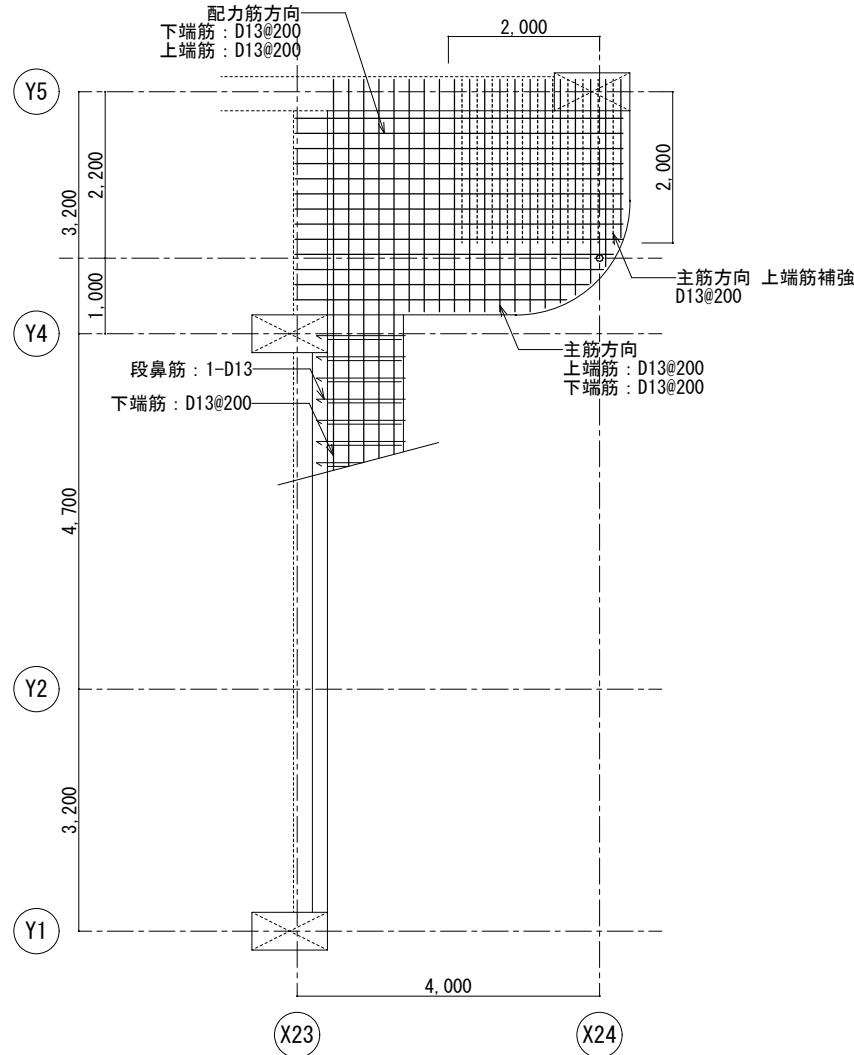
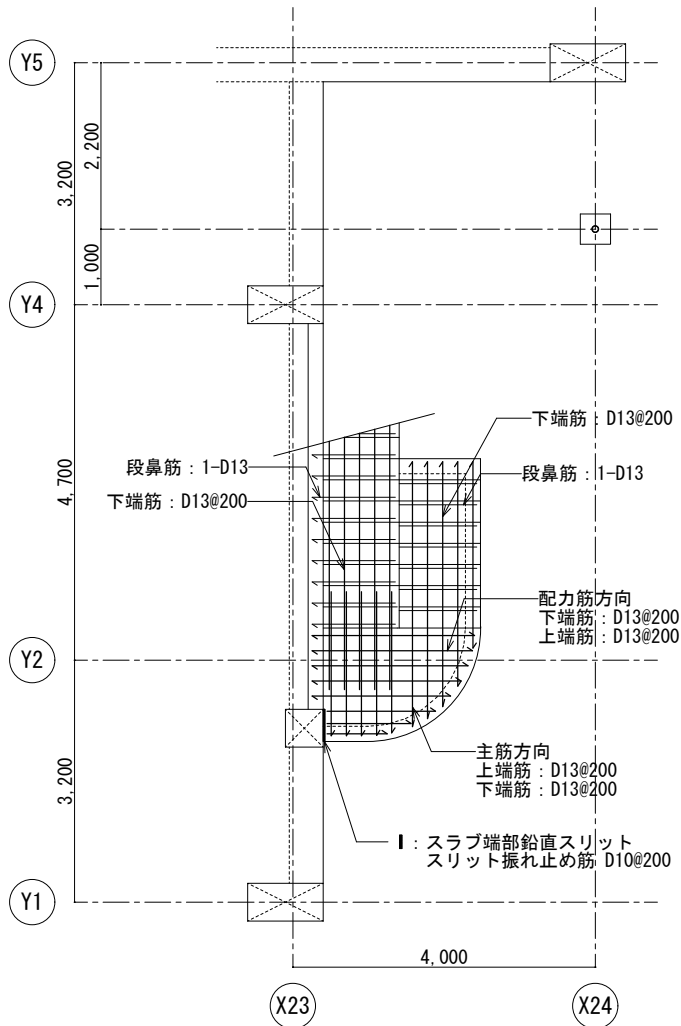
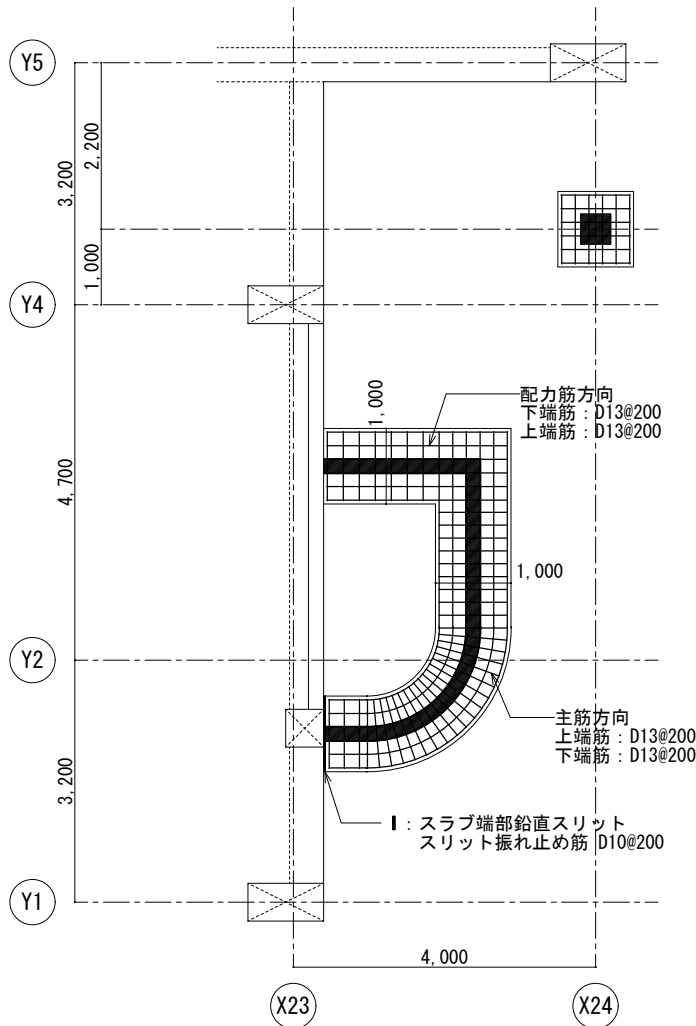


階段詳細図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 2. 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=150

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図(1)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-01
--	----	--	------------------------------	------------------	-----------------------------------	------------	----------------

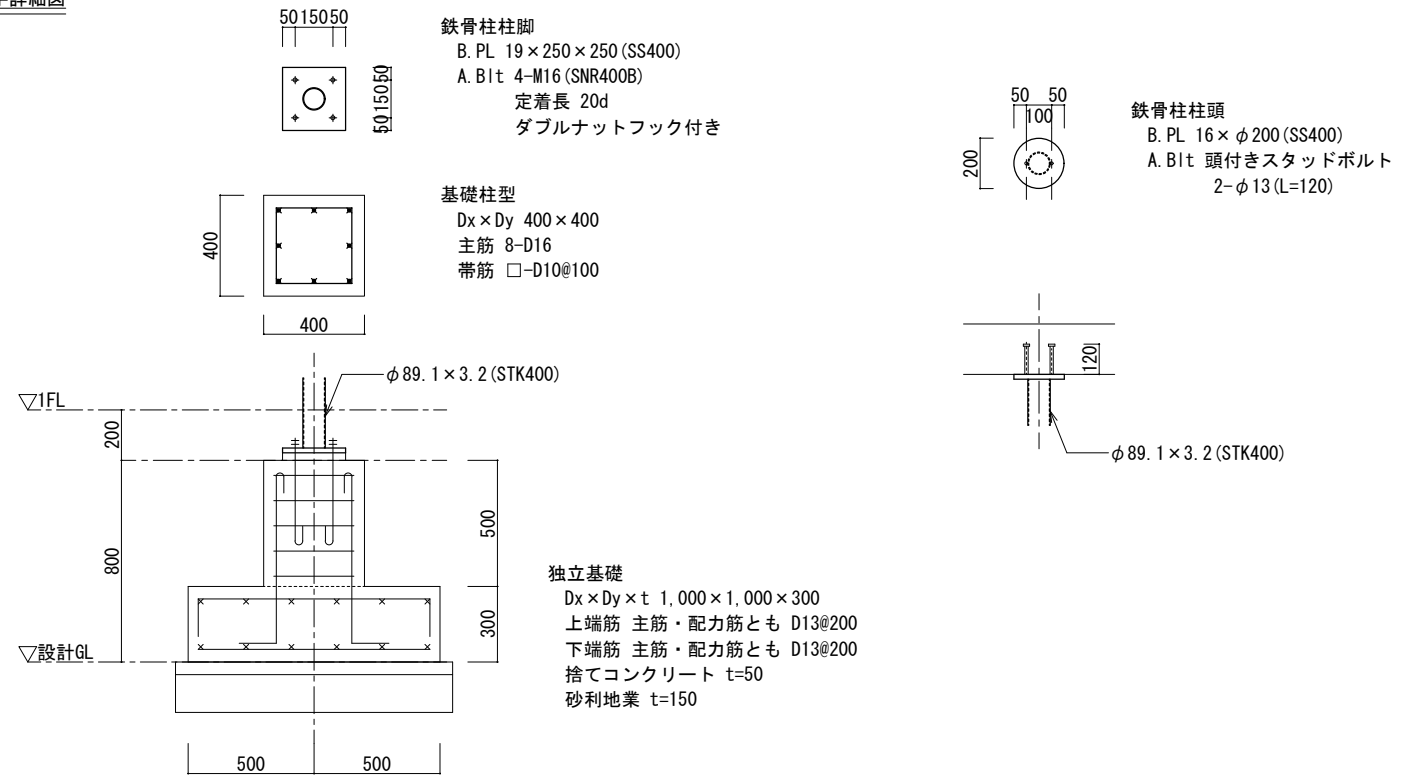
階段詳細図（屋外階段 南東）



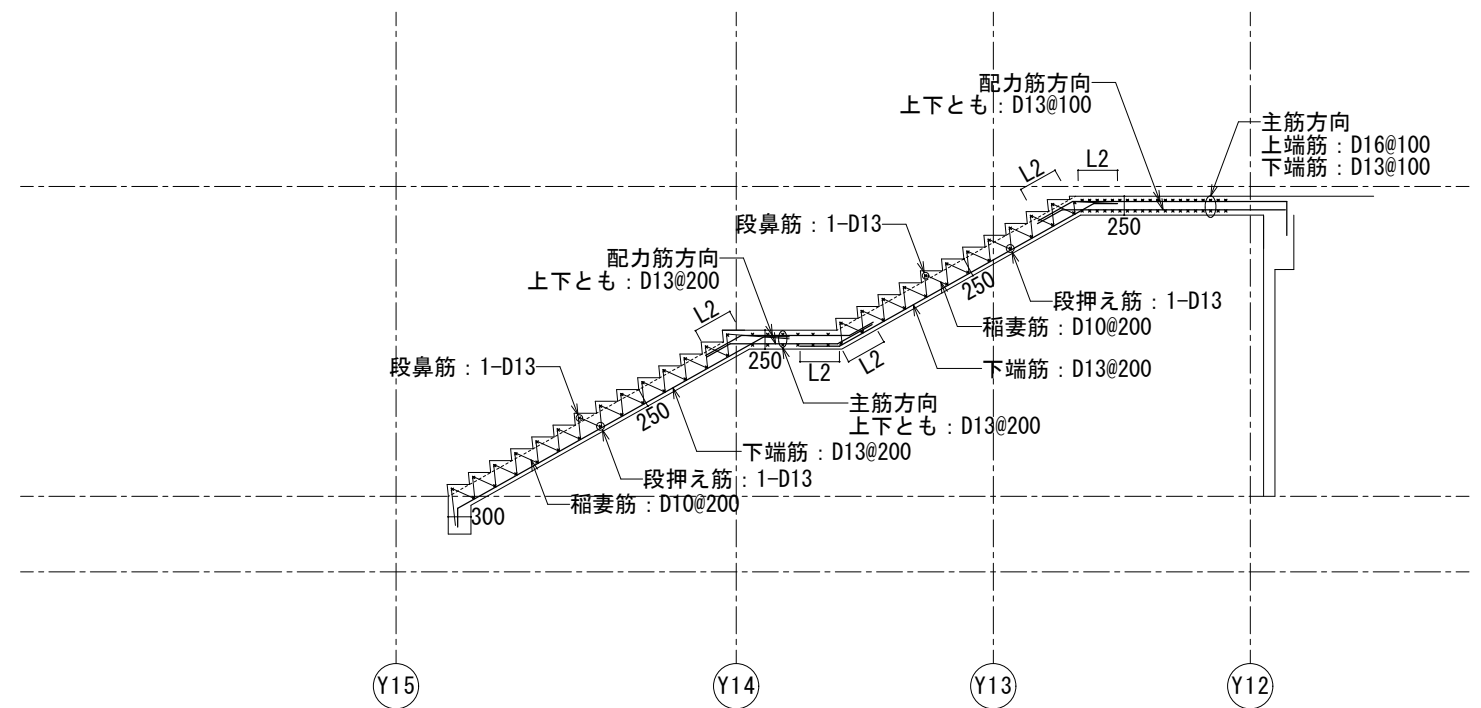
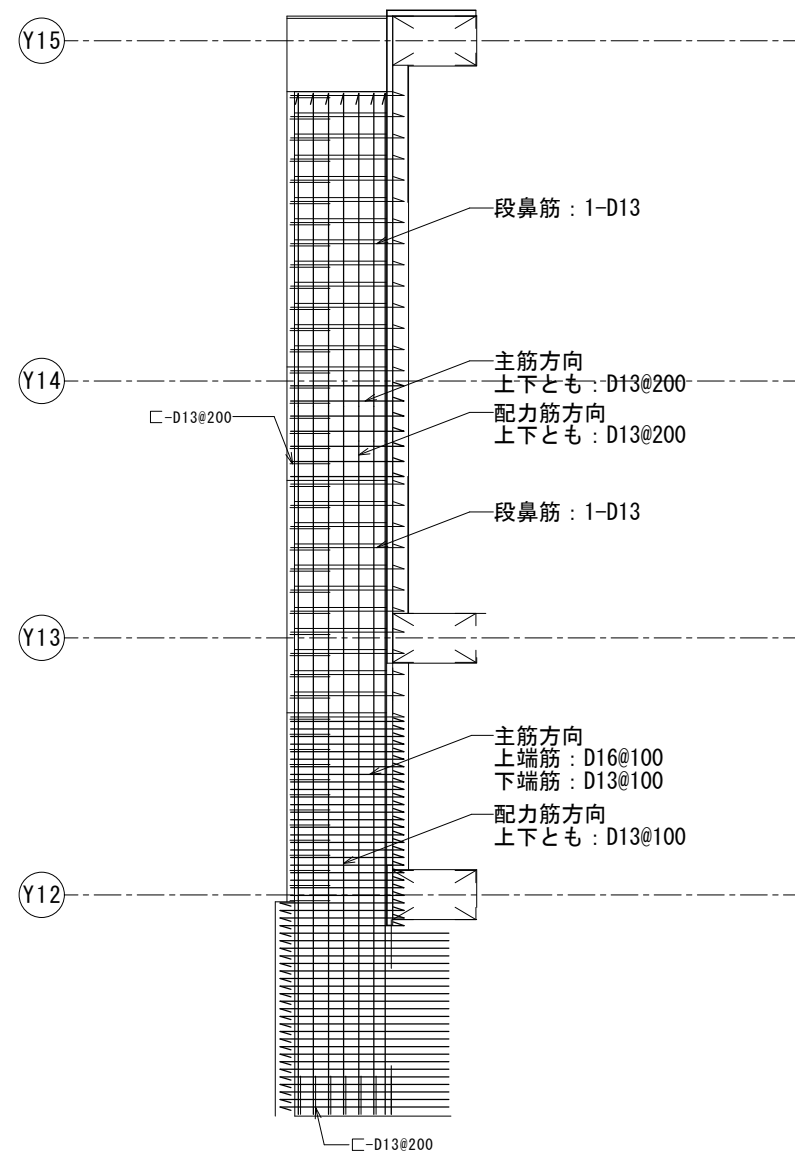
階段詳細図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=150

鉄骨柱継手詳細図



階段詳細図（屋外階段 北西）

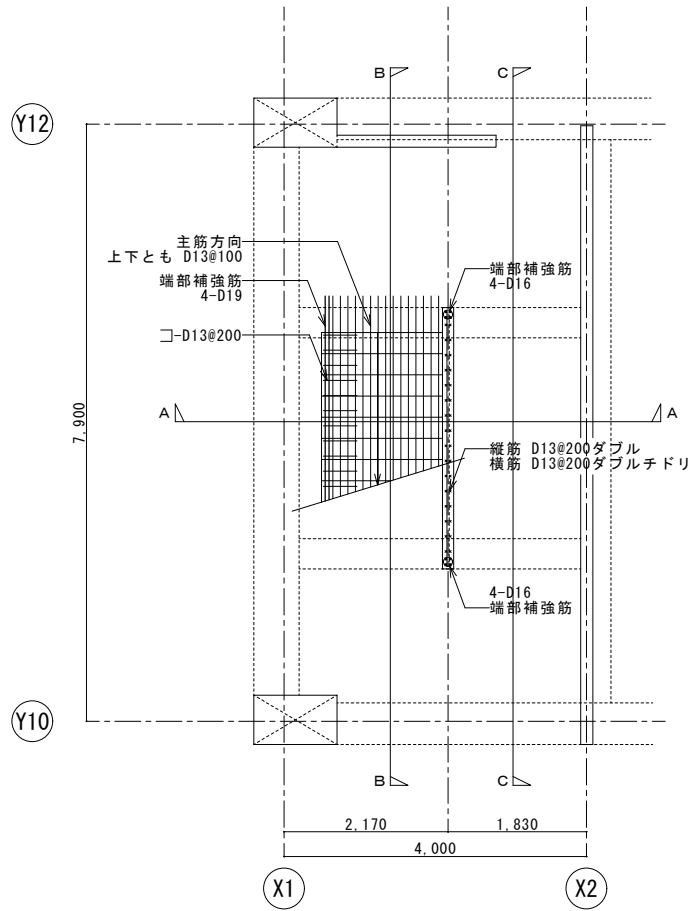


階段詳細図

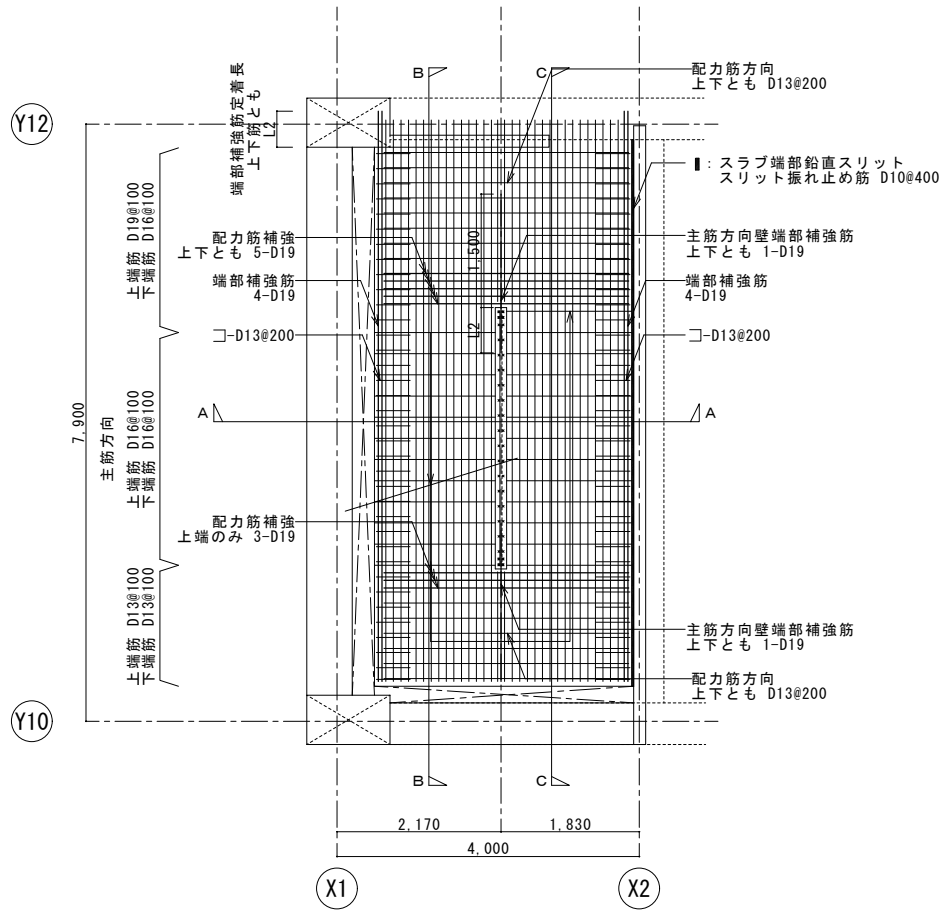
【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 1FL=設計GL+1000 とする。
2. 地業：捨てコンクリート地業 $t=50$
砂利地業 $t=150$

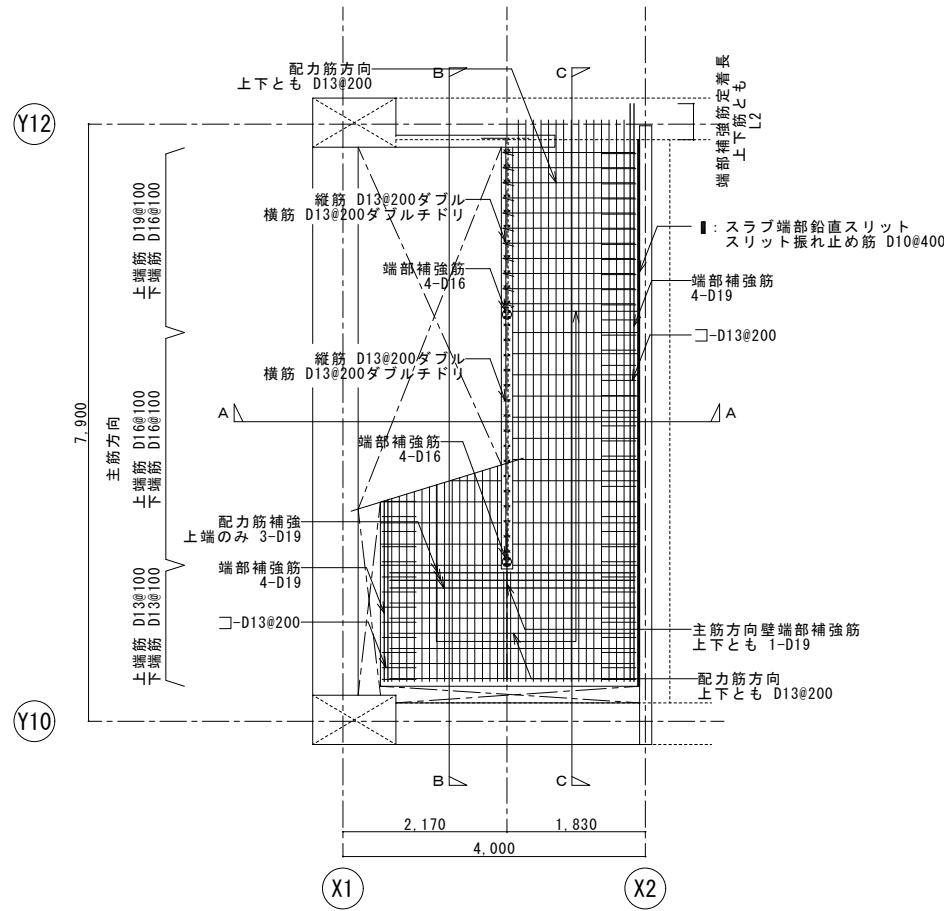
備考	設計者：設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録（い-30）第9152号 宇野 享（一級建築士 第246066号） 良知 康晴（一級建築士 第361862号）	工事名	三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容	階段詳細図（3）	縮尺	S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計	令和8年	図面番号	S-4-03
----	--	-----	------------------------------	------	----------	----	-----------------------------	----	------	------	--------



2階伏図

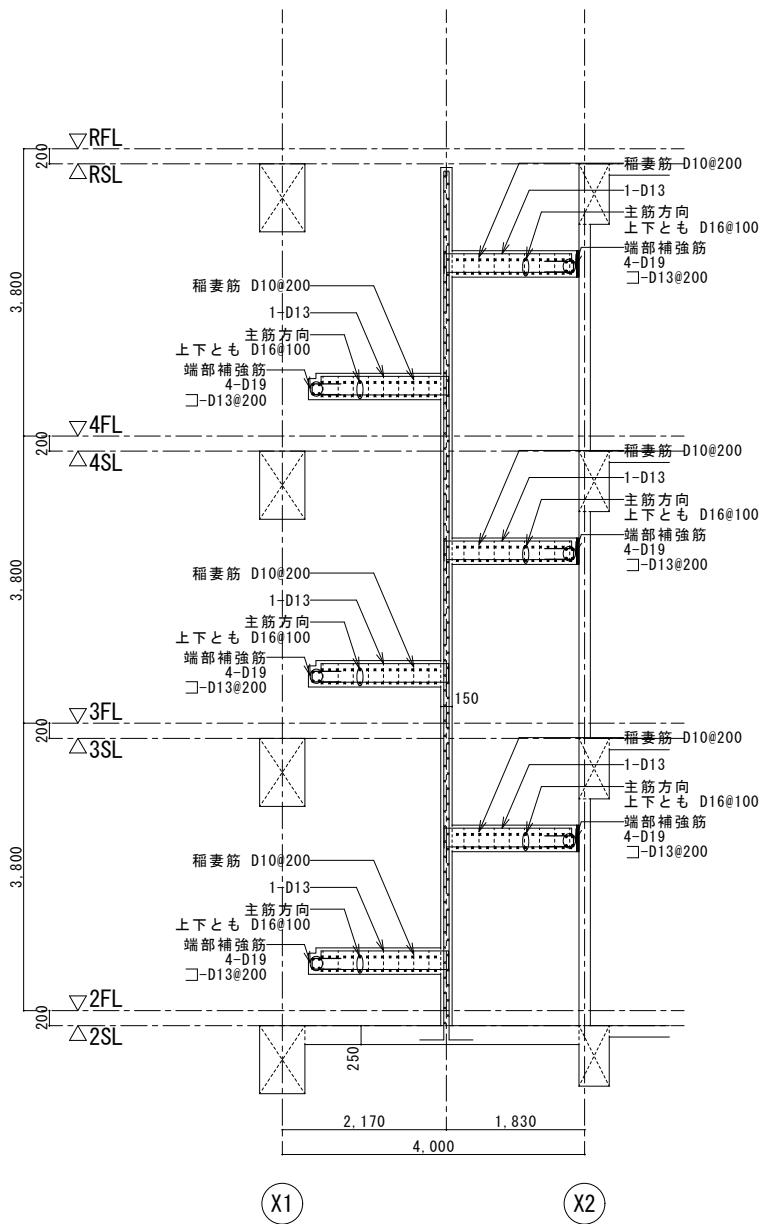


3, 4階伏図

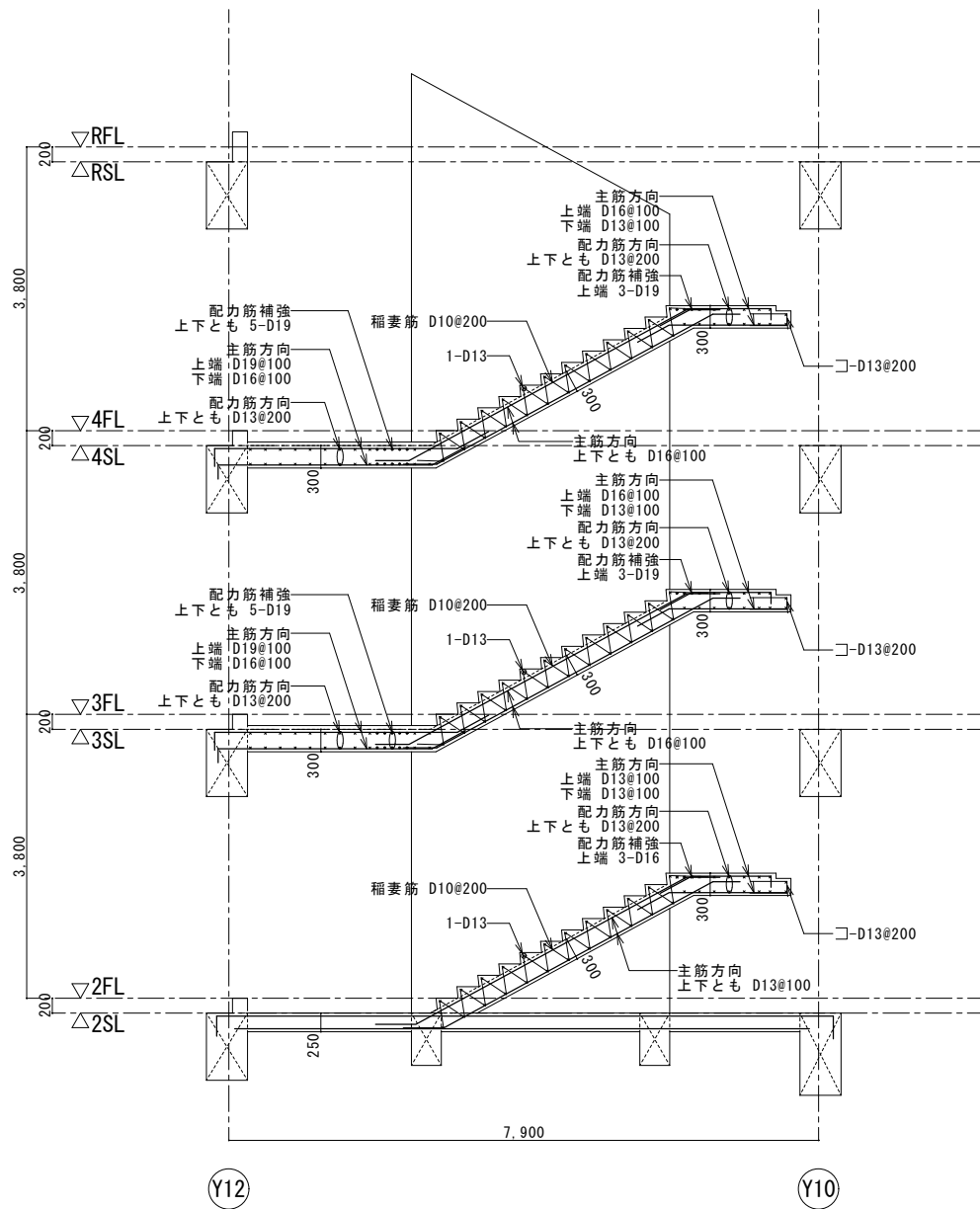


屋根伏図

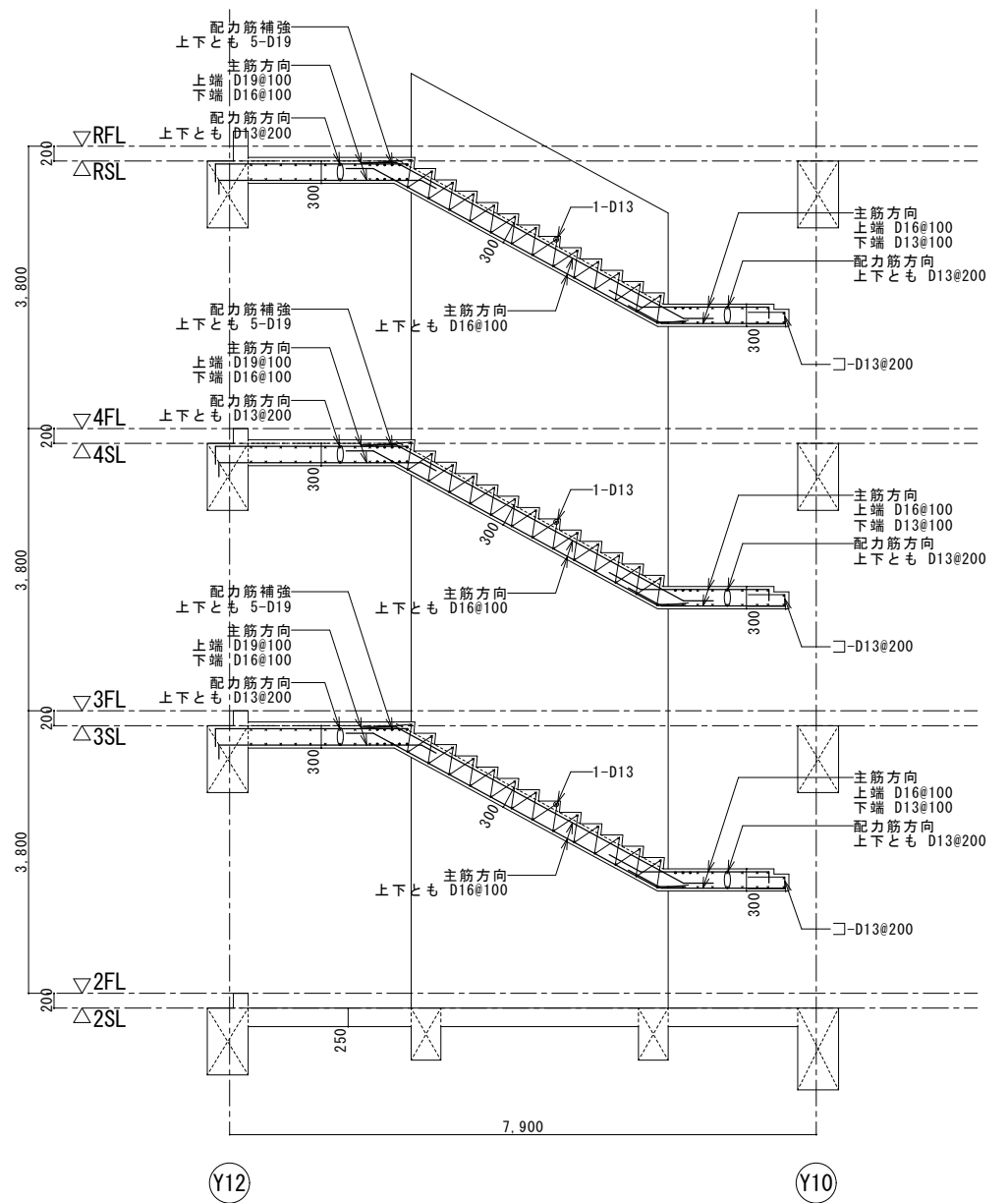
階段詳細図（屋外階段 北西）



A断面図



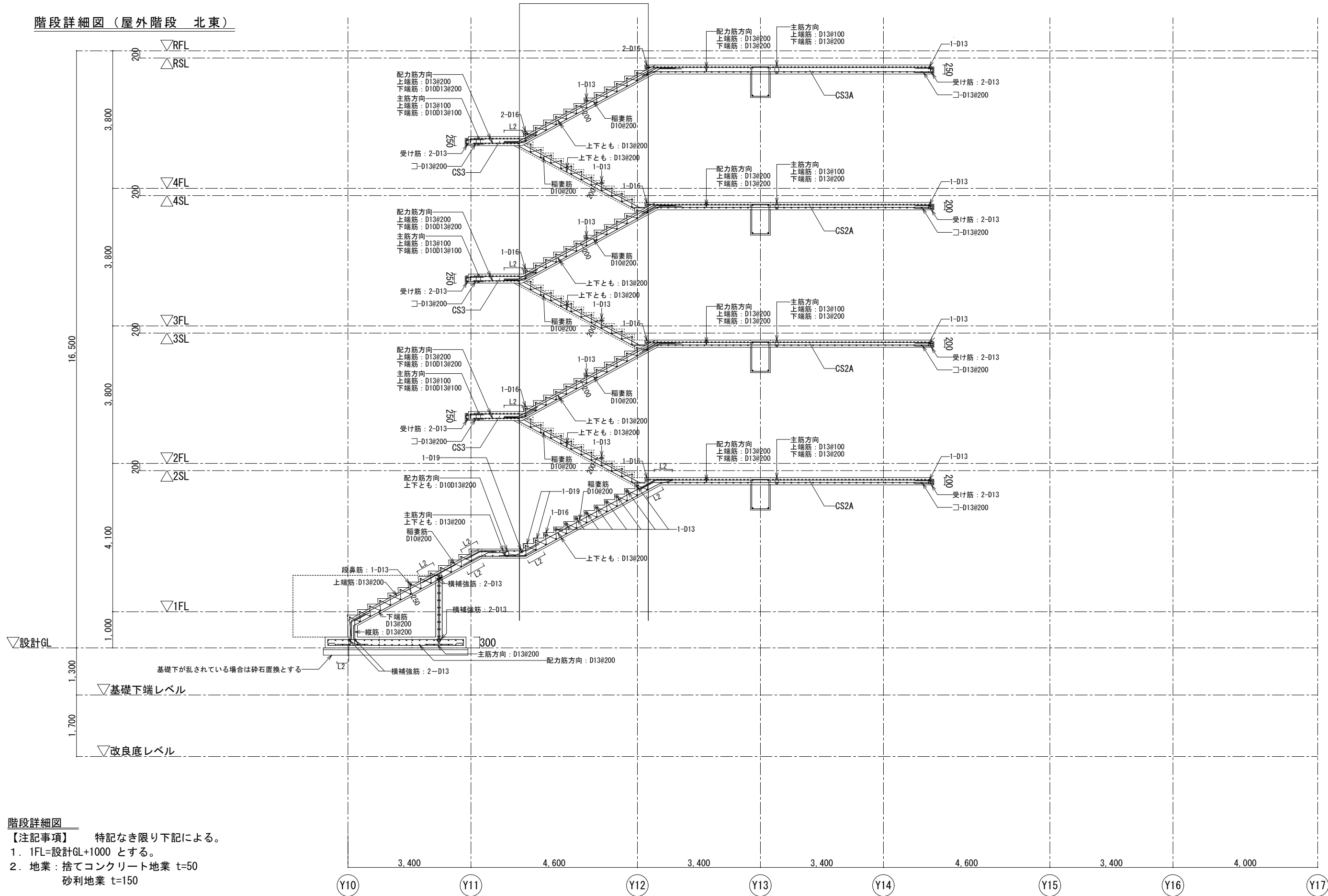
B断面図



C断面図

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図 (5)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-05
--	----	--	------------------------------	-------------------	-----------------------------------	------------	----------------

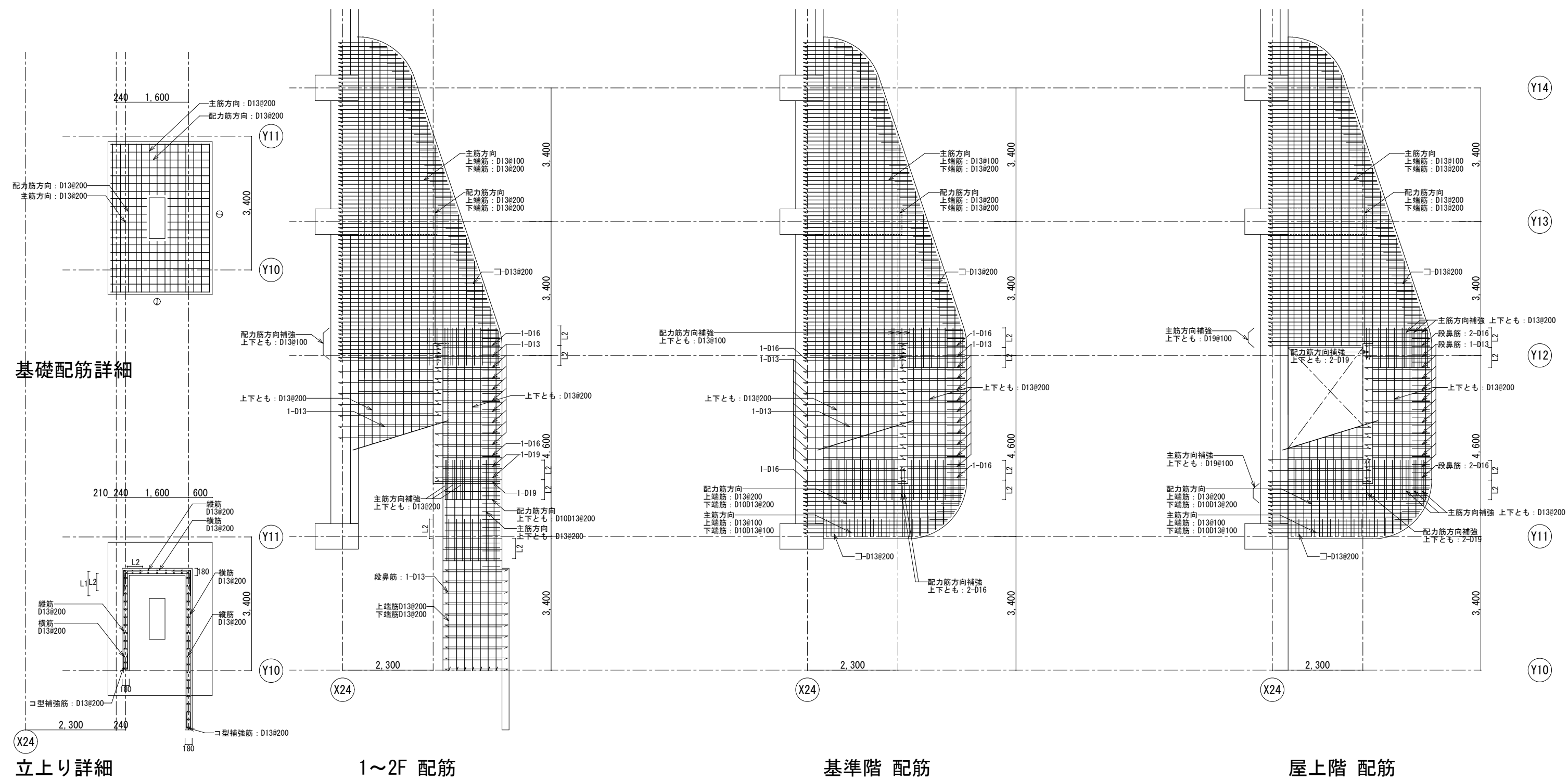
階段詳細図（屋外階段 北東）



階段詳細図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - 地業：捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=150

備考		設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図 (6)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-06
----	--	--	------------------------------	-------------------	-----------------------------------	------------	----------------



階段詳細図

【注記事項】 特記なき限り下記による。
1. 1FL=設計GL+1000 とする。
2. スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図 (7)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-07
--	----	--	------------------------------	-------------------	-----------------------------------	------------	----------------

階段詳細図（屋外階段 北東）

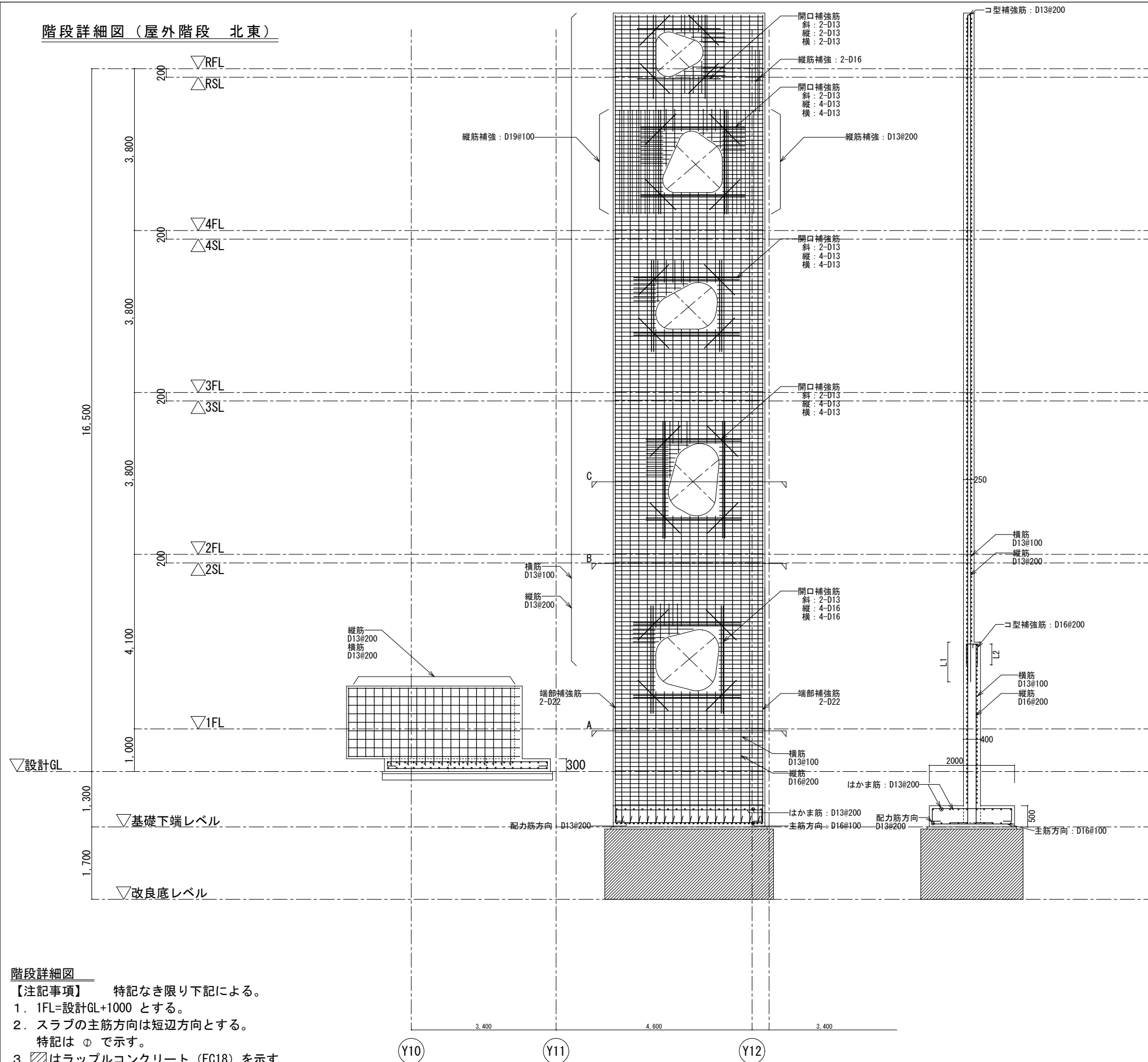


Figure 10 shows the reinforcement details for the end of a beam. The diagram includes a cross-section of the beam with a width of 250mm. It illustrates the placement of end reinforcement (端部補強筋 2-D22) and the connection to the main reinforcement (主筋 D13@100 and 腰筋 D16@200). A U-shaped reinforcement bar (U型補強筋: D13@100) is also shown.

C断面

端部補強筋 2-D22

横筋 D13@100

縦筋 D16@200

U型補強筋: D13@100

250

L2

B断面

Figure 10: Reinforcement details of the beam. The diagram shows a cross-section of a beam with width b and height h . The reinforcement includes top bars (2-D22), bottom bars (D16@200), and cross-section bars (D13@100). The end reinforcement is labeled "端部補強筋 2-D22". The cross-section bars are labeled "横筋 D13@100". The bottom bars are labeled "縦筋 D16@200". The end reinforcement is also labeled "型補強筋: D13@100". The beam length is indicated as $L2$.

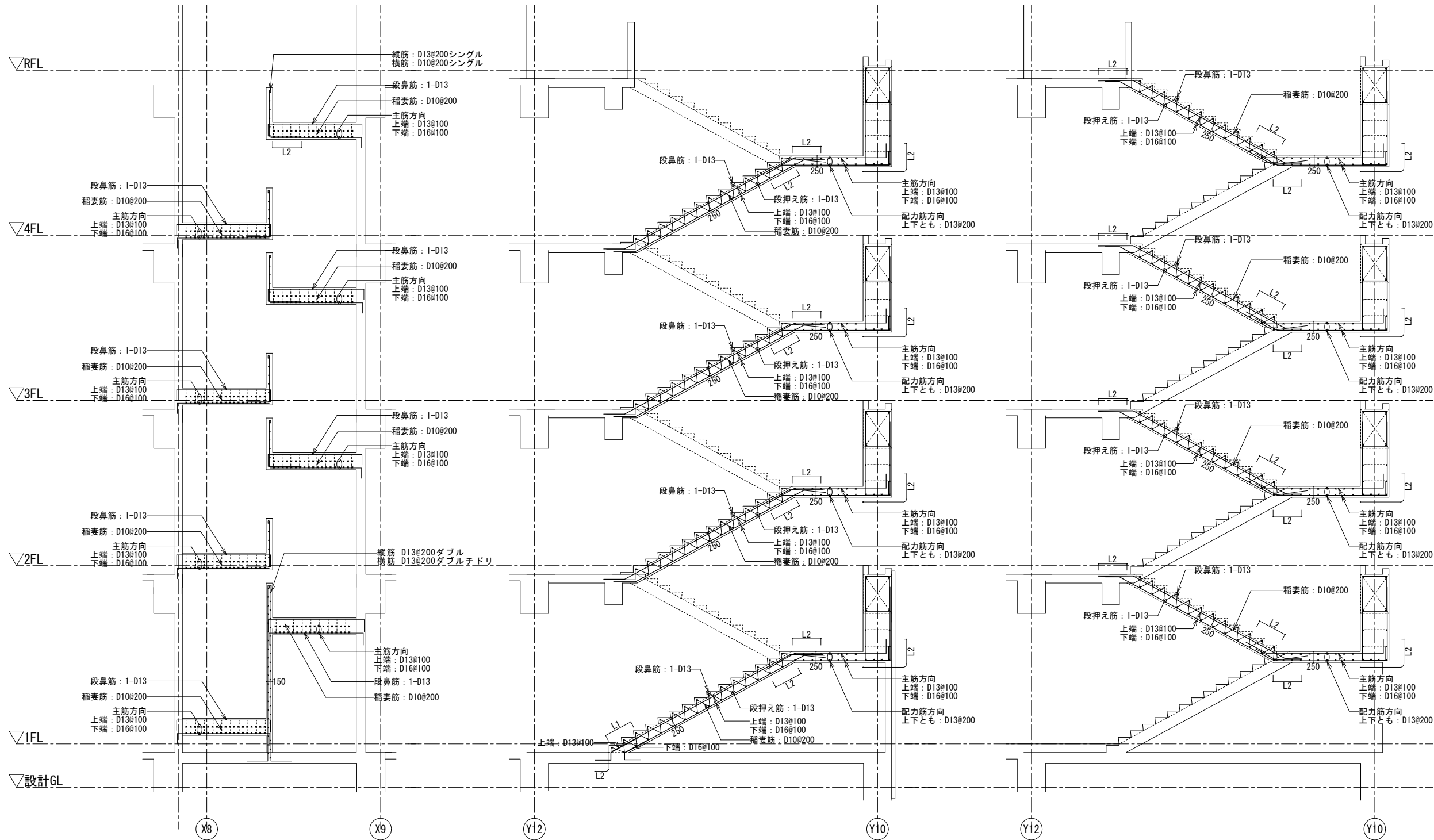
A断面

階段詳細図

【**注記事項**】 特記なき限り下記による。

1. 1FL=設計GL+1000 とする。
2. スラブの主筋方向は短辺方向とする。
特記は ① で示す。
3. はラップルコンクリート (FC18) を示す
4. 地業: 捨てコンクリート地業 t=50
砂利地業 t=150

階段詳細図（屋内階段 階段1）

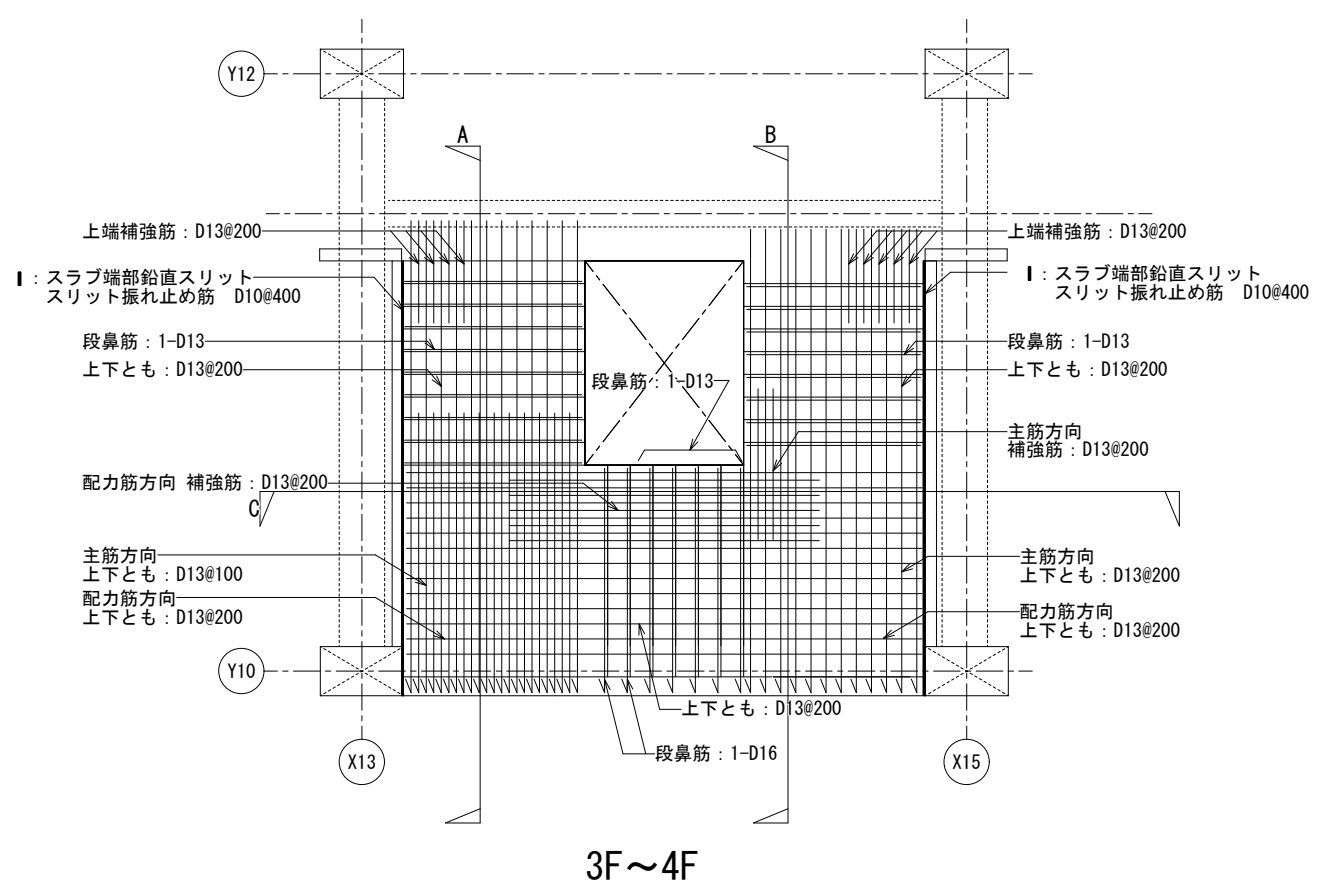
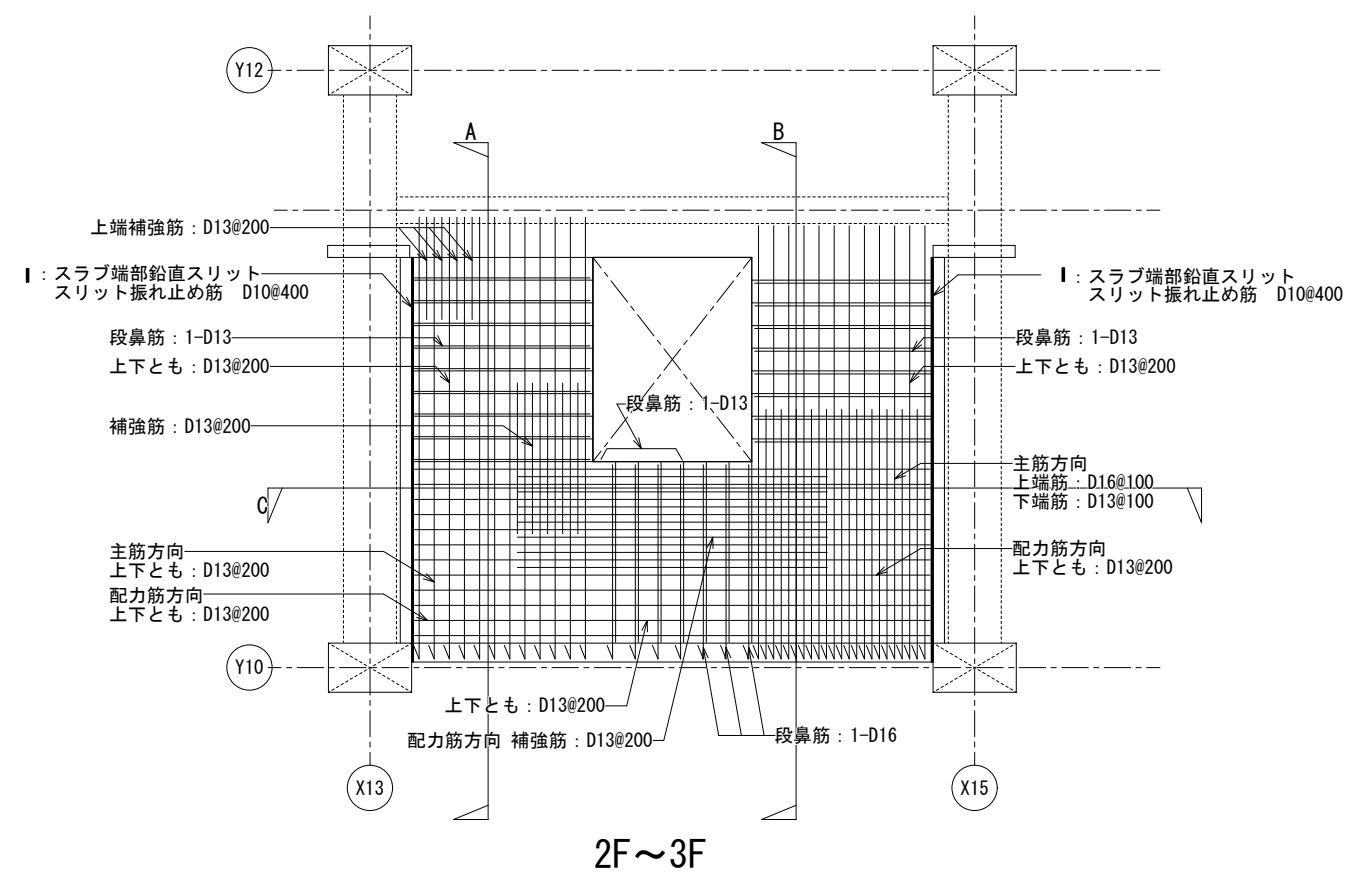
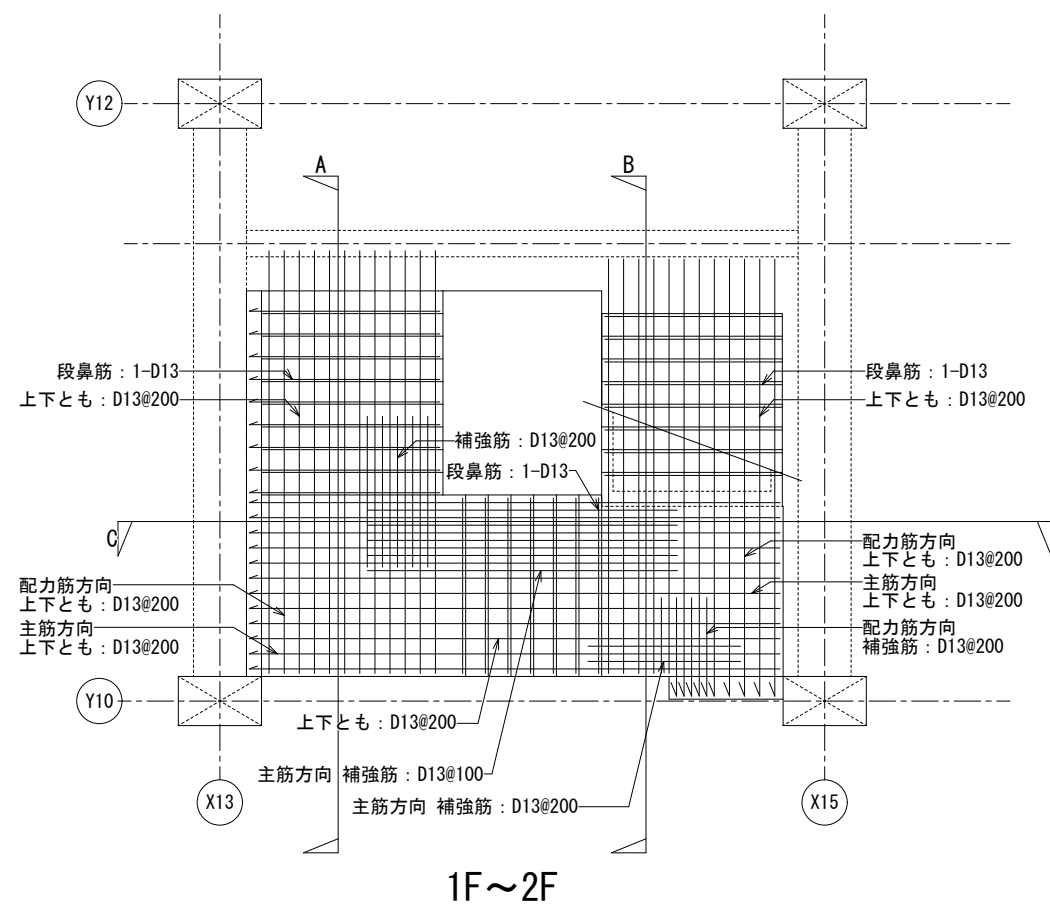


階段詳細図

【注記事項】 特記なき限り下記による。
1. 1FL=設計GL+1000 とする。

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG. 1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図(9)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-08A
----	---	------------------------------	------------------	-----------------------------------	------------	-----------------

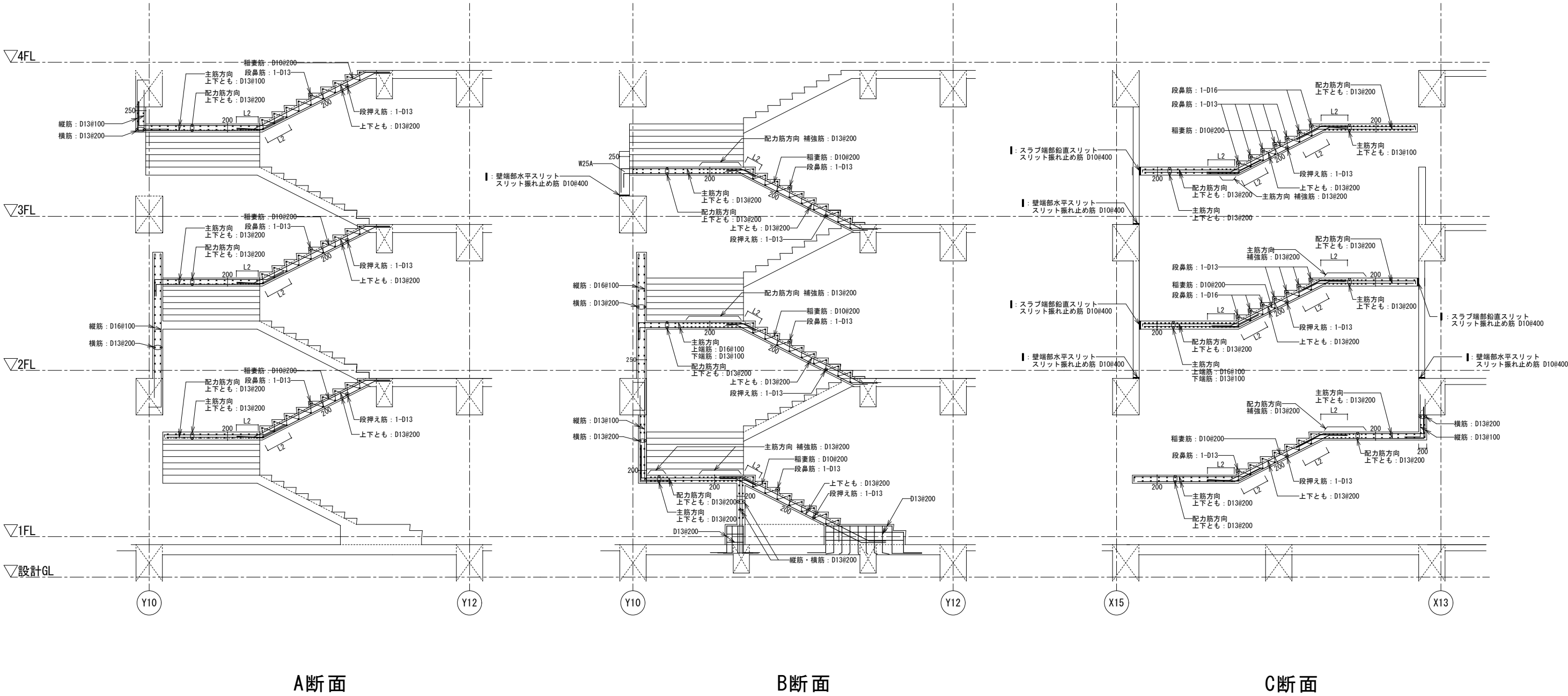
階段詳細図（屋内階段 階段2）



株式会社 構造計画プラス・ワン
東京都千代田区西船場8番地12 西野ビル3階
一級建築士事務所登録: 東京都知事登録 第30886号
一級建築士: 第31720号
構造設計一級建築士: 第5450号 早稲倉 章 悟

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図(10)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-08B
----	--	------------------------------	-------------------	-----------------------------------	------------	-----------------

階段詳細図（屋内階段 階段2）



A断面

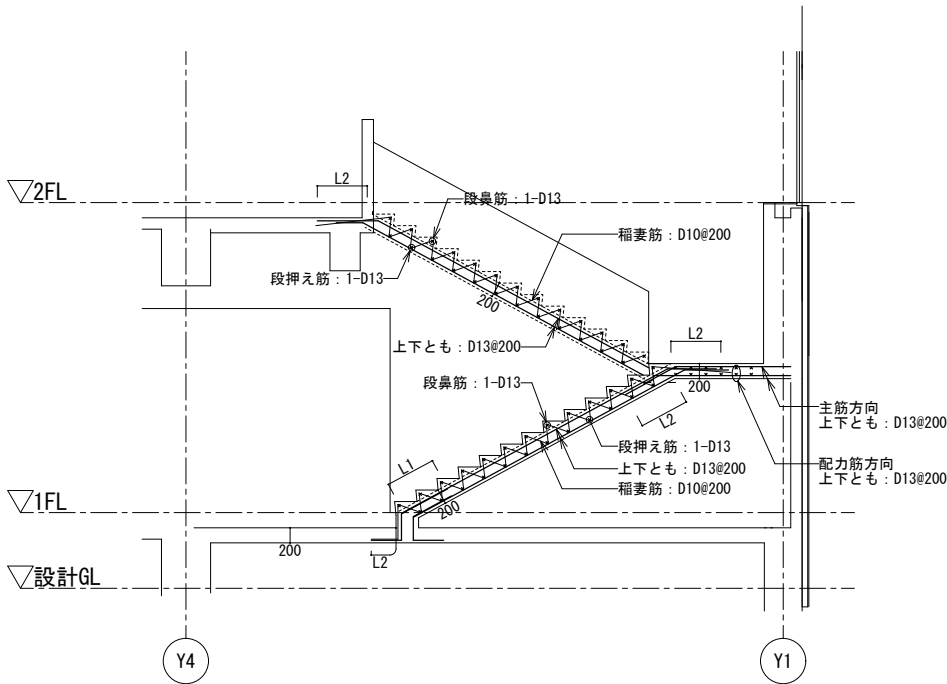
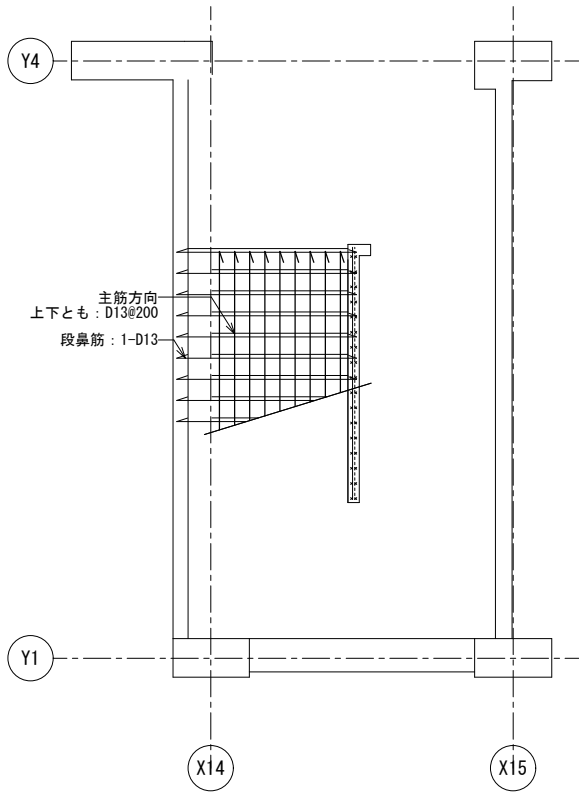
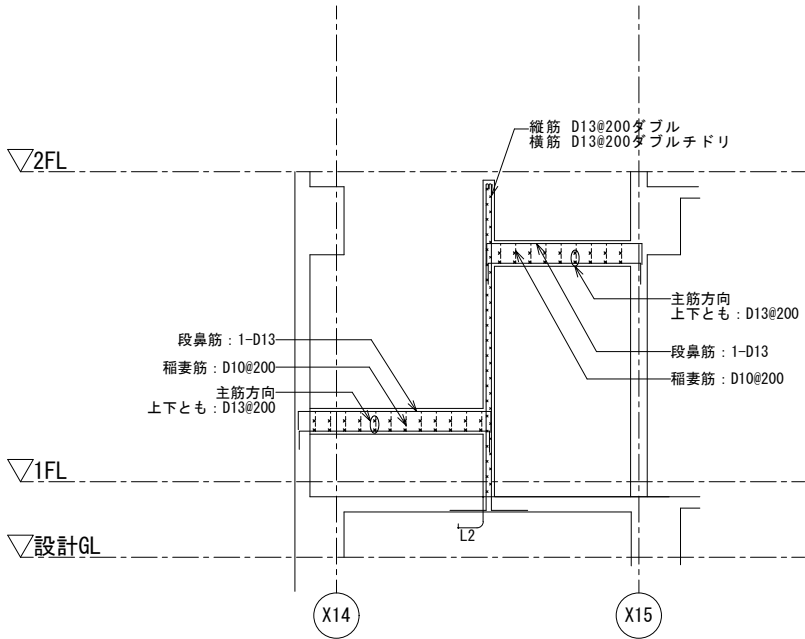
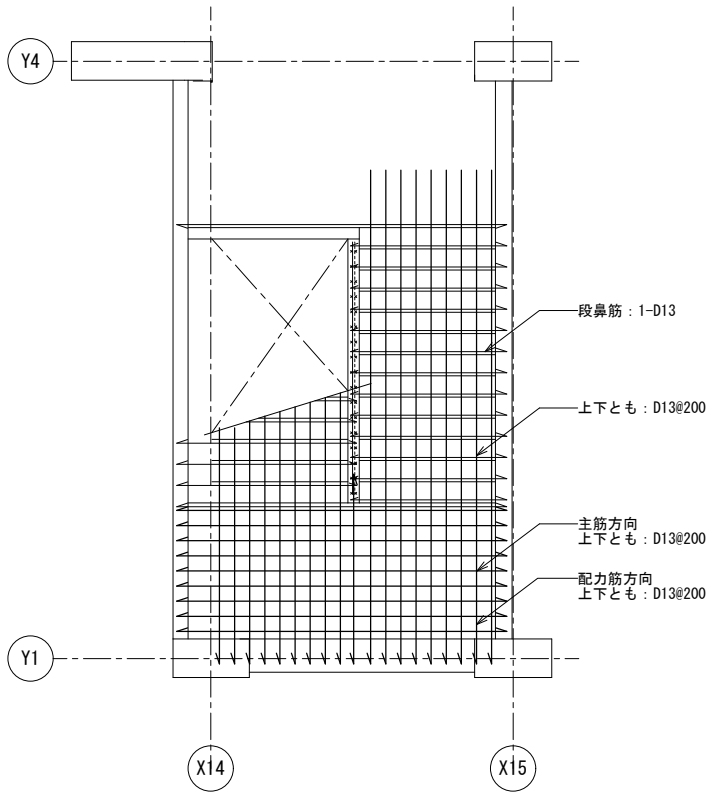
B断面

C断面

階段詳細図
【注記事項】 特記なき限り下記による。
1. 1FL=設計GL+1000 とする。

備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (イ-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図 (11)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-08C
----	--	------------------------------	--------------------	-----------------------------------	------------	-----------------

階段詳細図（屋内階段 階段3）

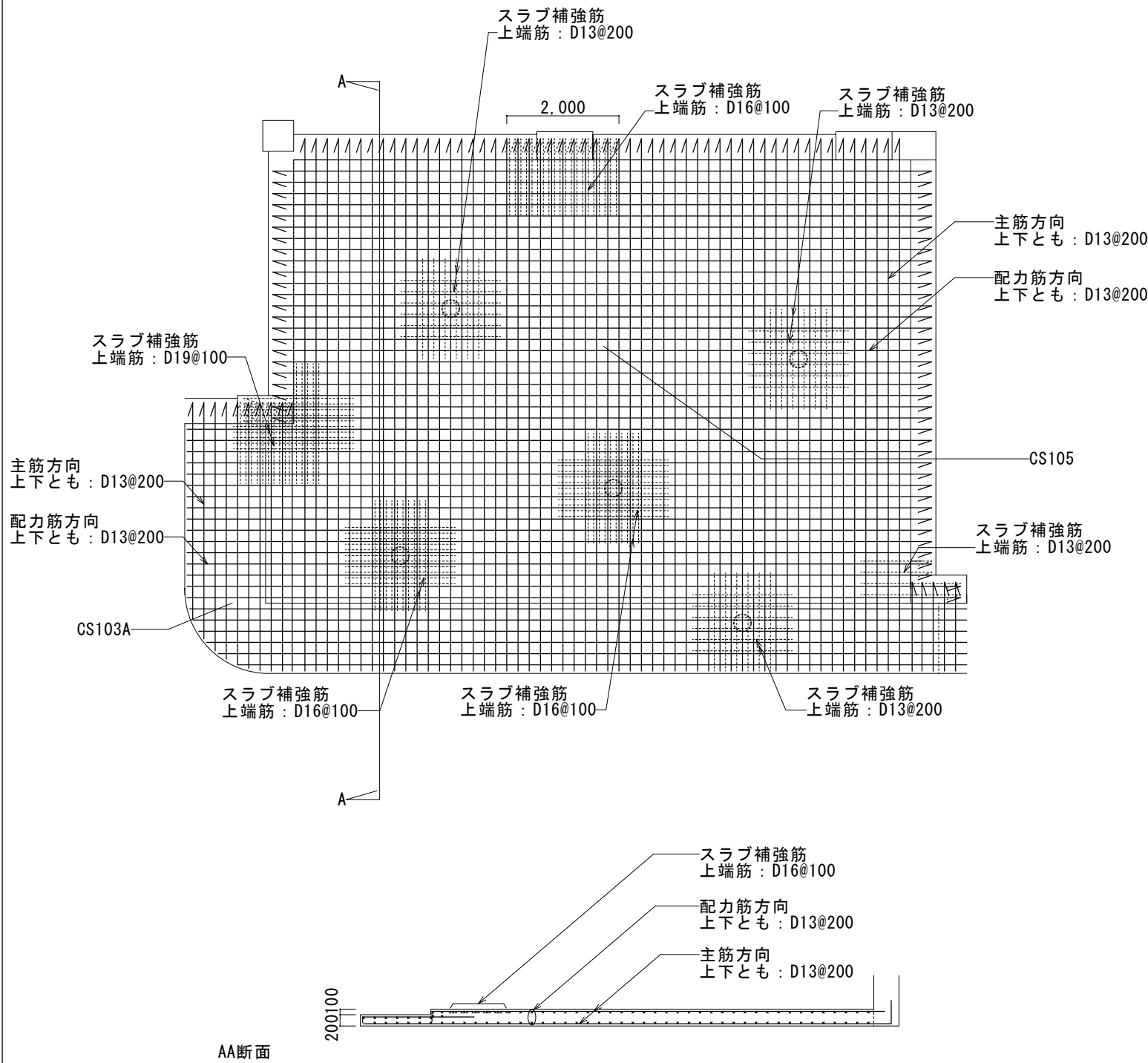


階段詳細図

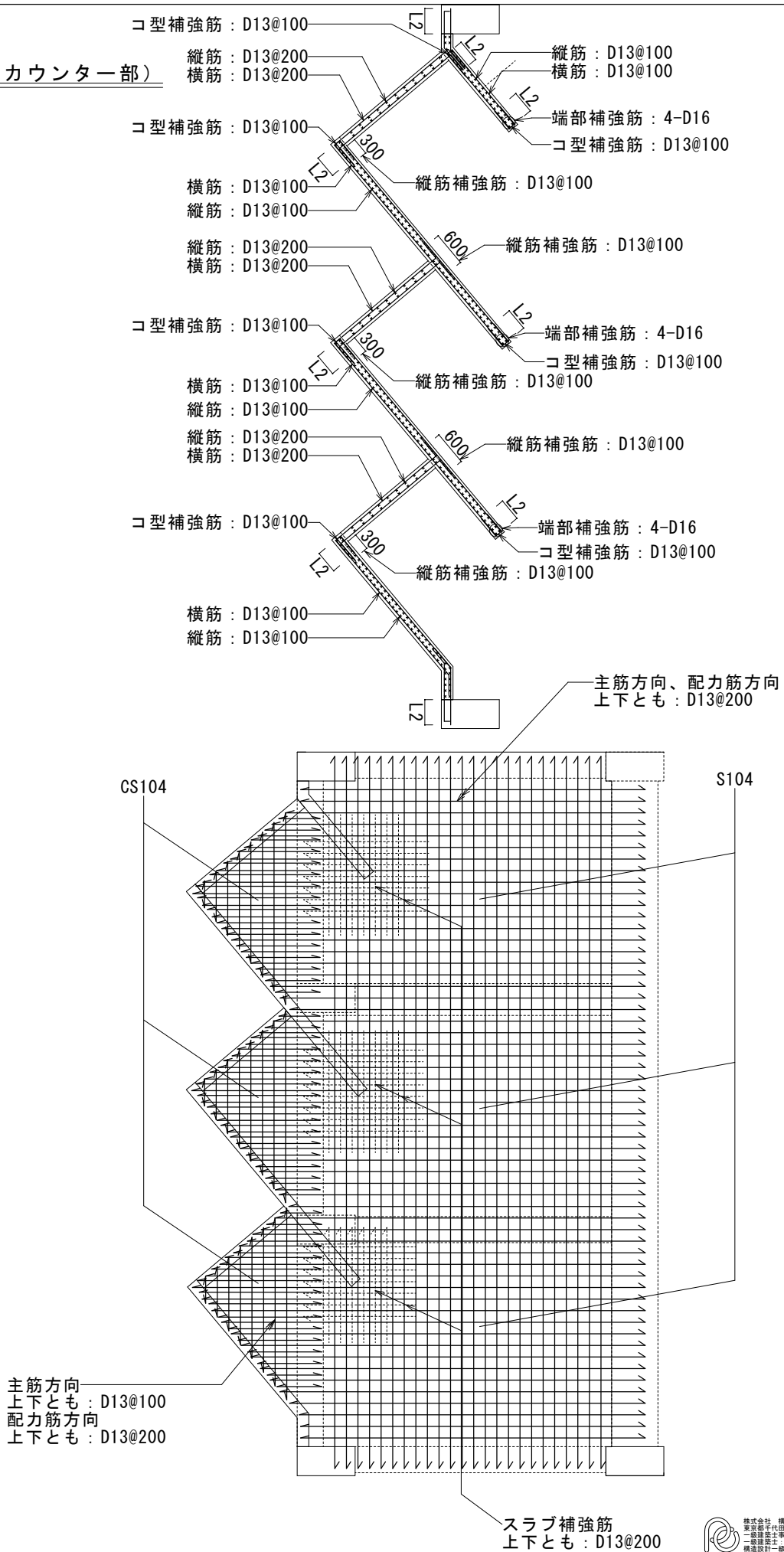
【注記事項】 特記なき限り下記による。
1. 1FL=設計GL+1000 とする。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 階段詳細図(12)	縮尺 S=1/50 (A1) S=1/100 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-08D
--	----	--	------------------------------	-------------------	-----------------------------------	------------	-----------------

詳細図（南棟 南エントランス屋根）

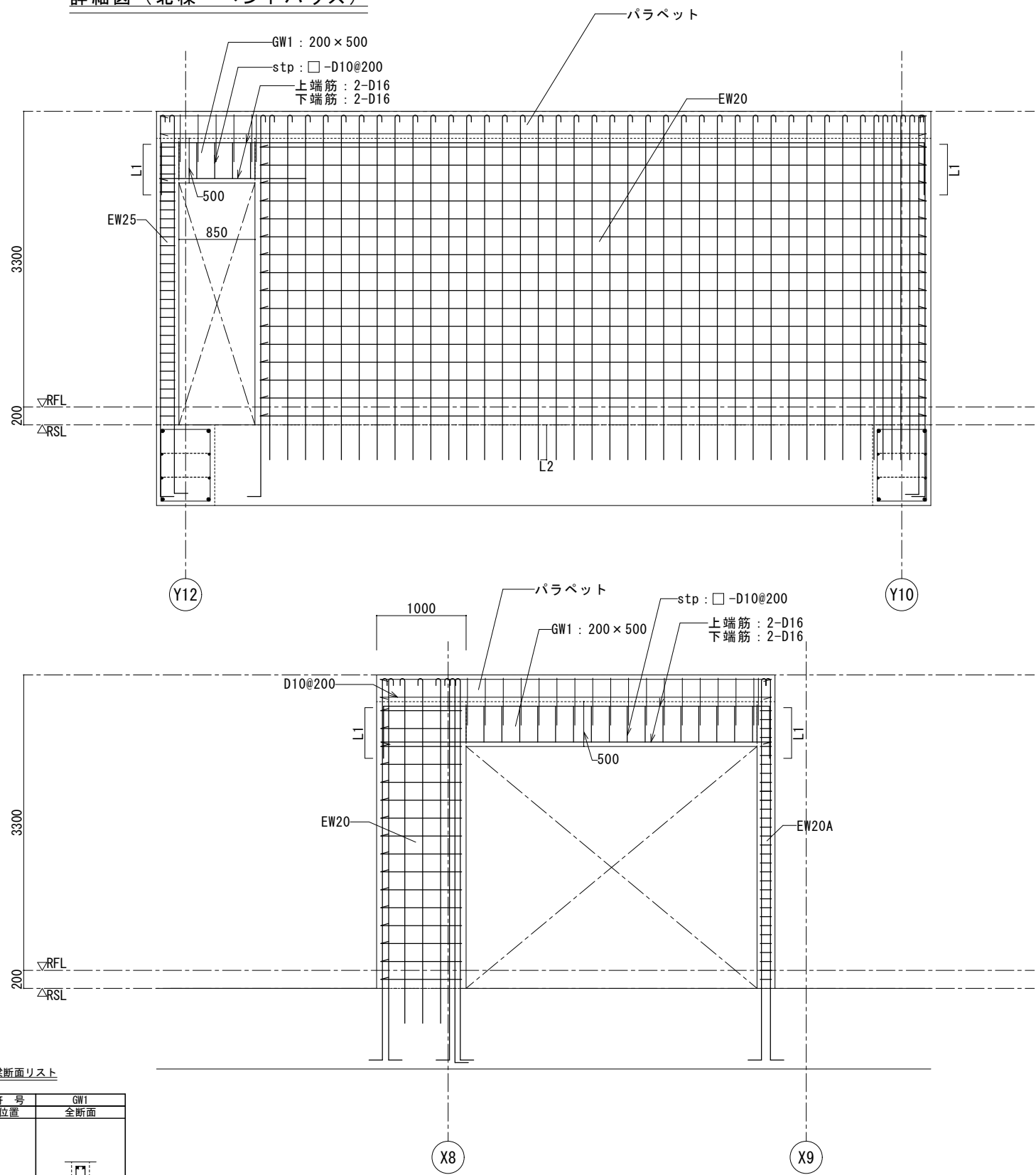


詳細図（南棟 図書カウンター部）



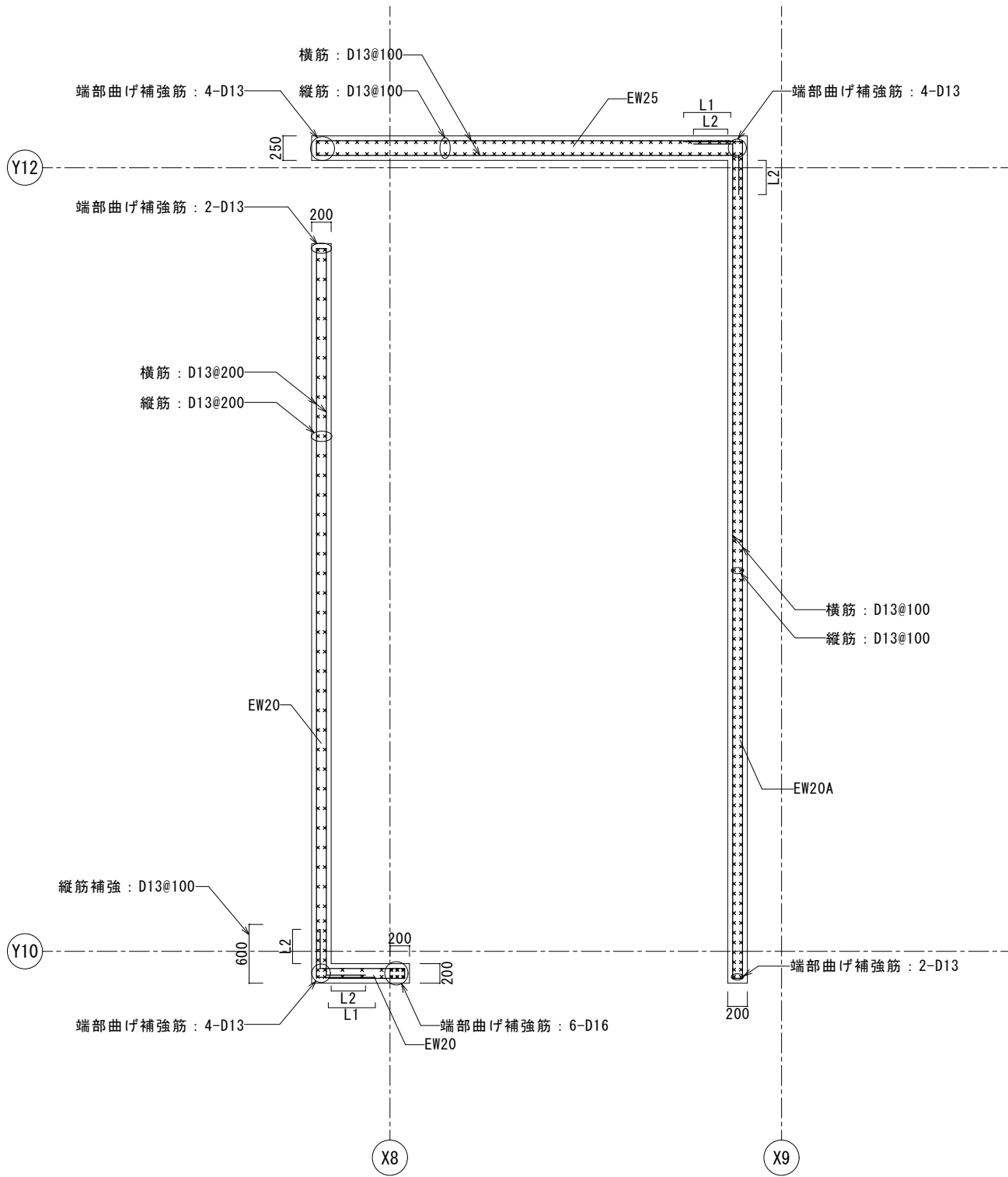
	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 配筋詳細図 (1)	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-4-09
--	----	--	------------------------------	-------------------	------------------------------------	------------	----------------

詳細図（北棟 ペントハウス）



壁梁断面リスト

符 号	GW1
位置	全断面
断 面	
B×D	200×500
上端主筋	2-D16
下端主筋	2-D16
stp	□(2)-D10@200
腹 筋	
備 考	



備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名
三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容
配筋詳細図 (2)

縮尺
S=1/30 (A1)
S=1/60 (A3)

設計
令和8年

図面番号
S-4-10

雑詳細図

南棟 鉄骨屋根下地詳細図

A矢視図 (S=1/15)

B矢視図

南棟・北棟共通 パラベット配筋詳細図

横筋 D10#200 ダブル

縦筋 D13#200 ダブル

南棟・北棟共通 ハト小屋配筋詳細図

上端筋 主筋・配力筋とも D13#200

下端筋 主筋・配力筋とも D10#200

北棟 屋上設備目隠し下地詳細図(キュービクル、室外機共通)

※部材配置、目隠し高さH は意匠図による

南棟・北棟共通 設備基礎配筋詳細図

※各種寸法は意匠図による

プロパンガス置き場詳細図

基礎・1階伏図

屋根伏図

A通り軸組図

基礎梁断面リスト

符号	FG201	FG202
位置	全断面	全断面
断面		
B×D	400×800	400×920
上端主筋	3-D19	3-D19
下端主筋	3-D19	3-D19
stp	□(2)-D13#200	□(2)-D13#200
腹筋	2-D13	2-D13
備考		

壁梁断面リスト

符号	G201
位置	全断面
断面	
B×D	200×450
上端主筋	2-D16
下端主筋	2-D16
stp	□(2)-D10#200
腹筋	2-D10
備考	

壁断面リスト

符号	EW200
平断面	
壁厚(t)	200
縦筋	D10#200 ダブル
横筋	D10#200 ダブル
開口部	縦筋 —
補強筋	横筋 —
備考	斜筋 —

耐圧版リスト

符号	板厚	位置	主筋方向		配力筋方向		備考
			端部	中央	端部	中央	
FS201	250	上端配筋	D13#200		D13#200		捨てコンクリート t=50
		下端配筋	D13#200		D13#200		砂利 t=150

備考

設計者・設計事務所名
株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ
愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F
一級建築士事務所 愛知県知事登録 (レ-30) 第9152号
宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)

工事名

三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事

図面内容

雑詳細図

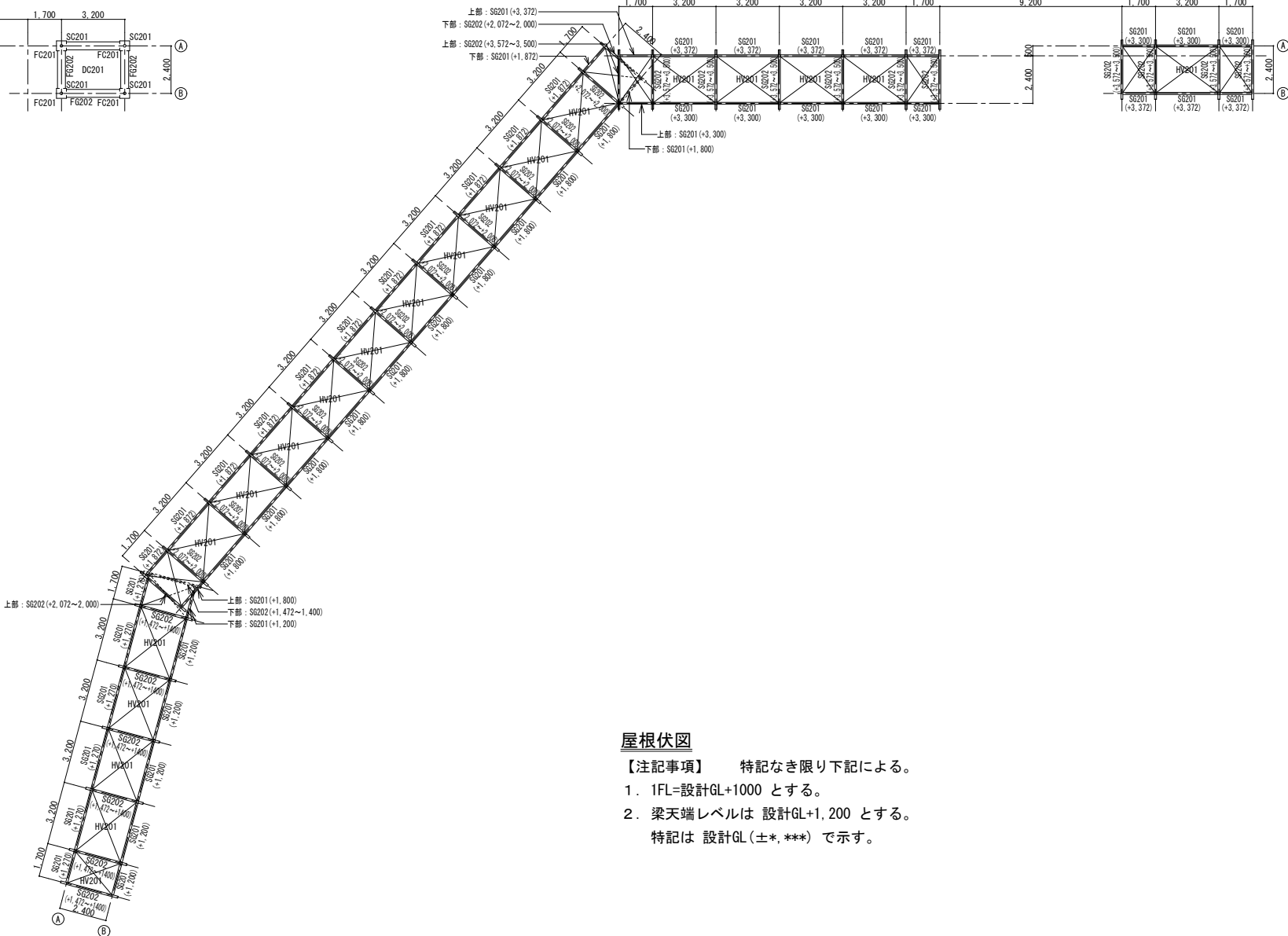
縮尺

S=1/30 (A1)
S=1/60 (A3)

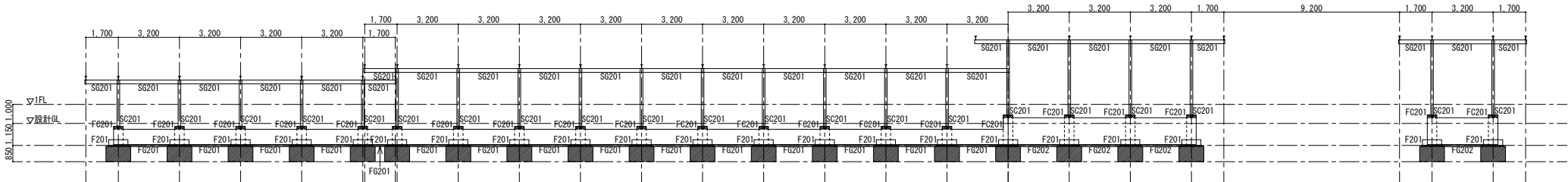
設計
令和8年

図面番号

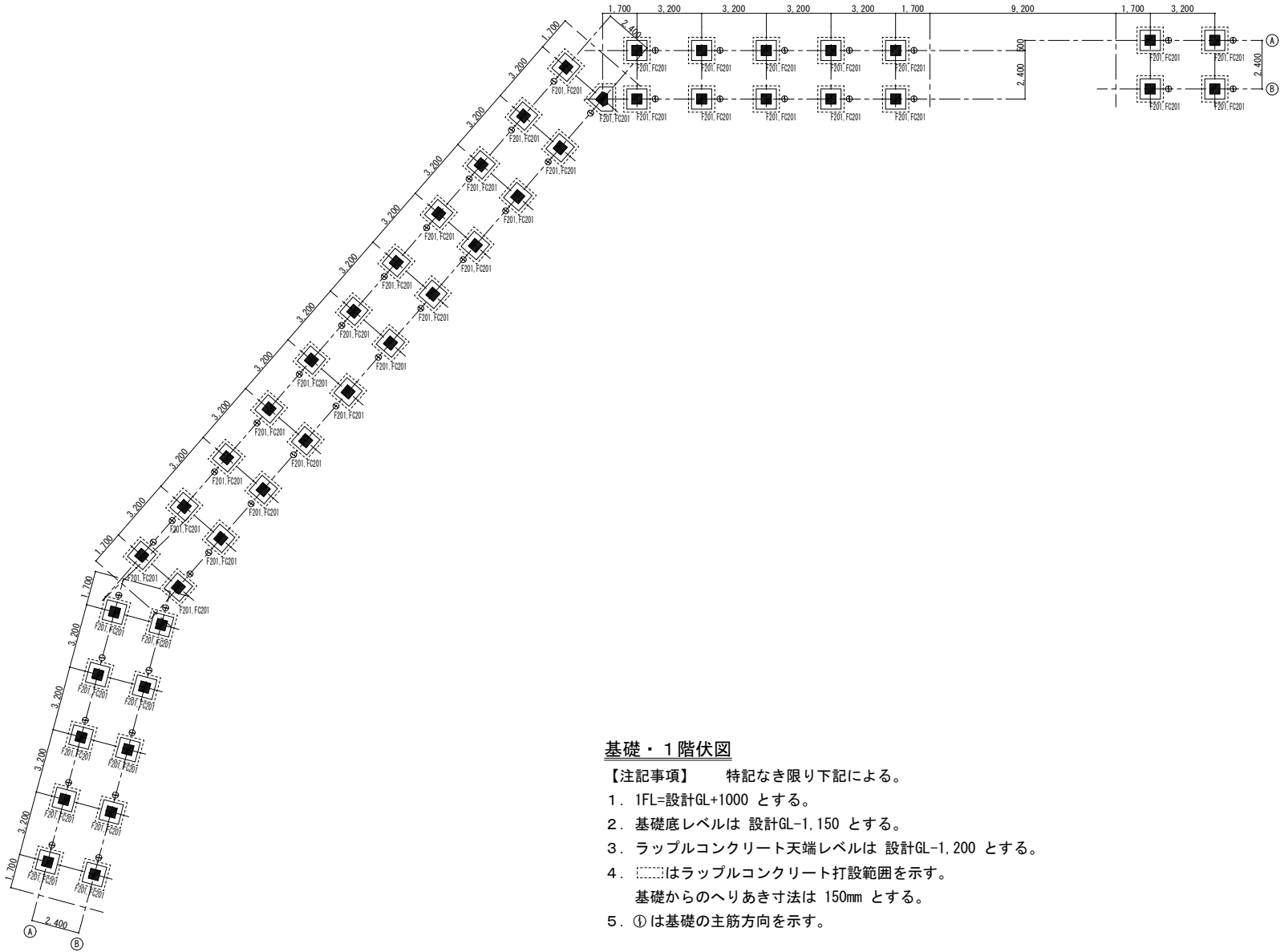
S-04-11



1. 地業：捨てコンクリート地業 $t=50$
砂利地業 $t=60$
2. 鉄骨梁の継手位置は柱芯から 1,000mm とする。
特記は ϕ で示す。
4. $\square$ はラップコンクリート (FC18) を示す
5. $\boxtimes$ は基礎柱上打ち増しを示す



1. 地業：捨てコンクリート地業 $t=50$
砂利地業 $t=60$
2. 鉄骨梁の継手位置は柱芯から 1,000mm とする。
特記は ϕ で示す。
4. 斜線 はラップコンクリート (FC18) を示す
5. 点線 は基礎柱上打ち増しを示す



基礎・1階伏図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

1. 1FL=設計GL+1000 とする。
2. 基礎底レベルは 設計GL-1,150 とする。
3. ラップルコンクリート天端レベルは 設計GL-1,200 とする。
4. はラップルコンクリート打設範囲を示す。
基礎からのへりあき寸法は 150mm とする。
5. ①は基礎の主筋方向を示す。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 渡り廊下 (1) 伏図・軸組図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-04-12A
--	----	--	------------------------------	-------------------------	------------------------------------	------------	------------------

【注記事項】 特記なき限り下記による。

-

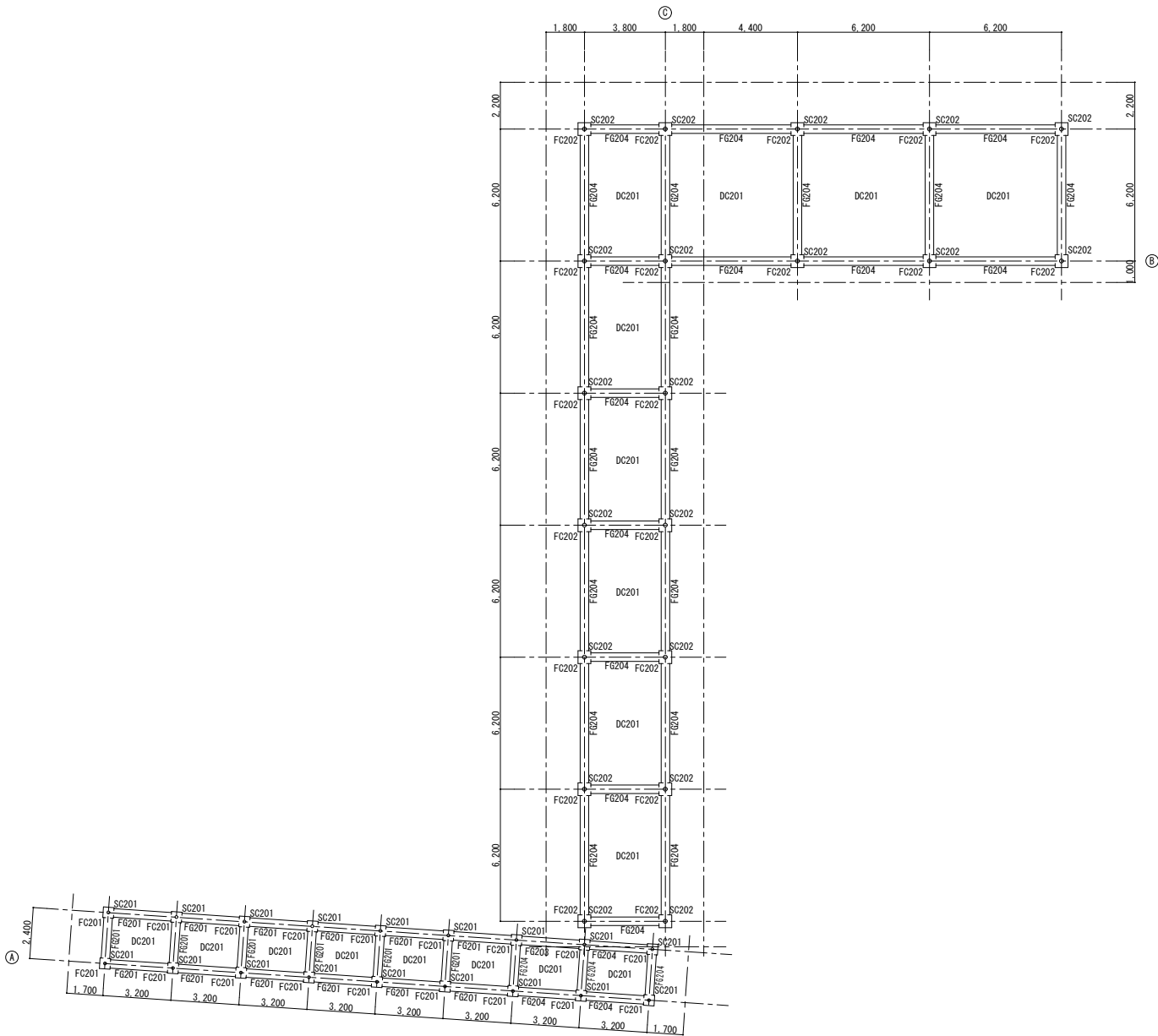
【注記事項】 特記なき限り下記による。

-

【注記事項】 特記なき限り下記による。

-

【注記事項】 特記なき限り下記による。

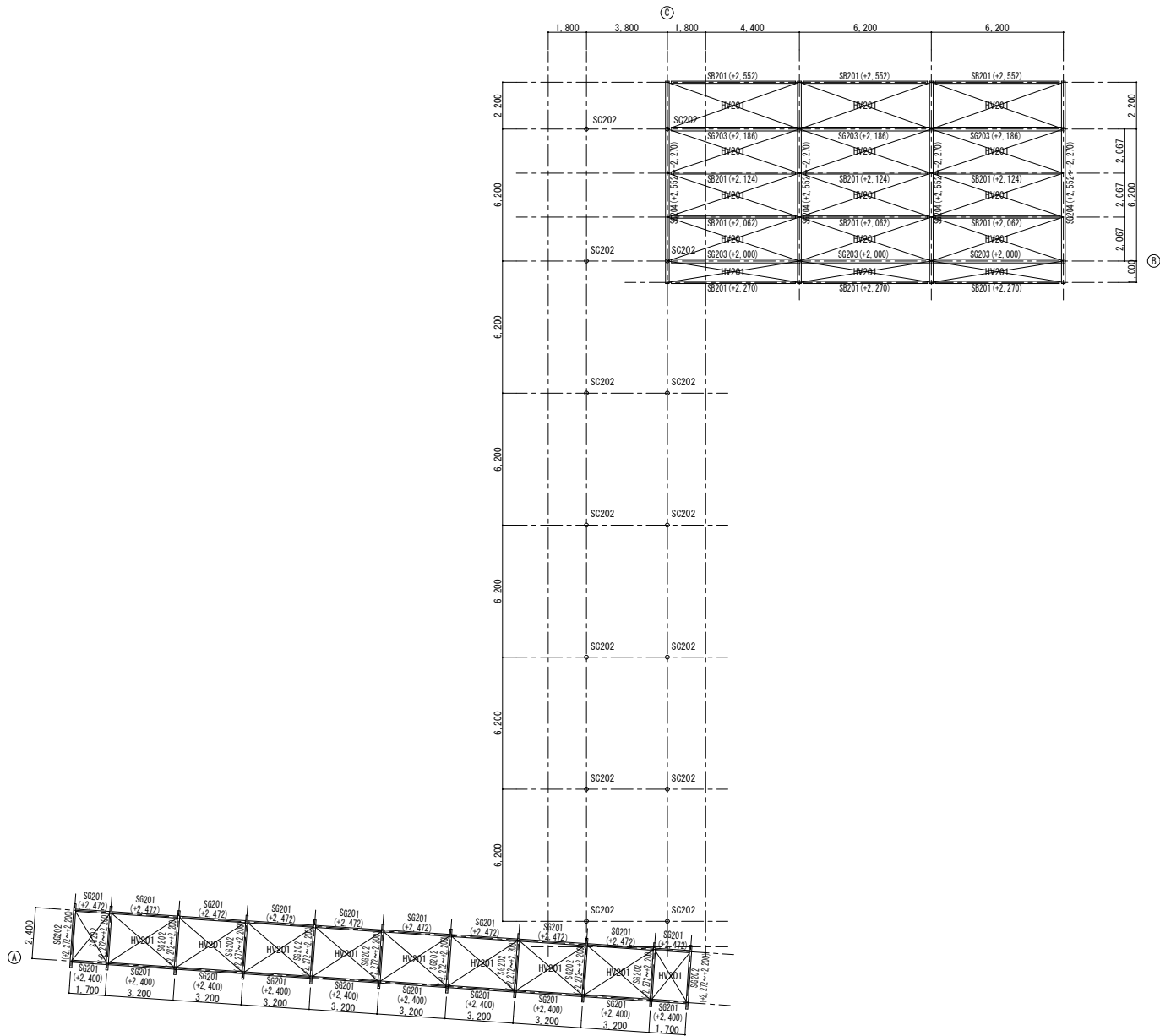


1階伏図

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1FL=設計GL+1000 とする。
- 基礎底レベルは 設計GL-1,150 とする。
- 梁天端レベルは 設計GL-250 とする。

特記は 設計GL(±*,***) で示す。



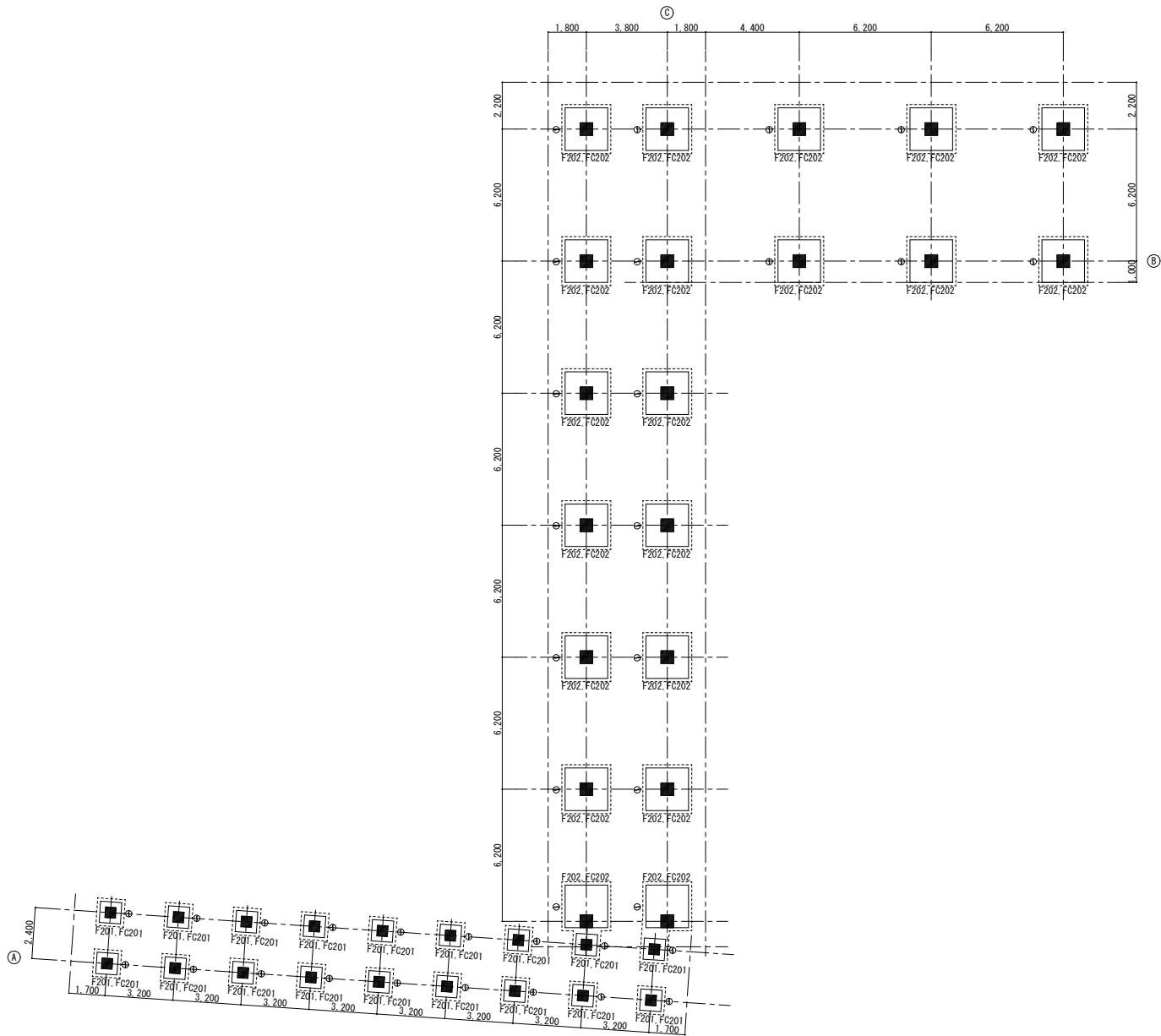
屋根伏図 (1)

【注記事項】 特記なき限り下記による。

- 1FL=設計GL+1000 とする。
- 梁天端レベルは 設計GL+2,000 とする。

特記は 設計GL(±*,***) で示す。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 渡り廊下(3)・駐輪場 伏図・軸組図	縮尺 S=1/150(A1) S=1/300(A3)	設計 令和8年	図面番号 S-04-14
--	----	--	------------------------------	----------------------------	----------------------------------	------------	-----------------



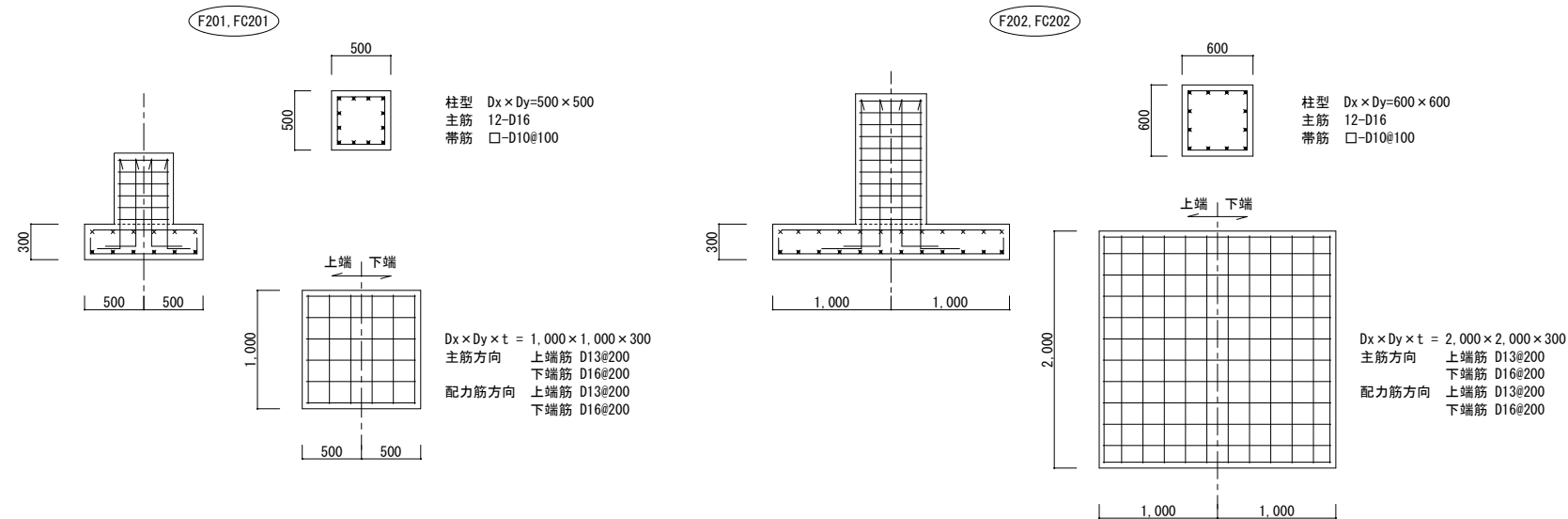
基礎伏図

- 【注記事項】 特記なき限り下記による。
- 1FL=設計GL+1000 とする。
 - 基礎底レベルは 設計GL-1,150 とする。
 - ラップルコンクリート天端レベルは 設計GL-1,200 とする。
 - はラップルコンクリート打設範囲を示す。
基礎からのへりあき寸法は 150mm とする。
 - ① は基礎の主筋方向を示す。

	備考	設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエイツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号)	工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事	図面内容 渡り廊下(3)・駐輪場 伏図・軸組図	縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3)	設計 令和8年	図面番号 S-04-14A
--	----	--	------------------------------	----------------------------	------------------------------------	------------	------------------

屋根伏図（２） 【注記事項】特記なき限り下記による。 1. 1FL=設計GL+1000 とする。 2. 梁天端レベルは 設計GL+2,700 とする。 特記は 設計GL(±*,***) で示す。 A通り軸組図 【注記事項】特記なき限り下記による。 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60 2. 鉄骨梁の継手位置は柱芯から 1,000mm とする。 特記は ϕ で示す。 4. はラップルコンクリート（FC18）を示す 5. は基礎柱上打ち増しを示す B通り軸組図 【注記事項】特記なき限り下記による。 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60 2. 鉄骨梁の継手位置は柱芯から 1,000mm とする。 特記は ϕ で示す。 4. はラップルコンクリート（FC18）を示す 5. は基礎柱上打ち増しを示す C通り軸組図 【注記事項】特記なき限り下記による。 1. 地業：捨てコンクリート地業 t=50 砂利地業 t=60 2. 鉄骨梁の継手位置は柱芯から 1,000mm とする。 特記は ϕ で示す。 4. はラップルコンクリート（FC18）を示す 5. は基礎柱上打ち増しを示す 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事 渡り廊下（３）・駐輪場 伏図・軸組図 縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3) 設計 令和8年 図面番号 S-04-15					備考 設計者・設計事務所名 株式会社シーラカンスアンドアソシエーツ 愛知県名古屋市中区大須3-5-13HASE-BLDG.1 6F 一級建築士事務所 愛知県知事登録 (い-30) 第9152号 宇野 享 (一級建築士 第246066号) 良知 康晴 (一級建築士 第361862号) 工事名 三次市立十日市小・中学校改築 建築主体工事 図面内容 渡り廊下（３）・駐輪場 伏図・軸組図 縮尺 S=1/150 (A1) S=1/300 (A3) 設計 令和8年 図面番号 S-04-15
--	--	--	--	--	---

基礎リスト



基礎梁断面リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 材種 主筋 D19 SD345
stp D13 SD295

2. 腹筋 2-D10 (1段)
D10@1,000以内

階	符 号 位 置	FG201 全断面	FG202 全断面	FG203 全断面	FG204 全断面
1 階	断 面				
	B×D	400×800	400×1,400	400×950	400×1,300
	上端主筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
	下端主筋	3-D19	3-D19	3-D19	3-D19
	stp	□(2)-D13@200	□(2)-D13@200	□(2)-D13@200	□(2)-D13@200
	腹筋		6-D10 (3段)	4-D10 (2段)	6-D10 (3段)
	備 考				

スラブリスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 材種 D10 SD295

符 号	板 厚	位 置	主筋方向	配力筋方向	備 考
			端 部 中 央	端 部 中 央	
DC201	150	上端配筋 下端配筋	D10@200 シングル	D10@200 シングル	土間コンクリート

鉄骨柱リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	柱 脚	柱 頭	継 手	備 考
SC201	全断面	$\phi-139.8 \times 6.0$	STK400	BAS201			
SC202	全断面	$\phi-190.7 \times 6.0$	STK400	BAS202			

鉄骨梁リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SG201	全断面	H-200×100×5.5×8.0	SS400	JG201		
SG202	全断面	H-200×100×5.5×8.0	SS400			
SG203	全断面	H-244×175×7.0×11.0	SS400	JG202		
SG203	全断面	H-244×175×7.0×11.0	SS400			

鉄骨小梁リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材以上とする。

符 号	位 置	断 面	材 質	継 手		備 考
				剛接合	ピン接合	
SB201	全断面	H-200×100×5.5×8.0	SS400		JB201	

ブレースリスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材以上とする。

符 号	断 面	材 質	継 手	備 考
HV201	1-M16	SS400	JV201	X形、JISブレース

鉄骨柱継手リスト

【注記事項】 特記なき限り下記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材とする。

2. ボルト H.T.B F8T

符 号		BAS201	BAS202
部 材		$\phi-139.8 \times 6.0$	$\phi-190.7 \times 6.0$
母 材 材 質		STK400	STK400
GPL 材 質			
断 面			
継 手	P L ボルト		
B. PL	P L	25×300×300 (SN400B)	28×400×400 (SN400B)
	A. BLT 定着長	4-M16 (SNR400B)	8-M20 (SNR400B)
	備 考	20d (シグ ルカットフック付き)	20d (シグ ルカットフック付き)

鉄骨梁継手リスト（剛接合）

【注記事項】 特記なき限り下記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材とする

3. G. PL などが干渉する場合はフランジ溶接継手とする。

2. ボルト H.T.B F8T

4. 肌腱が生じる場合にはフィラプレートにより調整すること。

符 号		JG201	JG202
部 材		H-200×100×5.5×8.0	H-244×175×7.0×11.0
母材材質		SS400	SS400
断 面			
継 手	外 P L	2PL-16×100×290	2PL-9×175×290
	内 P L		4PL-9×70×290
	ボルト	16-M16	16-M20
	P L	2PL-6×140×170	2PL-9×140×170
	ボルト	4-M16	4-M20
備 考			

ブレース継手リスト

【注記事項】 特記なき限り右記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材とする。

2. ボルト H.T.B F8T

符 号	JV201	ガセットプレートの種類
部 材	1-M16	
形 状		T y p e 1
		T y p e 2
		T y p e 3
ボルト	1-M16	
G. PL (w t × B)	9×70	
必要	TYPE1	
溶接長	TYPE2	
(mm)	TYPE3	
備 考		

鉄骨梁継手リスト（ピン接合）

【注記事項】 特記なき限り下記による

1. 取り付く P L 等は母材と同材とする。

2. ボルト H.T.B F8T

符 号	JB201
部 材	H-200×100×5.5×8.0
母 材 材 質	SS400
断 面	
継 手	P L ボルト
備 考	9×140 2-M16

接合部詳細図

